



高崎健康福祉大学

Takasaki University of Health and Welfare

2024

令和 6 年度

シラバス

健康福祉学部 健康栄養学科



本学の授業とSDGsとの関連

シラバス内で授業内容と「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」との関連を示しています。関連する目標は番号で示されておりますので、履修の参考にしてください。



17の持続可能な開発目標

目標 1.	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
目標 2.	飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
目標 3.	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
目標 4.	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し生涯学習の機会を促進する
目標 5.	ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う
目標 6.	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
目標 7.	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
目標 8.	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
目標 9.	強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
目標 10.	各国内および各国間の不平等を是正する
目標 11.	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市および人間居住を実現する
目標 12.	持続可能な生産消費形態を確保する
目標 13.	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
目標 14.	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
目標 15.	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
目標 16.	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
目標 17.	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

～シラバス内の表記について～

例として、授業内容が「目標 1」、「目標 3」、「目標 10」、「目標 16」と関連がある場合は下記のように表記します。特に関連のある目標を示しています。空欄であるからといって、いずれの目標にも全く関連しない、ということではありません。

SDGs との関連	①	③	⑩	⑯

アクティブラーニング(AL)とは

文部科学省の用語集によれば、「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」とあります。具体的には、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれ、教室でのディスカッション、グループワーク等も有効なアクティブラーニングの方法です。

これらを導入することにより、主体的対話的で、より質の高い学修効果を得ることが期待できます。

本学では以下のように、アクティブラーニング(AL)を定義しています。

PBL (Project Based Learning) (課題解決型学習)	テーマに沿ったプロジェクトまたは特定の問題を提示し、それらの問題解決を通して様々な知識・スキルを学ぶ方法
反転授業	授業と予習を「反転」させ、事前に C-learning 等で知識取得を行っておき、授業では理解度の確認や課題解決型の演習等を行う方法
ディスカッション、ディベート	授業において、特定のテーマについて対話を通して理解を深める方法
グループワーク	学生を少人数グループにグループ分けし、与えられた課題の解決に向けて協同で取り組む方法。2人組によるペアワークを含む。
プレゼンテーション	学生がパワーポイント等を用いて、発表資料を作成し、他者の前で自ら発表を行う方法
演習、実験、実習、実技	能動的な学修方法を取り入れている場合には該当します。
フィールドワーク	学内外のフィールドを調査・観察場所として、調査や観察を通して情報収集を行う方法
指導案作成、模擬授業	教職課程科目において、自ら授業を実践する目的で、学習指導要領を参考に指導案を作成し、具体的な授業を実践し、教育実践力を育成する方法
リアクションペーパー	C-Learning のアンケートフォームなどを用いて、毎授業後に学生の理解度や、反応、感想を書かせる方法
その他	上記以外のアクティブラーニングを用いる場合

～シラバス内の表記について～

実施するアクティブラーニングの種別に○印がついています。また、該当する種別が無い場合は、下記のように「その他」に○印があり、その実施方法が下段の“「その他」のアクティブラーニング実施方法”に記載されています。

アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテー ション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成 模擬授業	リアクシ ョンペー パー	その他
										○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	小テスト・レポートに対してコメントを付し返却、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける、 ロールプレイング 等									

令和6年度健康栄養学科シラバス目次

健大で学ぶ Well-being(教養基礎)	1	英語 IVC(リテラシー)	98
基礎教養ゼミ(教養基礎)	4	Integrated English I (リテラシー)	100
日本語表現法(教養基礎)	7	Integrated English II (リテラシー)	102
日本国憲法(教養基礎)	9	ドイツ語(リテラシー)	104
法学(教養基礎)	11	フランス語(リテラシー)	106
経済学(教養基礎)	14	ポルトガル語(リテラシー)	108
社会学(教養基礎)	17	中国語(リテラシー)	111
生涯健康論(教養基礎)	19	ハングル語(リテラシー)	113
生涯学習概論(教養基礎)	22	情報リテラシー I (リテラシー)	115
生命と環境の科学(教養基礎)	24	情報リテラシー II (リテラシー)	118
国際関係論(教養基礎)	28	情報リテラシー III (リテラシー)	121
体育理論(教養基礎)	31	情報リテラシー IV (リテラシー)	123
体育実技(教養基礎)	33	情報リテラシー V (リテラシー)	125
キャリア形成論(教養基礎)	37	情報リテラシー VI (リテラシー)	127
哲学(人間理解)	40	情報化社会を生きる ～疑う力・創る力～(専門教養科目)	129
倫理学(人間理解)	42	人間行動学(専門教養科目)	132
心理学(人間理解)	45	健康運動実技(専門教養科目)	134
文学と人間(人間理解)	48	宗教と倫理(専門教養科目)	137
芸術論(人間理解)	50	レクリエーション論(専門教養科目)	140
ボランティア・市民活動論(人間理解)	52	生物学(専門導入科目)	143
人権論(人間理解)	55	化学(専門導入科目)	145
人間関係論(人間理解)	58	有機化学(専門導入科目)	147
ジェンダー論(人間理解)	60	管理栄養士論 I (専門導入科目)	149
共生の倫理(人間理解)	62	管理栄養士実践演習(専門導入科目)	152
チーム医療アプローチ論(人間理解)	64	管理栄養士基礎実習(専門導入科目)	155
国際保健医療論(人間理解)	66	栄養情報処理論(専門基幹科目)	157
Introduction to Healthcare Sciences(人間理解)	69	栄養情報処理実習(専門基幹科目)	159
囲碁の世界(人間理解)	72	公衆衛生学 I (専門基幹科目)	161
英語 IA(リテラシー)	74	公衆衛生学 II (専門基幹科目)	163
英語 IB(リテラシー)	76	解剖生理学 I (専門基幹科目)	165
英語 IC(リテラシー)	78	解剖生理学 II (専門基幹科目)	167
英語 IIA(リテラシー)	80	解剖生理学実習(専門基幹科目)	169
英語 IIB(リテラシー)	82	生化学 I (専門基幹科目)	171
英語 IIC(リテラシー)	84	生化学 II (専門基幹科目)	173
英語 IIIA(リテラシー)	87	生化学実験 I (専門基幹科目)	176
英語 IIIB(リテラシー)	90	生化学実験 II (専門基幹科目)	178
英語 IIIC (リテラシー)	92	疾病の成り立ち I (専門基幹科目)	181
英語 IVA(リテラシー)	94	疾病の成り立ち II (専門基幹科目)	184
英語 IVB(リテラシー)	96	疾病の成り立ち III (専門基幹科目)	187

疾病の成り立ち実習(専門基幹科目).....	190	総合演習Ⅰ(臨地実習前後教育)(専門科目).....	285
調理学(専門基幹科目).....	193	総合演習Ⅱ(専門科目).....	288
調理学実習Ⅰ(専門基幹科目).....	195	総合演習Ⅲ(専門科目).....	290
調理学実習Ⅱ(専門基幹科目).....	197	臨地実習Ⅰ(給食運営)(専門科目).....	292
調理科学(専門基幹科目).....	199	臨地実習Ⅱ(給食経営管理論)(専門科目).....	294
食品学Ⅰ(専門基幹科目).....	201	臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)(専門科目).....	296
食品学Ⅱ(専門基幹科目).....	203	臨地実習Ⅳ(公衆栄養学)(専門科目).....	298
食べ物と健康基礎実験(専門基幹科目).....	205	管理栄養士論Ⅱ(応用専門科目).....	300
食品学実験(専門基幹科目).....	207	管理栄養士論Ⅲ(応用専門科目).....	302
食品衛生学(専門基幹科目).....	209	管理栄養士論Ⅳ(応用専門科目).....	305
食品衛生学実験(専門基幹科目).....	211	食物学特別講座Ⅰ(応用専門科目).....	308
食品加工学(専門基幹科目).....	214	食物学特別講座Ⅱ(応用専門科目).....	310
食品加工学実習(専門基幹科目).....	216	NR・サプリメントアドバイザー(応用専門科目).....	313
基礎栄養学(専門科目).....	219	チーム医療アプローチ演習(応用専門科目).....	316
基礎栄養学実験(専門科目).....	221	特別講座Ⅰ(卒業研究).....	319
応用栄養学Ⅰ(専門科目).....	223	特別講座Ⅱ(食品科学系)(卒業研究).....	321
応用栄養学Ⅱ(専門科目).....	226	卒業研究(食品科学系)(卒業研究).....	323
スポーツ栄養学(専門科目).....	229	特別講座Ⅱ(栄養科学系)(卒業研究).....	325
応用栄養学実習(専門科目).....	232	卒業研究(栄養科学系)(卒業研究).....	327
栄養教育論Ⅰ(専門科目).....	235	特別講座Ⅱ(人間栄養学系)(卒業研究).....	329
栄養教育論Ⅱ(専門科目).....	238	卒業研究(人間栄養学系)(卒業研究).....	331
栄養教育論Ⅲ(専門科目).....	241	栄養教諭論(教職科目).....	333
栄養教育論実習(専門科目).....	244	学校食指導各論(教職科目).....	336
臨床栄養学Ⅰ(専門科目).....	247	教職論(教職科目).....	339
臨床栄養学Ⅱ(専門科目).....	250	教育基礎論(教職科目).....	341
臨床栄養学Ⅲ(専門科目).....	253	教育心理学(教職科目).....	343
臨床栄養学Ⅳ(専門科目).....	255	教育制度論(教職科目).....	346
臨床栄養学実習Ⅰ(食事療法実習)(専門科目).....	258	教育課程論(教職科目).....	348
臨床栄養学実習Ⅱ(臨床栄養ケアマネジメント実習)(専門科目).....	261	特別な教育的ニーズの理解とその支援(教職科目).....	350
公衆栄養学Ⅰ(専門科目).....	264	道徳教育・特別活動論(教職科目).....	352
公衆栄養学Ⅱ(専門科目).....	267	総合的な学習の時間論(教職科目).....	354
公衆栄養学実習(専門科目).....	270	教育方法論(教職科目).....	356
給食経営管理Ⅰ(専門科目).....	273	生徒指導論(教職科目).....	358
給食経営管理Ⅱ(専門科目).....	276	教育相談(教職科目).....	360
給食経営管理実習Ⅰ(専門科目).....	279	事前・事後指導(教職科目).....	363
給食経営管理実習Ⅱ(専門科目).....	282	栄養教育実習(教職科目).....	365
		教職実践演習(栄養教諭)(教職科目).....	367

科目名	健大で学ぶ Well-being(教養基礎)				科目ナンバリング	LAB000										
英文名	Steps to Well-being at KENDAI.				講義形態	講義										
担当教員	【情報】: 東福寺幾夫、【福祉】: 出雲春明、内田幸子、【栄養】: 下川哲昭、【薬】: 松岡功、須藤豊、高橋恵美利、田中祐司、【看護】: 吉田久美子、倉林しのぶ、【理学】: 中川和昌、【子ども】: 栗原幸正、【農】: 大政謙次、吉積毅、廣瀬竜郎、松岡寛樹、齋藤文信、清水庸															
科目に関連した実務経験	【子ども】栗原: 公立学校教諭・教頭・校長。教育委員会指導主事。群馬県人権教育・啓発推進懇談会座長。															
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位													
履修を必須とする資格																
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と職業倫理				多様な社会・背景を理解し対応する能力										
	2	専門的知識			2	コミュニケーション能力										
		問題発見・解決力				自律的に生涯にわたって学習する力										
SDGs との関連	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	13	14	15	16	17
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他						
									○							
「その他」のアクティブラーニング実施方法																
実施概要	①講義の目標 高崎健康福祉大学(健大)を知り、健大への理解と自身の所属学科以外の他学科の理解をもとに、多様な職種に対する理解や自校理解の礎を作る。 健大の精神「自利利他」は、「人の喜びを自分の喜びとする心」であり、学生生活から将来に至るまで様々な局面での行動・成長基盤となりうるものである。健大精神のあり方を考えるきっかけとなる講義を行い、成長につなげる。SDGs(Sustainable Development Goals)は、持続可能な未来を形成するために意識すべき目標である。SDGsを知り、また具体的な関わり方の例などから考えることで、様々な局面で貢献する為の素養を身につける。 以上を通じて、Well-being 社会に貢献する人材へ成長するための基盤構築を本講義の目標とする。															
	②講義の実施方法 全講義オンデマンド式とする。 1.講義の開講について 講義は第1回から9回までの講義で構成される。原則として毎週水曜日 15 時に1講義分の動画が公開されるので、各自で受講時間を確保して学習を進める。公開から1週間以内に C-learning の教材倉庫中のリンクからアクセスし、講義動画視聴を行い、その後、C-learning から小テストを実施すること。 なお、動画へのアクセスは、高崎健康福祉大学Googleアカウントにログオンした状態でのアクセスが必要となる。第1回の講義前、各学科ガイダンス等の中で受講方法に関する説明があるのでその指示に従い、各自で受講準備を行う事。 2.講義の出席について 原則、各学科が1回を担当し学科の理解、学科における自利利他・SDGs との関わりについて例を含めながら講義を行う。講義動画へのアクセスと小テスト実施をもって出席とする。 3. 講義後の入力提出について 講義視聴後に自身が感じた自利利他や SDGs への考え、講義の感想など思った事を C-learning のアンケートから入力すること。アンケートは自由記述とするが講義改善の指標とするので、積極的な参加を期待する。															
到達目標	1. 健大の学部・学科について知り、理解を深める。															

		2. 健大精神「自利利他」を知り、理解を深める。 3. SDGsを知り、理解を深める。■		
使用教材	各講義回で利用する資料・教材がある場合には C-learning を通じて電子ファイルで配布を行う。			
参考文献	なし			
評価方法	第1回の受講(4%)と各講義回の講義動画閲覧と小テスト:2～9回(各12%)の合計100%で評価する。			
課題・評価に対する フィードバック方法	小テストは点数のみ公開する。不正解の問題があった場合には講義を再視聴し、公開期間内に小テストをやり直したのち、自身の考えを醸成させること。小テストは再解答を3回まで認めるので、各自で適宜復習を行い、考えを発展させてほしい。			
オフィスアワー (研究室)	質問は C-learning 連絡機能やメールで受け付ける。対面による質問を希望する場合はメールで事前に相談すること。 情報:東福寺(1号館 605 研究室) 福祉:出雲(1号館 511 研究室) 栄養:下川(1号館 311 研究室) 薬:松岡(7号館 312 研究室) 看護:吉田久(5号館 410 研究室) 理学:中川(3号館 204 研究室) 子ども:栗原(8号館 学部長室) 農:清水(10号館 504 研究室)	メールアドレス (#→@)	情報:東福寺(tofukuji#takasaki-u.ac.jp) 福祉:出雲(izumo-s#takasaki-u.ac.jp) 栄養:下川(shimokawa-n#takasaki-u.ac.jp) 薬:松岡(isao#takasaki-u.ac.jp) 看護:吉田久(yoshikumi#takasaki-u.ac.jp) 理学:中川(nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp) 子ども:栗原(kurihara-y#takasaki-u.ac.jp) 農:清水(shimizu-y#takasaki-u.ac.jp)	
1	講義内容	本学の歴史、大学としての自利利他、SDGsの考え(高崎健康福祉大学 学園長、学長)。		
	該当到達目標	予習	自利利他の意味、SDGsについて調べておく。 自身の端末で高崎健康福祉大学のアカウントにログインできるようにしておく (各学科ガイダンス等で受講法の説明があるので、各自で第1回講義前までに オンライン受講準備を整え、ガイダンス動画を閲覧しておくこと)。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
2	講義内容	医療情報学科(東福寺):1. 健康・医療と情報技術、2. 医療 DX と人材養成、3. 本学の禁煙化		
	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
3	講義内容	社会福祉学科(出雲、内田):誰も置き去りにしない社会		
	該当到達目標	予習	「誰も置き去りにしない社会」や「地域社会における支え合いの意義」について、調べておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。 講義で取り扱ったケースについて調べ、周囲と話しあってみる。	1 時間
4	講義内容	健康栄養学科(下川、木村):母性行動の生理学的基盤		
	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
5	講義内容	薬学部(松岡、須藤、高橋、田中):Well-being とクスリ		
	該当到達目標	予習	薬剤師の業務について調べておく。C-learning へのログイン方法を確認して おく。オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
6	講義内容	看護学科(吉田、倉林)		
	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
7	講義内容	理学療法学科(中川)		
	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。	1 時間

			オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
8	講義内容	子ども教育学科（栗原）：学校教育とLGBT■		
	該当到達目標	予習	LGBTに関する新聞等の報道記事に目を通し、社会の動向を掴んでおく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身が今後どのような行動をすべきかについて、身近な友人・知人との話し合いを通して明確にする。	1 時間
9	講義内容	農学部（大政、吉積、廣瀬、松岡、齋藤、清水）		
	該当到達目標	予習	C-learning へのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1 時間
	1-3	復習	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1 時間
合計時間（予習・復習）				18 時間
備考	1.授業の時間について 記載した予習復習時間で、講義内容の不明点が残る場合には各自で補完すること。 2.動画へのアクセスについて 各回講義動画の閲覧には、「高崎健康福祉大学のグーグルアカウント」にログオンした状態でアクセスする事が必要です。講義動画にアクセスできない場合、アカウント設定やアクセス方法などを確認するようにして下さい。 3.質問などについて 各講義回で生じた<u>内容に関する質問は講義回担当者へ、受講法に関する事は自学科担当教員に質問する事。</u> 連絡を C-learning 経由で行う際には、「連絡・相談機能」を活用し、所属学科と学籍番号、氏名を記載の上、誰に対するどのような質問かを明記する事。返信がない場合には E-mail で再度連絡を行う事。 4.成績評価について 講義回数は全9回で終了だが、成績付与は学期末に行われる。 本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。 なお、令和4年度以前の入学者が本講義を受講する場合は、単位認定時評価は「認定(N)」となり、GPA 算出、卒業必要単位の対象外となる。また、履修登録時の CAP のカウントには含めない。 ■：実務経験に基づく内容を示す			

科目名	基礎教養ゼミ(教養基礎)						科目 ナンバリング	LAB001		
英文名	Freshman Seminar (FYE)						講義形態	講義		
担当教員	町田 修三、根岸 恵子、小泉 英明、永井 崇									
科目に関連した 実務経験	小泉:人事、社員教育担当として企業にて勤務(経験) 永井:記者、編集者として新聞社にて勤務(経験)									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と職業倫理			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識			2	コミュニケーション能力				
	2	問題発見・解決力			1	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○	○				○	○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	Think Pare & Share, Round Robin, 作文添削、個別指導など 小テスト等は採点後返却し解説する									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 充実して実り多い大学生活を送るには、どうしたらいいのだろうか？大学で失敗しないためには、初年時に学生生活の送り方を修得しておくことが極めて大切である。本講義では大学生活のキーとなる、学習方法やレポート執筆等にかかる「学習スキル」、コミュニケーション能力をはじめとした「ソーシャルスキル」、読み書きや数的能力などの「アカデミックスキル」。学生にとって必要なこうしたスキルをしっかりと身につけていくことを、講義の目標としている。受講学生には、積極的に講義に参加する受講態度が求められる。 ② 授業では、ジェネリックスキルをつけるため、できる限りアクティブラーニングを取り入れる。日本語作文能力と数学基礎力は、学習支援センターとのコラボレーションで提出と添削を繰り返して涵養を目指す。									
到達目標	1. 大学での学習生活を確立する。 2. 基礎学力を確認し、自己学習の方向性をつかむ。 3. 社会人に必要とされる言葉使い・文章表現を習得する。■ 4. 総合適性検査(SPI)を意識し、対応するための基礎力を養成する。 5. キャリアデザインの構築を図るために、社会常識・マナー等を学び、自ら考え、自ら問える力を養う。 ■ 6. 効果的なアクティブラーニングを自ら体得し、実践できるようになる。									
使用教材	資料、プリント									
参考文献										
評価方法	参加貢献度 50%、提出物 50%で総合的に評価する。総合評価 60%を合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	提出物・レポート・小テストを返却し、解説をする。基礎力テストや実力テスト後に解説や結果を知らせる。									
オフィスアワー (研究室)	学習支援センター(2号館2階) 月～金開室 以下の時間に質問を受け付ける。 ●数的処理→常時				メールアドレス (#→@)		machida#takasaki-u.ac.jp			

		●言語関係・レポート等→木曜3時限		
1	講義内容	大学で何を学ぶか(意義と目的)		
	該当到達目標	予習	事前にシラバスを読み、目標を確認し、大学生活をプランニングする。	1 時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。	1 時間
2	講義内容	書くためのスキル(ノート、レポート・論文の書き方)		
	該当到達目標	予習	事前配布した資料に目を通しておく。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートテーキング、レポートの書き方をマスターする。	1 時間
3	講義内容	基礎力テスト(計算／言葉)		
	該当到達目標	予習	言語・作文・計算や数式など基礎力を確認しておく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	今までの学習を振り返り、復習する。	1 時間
4	講義内容	解くためのワークⅠ(計算)		
	該当到達目標	予習	計算方法や文章題の復習をしておく。	1 時間
	1,2,4	復習	配布した問題の残りを解く。	1 時間
5	講義内容	考えるためのワークⅠ(言葉の多様性①GW)■		
	該当到達目標	予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
	1,2,3,6	復習	添削を受けた作文を書き直す。	1 時間
6	講義内容	コミュニケーションスキルⅠ(アクティブラーニング GW)		
	該当到達目標	予習	事前配布した資料に目を通しておく。	1 時間
	1,2,3,6	復習	自己のコミュニケーションスキルを分析する。	1 時間
7	講義内容	考えるためのワークⅡ(言葉の多様性②)■		
	該当到達目標	予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
	1,2,3	復習	添削を受けた作文を書き直す。	1 時間
8	講義内容	解くためのワークⅡ(数的処理①)		
	該当到達目標	予習	前回の問題を解いておく。	1 時間
	1,2,4	復習	配布した問題の残りを解く。	1 時間
9	講義内容	キャリアデザイン■		
	該当到達目標	予習	自らの人生設計について考えておく。	1 時間
	1,2,5	復習	自らのキャリアを考え、自己分析する。	1 時間
10	講義内容	考えるためのスキルⅠ(新聞を読み説く)■		
	該当到達目標	予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
	1,2,3	復習	添削を受けた作文を書き直す。	1 時間
11	講義内容	解くためのワークⅢ(数的処理②)		
	該当到達目標	予習	前回の問題を解いておく。	1 時間
	1,2,4	復習	配布した問題の残りを解く。	1 時間
12	講義内容	コミュニケーションスキルⅡ(プレゼンテーション GW)		
	該当到達目標	予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
	1,2,3,5,6	復習	プレゼンテーション資料を作成してみる。	1 時間
13	講義内容	シンポジウムーより充実した学生生活をめざして		
	該当到達目標	予習	事前配布した資料に目を通しておく。	1 時間
	1,2	復習	興味あるトピックについて発表できるようにする。	1 時間
14	講義内容	実力テスト		

令和 6 年度 健康栄養学科シラバス

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	今まで学習した内容を復習しておく。	1 時間
		復習	試験の内容を振り返り、学習する。	1 時間
15	講義内容	考えるためのスキルⅡ（社会を正しく理解する）		
	該当到達目標	予習	これまでの講義内容を振り返り、どう活用するかを考えておく。	1 時間
	1,2,3,5	復習	大学生活を有意義に過ごすための方策を考える。	1 時間
合計時間（予習・復習）				30 時間
備考	GW＝グループワーク 記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修や課題の作成等で各自必要な学習時間を補完すること。 ■：実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		日本語表現法(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB002		
英文名		Japanese Expression Method						講義形態	講義		
担当教員		古澤 良文									
科目に関連した実務経験		記者として上毛新聞社に勤務。記事全般、コラムを執筆、読者欄の投稿を添削。									
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		2	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
			専門的知識				3	コミュニケーション能力			
		3	問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 日本人の極端な日本語能力低下が問題視される中で、「書き言葉」の表現力を向上させるために、まず自分の考えをまとめ、書くに至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と、生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、自分の考えをいかに文章化するかを修得する。同時に他者の考えを、発言や文面から把握するとともに、その内容に対する自分の意見を構築、交換、指摘する機会を設け、学士力向上を図る。 ② 現代人がよく間違える慣用句や文章表現について、毎回実例を示しながら説明する。また、高校までに学ぶ機会が少なかったと思われる四字熟語・ことわざなどを、講義時間の一部を使って説明する。小論文を「書く→添削→返却」を 3 回程度実施する。									
到達目標		1. 自分の「考え」をまとめ、意思表示できる。 2. 日本語の基礎知識を表現・文法・語彙の三側面から確認し、理解できる。 3. 日本語表現の基本的ミスを確認し、理解できる。■ 4. 文章の組み立て方を理解し、習得できる。 5. 日本語表現的に正確な文章が書けるようにする。■									
使用教材		担当教員作成のプリント。									
参考文献											
評価方法		筆記試験(80%)・授業参加度(20%)によって総合的に評価する。評価方法の基準は講義時に通達する。									
課題・評価に対するフィードバック方法		提出した文章の欠点・修正点を謙虚に捉え、新たな文章作成の場に生かし、文章力向上に挑戦する。									
オフィスアワー (研究室)		授業の前後 1～2 時間。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は授業時に説明する。			
1	講義内容	原稿用紙の書き方(実際に執筆する)■									
	該当到達目標	予習	400 字詰め原稿用紙の使い方							1.5 時間	
	1	復習	カッコや句読点の書き方 その日の出来事を原稿用紙に書いてみる							1.5 時間	
2	講義内容	日常生活の心掛け 小テスト(漢字の特殊読み)									
	該当到達目標	予習	社会の変動に関心を持つ							1.5 時間	
	1,4	復習	活字を読む習慣を身に付けるにはどうすべきか考える							1.5 時間	
3	講義内容	三段論法と逆三角形 小テスト(書けそうで書けない漢字)■									
	該当到達目標	予習	新聞記事を段落ごとに考えながら読む(新聞は図書館にある)							1.5 時間	
	2,4	復習	新聞記事を「逆三角形」を意識しながら熟読する							1.5 時間	
4	講義内容	文章をうまく見せる 3 力条 小テスト(同音異義語)■									

令和6年度 健康栄養学科シラバス

	該当到達目標 2,4	予習	1 回目を書いた文章を見直す	1.5 時間	
		復習	1 回目を書いた文章を書き直してみる	1.5 時間	
5	講義内容	主語と述語 小テスト(四字熟語ことわざ①)■			
	該当到達目標 2,3	予習	テキストをチェックしておく	1.5 時間	
		復習	テキストの悪文例を正しく直す	1.5 時間	
6	講義内容	小論文執筆(複数のテーマから 1 つを選んで書く)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	4 回目のプリントチェック	1.5 時間	
		復習	書き足りなかったことがないか	1.5 時間	
7	講義内容	修飾語 俳句 小テスト(間違い探し①)■			
	該当到達目標 2,4	予習	文章はリズムが大切 俳句を作ってみる	1.5 時間	
		復習	プリントの悪文例を見直す	1.5 時間	
8	講義内容	話し言葉と書き言葉 小テスト(四字熟語ことわざ②)■			
	該当到達目標 2,3	予習	「ら」抜き言葉の長所短所	1.5 時間	
		復習	話し言葉を書き言葉にしてみる	1.5 時間	
9	講義内容	手紙を書く			
	該当到達目標 1,4	予習	誰宛に書くか、何を書くか準備する	1.5 時間	
		復習	授業で書いたほかにも書いてみる	1.5 時間	
10	講義内容	センテンスは短く 小テスト(同義語反対語)■			
	該当到達目標 3,4	予習	新聞のコラムを読む	1.5 時間	
		復習	悪文例を直す	1.5 時間	
11	講義内容	小論文執筆(同じ形容詞や動詞を何度も使わないように)■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	4 回目、7 回目のプリント見直し	1.5 時間	
		復習	別のテーマで書いてみる	1.5 時間	
12	講義内容	敬語 小テスト(四字熟語ことわざ③)			
	該当到達目標 3,4	予習	敬語の種類を調べる	1.5 時間	
		復習	プリントの問題を解く	1.5 時間	
13	講義内容	推敲 小テスト(間違い探し②)■			
	該当到達目標 2,4,5	予習	書籍、新聞を声に出して読む	1.5 時間	
		復習	自分の文章を直してみる	1.5 時間	
14	講義内容	小論文執筆(小論文のテーマに沿ってタイトルを自分で書く)■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	社会問題を考える	1.5 時間	
		復習	別のテーマで書いてみる	1.5 時間	
15	講義内容	覚えておきたい短詩と台詞			
	該当到達目標 3,4,5	予習	知っている俳句短歌を思い出してみる	1.5 時間	
		復習	声に出して読んでおく	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す				

科目名		日本国憲法(教養基礎)						科目 ナンバリング		LAB003											
英文名		Japanese Constitution						講義形態		講義											
担当教員		金井 洋行																			
科目に関連した 実務経験																					
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位															
履修を必須とする 資格																					
学位授与方針 との対応		2		豊かな人間性と職業倫理				1		多様な社会・背景を理解し対応する能力											
				専門的知識				1		コミュニケーション能力											
		4		問題発見・解決力				2		自律的に生涯にわたって学習する力											
SDGs との関連		3 4 5 8 10 16 17																			
アクティブラーニング 実施方法		PBL (課題解決型学習)		反転授業		ディスカッション、 ディベート		グループ ワーク		プレゼンテ ーション		演習、実験 実習、実技		フィールド ワーク		指導案作成、 模擬授業		リアクション ペーパー		その他	
																				○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法		テーマに関する課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察																			
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 憲法の基本理念と日本国憲法に関する基礎的知識を習得することを第一義的な学習目標とする。 第二に、社会人として要求される価値規範意識を、憲法学習を通して醸成することを目​​標とする。終局的に、身近な生活関係の中から人々の権利の保護や社会への参加の問題を探り出し、憲法上の課題の理解を深めることを目標とする。 ② 講義内容はできるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的あるいは国際的に大きな政治の動きがあった場合には、その話題を飛び入的に割り込ませることはある。日々の社会や政治の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりに考えておくことを期待する。																			
到達目標		1. 日本国憲法を貫いている思考や仕組みと日本国憲法の歴史的背景を理解することができる。 2. 憲法が解決すべき紛争について、その歴史的、社会的背景を認識することができる。 3. 市民相互間の法的関係や公的部門のそれに対する機能の関連性を考察することができる。 4. 政治の世界で起きている出来事について、具体的な憲法規定と結びつけることができる。 5. 主要な学説について、その対立の背景と主張のねらいを認識することができる。																			
使用教材		テーマ別レジュメ、概要・事例資料、憲法条文注釈資料(テキストの代替) * テーマによっては DVD の視聴あり。																			
参考文献																					
評価方法		・ 平常の授業に対する姿勢・課題提出(35%)、中間小テスト(15%)、期末の定期試験(50%) ・ 課題提出は概ね 4 回のレポート、中間小テストは概ね 3 回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテスト																			
課題・評価に対する フィードバック方法		重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)																			
オフィスアワー (研究室)		出講日の放課後等において、質問及び 学習相談を受ける。						メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。											
1	講義内容	憲法とは何か?ー憲法学習の意義と憲法の本質ー																			
	該当到達目標 1	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明								2 時間										
		復習	予備知識アンケート								0.5 時間										
2	講義内容	国家・国民・政府ー憲法を構成する基本要素の内容ー																			
	該当到達目標 1	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明								1 時間										
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集								1.5 時間										
3	講義内容	日本国憲法の制定過程																			

	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明、資料;「日本国憲法の有効性」	1 時間
	1,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
4	講義内容	日本国憲法の基本構造と特色		
	該当到達目標	予習	資料「日本国憲法の体系」熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
5	講義内容	国民主権と天皇制		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
6	講義内容	平和主義と 9 条解釈の変遷		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
7	講義内容	基本的人権の沿革と観念		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	講義内容	基本的人権規定の適用問題(範囲と限界)		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	2,3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
9	講義内容	日本国憲法上の諸権利の性格		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	講義内容	国会の地位と国政選挙の仕組み		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
11	講義内容	行政権の意義と内閣の組織・権限の特徴		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
12	講義内容	司法権の意義と法令審査権の性格		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
13	講義内容	財政処理の基本原則と予算の構造と機能		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
14	講義内容	権力分立制と地方自治・分権		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
15	講義内容	憲法改正と憲法保障		
	該当到達目標	予習	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1 時間
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 当日に即答できない質問や要望については C-learning・連絡メールをもって応答することを原則とする。 日々の社会や政治の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりに考えておくことを期待する。			

科目名	法学(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB004		
英文名	Law						講義形態	講義		
担当教員	金井 洋行									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と職業倫理			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識			1	コミュニケーション能力				
	3	問題発見・解決力			2	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	3 4 5 8 10 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	テーマに関する課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 法の存在意義を人生の節目で生じる法律問題を通して理解することを基幹的目標とする。生活上生じる法律問題や法的処理事項の背景にある法社会学的意味を考える。法律関係は権利義務の変動の関係であるので、それぞれ権利義務とその変動要因にどのような種類があるかを知ることを目指す。法律関係の基本的システムを習得することによって、社会的生活者に要求される法規範意識を身につける。 ② 講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に大きな社会問題が発生した場合には、その話題あるいは関連する事項を飛び入りの的に割り込ませることがある。									
到達目標	1. 法の存在意義や社会的機能の全体的な姿を理解することができる。 2. 法制度の社会学的意義を理解することができる。 3. 契約関係のシステムの意義と特色を理解することができる 4. 家族関係の法的処理の方法を理解することができる。 5. 法的紛争処理の限界を知り円滑な生活関係を維持する手法を考察することができる。									
使用教材	テーマ別レジュメ、概要・事例資料(テキストに代替するプリント) * テーマによっては DVD の視聴あり。									
参考文献										
評価方法	・ 平常の授業に対する姿勢・課題提出(35%)、中間テスト(15%)、期末の定期試験(50%) ・ 課題については概ね 4 回のレポート、中間小テストは概ね 3 回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテストを実施する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)									
オフィスアワー (研究室)	出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。				メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	法の意義と機能								
	該当到達目標	予習	高校時の社会の教科書「法分野」の箇所を読んでおくこと					2 時間		
	1,5	復習	予備知識アンケート					0.5 時間		
2	講義内容	成人と法一人の年齢と能力の法的意味								

	該当到達目標 1,2,4	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
3	講義内容	就職と法－採用の法的意味と選別の法的問題		
	該当到達目標 2,3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
4	講義内容	労働と法－労働契約の内容と労働条件の保護		
	該当到達目標 2,3	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
5	講義内容	結婚と法－婚姻の要件と夫婦の法律関係		
	該当到達目標 2,4,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
6	講義内容	親子と法その1－出生をめぐる法律問題と親子関係の形成		
	該当到達目標 1,2,4	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
7	講義内容	親子と法その2－親権関係と扶養関係		
	該当到達目標 2,4,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	講義内容	教育と法－義務教育の意義と就学過程の法律問題		
	該当到達目標 2,3	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
9	講義内容	社会活動と法－団体の法律関係と団体生活の法律問題		
	該当到達目標 1,2,3	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	講義内容	社会負担と法－租税等の国民負担と公共生活上の法律問題		
	該当到達目標 2,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
11	講義内容	国際化と法－出入国管理の法律関係と涉外事件の処理		
	該当到達目標 1,2,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
12	講義内容	財産関係と法－取引の法律関係と契約締結上の法律問題		
	該当到達目標 1,2,3	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
13	講義内容	犯罪と法－犯罪・刑罰の法的意味と科罰手続の法律問題		
	該当到達目標 1,2	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
14	講義内容	争い事と法－紛争の法的処理方法と裁判の仕組み		
	該当到達目標 1,2,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
15	講義内容	老年期と法－介護・医療の法律問題と人の死の法的意味		
	該当到達目標 1,2,4,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
		復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間

合計時間(予習・復習)		37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 当日に即答できない質問や要望については C-learning・連絡メールをもって応答することを原則とする。 日々の社会の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりにその背景や解決策を考えておくことを期待する。	

科目名		経済学(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB005		
英文名		Economics						講義形態	講義		
担当教員		町田 修三									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		4	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
			専門的知識				1	コミュニケーション能力			
		2	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連		3481217									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○					○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法		授業内での問いかけ、QUIZ、質疑応答(ミニツツペーパー上の質問を含む)などを用いた双方向性授業。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、多くの学生は十分な知識を持っていない。選挙権が与えられても経済知識なしで投票に行くのは危険である。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。レベルとしては、新聞やテレビのニュースがしっかりと理解できるようになることを想定している。また、医療分野を専攻する学生にとっては、医療の経済面からの考察も講義に取り入れるので参考にし理解を深めてほしい。 ② 授業開始時に学生から出された質問・疑問に答えながら、前回の復習をする。授業中はクイズをはじめとした問いかけを多く出し、可能な限りアクティブラーニングの導入を試みる。									
到達目標		1. 日本の経済の現状を説明できる 2. 需要と供給、市場メカニズムについて理解を深め、概説できる 3. 景気や GDP について理解を深め、概説できる 4. 国の予算や税金制度について説明できる 5. お金の流れや物価変動について説明できる 6. 経済政策について理解を深め、他者に説明できる 7. 為替レートの変動と貿易の実態について概説できる 8. 新聞やテレビのニュースが理解でき、他者に解説できる									
使用教材		必修テキストはない。講義では毎回資料、データを配布する。									
参考文献		推薦テキストは多数あるので、講義の中で必要に応じて紹介する。									
評価方法		学期末試験 80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物(クイズ、小レポートなど)20%									
課題・評価に対するフィードバック方法		コメントカードに記載された質問事項、疑問点等に関しては、次回の講義で回答する。クイズについても次回の講義で解説する。小レポートにはコメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)		月曜日 4 限目、金曜日 2 限目 研究室:1 号館 6 階 603				メールアドレス (#→@)		machida#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	イントロダクション(一部 AL[アクティブラーニング]実施)									
	該当到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく							1 時間	

	8	復習	ニュースに触れる習慣(新聞、テレビ、ネット)を開始する	1 時間
2	講義内容	日本経済の流れ(世界との比較のなかで)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
3	講義内容	経済政策の2大潮流—マーケット or ケインズ(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
4	講義内容	需要と供給(需要曲線の意味)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
5	講義内容	市場メカニズムと価格(どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
6	講義内容	価格の変動(どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
7	講義内容	国民所得Ⅰ(国の経済力はどう測るんだろう? GDP って何?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
8	講義内容	国民所得Ⅱ(あなたが1万円使うとGDPはいくら増える?)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
9	講義内容	財政(日本の借金は大丈夫? 消費税は何%に?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,4,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
10	講義内容	景気と失業(不景気で学生の就職はどうなる?)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
11	講義内容	金融(日本銀行は何をすること?)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,5,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
12	講義内容	経済政策のしくみ(アベノミクスは何をした?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,6,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
13	講義内容	為替レートメカニズム(円高、円安ってどうして起こるの?)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,7,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
14	講義内容	世界と日本(日本の貿易は黒字? 赤字?)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,7,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
15	講義内容	まとめと確認のためのテスト		

	該当到達目標	予習	これまで学習した事項について目を通し、理解を深めておく	3 時間
	1,2,3,4,5,6, 7,8	復習	期末試験の出題意図、講義の理解度の再確認と今後の学習の方向性を考える	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				39 時間
備考	AL(アクティブラーニング)は、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョン、ペアワーク、グループワークなど。 記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修(推薦テキストの講読、新聞・雑誌の経済記事講読等)により、必要な学修時間を各自で補完すること。			

科目名	社会学(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB006		
英文名	Sociology						講義形態	講義		
担当教員	安達 正嗣									
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員ならびに主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施し調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。									
学年・開講期	1年 前期		選必・単位数		選択 2単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と職業倫理				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識					コミュニケーション能力			
	3	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGsとの関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 社会学的なものの見方とは、どういうものなのか、社会学的にものを考えるときに使用する専門的概念・用語には、どのようなものがあるのかなどといった社会学の基本の理解を目指す。 ② 使用教材を中心にしながら、日常の具体的な事例から解説することによって、基本的な社会学の考え方を身につける。									
到達目標	1. 大学生として社会学の基本的な考え方を身につけることができる。 2. 社会学を通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。 3. 日常の人間関係を理解することによって、コミュニケーション能力を身につける。 4. 社会の仕組みを理解して、現代社会における自分自身の立ち位置を知ることができる。 5. 現代社会の社会問題を認識して、その解決を探る能力を身につけることができる。■									
使用教材	篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』晃洋書房。									
参考文献	講義中に、適宜指示する。									
評価方法	平常点(毎回提出してもらうリアクションペーパー(設問形式)については、第1回目の講義で説明します)50%、学期末試験 50%です。									
課題・評価に対するフィードバック方法	各受講生の提出したリアクションペーパー(設問形式)に書かれた質問、意見、要望などに対して、つぎの講義の前に答える。									
オフィスアワー (研究室)	火曜日 5限・6限				メールアドレス (#→@)		adachi-m#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション、第1章社会学とは何か(1~12頁)について解説する。								
	該当到達目標	予習	第1章を読んでおくこと。						1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	第1章を再読して、その内容を理解しておくこと。						1.5 時間	
2	講義内容	第2章社会を観察する方法(13~24頁)を解説する。								
	該当到達目標	予習	第2章を読んでおくこと。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	第2章を再読して、その内容を理解しておくこと。						1.5 時間	
3	講義内容	第3章社会で生きる「私」(25~35頁)を解説する。								
	該当到達目標	予習	第3章を読んでおくこと。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	第3章を再読して、その内容を理解しておくこと。						1.5 時間	
4	講義内容	第4章変容する家族のかたち(36~47頁)を解説する。実務で得た調査結果を提示する。■								
	該当到達目標	予習	第4章を読んでおくこと。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	第4章を再読して、その内容を理解しておくこと。						1.5 時間	

5	講義内容	第 5 章性の多様なあり方を考える(48～59 頁)を解説する。			
	該当到達目標 1,2,3	予習	第 5 章を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	第 5 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間	
6	講義内容	第 6 章「現実を生きる」ための社会学—労働・産業・消費—(60～72 頁)を解説する。			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 6 章を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	第 6 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間	
7	講義内容	第 7 章日本で進展する環境・災害社会学(73～86 頁)を解説する。			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 7 章を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	第 7 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間	
8	講義内容	第 8 章社会学から医療を見つめる(87～97 頁)を解説する。			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 8 章を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	第 8 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間	
9	講義内容	第 9 章社会学は教育とどう向き合うのか(98～109 頁)を解説する。			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	第 9 章を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	第 9 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間	
10	講義内容	第 10 章逸脱行動と社会問題(110～121 頁)を解説する。			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第 10 章を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	第 10 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間	
11	講義内容	第 11 章「格差」の社会学(122～134 頁)を解説する。			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第 11 章を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	第 11 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間	
12	講義内容	第 12 章生活空間としての地域社会(135～149 頁)を解説する。			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第 12 章を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	第 12 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間	
13	講義内容	第 13 章グローバル社会とエスニシティ(150～162 頁)を解説する。			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第 13 章を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	第 13 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間	
14	講義内容	第 14 章宗教から社会を捉える(163～176 頁)を解説する。			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第 14 章を読んでおくこと。	1.5 時間	
		復習	第 14 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5 時間	
15	講義内容	第 15 章社会の中のメディア／メディアが動かす社会(177～189 頁)を解説する。			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	第 15 章を読んでおくこと。	3 時間	
		復習	第 15 章を再読して、その内容を理解しておくこと。	3 時間	
合計時間(予習・復習)					48 時間
備考	各受講生が、毎回の講義内容を自分自身の身近な具体的な状況のなかで理解することによって、社会学の考え方を深めることができるので、そうした観点から意欲的に講義に臨んでほしい。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	生涯健康論(教養基礎)							科目ナンバリング	LAB007		
英文名	Lifelong Health Theory							講義形態	講義		
担当教員	渡邊 秀臣、五十嵐 康、蒲 章則										
科目に関連した実務経験	非常勤医師(整形外科医)として病院に勤務										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位						
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と職業倫理				7	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識					コミュニケーション能力				
		問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	① ③ ⑩ ⑯										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
			○								
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 生涯を幸せで豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約 10 年も短い。本講義では、健康寿命の延伸に向けて生涯にわたる健康維持・管理について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎知識を身に着けることを目的としている。 ② 講義においては、前半はテーマについて概要を説明し、後半は質疑応答する形式ですすめる。レポートについても発表する時間を持ちたい。										
到達目標	1. 健康の定義と集団の健康評価指標について理解できる。■ 2. 個体の健康を維持するため生体の調節機構について理解できる。■ 3. 環境・生活習慣の変容と疾病発症の関連について理解できる。■ 4. 健康寿命延伸にむけた取り組みについて理解できる。■										
使用教材	テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。										
参考文献	参考書として、厚生統計協会刊の「国民衛生の動向 2020/2021」を利用する。										
評価方法	授業参加内容:40 点、課題に対するレポート内容:60 点 :総合 60 点以上を合格とする。(対面講義でもオンライン講義でも同様)										
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートに対し必要なコメントをする。(対面講義でもオンライン講義でも同様)										
オフィスアワー (研究室)	(金)13:00~14:30 研究室 4 号館 2 階学部長室				メールアドレス (#→@)		watanabe-h#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	健康の定義と健康評価指標(渡邊) WHO の提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、<平均寿命>、<平均余命>、<健康寿命>、<最長寿命>などの呼び方があり、現在の日本で重要なのは、健康寿命であることを理解する。■									
	該当到達目標	予習	「国民衛生の動向」より健康評価諸指標の年代推移を把握する。							1.5 時間	
	1	復習	健康の定義と健康評価指標の理解を深める。							1.5 時間	
2	講義内容	健康を維持するための食物と物質代謝(五十嵐) 食物(栄養素)は健康に欠かすことのできないエネルギー源である。その物質代謝(同化・異化作用)に関わる体の構造とその働きを理解しながら健康維持について学習する。									
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。							1.5 時間	

	2	復習	食物のエネルギー代謝と健康について理解する。	1.5 時間
3	講義内容	恒常性維持機構の役割と相互作用(五十嵐) 生体には様々な生理機能をバランスよく正常に機能・維持するための調節機構、すなわち「恒常性維持機構(ホメオスタシス)」が備わっている。このシステムは主に神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。また、食物の消化・吸収を担う腸管では細菌の侵入を防ぐ恒常性機構が働いている。これらの様々な維持機構の働きと相互作用について学習する		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2	復習	生体の恒常性機構と健康維持の関係を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	運動と健康(渡邊) 運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。■		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	健康維持における運動の生理学的意義と健康寿命延伸に向けた運動について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	喫煙による健康障害(渡邊) たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの<喫煙と健康障害>のメカニズムについて理解する。<受動喫煙の影響>についても考える。■		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	喫煙とその健康障害及び健康障害の機序を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	生活習慣病の起因となる肥満(五十嵐) 肥満は原因により原発性肥満(エネルギー摂取過多など)と二次性肥満(性腺機能低下など)に分けられるが、いずれも高血圧、糖代謝異常、脂質代謝異常などの代謝障害の基盤となり、虚血性心疾患や脳血管障害などの動脈硬化性疾患を発症する危険因子となる。それらの起因となる肥満の発症と予防について学習する。		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	肥満とメタボリックシンドロームの病態と対策を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	生活習慣病の危険因子としての糖尿病(五十嵐) 2型糖尿病(インスリン抵抗性糖尿病)は、冠状動脈や脳動脈の動脈硬化、さらには腎障害、視力障害及び神経障害の3大合併症の誘発のみならず、健康寿命短縮の危険因子でもある。危険因子としての糖尿病とその予防法について学習する。		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	糖尿病の病態と対策を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	生活習慣病(脳血管障害)と認知症(五十嵐) 血管性認知症はアルツハイマー病に次いで2番目に多い認知症である。脳は全身の20%近い血液を必要とする臓器であることから、その発症は循環器障害などの生活習慣病と密接に関係する。ここでは血管性認知症と他の認知症の病態を比較しながら、その予防と治療の現状について学習する。		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	認知症の病態と原因、予防、治療などの現状について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	ロコモティブシンドローム(渡邊) 脳卒中と運動器障害は介護の主要原因となっている。骨粗鬆症・サルコペニア・運動器不安定を特徴とするロコモティブシンドローム対策が健康寿命の延伸に重要である。ロコモティブシンドロームの早期診断と予防の重要性について理解する。		
	該当到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	加齢に伴う運動器障害を理解し、早期診断と予防の重要性について理解する	1.5 時間
10	講義内容	生活習慣病(がん)と生活習慣(渡邊) 日本人の死亡原因の1位はがん、2位は心疾患、3位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣<(がん発症危険因子)>を知る。また、<がん予防のための生活習慣>及び早期発見・早期治療のための<がん検診>の重要性につい		

		て理解する。■		
	該当到達目標	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	生活習慣と発がんとの関係を理解し、がん対策基本計画などその対策について学習する。	1.5 時間
11	講義内容	WHO の歴史と活動内容(蒲) 第2次世界大戦後に設立された国際専門機関として、戦後から現代にいたるまでの活動変遷を検証する。WHO の取り組みを理解し、現在ある WHO の問題点、改善点を考察する。健康であることがいかにその国の活力(国力)に寄与するかを理解する。		
	該当到達目標	予習	WHO ウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
	1,4	復習	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1.5 時間
12	講義内容	WHO の戦略(蒲) アルマータ宣言で採択された「すべての人に健康を」スローガンのもとに、「各国が公衆衛生の原点に立ち返り、保健行政戦略を作成、さらに現代進められている持続可能開発目標(SDGs)に向けたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)にいたることを検証する。		
	該当到達目標	予習	WHO ウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
	1,4	復習	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1.5 時間
13	講義内容	途上国の保健行政(蒲) 途上国の人種、風土、歴史的背景、宗教等を考察し、独自の保健行政戦略を実施しているが、その成果や反省点を検証し、日本における地域医療の課題を含めて、今後の対策を考察する		
	該当到達目標	予習	WHO ウェブサイトで該当部分を学習する	1.5 時間
	1,3,4	復習	国際機関で発展途上国への保健戦略を学習する	1.5 時間
14	講義内容	日本の保健行政と世界の保健行政(蒲) 膨大な医療・介護予算をどのように有効に使うか、保健医療行政の立場から検証考察をする。各国の取り組みを比較検証し、今後の行政の取り組みを考える。		
	該当到達目標	予習	厚生労働省のウェブサイトで該当部分を学習する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	日本における厚生労働省の保健戦略と動向を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	地域における健康支援チーム構成員とその役割(チーム医療)(渡邊) これまでは、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支えあいに重点を置くとされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる<健康支援チームによるチーム医療>が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する。■		
	該当到達目標	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	4	復習	地域包括ケアシステムを理解し、地域における健康づくりチームの構成員としての各人の役割を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	レポートの提出をもって出席とする。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	生涯学習概論(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB008		
英文名	Introduction to Lifelong Learning						講義形態	講義		
担当教員	平林 茂、三村 国宏									
科目に関連した実務経験	(平林)公立小学校・中学校の教員、校長(経験)。群馬県教育委員会教育事務所指導主事・管理主監・所長。教育事務所では生涯学習教育の推進業務、社会教育主事及び地域・学校ボランティア対象の生涯学習推進に関わる研修会講師(経験)。 (三村)公立中学校の教員、高等学校、中等教育学校の校長(経験)。伊勢崎市教育委員会(指導主事、指導係長、教育プラン推進担当課長、学校教育課長)にてコミュニティ・スクール推進(経験)。大学・企業との教育連携協定推進等(経験)。									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と職業倫理			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識				コミュニケーション能力				
	2	問題発見・解決力			4	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	4 5 8 11									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○						○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	小テスト等についてコメントを行い、授業中に振り返り質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 人が学習する場は学校だけではなく、図書館・公民館等の社会教育施設やさまざまな団体での学習機会などがある。本授業では生涯学習を実践していく上で必要な基礎的知識や多様な生涯学習施設、学校の現状を学び、理解を深めていく。 ② 授業の進め方:各テーマの説明に加え、話し合い活動や調査活動などを通して課題に取り組み、その成果の発表などの学習活動を行います。今後、変化の激しい現代社会において重要になる「生涯学習」について学ぶことは、社会の一員としての自己の生き方を考える上で意義が大きいと思います。									
到達目標	1. 生涯学習の理念や学校や社会教育施設などで行われる学習について理解する。■ 2. 生涯学習に関わる様々な現代的課題の内容を把握しその解決に向けた考察をする。■ 3. 社会を構成する一員として自らの生き方を積極的に考える。									
使用教材	『よくわかる生涯学習 改訂版』(香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編、ミネルヴァ書房、2021 年 2,500 円(税別))									
参考文献	講義中に適宜、紹介する。									
評価方法	テストに 50%、小テストの評価 30%、日常点(授業への参加。授業態度。課題への取り組み、貢献度等)に 20%を配分して総合評価をする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業中の貢献度や発表については、その都度評価する。 試験前後に出題の意図等を説明する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜・1 限、水曜・1 限、 教職支援センター				メールアドレス (#→@)	平林 s-hirabayasi#takasaki-u.ac.jp 三村 k-mimura#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション、生涯学習の定義、制度(平林、三村)								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義の概要及び、「生涯学習とは何か」を理解する。						1.5 時間	
	1,3	復習	テキストをまとめ、生涯学習の定義や制度について理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	生涯学習と人間形成■(三村)								
	該当到達目標	予習	生涯学習にわたる人間形成についてテキストなどで調べる。						1.5 時間	
	3	復習	テキストや配布資料をまとめ、生涯学習について理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	生涯学習を支える思想(三村)								

	該当到達目標 1,3	予習	「生涯学習を支える思想」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5 時間	
		復習	生涯学習における「生きがい・健康づくり」についてまとめ、内容を理解する。	1.5 時間	
4	講義内容	生涯学習の現代的課題①■(三村)			
	該当到達目標 2,3	予習	「健康・高齢者等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5 時間	
		復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間	
5	講義内容	現代的課題②■(三村)			
	該当到達目標 2,3	予習	「高度情報化と人権等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5 時間	
		復習	テキストや資料を読んで、内容を理解する。	1.5 時間	
6	講義内容	現代的課題③■(三村)			
	該当到達目標 2,3	予習	「国際交流と人権尊重」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5 時間	
		復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間	
7	講義内容	現代的課題④■(三村)			
	該当到達目標 2,3	予習	「まちづくり等」についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5 時間	
		復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間	
8	講義内容	生涯学習の多様な学習方法■(三村)			
	該当到達目標 1,2	予習	学習方法の類型等について関連する図書などで調べる。	1.5 時間	
		復習	学習方法及び、持続可能な社会づくりへの取組について理解する。	1.5 時間	
9	講義内容	行政による生涯学習の振興(前編)(平林)			
	該当到達目標 1,2	予習	国の行政による生涯学習支援策についてテキストなどで調べる。	1.5 時間	
		復習	テキストや協議内容をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間	
10	講義内容	行政による生涯学習の振興(後編)■(平林)			
	該当到達目標 1,2	予習	都道府県レベルの生涯学習支援策についてテキストや図書などで調べる。	1.5 時間	
		復習	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間	
11	講義内容	民間団体・機関による生涯学習支援(前編)■(平林)			
	該当到達目標 1,2	予習	それぞれの団体の活動内容について、テキストや図書などで調べる。	1.5 時間	
		復習	テキストや協議・発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間	
12	講義内容	民間団体・機関による生涯学習支援(後編)■(平林)			
	該当到達目標 1,2	予習	NPO、カルチャーセンターやスポーツ施設について、図書などで調べる。	1.5 時間	
		復習	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間	
13	講義内容	施設に基づいた生涯学習活動(前編)(平林)			
	該当到達目標 1,2	予習	社会教育施設についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5 時間	
		復習	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間	
14	講義内容	施設に基づいた生涯学習活動(後編)■(平林)			
	該当到達目標 1,3	予習	博物館や青少年・女性教育施設についてテキストや図書などで調べる。	1.5 時間	
		復習	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5 時間	
15	講義内容	生涯学習社会において、どう生きるか(職業能力開発の生涯学習)(平林)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	講義内容に関連する項目について、図書などで調べておく。	1.5 時間	
		復習	図書や資料を読んで、内容を理解する。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	毎回小テストや資料の提示を C-learning で行いますので、パソコン等を持参してください。 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	生命と環境の科学(教養基礎)							科目ナンバリング	LAB009	
英文名	Science of Environment and Life							講義形態	講義	
担当教員	奥 浩之									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と職業倫理				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				1	コミュニケーション能力			
	1	問題発見・解決力				3	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	③⑥⑦⑨⑬									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・将来の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うことができるので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。(パソコンは持参する必要はなく、自宅で使用できればよい。)									
到達目標	1. 地球環境について元素、物質循環、気候変動の観点から説明できる。 2. 生命を構成する分子(核酸、タンパク質)について、分子構造、反応機構、応用の観点から説明できる。 3. 私たちの生活に関連して、食品、バイオマス、プラスチックごみ、医薬品や医療機器、のトピックスについて説明できる。 4. グローバルな視点から、新しい感染症、ワクチン開発、などのトピックスについて説明できる。 5. 様々な文献や資料を参照し、レポート形式または要約・箇条書きの形式でまとめられるようになる。									
使用教材	使用しない(講義にて用いるスライドを配布予定)									
参考文献										
評価方法	レポート課題 50%、授業参加度 50%									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出されたレポート課題に対しては、コメントを付けて返却または講義時間内に課題の解説を行うことで受講学生へフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	質問等は、授業開始前もしくは終了後に 応じる。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	生命と環境－自己紹介と研究について								
	該当到達目標 1,5	予習	(1)免疫系と免疫グロブリンについて調べてみよう。 (2)DNA 配列を測定する方法について調べてみよう。						1 時間	
		復習	(1)抗体医薬品について (2)免疫グロブリンの分子構造と役割について(特に IgG を構成する重鎖と軽鎖はどのような結合で結びついているか? 着目してみよう。) (3)次世代シーケンサーについて						1.5 時間	
2	講義内容	生命と環境－地球における元素の循環								
	該当到達目標	予習	元素周期表 (http://stw.mext.go.jp/series.html)を読んでみよう。						1 時間	

	1,5	復習	(1)人体を構成する元素の存在比 (2)主要元素・微量・超微量元素の具体的な元素名 (3)様々な元素の生体または医薬品における役割	1.5 時間
3	講義内容	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化		
	該当到達目標 1,5	予習	(1)ヒトの活動による、水需要の増大、化石燃料の大量燃焼、窒素肥料の大量使用と地球環境への影響について調べてみよう。	1 時間
		復習	(1)大気・土壌における物質循環 (2)水循環、窒素循環、炭素循環、硫黄循環、リン循環の特徴 (3)人類の活動による物質循環への影響	1.5 時間
4	講義内容	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化		
	該当到達目標 1,5	予習	(1)温室効果ガスとは？温室効果は何故起こるか？調べてみよう。	1 時間
		復習	(1)地球上での物質循環は気候変動と密接に関連する (大気を暖める要因と冷やす要因) (物質循環の詳細な研究による、地球環境変化の予測) (2)IPCC 第 5 次報告書(2014 年)における RCP シナリオ (気候モデルによって予測された 21 世紀末の世界の気温) (世界全体の CO ₂ 累積排出量と気温上昇量は比例する) (3)国連気候変動枠組条約 (日本における温室効果ガス削減目標)	1.5 時間
5	講義内容	生命と生体分子・・・DNA 二重らせんと X 線構造解析		
	該当到達目標 2,5	予習	ワトソンとクリックによる DNA 二重らせんモデル (1)当時用いられた分子モデル(ロンドン・サイエンスミュージアム) http://www.sciencemuseum.org.uk/broughttolife/objects/display?id=6145 (2)1953 年の論文 http://www.nature.com/nature/dna50/watsoncrick.pdf (3)DNA 構造について(英文なので、最初は図を見るのがよい) 特に Figure 5 を見て、3 種類の二重らせん構造があることに注目しよう http://www.nature.com/scitable/topicpage/discovery-of-dna-structure-and-function-watson-397	1 時間
		復習	(1)DNA の分子構造は X 線回折法によって求められる (2)ブラッグの回折条件式 (3)DNA 繊維写真の X 型パターン	1.5 時間
6	講義内容	生命と生体分子・・・タンパク質の構造と機能		
	該当到達目標 2,5	予習	(1)タンパク質を構成する 20 種類のアミノ酸とは？ (2)アミノ酸の“光学活性”とは？	1 時間
		復習	(1)アミノ酸 20 種類の分子構造 (2)X 線回折測定によるタンパク質の 3 次元構造解析 (3)NMR 測定によるタンパク質の 3 次元構造解析	1.5 時間
7	講義内容	生命と生体分子・・・さまざまなタンパク質		
	該当到達目標 2,5	予習	(1)膜タンパク質とは？ (2)リボソームにおけるタンパク質合成	1 時間

			(3)アイスクリームの成分について。特に、低脂肪アイスクリームはなぜ低脂肪なのか？調べてみよう。	
		復習	(1)70S リボソームと tRNA の分子構造 (PDB ID: 4v4j) (PDB ID: 2tra) (2)カルモデュリンの分子構造変化 (PDB ID: 3cln) (PDB entry 2bbm)	1.5 時間
8	講義内容	生命と生体分子・・・ヘム蛋白 (Mb、Hb、Cyt c、CYP450)		
	該当到達目標	予習	(1)ヘムタンパク質とは？ (2)ミオグロビンとヘモグロビンの違いは？ (3)CYP3A4 とは？	1 時間
	2,5	復習	(1)ミオグロビン (PDB ID, 1A6M) (2)チトクローム c (PDB ID, 2B4Z) (3)チトクローム P450 (PDB ID, 1W0E) (4)医薬品の代謝における CYP3A4 の影響について	1.5 時間
9	講義内容	ヒトの活動と環境・・・さまざまな医薬品		
	該当到達目標 2,5	予習	(1)コレステロールと高コレステロール血症 (2)認知症とコリン仮説について (3)ポリ乳酸とは？	1 時間
		復習	(1)スタチン (2)タクロリムス (3)ドネペジル (4)レボフロキサシン	1.5 時間
10	講義内容	ヒトの活動と環境・・・バイオマスとバイオリファイナリー		
	該当到達目標 3,5	予習	(1)バイオマスとは？ (2)バイオエタノールとは？ (3)プラスチックゴミ問題とは？	1 時間
		復習	(1)バイオリファイナリーとは？ (2)バイオガソリンの成分は？ (3)バイオマスプラスチックの具体的な事例は？	1.5 時間
11	講義内容	ヒトの活動と環境・・・食品の安全確保(加工食品の成分)		
	該当到達目標 3,5	予習	(1)アクリルアミドの分子構造、用途、注意点	1 時間
		復習	(1)行政(農水省)では加工食品の安全確保についてどのような活動をおこなわれているか？	1.5 時間
12	講義内容	ヒトの活動と環境:食べると甘い香りが発散するお菓子について		
	該当到達目標 3,5	予習	(1)ワインやコーヒーの香りを分析する装置について調べてみよう(ヘッドスペース装置の付いたガスクログラフィー/質量分析計) (2)ヒトにおける薬物代謝のしくみ	1 時間
		復習	(1)ヒトの体の匂いに関与する成分はどのようにして分析されたか？ (2)お菓子を食べてから、体表面から香気成分が発散するまでの経路は？ (ヒトにおける薬物代謝から説明してみよう。)	1.5 時間
13	講義内容	生命と環境・・・さまざまな感染症(AIDS, 結核, マラリアなど)		
	該当到達目標 4,5	予習	(1)感染症とは？	1 時間
		復習	(1)さまざまな感染症について (2)薬剤耐性について	1.5 時間
14	講義内容	生命と環境・・・インフルエンザワクチンの成分		
	該当到達目標	予習	(1)ワクチンによる予防免疫のしくみ	1 時間

	4,5	復習	(1)様々なインフルエンザの治療薬について (2)様々なインフルエンザワクチンについて	1.5 時間
15	講義内容	生命と環境・・・グローバル化によって必要となる新しいワクチン		
	該当到達目標 4,5	予習	(1)蚊によって媒介される感染症とは？ (2)グローバル化におけるヒトの移動や経済活動の活発化について	1 時間
		復習	(1)グローバル化と感染症の拡大はどのように関係するか？ (2)新しいワクチンの開発例について	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完してください。			

科目名		国際関係論(教養基礎)				科目ナンバリング		LAB010			
英文名		International Relations				講義形態		講義			
担当教員		片桐 庸夫									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		2 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とす資格											
学位授与方針との対応		2	豊かな人間性と職業倫理			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
			専門的知識			2	コミュニケーション能力				
		2	問題発見・解決力			2	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連		① ② ⑤ ⑥ ⑩ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
											○
「その他」のアクティブラーニング実施方法		毎回当日の講義内容に関する 10-15 分程度のレポートを課し、学んだ内容についての確認を求める。翌週に問題提起、結論、段落の付け方、使用すべき漢字、レポートの書き方、内容の評価、問題点を指導する。授業中に質問をすることによって学生との対話の機会を設け、参加意識を高める。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 新聞、テレビ、インターネット等のニュースを見て、世界の動きや日本の外交について理解出来るようになること。 ② 配布プリントを中心に、講義を行います。現代世界を象徴するドキュメントを収録した DVD を数回用います。また、授業の最後に毎回レポートを実施する。指導方法は上記の通り。毎回課すレポートの評価を基に成績評価を行うので、前期試験は行わない。									
到達目標		1. 現代世界の理解 2. 第 2 次世界大戦後の世界の基本構造の理解 3. 国家間の対立要因の理解 4. 国家間の相互理解の理解 5. 自由主義イデオロギーと社会主義イデオロギーの理解 6. 現代の戦争の特徴についての理解 7. 国家の安全保障の理解 8. 核の下での平和の理解 9. 国際秩序概念の理解 10. 国際秩序の喪失と国際テロ、難民、民族や宗教の違いに基づく紛争発生要因の理解 11. 戦後日本の原型についての理解 12. 戦後日本外交の歩み、「戦後」克服の意味の理解 13. 日本の課題である国際貢献問題の理解									
使用教材		配布するプリントを教材として用いる。									
参考文献		細谷雄一『国際秩序』中公新書。高坂正堯『国際政治』中公新書									
評価方法		講義の最後に毎回行うレポート評価試験(60%)、講義参加・貢献度(40%)等により総合評価を行う。									
課題・評価に対するフィードバック方法		原則としてレポートを課した翌週の講義の際に論文やレポートの書き方、文体、文の構成、意味の曖昧な表現、誤字脱字等について指導する。									
オフィスアワー (研究室)		・前期木曜日の昼休み ・非常勤講師控室 随時来てください。講義の後に直接訊ねることも可。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	講義概要(講義の展開、出席の取り方、レポートの書き方、成績評価等)についての説明を行う。									
	該当到達目標	予習	シラバスを読んでおくこと。							0 時間	
		復習	講義概要の確認を行いこと。							1 時間	

2	講義内容	世界の混迷した状況、中国の現状打破勢力としての台頭、米中の覇権争い等について理解する。		
	該当到達目標	予習	1 週間分の新聞の 1,2 面の記事に目を通しておくこと。	2 時間
	1,3,7,8,10	復習	ノートテイキングした部分の加筆、整理、それに新聞記事の内容を付加すること。	2 時間
3	講義内容	「冷戦の特異性」の意味と大規模な戦争の後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立を理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントのウィーン会議の部分をよく読んでおくこと。	1.5 時間
	1,2,3,9	復習	細谷雄一『国際秩序』中公新書の p.115-120,282 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
4	講義内容	戦勝同盟国間の対立の典型的例であるウィーン会議について理解する。		
	該当到達目標	予習	ウィーン会議参加国の価値観の共有についてプリントを利用して予習すること。	1.5 時間
	2,4,7	復習	『国際秩序』の p.121-124 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
5	講義内容	国際コミュニケーションにとって重要な価値観の共有の意味について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの価値観の共有の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	3,4,5	復習	『国際秩序』の p.128-130 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
6	講義内容	ウィーン会議とは正反対に共通の価値観の欠如していた米ソ間の体制間対立について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの体制間対立の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,8	復習	『国際秩序』の p.237-241 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
7	講義内容	米ソ間のイデオロギー対立について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントのイデオロギー対立の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	3,5,7	復習	『国際秩序』の p.237-241 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
8	講義内容	米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化(DVD 画像による)について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの安全保障観の相違と戦争の性格の変化の項を読んでおくこと。	2 時間
	6,7,8	復習	DVD 画像を観ながらノートテイキングしたメモを参考にノートにまとめること。	2 時間
9	講義内容	冷戦の定義、それに基づく冷戦の起源と終焉について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの冷戦の定義とそれに基づく冷戦の起源と終焉についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,6,7,8	復習	永井陽之介『冷戦の起源』中央公論社の p.6-10 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
10	講義内容	世界を滅ぼすことも可能な究極の兵器である核の下の平和について理解する。		
	該当到達目標	予習	究極の兵器がもたらした核の下の平和についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,6,7,8	復習	『国際秩序』の p.253-255 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
11	講義内容	冷戦の逆説である戦後の長い平和について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントのガディスの逆説論についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	1,7,8,9	復習	『国際秩序』の p.256-260 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
12	講義内容	冷戦の終焉と終焉後の世界の不安定化の理由・要因について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの国際秩序維持勢力の喪失と国際秩序の喪失の項を読んでおくこと。	1.5 時間
	2,7,9	復習	『国際秩序』の p.281-285 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
13	講義内容	冷戦後初の戦争「湾岸戦争」の意義、テロ・民族対立・宗教対立、難民の大量発生 of 理由、冷戦と呼ばれた戦後の米ソ対立と今日の米中対立との違いについて理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの湾岸戦争、国際秩序なき時代についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
	6,7,10	復習	『文明の衝突と 21 世紀の日本』集英社新書の P.21-36 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
14	講義内容	終戦、米国の対日占領政策、天皇制存置、SF 講和、憲法第 9 条、日米安保について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの終戦から SF 講和に至る項を読んでおくこと。	1.5 時間

	7,11,12	復習	小此木・赤木共編『冷戦期の国際政治』慶應義塾大学出版会の p.288-306 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
15	講義内容	「戦後」の克服の意味、今日の日本が直面する外交の課題について理解する。		
	該当到達目標	予習	プリントの「戦後」の克服、国際貢献問題の項を読んでおく。	1.5 時間
	1,10,13	復習	講義中に配布する新聞の切り抜き記事を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	世界の動き、平和、戦争、日本の進路などについて関心のある学生の履修が望ましい。 「復習」に挙げられている本は、参考文献も兼ねている。随時利用すること。予習・復習の結果、不明な点、理解しにくい、または出来ない点などあれば、遠慮なく質問すること。			

科目名	体育理論(教養基礎)							科目 ナンバリング	LAB011	
英文名	Physical Education: Theory							講義形態	講義	
担当教員	大家 千枝子									
科目に関連した 実務経験	「元気に“動こう・歩こう”」実践リーダー養成講座の講師として、リーダー養成事業に従事している。 (群馬県健康長寿社会づくり推進課・2018年度～)									
学年・開講期	1年 後期	選必・単位数	選択 1単位							
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	4	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				1	コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGsとの関連	③									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○					○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、生涯にわたり健康・体力づくりを実践するために必要な基礎知識を学ぶ。自らの健康・体力の現状を把握し、健康・体力づくりに適した身体活動について、その効果や実践方法を知り、実際の生活に活用する能力を養う。 ② 講義中心だが、自身の「体力を知る」ために体育館にて新体力テストを実施する。また新聞や文献を活用した課題を設定しているため、図書館も利用する。									
到達目標	1. 現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、具体的に述べることができる。 2. 自身の健康・体力の状況とわが国の健康・体力の現状を把握し、問題点をあげることができる。■ 3. 健康の保持増進を図るためのアイデアを探り、方法を創造することができる。■ 4. 課題に積極的に取り組み、履修者同士でコミュニケーションをとることができる。 5. 人間が創造した運動・スポーツの文化としての意味を考え、認識を深めることができる。									
使用教材	プリントを適宜配布する。									
参考文献	参考文献を適宜紹介する。									
評価方法	授業への取り組み実践点(講義後コメント、測定、コラボ企画、提出状況など)60%、 課題点(これまでの授業を踏まえた最終課題) 40%									
課題・評価に対する フィードバック方法	自分以外の履修者による課題(体力テストの結果など)や感想、評価を知ることが学生相互の刺激になるため、C-learningを使ってフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。					メールアドレス (#→@)	oie#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス、大学での学び・健康とは・上達の秘訣を考える								
	該当到達目標 1,2,5	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。						0.5	時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。						0.5	時間
2	講義内容	A組:体力を知る(新体力テスト)・B組:図書館利用術(図書館コラボ企画)								
	該当到達目標 2,4	予習	体調を整えて授業に備える。配布された資料に目をとおす。						0.5	時間
		復習	C-learning に測定結果と必要事項を入力する。						0.5	時間
3	講義内容	A組:図書館利用術(図書館コラボ企画)・B組:体力を知る(新体力テスト)								
	該当到達目標 2,4	予習	体調を整えて授業に備える。配布された資料に目をとおす。						0.5	時間
		復習	C-learning に測定結果と必要事項を入力する。						0.5	時間
4	講義内容	体力を評価する(体力とは)								
	該当到達目標 2,4	予習	体調を整えて授業に備える。配布された資料に目をとおす。						0.5	時間
		復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。						0.5	時間
5	講義内容	運動・スポーツの実施状況、運動継続の仕組みづくり、問題解決のための作戦を立てる■								

	該当到達目標 2,4	予習	配布された資料に目をとおす。	0.5 時間
		復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
6	講義内容	体組成、体脂肪の測定方法、エネルギー消費量の算出方法、内臓脂肪について		
	該当到達目標 1,2	予習	配布された資料に目をとおす。フィットネスルームで体組成を測定しておく。	0.5 時間
		復習	今後どのように身体活動・運動を取り入れるか検討する。	0.5 時間
7	講義内容	トレーニングの原理・原則		
	該当到達目標 1,2	予習	配布された資料に目をとおす。	0.5 時間
		復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
8	講義内容	まとめ、到達度チェックと最終課題の発表		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	授業でとったノートを読み直し、最終課題に備える。	0.5 時間
		復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				8 時間
備考	【単位修得に必要な時間について】 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ※C-learning「出席管理」の不正行為はしないこと(発覚時には厳正に対処する)。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	体育実技(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB012		
英文名	Physical Education: Sports & Physical Activities						講義形態	演習		
担当教員	佐藤 孝之									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				4	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				1	コミュニケーション能力			
	1	問題発見・解決力				3	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	3 4 5 7 10 12 13 15 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 余暇時間の増大や高齢化が進むなかで、生涯にわたってスポーツに親しむことは、活力に満ちた社会の形成や個々人の心身の健全な発達に必要不可欠である。本講義では、人との交流を深めながら生涯スポーツへの自己の取り組み方について学ぶ。 ② 前半は準備運動やチーム練習などを行い、後半は試合を行う。授業の最後にまとめレポートを作成する。									
到達目標	1. 知識・理解の観点:各スポーツ種目の歴史、ルール、マナーを理解・実践できる。 2. 思考・判断の観点:安全に効率よく練習およびゲーム運営における自分の役割を思考し、行動できる。 3. 関心・意欲の観点:種目特性によって異なる身体感覚について関心をもつことができる。 4. 態度の観点:積極的に取り組み、参加者と十分なコミュニケーションを築くことができる。また施設、器具を大切に扱うことができる。 5. 技能・表現の観点:基本スキルを獲得することができる。また相手の力量に合わせ、楽しみながらゲームができる。									
使用教材	授業内において適宜配布する。									
参考文献										
評価方法	授業参加度 50%、レポート 25%、授業記録 25%									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業時間内に行う。									
オフィスアワー (研究室)	火曜 1～2 限(非常勤講師)				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	ストレッチとレジスタンストレーニング								
	該当到達目標	予習	1. 栄養(食事)、休養(睡眠)、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 2. 知っているストレッチ方法にチャレンジしてみること。						1 時間	
	1,2,4	復習	1. 栄養(食事)、休養(睡眠)、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を						1 時間	

			送るために普段の生活を見直すこと。 2. 授業内で行ったストレッチやレジスタンストレーニングを積極的に行うこと。	
2	講義内容	男女混成での団体スポーツ(バドミントン・チーム練習)		
	該当到達目標	予習	1. 栄養(食事)、休養(睡眠)、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 2. チーム内でのコミュニケーションを高めておくこと。	1 時間
	1,2,3	復習	チーム内で話し合いの場を持ち、それぞれの長所、短所を明らかにすること。	1 時間
3	講義内容	男女混成での団体スポーツ(バドミントン・模擬ゲーム)		
	該当到達目標	予習	1. 栄養(食事)、休養(睡眠)、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 2. 明らかになった長所、短所について、大学体育施設(フィットネスルームを含む)等を積極的に利用しながら確認すること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 3. 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	チーム内で話し合いの場を持ち、勝つためのゲームおよび楽しむためのゲームの進め方を探ること。	1 時間
4	講義内容	男女混成での団体スポーツ(バドミントン・リーグ戦)		
	該当到達目標	予習	1. 栄養(食事)、休養(睡眠)、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 2. 話し合った内容を実現するために大学体育施設(フィットネスルームを含む)等を積極的に利用しながらチェックすること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 3. 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	1. チーム内で話し合いの場を持ち、リーグ戦での反省事項を見つけ出すこと。 2. 次講義からのチーム内で話し合い、コミュニケーションを高めておくこと。	1 時間
5	講義内容	男女混成でのチームスポーツ(ドッジボール・チーム練習)		
	該当到達目標	予習	1. 栄養(食事)、休養(睡眠)、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 2. チーム内でのコミュニケーションを高めておくこと。	1 時間
	1,2,3	復習	チーム内で話し合いの場を持ち、それぞれの長所、短所を明らかにすること。	1 時間
6	講義内容	男女混成でのチームスポーツ(ドッジボール・模擬ゲーム)		
	該当到達目標	予習	1. 栄養(食事)、休養(睡眠)、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 2. 明らかになった長所、短所について、大学体育施設(フィットネスルームを含む)等を積極的に利用しながら確認すること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 3. 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	チーム内で話し合いの場を持ち、勝つためのゲームおよび楽しむためのゲームの	1 時間

			進め方を探ること。	
7	講義内容	男女混成でのチームスポーツ(ドッジボール・リーグ戦)		
	該当到達目標	予習	1. 栄養(食事)、休養(睡眠)、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 2. 話し合った内容を実現するために大学体育施設(フィットネスルームを含む)等を積極的に利用しながらチェックすること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 3. 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	1. チーム内で話し合いの場を持ち、リーグ戦での反省事項を見つけ出すこと。 2. 次講義からのチーム内で話し合い、コミュニケーションを高めておくこと。	1 時間
8	講義内容	男女混成での団体スポーツ(ソフトバレーボール・チーム練習)		
	該当到達目標	予習	1. 栄養(食事)、休養(睡眠)、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 2. チーム内でのコミュニケーションを高めておくこと。	1 時間
	1,2,3	復習	チーム内で話し合いの場を持ち、それぞれの長所、短所を明らかにすること。	1 時間
9	講義内容	男女混成でのチームスポーツ(ソフトバレーボール・模擬ゲーム)		
	該当到達目標	予習	1. 栄養(食事)、休養(睡眠)、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 2. 課外時間に大学体育施設(フィットネスルームを含む)等を積極的に利用し、授業の予習・復習を行うこと。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 3. 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	チーム内で話し合いの場を持ち、それぞれの長所、短所を明らかにすること。	1 時間
10	講義内容	男女混成でのチームスポーツ(ソフトバレーボール・リーグ戦)		
	該当到達目標	予習	1. 栄養(食事)、休養(睡眠)、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 2. 大学体育施設(フィットネスルームを含む)等を積極的に利用すること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 3. 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	1. チーム内で話し合いの場を持ち、リーグ戦での反省事項を見つけ出すこと。 2. 次講義のチーム内で話し合い、コミュニケーションを高めておくこと。	1 時間
11	講義内容	ミニ運動会		
	該当到達目標	予習	1. 栄養(食事)、休養(睡眠)、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 2. 大学体育施設(フィットネスルームを含む)等を積極的に利用すること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 3. 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	今回のチーム内でお互いに感想を話し合い、コミュニケーションを高めておくこと。	1 時間

12	講義内容	男女別チームによるチームスポーツ(バスケットボール・チーム練習)		
	該当到達目標	予習	1. 栄養(食事)、休養(睡眠)、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 2. チーム内でのコミュニケーションを高めておくこと。	1 時間
	1,2,3	復習	チーム内で話し合いの場を持ち、それぞれの長所、短所を明らかにすること。	1 時間
13	講義内容	男女別チームによるチームスポーツ(バスケットボール・模擬ゲーム)		
	該当到達目標	予習	1. 栄養(食事)、休養(睡眠)、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 2. 明らかになった長所、短所について、大学体育施設(フィットネスルームを含む)等を積極的に利用しながら確認すること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 3. 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	チーム内で話し合いの場を持ち、勝つためのゲームおよび楽しむためのゲームの進め方を探ること	1 時間
14	講義内容	男女別チームによるチームスポーツ(バスケットボール・リーグ戦)		
	該当到達目標	予習	1. 栄養(食事)、休養(睡眠)、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 2. 大学体育施設(フィットネスルームを含む)等を積極的に利用すること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。 3. 日常からチーム内のコミュニケーションを高めておくこと。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	チーム内で話し合いの場を持ち、リーグ戦での反省事項を見つけ出すこと。	1 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	1. 栄養(食事)、休養(睡眠)、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 2. 大学体育施設(フィットネスルームを含む)等を積極的に利用すること。時間が取れない場合は日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動中の身体活動量を増やすこと。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	科目内で知り合った学生と話し合いの場を持ち、大学体育施設等を積極的に利用すること	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	受講上の注意 1. 運動にふさわしいジャージおよびシューズ(屋内外別、スパイク禁止)を着用の上、参加すること(ジーパンなどの普段着での受講は不可)。 2. ケガを未然に防ぐために、時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアス等の貴金属類はすべて外し、髪が肩にかかる学生は髪を纏めて参加すること。 3. 実技授業を進める上で配慮を必要とする学生は初回授業までに授業担当者まで申し出ること。 4. 貴重品の管理は各自で行うこと。 5. 授業で実施するスポーツ種目の器具は大学が用意しますが、個人で所有する器具がある場合は積極的に持参してください。 6. 天候により施設変更する場合があります。担当教員および事務局からの連絡を確認するようにしてください。			

科目名	キャリア形成論(教養基礎)						科目ナンバリング	LAB013		
英文名	Career Development						講義形態	講義		
担当教員	小泉 英明									
科目に関連した実務経験	社員研修・人材育成・能力開発・キャリア開発のコンサルタント、トレーナーとして各企業・自治体で指導									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				3	コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	4 8									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○	○		○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	小テスト・レポートに対してコメントを付し返却、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	AI(人工知能)をはじめとする各種テクノロジーの進化や地球規模的な気候変動など、社会は今、大きな激動期を迎えています。そのような中で、私たちを取り巻く経済・雇用環境も目まぐるしく変わり、生活や仕事の内容までもが大きく変わりつつあります。 本講座ではそのような社会の動きを見据え、私たちが近い将来に求められる『能力』について理解を深めるとともに、キャリア形成の基盤づくりを行います。 授業では社会で求められている高次元のコミュニケーション能力や思考力、さらには問題解決能力などの『社会人基礎力』を身につけるとともに、ケーススタディ等によって社会適応力を習得します。また本学卒業後、社会人として適切なスタートを切ることができるように、“自身”の強化プラン策定と目標管理ができる自律的人材の養成を目指します。 【授業期間全体を通じた授業の進め方】 教員作成のレジュメを使い、要点をまとめていきます。授業では、ニュースで取り上げられる時事について考察しながら、卒業後における社会の中でどのように取り組んでいくべきか実体験を織り交ぜた説明を行います。また必要な箇所にはグループディスカッションを行うとともに、理解度を深めるための課題を課します。									
到達目標	1. 社会の出来事を理解し、社会に通用する就業観、勤労観を学ぶ。■ 2. 自己の成長に向けて、自己を正しく理解するとともに、自己効力感を養う。■ 3. 社会人基礎力を理解し、社会適応力を身につける。■ 4. コミュニケーションの本質を理解し、高次元のコミュニケーション力を身につける。■ 5. 論理を組み合わせる手法を学び、論理的思考力を高める。■ 6. アイデアの出し方を学び、創造的思考力を高める。■ 7. 気づく力を身につけ、問題発見能力を高める。■ 8. 問題解決のスキルと手法を学び、問題解決能力を高める。■ 9. 自己変革のために必要な自身の問題点を探る。■ 10. 自律型人材に向けての目標管理ができる。■ 11. 社会における人間関係を学び、社会適応力を高める。■									
使用教材	C-learning を利用し、各学生に教員作成の教材データを授業前に配信します。									
参考文献	授業内で提示します。									
評価方法	ファイナルレポート 60%、毎授業後の提出課題 30%、授業参加度・授業態度 10% それぞれの評価基準については初回授業で説明します。総合評価 60%以上を合格とします。									
課題・評価に対する	授業後の課題レポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。 ファイナルレポートに関するフィードバックは、出題テーマの意図など掲示等によって示します。									

フィードバック方法					
オフィスアワー (研究室)		木曜日(12～17 時)		メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示します。
1	講義内容	ガイダンス／キャリア形成のために必要なこと■			
	該当到達目標	予習	事前配信教材をはじめ、新聞、テレビ、ネットなどのニュースから、社会の出来事を理解して臨む。		1.5 時間
	1	復習	キャリア形成に必要なコアコンピタンスを理解する。		1.5 時間
2	講義内容	先行きの予測が困難な時代／社会が求める人材■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 2 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	1,3	復習	キャリア形成に必要な「社会人基礎力」について理解を深める。		1.5 時間
3	講義内容	自己の理解■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 3 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	2	復習	自己理解を深め、自己効力感と自分のパーソナリティを理解する。		1.5 時間
4	講義内容	コミュニケーション力■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 4 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,4	復習	チェックシートによって自身のコミュニケーション力を客観的につかむ。		1.5 時間
5	講義内容	実践コミュニケーション力■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 5 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,4	復習	コミュニケーションの重要ポイントを理解し、自身の弱点と強化ポイントをつかむ。		1.5 時間
6	講義内容	気づく力(問題発見能力)■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 6 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,7	復習	事例研究課題に取り組む。※問題解決に繋がることを理解する。		1.5 時間
7	講義内容	考える力Ⅰ(ロジカルシンキング・クリティカルシンキング)■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 7 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,5	復習	事例研究によって論理的思考を理解する。		1.5 時間
8	講義内容	考える力Ⅱ(クリエイティブシンキング)■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 8 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,6,7,8	復習	事例研究によって創造的思考の重要性を理解する。アイデア発想の演習を行う。		1.5 時間
9	講義内容	創造力を伸ばす■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 9 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,6,7,8,9	復習	事例研究によって創造力の阻害要因を理解し、力を伸ばすポイントをつかむ。		1.5 時間
10	講義内容	問題解決能力Ⅰ(問題点を探る・WHY ツリー)■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 10 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,7,8,9	復習	自身が抱える問題の「問題点」を WHY ツリーで探る。		1.5 時間
11	講義内容	働く意味／「仕事力」と「就業力」■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 11 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	1,3	復習	自身の「仕事観」「就業観」を見つめ、自身の将来について深く考える。		1.5 時間
12	講義内容	問題解決能力Ⅱ(問題解決の手法・HOW ツリー／課題発見・目標設定)■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 12 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,8,9,10	復習	自身の課題を HOW ツリーで探り、今後の目標・計画を設定する。		1.5 時間
13	講義内容	社会における人間関係■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 13 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,11	復習	人との接し方と、よりよい人間関係を築く方法を理解する。		1.5 時間
14	講義内容	自己の確立(バリュープロポジションとキャリア自律)■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 14 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間
	3,10	復習	将来のキャリア形成に向けて、キャリア自律の重要性を理解する。		1.5 時間
15	講義内容	ストレスマネジメント■			
	該当到達目標	予習	事前に配信する第 15 回教材を読み、内容を理解しておく。		1.5 時間

	3,11	復習	ストレス対処法と対人耐性力を理解し、社会進出後のストレスに対する耐性力を高める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	C-learning にて配信する教材をもとに予習し、授業に臨んでください。教材はファイリングし、いつでも内容を振り返ることができるようにしてください。また、毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。授業は積み上げ方式で進めていきますから、わからないことがないように授業後は必ず復習してください。新聞、テレビ、ネットなどのニュースには常に関心を持ち、社会の出来事を理解し授業に臨んでください。 〔健康福祉学部の学生に求められる基本的な資質〕 ① 人の役に立つという心構え ② 生活者本位の視点 ③ コミュニケーション能力 ④ チームワーキングへの参画 ⑤ 自己研鑽 ※オンラインで授業を行う場合(※オンデマンド) ① 教材のデータを授業日の 3 日前までに配信します。 ② 事前に配信された教材の内容を良く理解して講義に臨んでください。 ③ 毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。(提出期限を厳守してください) ④ 提出されたレポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。 ⑤ 授業への出席は、レポートの提出をもって「出席」とします。 ⑥ 期末試験はレポート(ファイナルレポート)にて行い、第 15 回の授業後に提出の予定です。 ⑦ 評価方法は以下の通りです。 ファイナルレポート 60% 毎授業後の提出課題レポート 30% 授業参加度 10% ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		哲学(人間理解)						科目ナンバリング	LAH001		
英文名		Philosophy						講義形態	講義		
担当教員		大石 桂子									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年	前期	選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		5	豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
			専門的知識				2	コミュニケーション能力			
		1	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連		① ② ③ ④ ⑤ ⑩ ⑯									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 「他者とどう関わっていけばよいか」「絶対に正しいことはあるのか」、「病気や“弱さ”にどう向き合うか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち考えるのが哲学である。本講義では身近な題材をもとに医療・福祉・健康分野に関わる者として考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や、統計からみえる社会情勢などを手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。 ② 配布プリントを中心に講義を行い、定期的に課題を提示し、学生同士が意見交換する場を設ける。									
到達目標		1. 人と人、人と社会の関係、平等性、自由と責任などについて、多様な視点から説明できる。 2. 共生の意義や、弱者の排除が社会にもたらす影響を説明できる。 3. 各テーマについて、自分の意見をもつことができる。 4. 課題やグループワークを通して、自分の考えを他者に伝わりやすく表現できる。 5. 自分と異なる他者の考えを受け止め、そこから新たな発見ができる。									
使用教材		講義中にプリントを配布する。									
参考文献											
評価方法		定期試験(60%)、講義中に作成する課題(40%)に、参加態度を加えて総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		提出された課題の内容にコメントを付けて、授業中に紹介する。									
オフィスアワー (研究室)		水曜日の 2 時限、金曜日の 2 時限 (1 号館 6 階 601)				メールアドレス (#→@)		oishi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス									
	該当到達目標	予習	シラバスの内容をよく読み、講義の目標や取り扱う内容を理解する。							1	時間
	1	復習	「哲学」の目標、学ぶ意義について理解する。							1.5	時間
2	講義内容	自分と他者(1)「人に認められたい」のは本能?——ヘーゲル									
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。							1	時間
	1,3	復習	ヘーゲルのいう「承認への欲求」を理解する。							1.5	時間
3	講義内容	自分と他者(2)「本当の自分」とは何か——キルケゴール									
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。							1	時間

	1,3	復習	キルケゴールの「大衆と実存」の違いを理解する。	1.5 時間
4	講義内容	自分と他者(3)人と人の関係性——ブーバー、サルトル		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	第2回から第4回までの内容を整理する。	1.5 時間
5	講義内容	ディスカッション——これからの自分に大切なこと		
	該当到達目標	予習	第2回から第4回までの内容について、自分の考えをまとめる。	1 時間
	1,3,4,5	復習	自分にとって大切なことを改めて熟考し、課題を仕上げる。	1.5 時間
6	講義内容	平等と共生(1)誰もが信じられる正しさはあるか——ロールズ		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	「機会の平等」と「結果の平等」を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	平等と共生(2)環境は人の心にどう影響するのか		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3,4	復習	「無知のヴェール」について理解する。平等について課題を仕上げる。	2 時間
8	講義内容	自由・正しい自己決定のために——カント		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	「自律」の意義について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	心と身体(1)「私」を形づくるのは心か身体か——ニーチェ		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	身体がものの見方や価値観に影響する例を考える。	1.5 時間
10	講義内容	心と身体(2)人間の中心は脳なのか		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	脳死の問題について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	エンハンスメント(1)変化する「病」の定義		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	エンハンスメントや「医療化」について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	エンハンスメント(2)「弱さ」を否定する社会——ハーバーマス、サンデル		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	弱さを排除した場合の社会的影響について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	ディスカッション——医療技術と自己決定		
	該当到達目標	予習	個人の欲求でどこまで医療技術を利用してよいか、自分の考えをまとめる。	1 時間
	2,3,4,5	復習	エンハンスメントについての自分の考えをまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	責任(1)責任の範囲はどこまで?——アリストテレスほか		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	責任が問われる基準について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	責任(2)「何もしなかった」ことに責任はあるのか——ヤスパース		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3,4	復習	講義中にあげた事例について、自分の考えを課題にまとめる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				38 時間
備考	本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組むこと。 予習・復習については試験前の学習で補完すること。 *オンライン授業になった場合は、C-learning 上で講義資料(PDF ファイル等)を閲覧し、課題を提出する形式とする。			

科目名	倫理学(人間理解)							科目ナンバリング	LAH002	
英文名	Ethics							講義形態	講義	
担当教員	出雲 春明									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				1	コミュニケーション能力			
	1	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	357101617									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 現代の医療をめぐる問題をとりあげ、それぞれのトピックを通じて、倫理学の諸理論、人々の多様な価値観について学ぶ。なるべく平易な表現を用いて講義を行う。講義中、一つの問題をめぐる様々な、そしてしばしば対立する見解が示される。自分ならどの立場をとるか、対立する相手に対してどのように反論するか、常に考えながら講義に臨んでほしい。 ② C-learning の教材倉庫にアップした資料に基づいて講義を行い、毎回、ドリルと小テストを実施して知識の定着を図る。新型コロナの感染状況によってはオンデマンド形式に移行する。									
到達目標	1. 医療に関連する倫理的諸問題について正確な知識を習得し、 2. 自分の考えを表現することができる。 3. また、自分と対立する考えについても理解を深める。									
使用教材	講義中に資料を配布する。C-learning の教材倉庫に毎回アップする。									
参考文献	加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療—バイオ・エシックスの練習問題』、PHP 新書、1999 年。 小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理—「いのち」は誰が決めるのか』、筑摩書房、2011 年。									
評価方法	講義への参加態度(資料の閲覧・ドリルの実施など)・・・30% 小テストなどの課題・期末レポート・・・70%									
課題・評価に対するフィードバック方法	講義中、C-learning「アンケート」を通じて、意見などを提出してもらう場合がある。有意義な意見に関しては講義中に紹介する。									
オフィスアワー (研究室)	1 号館 511 研究室 面談希望の場合は C-Learning「連絡・相談」あるいは左記アドレスまで。				メールアドレス (#→@)		izumo-s#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス—生命倫理学について								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み講義の実施方法や目的を理解する。予習資料を確認する。						1.5 時間	
	1	復習	生命倫理学の成立事情について、技術の発展と人間観の変化から理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	不妊治療(1)人工授精、体外受精								
	該当到達目標	予習	予習資料を確認し、人工授精(AI)の定義について知り、関連情報を取得しておく。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	人工授精の特徴とそこで生じる倫理的問題について理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	不妊治療(2)代理母出産をめぐる議論								

	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料から、体外受精(IVF)とAIの差異、代理母について確認しておく。	1.5 時間	
		復習	人工授精、体外受精、代理母の特徴とその倫理的問題について理解する。	1.5 時間	
4	講義内容	遺伝子操作(1)ヒトゲノム計画がもたらす未来			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料から、ヒトゲノム計画と現代におけるその活用について知る。	1.5 時間	
		復習	遺伝情報が現在社会においてどのように利用されようとしているか理解する。	1.5 時間	
5	講義内容	遺伝子操作(2)遺伝子診断技術がもたらす未来			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料より遺伝子診断技術について確認する。	1.5 時間	
		復習	遺伝子診断技術がこれから社会に及ぼす変化を考えてみる。	1.5 時間	
6	講義内容	人工妊娠中絶をめぐる問題			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料より日本における人工妊娠中絶の法的規定について調べておく。	1.5 時間	
		復習	人工妊娠中絶をめぐる現在の状況、議論について理解する。	1.5 時間	
7	講義内容	優生思想をめぐる問題			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料より優生思想について知識を得ておく。	1.5 時間	
		復習	これまでの議論を優生思想の問題と関連させて振り返っておく。	1.5 時間	
8	講義内容	インフォームド・コンセントと患者の権利			
	該当到達目標 1,2	予習	予習資料からインフォームド・コンセントが求められた歴史的な発端を読み解く。	1.5 時間	
		復習	患者を主役とする医療という考え方について確認しておく。	1.5 時間	
9	講義内容	QOLの追求			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料からQOLとは何かについて知識を得る。	1.5 時間	
		復習	様々なQOLのあり方について考える。	1.5 時間	
10	講義内容	告知をめぐる問題			
	該当到達目標 1,2	予習	予習資料から告知をめぐる現状について知る。	1.5 時間	
		復習	告知について自分ならどのような選択をするか考える。	1.5 時間	
11	講義内容	延命医療について			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料をもとに延命医療について自分の考えをまとめる。	1.5 時間	
		復習	延命とQOLを関連させて考える。	1.5 時間	
12	講義内容	安楽死について			
	該当到達目標 1,2	予習	予習資料から安楽死の区分について知る。	1.5 時間	
		復習	安楽死の区分について理解し、自分の意見をまとめる。	1.5 時間	
13	講義内容	臓器移植(1)生体臓器移植			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料から日本での生体臓器移植の位置づけについて知る。	1.5 時間	
		復習	生体臓器移植の特徴とその倫理的問題について理解する。	1.5 時間	
14	講義内容	臓器移植(2)死後移植と臓器移植法改正			
	該当到達目標 1,2,3	予習	予習資料から日本における昨今の死後移植の位置づけについて知る。	1.5 時間	
		復習	改正臓器移植法について理解し、自分の意見をまとめる。	1.5 時間	
15	講義内容	総括			
	該当到達目標 1,2	予習	これまでのトピックの中から特に関心を持ったものを確認してみる。	1.5 時間	
		復習	紹介した文献や映像資料などを参照しつつ、自分の考えをまとめる。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	C-learningの「教材倉庫」「ドリル」「小テスト」「アンケート」「レポート」機能を活用する。毎回、授業日の前週水曜日に予習用の教材をアップするのであらかじめ目を通しておくこと。授業終了後は復習用の資料をアップするので、よく確認し、ドリル・小テストで知識の定着を図ること。				

	詳細な成績評価の方法や、期末レポートの課題や規定など連絡事項は C-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。 「自分ならどう考え、行動するか」を自らに問いかける姿勢を大切にしてほしい。また、授業内容と関連する「報道」などがあった場合には、通常の予習・復習とあわせて確認しておくことが望ましい。

科目名		心理学(人間理解)						科目ナンバリング		LAH003	
英文名		Psychology						講義形態		講義	
担当教員		角野 善司									
科目に関連した実務経験		カウンセラーとして臨床心理センターに勤務(経験)									
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格		社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士									
学位授与方針との対応		3	豊かな人間性と職業倫理				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
			専門的知識				1	コミュニケーション能力			
		2	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連		1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、支援に必要な基礎的知識の習得を目指す。 こころのしくみに関して心理的諸機能を概観し、心の発達や健康について理解したうえで、心理的支援の方法と実際を学ぶ。									
		② 毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、取り組んでもらいたい。対面授業は、難解な箇所に関する追加的な解説に重点を置く。また、理解を深めるために必要に応じて視聴覚教材を活用する。授業後には、復習課題に取り組むとともに、授業での学修を基に考察を深め、小レポートを作成し、提出することを求める。									
到達目標		1. 人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応について説明できる。 2. 人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題について説明できる。■ 3. 日常生活と心の健康との関係について説明できる。■ 4. 心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について説明できる。■									
使用教材		加藤伸司ほか「新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 17 心理学と心理的支援」ミネルヴァ書房 2022 年 2,800 円+税									
参考文献											
評価方法		毎回の課題・小レポート 45%(3 点×15 回)、学期末筆記試験 30%、学期末レポート 25%									
課題・評価に対するフィードバック方法		毎回の課題・小レポートは授業時に、学期末筆記試験・レポートは事後に講評解説の機会を設ける。									
オフィスアワー (研究室)		初回授業時に告知するとともに、研究室 ドアに掲出する(8 号館 405 室)				メールアドレス (#→@)		zsumino#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	心理学の視点:心理学における主要な理論と研究法									
	1	該当到達目標	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。						1.5 時間	
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。						1.5 時間		

2	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(1): 心の生物学的基盤		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
3	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(2): 感情/欲求・動機づけと行動		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
4	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(3): 感覚・知覚・認知		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
5	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(4): 学習		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
6	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(5): 記憶		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
7	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(6): 人格・性格		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
8	講義内容	人の心の基本的な仕組みと機能(こころのしくみの理解と、それを生じさせるからだのしくみの理解)(7): 他者と集団		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
9	講義内容	人の心の発達過程: 発達の概念■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
10	講義内容	日常生活と心の健康: ストレスとストレスサ■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
11	講義内容	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本(1): 心理アセスメント■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
12	講義内容	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本(2): 心理的支援の基本的技法■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
13	講義内容	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本(3): 心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要■		

	該当到達目標 4	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
14	講義内容	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本(4):心理の専門職■		
	該当到達目標 4	予習	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでの学習内容を振り返る。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	- 仮に諸事情により対面での学期末筆記試験の実施ができない場合には、成績評価にあたっての配点は以下のとおりとする： 毎回の課題・小レポート 75%(5点×15回)、学期末レポート 25% ■:実務経験に基づく内容を示す。 - 社会福祉学科専門展開科目「カウンセリング論」は、この科目を履修済であることを前提に授業を進める。			

科目名	文学と人間(人間理解)						科目ナンバリング	LAH004		
英文名	Literature and Humanity						講義形態	講義		
担当教員	菅野 陽太郎									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と職業倫理			1	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識				コミュニケーション能力				
	1	問題発見・解決力			4	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	①④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 近現代の文学作品を読み、文学が人間の営みや文化の形成にどのように関わっているかを考え、文学を今後の生活に役立てていけるようになるための素地を養うことを目標とする。 ② 各回の授業では、予習した教材についての解説や話題提供を行った後、ディスカッションやアンケート等による意見の交流を行う。									
到達目標	1. 文学を楽しみ、今後の生活に役立てていくことができる。 2. 授業で取り上げる文学作品の内容や特徴等を理解することができる。									
使用教材	『伊豆の踊子』川端康成, 新潮社, 1950, 473 円									
参考文献	『〈転生〉する川端康成 I 引用・オマージュの諸相』, 仁平政人・原善, 文学通信, 2022, 2700 円									
評価方法	各回の課題(30%)、レポート(70%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートは評価とコメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 2 限、金曜 2 限(8 号館 508 研究室)				メールアドレス (#→@)	kanno-y#@takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、「物語」とその効用								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、これまでに読んだ文学作品について振り返る。						1 時間	
	1	復習	授業内容を振り返り、課題に取り組む。						2 時間	
2	講義内容	文学のジャンルと要素								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1,2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	
3	講義内容	作品構造の理解①(あまんきみこ『山ねこ、おことわり』など)								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1,2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	
4	講義内容	作品構造の理解②(星新一『ある占い』など)								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1,2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	
5	講義内容	比喩表現の理解と効用(村上春樹『パン屋再襲撃』など)								
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。						2 時間	
	1,2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。						1 時間	

6	講義内容	アフォリズムの魅力(村上春樹『中国行きのスロウ・ポート』など)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
7	講義内容	比べるという思考①(二つの文学作品)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
8	講義内容	比べるという思考②(J-POP と文学作品)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
9	講義内容	引用・オマージュ①(川端康成『バッタと鈴虫』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
10	講義内容	引用・オマージュ②(川端康成『バッタと鈴虫』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
11	講義内容	アダプテーション①(川端康成『伊豆の踊子』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
12	講義内容	引用・オマージュ③(川端康成『伊豆の踊子』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
13	講義内容	アダプテーション②(川端康成『伊豆の踊子』)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
14	講義内容	アダプテーション③(芥川龍之介『羅生門』など)		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
15	講義内容	他学問との関わり		
	該当到達目標	予習	教材を読み、課題に取り組む。	2 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	授業時に C-learning を使用した意見の交流を行うので、ノート PC やタブレット、スマートフォン等の情報端末を用意すること。			

科目名	芸術論(人間理解)							科目ナンバリング	LAH005	
英文名	Art Theory							講義形態	講義	
担当教員	石原 綱成、志尾 睦子									
科目に関連した実務経験	志尾:映画上映・宣伝・企画・製作、イベントプロデュース									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数		選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識					コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				2	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	① この講義は芸術を通して、人間の営為の総体として芸術を学ぶ。それによって、豊かな人間性と教養を身につける。また、あらゆるジャンルの芸術(絵画、映像等)を深く理解する。									
①講義の目標										
②講義の実施方法	② 講義は前半が石原による芸術史、後半は志尾による映画芸術論となる(オムニバス形式)となる。									
到達目標	1. 視覚芸術の歴史を理解できる 2. 芸術を人間の営為の総体として理解できる。 3. 映像芸術を通して、映画の文化史的意義を理解できる。■ 4. 様々な文化を理解することで、グローバルな教養が身につく■									
使用教材	講義スライドの資料を配布する。									
参考文献	担当教員が逐次紹介する。									
評価方法	試験を実施する。(石原 50 点、志尾 50 点、計 100 点)									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出された感想シートやレポートについて逐一コメントなどを提示する。									
オフィスアワー(研究室)	石原:月曜 3 限、金曜 2 限、 志尾:火曜日 2 限				メールアドレス (#→@)	石原: ishihara#takasaki-u.ac.jp 志尾: m-shio#takasaki-cc.jp				
1	講義内容	ガイダンス(石原・志尾)								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する						1.5 時間	
	2	復習	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する						1.5 時間	
2	講義内容	芸術とは何かー芸術のイメージの調査ー								
	該当到達目標	予習	芸術における各自のイメージを箇条書きできるようにしておく						1.5 時間	
	1,2,4	復習	配布したプリントをもとに芸術のジャンルを理解する						1.5 時間	
3	講義内容	芸術史概説								
	該当到達目標	予習	芸術史の流れを体系的に理解しておく						1.5 時間	
	1,2,4	復習	配布した資料を基に芸術史の歴史を理解する						1.5 時間	
4	講義内容	宗教芸術とは何か								
	該当到達目標	予習	世界の主要な宗教の特色を理解する						1.5 時間	
	1,2,4	復習	配布した資料を基にキリスト教の教義を理解する						1.5 時間	
5	講義内容	キリスト教美術とシンボル								
	該当到達目標	予習	シンボルの本質について理解する						1.5 時間	

	1,2,4	復習	キリスト教のシンボルの法則性を理解する	1.5 時間
6	講義内容	ルネサンス美術―古典古代の芸術―		
	該当到達目標	予習	配布したプリントをもとに遠近法とは何かを理解する	1.5 時間
	1,2,4	復習	遠近法と人間の「主体」への意識を考える	1.5 時間
7	講義内容	ルネサンス美術―図像解釈学と美術―		
	該当到達目標	予習	配布したプリントをもとにプラトンとアリストテレスの相違を理解する	1.5 時間
	1,2,4	復習	アイデア論の違いが視覚芸術にいかに現れるかを理解する	1.5 時間
8	講義内容	中間テスト		
	該当到達目標	予習	今まで学んだ内容を理解しておく	1.5 時間
	1,2,4	復習	試験内容を自分なりに再考する	1.5 時間
9	講義内容	メディア芸術とは何か 映画芸術の入り口に立つ■		
	該当到達目標	予習	メディア と称されるもののイメージを箇条書きできるようにしておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに映画の成り立ちを理解する	1.5 時間
10	講義内容	映画の誕生と変遷を辿る■		
	該当到達目標	予習	映画の仕組みを理解する	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに映画史を体系的に理解する	1.5 時間
11	講義内容	映画の表現方法について学ぶ■		
	該当到達目標	予習	様々な映像ジャンルを箇条書きできるようにしておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに表現方法の多様性を理解する	1.5 時間
12	講義内容	映画の構造を知る■		
	該当到達目標	予習	映画を組み立てているものの役割を理解する	1.5 時間
	2,3,4	復習	映画が総合芸術であるという本質を理解する	1.5 時間
13	講義内容	演習 1: 見えるもの 見えないもの 映画が伝えることを意識する■		
	該当到達目標	予習	映画を観てみる	1.5 時間
	2,3,4	復習	感想を自分なりの言葉にしてみる	1.5 時間
14	講義内容	演習 2: 演出とは何か■		
	該当到達目標	予習	課題のシナリオを読み、イメージを組み立ててみる	1.5 時間
	2,3,4	復習	映像表現の可能性と奥深さを楽しむ	1.5 時間
15	講義内容	総論: 映画は時代を映す鏡である 映画で世界を知る■		
	該当到達目標	予習	興味のある国について調べる	1.5 時間
	2,3,4	復習	映画が語る文化、時代性を考える	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		ボランティア・市民活動論(人間理解)						科目ナンバリング	LAH006		
英文名		Civil and Voluntary Activities						講義形態	講義		
担当教員		金井 敏									
科目に関連した実務経験		前職でボランティア・市民活動支援センターの運営支援に従事。また、様々なボランティア活動実践者と交流がある。 現在、大学ボランティア・市民活動支援センター(VSC)でセンター長として VSC を運営している。									
学年・開講期		1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		5	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
			専門的知識				3	コミュニケーション能力			
			問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連		① ③ ④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○			○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① ボランティア・市民活動は、手助けを求めている個人や団体に対して自主的に貢献する活動である。身近な地域や福祉、環境、情報、国際協力まで幅広く取り組まれ、今日の社会に不可欠な存在である。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践する力を養成する。 ② 毎回の授業は、ボランティアに関する映像視聴、テーマに基づく講義、ゲストスピーカー講義(7 回予定)、ディスカッション、振り返り、次週の予定、という流れで進める。									
到達目標		1. ボランティア・市民活動の対象者のニーズを学び、ボランティア・市民活動の意義を説明できる。■ 2. ボランティア・市民活動の多様な実践例を学ぶことにより、活動の実際の展開を説明できる。■ 3. ボランティア・市民活動支援センターを活用して、自身の関心に即した活動に参加する。■ 4. 参加したボランティア・市民活動の実践を振り返り、成果や課題、次のチャレンジについて考察できる。■									
使用教材		各講義に即したオリジナル・レジュメや関係資料は授業にて配布する。テキストは使用しない。									
参考文献		その他、講義に必要な教材・資料は適宜プリントして配付する。									
評価方法		成績評価 ① 毎回の授業後に作成するリアクションペーパーによる評価(80%)。 ② ボランティア活動に参加して作成する実践レポートによる評価(20%)。評価方法は、ボランティア実践の回数や時間ではなく、ボランティア活動に参加することによる学びを評価する。 ③ 追再試は実施しない。									
		その他の評価 ① 授業開講数の 2/3 以上を出席することにより、成績の評価対象とします。 ② 忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出(要添付書類)を提出すれば出席扱いとする。なお、15 分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③ ボランティア実践の時間(1 回当たり 4 時間×4 回=16 時間相当)も本時の講義時間に含める。									
課題・評価に対するフィードバック方法		質問や相談については C-learning で適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)		質問は授業の前後、または C-learning やメールでも受け付ける。				メールアドレス (#→@)		kanai#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い■ ボランティア・市民活動支援センター(VSC)の活用方法、授業の進め方を確認する。									
	該当到達目標	予習	シラバスの内容をよく読んで、現時点でのボランティアの理解を把握する。							1.5 時間	

	1,3	復習	講義内容、学位授与方針、成績評価方法、VSC 利用方法などを確認する。	1.5 時間
2	講義内容	ボランティアの力を活かす仕組み～ボランティアセンターの役割■		
	該当到達目標	予習	自分の地元市町村のボランティアセンターの組織や活動内容を調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ボランティアセンターの活用方法を理解する。	1.5 時間
3	講義内容	子どもの明日と子育てをサポートするボランティア活動■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	児童を対象としたボランティア活動を調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	児童を対象としたボランティアの意義や活動上の注意事項などを理解する。	1.5 時間
4	講義内容	人々はどのようにボランティアに取り組んできたか ～欧米と日本の歴史		
	該当到達目標	予習	世界の国々でボランティア活動がどのように取り組まれているか調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	欧米と日本のボランティア活動の歴史の違いや長所を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	障害者スポーツ・レクリエーションをサポートするボランティア活動■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	障害者を対象としたスポーツやレクリエーションについて調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	障害者との接し方や支援の内容や方法を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	被災地に届け、災害支援ボランティア活動■		
	該当到達目標	予習	我が国における災害ボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	被災地におけるボランティア活動の内容や活動上の注意事項などを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	ユニバーサルデザイン・バリアフリーとボランティア活動■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	バリアフリーに関わるボランティア活動を調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	バリアフリーをすすめるボランティア活動のあり方を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	身近な動物とボランティアの良い関係(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	動物を対象としたボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	動物に対するボランティア活動の実際や人間との共生について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	地域ささえあいのボランティア ～ふれあい・いきいきサロン～■		
	該当到達目標	予習	地域で取り組まれているふれあい・いきいきサロンについて調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	高齢者の介護予防や健康、子育て家庭を住民で支える活動について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	心と命をつなぐボランティア活動 ～いのちの電話の実践から考える■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	心の悩みや自殺予防に取り組むボランティア活動を調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	いのちの電話の役割と学生でもできる活動について考察する。	1.5 時間
11	講義内容	ボランティアと NPO ～学生でも創れる NPO 法人■		
	該当到達目標	予習	NPO 法人とは何かについて調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	NPO 法人の活動内容や設立の要件、ボランティアとの違いなどを理解する。	1.5 時間
12	講義内容	国際貢献・多文化共生とボランティア活動■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	海外で活躍するボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	国際貢献や多文化共生のボランティア活動のあり方を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	行政に協力するボランティア ～民生委員・児童委員の活躍～■		
	該当到達目標	予習	行政に協力するボランティアについて調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	民生委員・児童委員の活動を理解し、自分の地域の民生委員を確認する。	1.5 時間
14	講義内容	分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会～赤い羽根共同募金■(ゲストスピーカーあり)		
	該当到達目標	予習	赤い羽根共同募金の概要や寄付の実際について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	赤い羽根共同募金のあり方や寄付の文化とは何かを理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ～新しい支え合いと 20 年後の自分の生き方■		
	該当到達目標	予習	さまざまなボランティア活動を通じて理解した人々の生活のしづらさや今後の課題について考える。	1.5 時間
	1,3,4	復習	ボランティア活動の講義と実際の実践活動を踏まえて、ボランティア活動のあり方や自身の将来の役割について考察する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

備考	● ボランティア実践は、もちろん強制ではないので、自分の興味や関心のある分野や活動に参加する契機として設定している。大学生として様々な活動にチャレンジすること。授業の理解を深めるために現場で活躍するゲストスピーカーから実践を紹介してもらう(7 回予定)。 ● ボランティア・市民活動支援センター(VSC、9 号館 1 階)を活用すること。活動を始める前には必ず、ボランティア活動保険に加入すること。そのほかボランティアの相談に何でも応じる。 VSC 直通 TEL:027-352-1108、VSC メールアドレス:vsc@takasaki-u.ac.jp ● シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表す。

科目名	人権論(人間理解)						科目ナンバリング	LAH007		
英文名	Theory of Human Right						講義形態	講義		
担当教員	金井 洋行									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と職業倫理			1	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識			1	コミュニケーション能力				
	4	問題発見・解決力			2	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	3 4 5 8 10 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	テーマについての課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 人権の観念について、他の観念－人道、倫理、文化規範、宗教的信念、条理原則等－との比較を通して分析し、人間の本性(human nature)との関係を理解する。日本国憲法に規定する「国民の権利」の内容を知り、その効力にどのような制約や限界があるかについて認識する。身近な生活体験から感得した権利侵害や不条理の発生について、人権の観点から考察する姿勢を身につける。 ② 講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的にあるいは国際的に大きな人権をめぐる事象があった場合には、その話題を飛び入りのに割り込ませることがある。									
到達目標	1. 人権について特にヨーロッパの歴史的発展を背景に人道等の他の価値観との比較で観念できる。 2. 人権の様々な観念から憲法の人権規定の適用関係を認識できる。 3. 個々の人権の性格を、内面的と外面的、精神的と経済的、消極的と積極的、等の区分で理解できる。 4. 人権の擁護がどのような考え方と仕組みによって行われるのかについて、憲法規定を通して認識できる。 5. 人権に関する主要な争点について裁判所、特に最高裁判所の考え方を整理できる。									
使用教材	テーマ別レジュメ、基礎知識資料(テキストに代替するプリント) *テーマによって DVD の視聴あり									
参考文献										
評価方法	・ 平常の授業に対する姿勢・課題提出(35%)、中間小テスト(15%)、期末の定期試験(50%) ・ 課題は概ね 4 回のレポート、中間小テストは概ね 3 回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテスト									
課題・評価に対するフィードバック方法	重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)									
オフィスアワー (研究室)	出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	人権の観念と内容								
	該当到達目標	予習	日本国憲法における基本的人権の項目の資料等による再チェック						2 時間	
	1	復習	予備知識アンケート						0.5 時間	

2	講義内容	人権の享有主体と人権規定の適用関係		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,2	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
3	講義内容	人権の制約と限界		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,2,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
4	講義内容	個人主義の観念と幸福追求権の意義		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,2,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
5	講義内容	法の下での平等－平等権と平等原則－		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,2,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
6	講義内容	人間の内心の価値と保護		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
7	講義内容	自由と自由主義		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	1,3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	講義内容	表現の自由とその抑制		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
9	講義内容	経済活動の自由と財産権		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	講義内容	人身の自由と刑事手続の保障		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
11	講義内容	政治活動の自由と参政権		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
12	講義内容	生存権の意義と福祉国家の諸権利		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
13	講義内容	教育を受ける権利と学習権		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
14	講義内容	世界の現況と人権(AIと人権、戦争と人権等)		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
	3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
15	講義内容	人権の国際化		
	該当到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間

	1,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				37.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 当日に即答できない質問や要望については C-learning・連絡メールをもって応答することを原則とする。 日常の身の回りに起こる権利侵害や条理違反に目を向け、人権擁護の観点から自分なりに考えておくことを期待する。			

科目名	人間関係論(人間理解)							科目ナンバリング	LAH008	
英文名	Theory of Human Relations							講義形態	講義	
担当教員	富田 純喜									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				2	コミュニケーション能力			
	3	問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 人間関係論という言葉は、大別すると二通りの意味がある。一つは、ホーソン実験を基盤として体系化された、主に経営学で用いられる理論のことである。もう一つは、人間の行為や生活上の諸現象を、人と人との関係において研究しようとする社会科学における研究アプローチのことである。本講義では本学の特性を考慮し、後者の観点から、生活上の人と人との関係を理解することを目的とする。ただし、本講義を受講することで、すぐに良好な人間関係を築けるようになるわけではない。人と人との関係とはいかなるものか、人との関係において喜びや苦しみが生まれるのはなぜか、といった根本的な問いを探ることが中心的な課題となる。 ② 授業は主に講義形式で進めるが、事前課題や授業内のワークを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。									
到達目標	1. 人間関係論の基礎的内容を理解している。 2. 社会状況・生活形態と人間関係との関連を説明できる。 3. 身の回りの人間関係を多角的な視点から説明できる。 4. 現代社会で生じている人間関係に関する諸問題への対応について考察できる。									
使用教材	菅野仁(2008)『友だち幻想—人と人の〈つながり〉を考える—(ちくまプリマー新書)』筑摩書房.									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
評価方法	レポート(50%)、試験(30%)、課題・参画度(20%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	試験前後に出題の意図等を説明する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 5 限、木曜 5 限(8 号館 406)				メールアドレス (#→@)		tomita-t#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	各回の授業内容を確認し、人間関係について考えてみる。							1.0 時間
	1	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。							1.0 時間
2	講義内容	ホーソン実験と人間関係論								
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。							1.5 時間
	1	復習	人間関係論の成り立ちについて理解する。							1.5 時間
3	講義内容	「友人重視指向」の日本の高校生(はじめに)								
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。							1.5 時間
	1	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。							1.5 時間
4	講義内容	人は一人では生きられない?(第一章)								
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。							1.5 時間

	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
5	講義内容	幸せも苦しみも他者がもたらす(第二章)①前半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.27-37)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
6	講義内容	幸せも苦しみの他者がもたらす(第二章)②後半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.37-46)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
7	講義内容	共同性の幻想——なぜ「友だち」のことで悩みは尽きないのか(第三章)①前半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.47-58)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	共同性の幻想——なぜ「友だち」のことで悩みは尽きないのか(第三章)②後半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.58-79)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	「ルール関係」と「フィーリング共有関係」(第四章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	熱心さゆえの教育幻想(第五章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	家族との関係と、大人になること(第六章)①前半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.106-113)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	家族との関係と、大人になること(第六章)②後半		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページ(p.113-120)を読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	「傷つきやすい私」と友だち幻想(第七章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
14	講義内容	言葉によって自分を作り変える(第八章)		
	該当到達目標	予習	テキストの該当ページを読み、言葉の意味等を調べておく。	1.5 時間
	2,3,4	復習	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ(これまでの授業の復習をととして理解を深める)		
	該当到達目標	予習	第1～14回の内容を復習し、疑問点などを整理する。	2.0 時間
	4	復習	現代社会における人間関係について自身の考えをまとめる。	2.0 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。			

科目名	ジェンダー論(人間理解)						科目ナンバリング	LAH009		
英文名	Gender Theory						講義形態	講義		
担当教員	山田 秀頌									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	10	豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識					コミュニケーション能力			
		問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	510									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	教員が各回に提示するトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① ジェンダーをめぐるさまざまな問題についての正しい知識と考え方を身につけることは、自分が生きていく上ではもちろんのこと、多様化する社会においてプロフェッショナルとして働いていく上でも重要なことがらとなっている。この授業では、主に女性やセクシュアル・マイノリティに対する不利益がどのような社会的なしくみの下で生み出されているのか、そうしたしくみに対してどのような批判がなされてきたのかを学ぶことで、性にかかわる社会問題について多面的に考えるための方法を獲得する。 ② 教科書および配布資料の内容をふまえながら、各回のテーマについて主要な問題や概念について解説する。教員が各回に提示するトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。									
到達目標	1. 性にかかわる社会問題について幅広く思考するための知識を身につける。 2. 多様な性を生きる人々とともに性にかかわる社会問題を解決するための視点を身につける。									
使用教材	教科書:『フェミニズムってなんですか?』清水晶子著、文春新書、2022 年。他に文献資料を適宜配布する。									
参考文献										
評価方法	3 本のレポートで評価する。(配点は 30%, 30%, 40%の配分) 総合評価 60%以上で合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートごとに問題出題意図を解説する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等は、授業中もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	講義全体の説明								
	該当到達目標	予習	性にかかわる身近な問題について考える。						1.5 時間	
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価法などを確認する。						1.5 時間	
2	講義内容	フェミニズムの歴史								
	該当到達目標	予習	教科書の「はじめに」、第 1 章、第 2 章を読む。						1.5 時間	
		1,2 復習	フェミニズムの 4 つの波について理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	公的領域と私的領域								
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章、第 7 章を読む。						1.5 時間	
		1,2 復習	公的領域と私的領域の違いを理解する。						1.5 時間	

4	講義内容	資本主義と個人		
	該当到達目標	予習	教科書第4章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	商業主義的な自由の問題を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	インターセクショナリティ		
	該当到達目標	予習	教科書第5章、第6章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	さまざまな差別の重なりについて再確認する。	1.5 時間
6	講義内容	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ		
	該当到達目標	予習	教科書第10章、第14章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	リプロダクティブ・ヘルス／ライツという概念について再確認する。	1.5 時間
7	講義内容	セクシュアル・ハラスメントと性暴力		
	該当到達目標	予習	教科書第8章、第12章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	権力関係の問題として理解する。	1.5 時間
8	講義内容	結婚と家族		
	該当到達目標	予習	教科書第11章、第13章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	伝統的家族観と制度の問題について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	ケアの倫理		
	該当到達目標	予習	教科書第9章、第16章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	どのようにケアが重要なのかについて考える。	1.5 時間
10	講義内容	セックス／ジェンダー／セクシュアリティの概念		
	該当到達目標	予習	教科書第15章を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	ジェンダー論の基本概念について再確認する。	1.5 時間
11	講義内容	ホモソーシャルとミソジニー		
	該当到達目標	予習	指定する文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	身近な問題に引き付けて考える。	1.5 時間
12	講義内容	LGBTをめぐる問題		
	該当到達目標	予習	指定する文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	社会問題としての理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	トランスジェンダーをめぐる問題		
	該当到達目標	予習	教科書「対談Ⅱ」「対談Ⅲ」を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	インターセクショナリティの視点から理解する。	1.5 時間
14	講義内容	トランスジェンダーと医療		
	該当到達目標	予習	指定する文献資料を読んでおく。	1.5 時間
	1,2	復習	トランスジェンダーに対するケアのあり方について理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	全体のまとめ		
	該当到達目標	予習	教科書「対談Ⅰ」「おわりに」を読む。	1.5 時間
	1,2	復習	社会を変える方法について考える。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	教科書と事前配布する資料を読み込み、授業での理解を深めるよう努力すること。			

科目名	共生の倫理(人間理解)						科目ナンバリング	LAH010		
英文名	Ethics of Symbiosis						講義形態	講義		
担当教員	大石 桂子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	4	豊かな人間性と職業倫理				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				1	コミュニケーション能力			
	1	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 現代では多様な価値観・文化をもつ人々が、性別や年齢、職業や病気・障がいの有無などを超えて「共生」することが求められている。誰もがもちやすい偏見や排除をのりこえ、共生を実現するためのどのような取り組みができるか。多くの事例から基礎的な理論と方法の知識を習得し、今後の生活に生かす基盤を培うことを目標にする。 ② 授業ではパワーポイントを用いる。定期的に資料分析、考察する機会を設ける。									
到達目標	1. 現代社会での共生の意義について理解し、説明できる。 2. 共生の歴史について理解し、説明できる。 3. 共生を支える社会学、倫理学、心理学また教育的・臨床的なアプローチを理解し、説明できる。 4. 共生の具体的なあり方や事例について理解し、説明できる。 5. 各テーマについて自分の考えをもつことができる。									
使用教材	講義中にプリントを配布する。									
参考文献	講義中に指示する。									
評価方法	定期試験(60%)、講義中に作成する課題(40%)に、参加態度を加えて総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出課題の内容にコメントを添えて、講義中に紹介する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日の 3 時限、金曜日の 2 時限。 (1 号館 6 階 601)				メールアドレス (#→@)		oishi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容に目を通し、到達目標などを確認する。						1 時間	
	1	復習	講義の目的や学ぶ意義を理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	ノーマライゼーションから当事者主権へ								
	該当到達目標	予習	ノーマライゼーションの定義を調べる。						1 時間	
	1,2	復習	障害者の権利をめぐる歴史を理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	障害者権利条約と意思決定支援								
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。						1 時間	

	1,3,5	復習	各国での意思決定支援の制度・取り組みを理解し、課題を作成する。	1.5 時間
4	講義内容	ユニバーサルデザイン		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3,5	復習	ユニバーサルデザインの意義を理解し、身近な実例を考える。	1.5 時間
5	講義内容	優生思想		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,5	復習	20 世紀初頭～現在の優生思想について、問題点を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	援助行為の動機とは		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	人がなぜ他者を援助できるのか、様々な理論を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	偏見といかに向き合うか		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	偏見が生じるメカニズムを理解し、その解消に向けた取り組みについて考える。	1.5 時間
8	講義内容	認知症介護・ケアへの取り組み①社会制度の側面から		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	認知症介護をめぐる現代の課題を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	認知症介護・ケアへの取り組み②身体拘束を減らすために		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	拘束を減らす手法、コミュニケーション改善の取り組みを理解し、考察する	1.5 時間
10	講義内容	いじめ問題にどう取り組むか①いじめが発生するメカニズム		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	国内でのいじめの状況、発生メカニズムを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	いじめ問題にどう取り組むか②いじめへの対応策		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	国内外でのいじめ予防・対応の実践例を理解し、有効な手段を考察する。	1.5 時間
12	講義内容	環境問題と世代間倫理①ヨナスの世代間倫理		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	現在世代が未来世代への責任をどのようにもつか、理解できる。	1.5 時間
13	講義内容	環境問題と世代間倫理②環境問題をめぐる論争		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,2,3,5	復習	環境問題についての議論を理解し、みずからの考えをもつ。	1.5 時間
14	講義内容	社会のレジリエンスを高める		
	該当到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,4,5	復習	災害復興支援、暴力犯罪の低減などの事例をもとに、有効な手段を考察する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ・共生社会へ向けて		
	該当到達目標	予習	これまでのノート・資料に目を通す。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	共生の意義、方法について理解し、自分の考えをまとめる。	2 時間
合計時間(予習・復習)				38 時間
備考	予習・復習については試験前の学習で補完すること。 *オンライン授業となった場合は、C-learning 上で講義資料(PDF ファイル等)を閲覧し、課題を提出する形式とする。			

科目名	チーム医療アプローチ論(人間理解)						科目ナンバリング	LAH011		
英文名	Team Approach to Health Care						講義形態	講義		
担当教員	大川喜代美、加藤大輔、竹内真理、梅原里実、渡邊秀臣、篠原智行、小竹利夫、高橋雄太									
科目に関連した実務経験	大川(情報):診療報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務(経験) 加藤(福祉):医療ソーシャルワーカーとしてケアミックス病院に勤務(経験) 竹内(栄養):管理栄養士として国立病院機構に勤務(経験)。健大附属クリニック管理栄養士兼務 梅原(看護):看護師として病院に勤務、病棟・外来・地域医療連携室の管理業務(経験) 渡邊(理学):整形外科医として医療機関に勤務(非常勤) 篠原(理学):急性期、回復期病院に勤務経験あり。現在は生活期病院に非常勤勤務 小竹(子ども):障害児母子通所支援施設に勤務(経験) 高橋(薬学):薬剤師として大学病院に勤務(経験)、調剤薬局に非常勤勤務									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理			4	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識			3	コミュニケーション能力				
	1	問題発見・解決力			1	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑪ ⑯									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○							○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	① 福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解する。									
①講義の目標	② 各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。■ 2. 各専門職の役割と活動について理解できる。■ 3. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。■									
使用教材	講義のスライドのファイルおよび資料を C-learning に公開する。									
参考文献										
評価方法	授業参加への積極性 40%、レポート 60%									
課題・評価に対するフィードバック方法	・ 多学科の学生が参加していることから C-learning の協働板機能を用いてパソコン上での双方向の通信手段によって行い、学生の考えや意見を導入しながら講義を展開する。 ・ 課題レポートや小テストの成果から感じた点や補足すべき点について文章化し、C-learning を用いて受講生にフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	大川(情報) 木曜 3 限(1 号館 609 研究室) 加藤(福祉) 木曜 2 限(1 号館 5 階研究室) 竹内(栄養) 金曜 3 限(1 号館 308 研究室) 梅原(看護) 金曜 1~2 限(4 号館 506 研究室) 渡邊(理学) 金曜 3 限(4 号館 2 階学部長室) 篠原(理学) 水曜 3 限(3 号館 206 研究室) 小竹(子ども)			メールアドレス (#→@)		大川(情報) okawa-ki#takasaki-u.ac.jp 加藤(福祉) kato-d#takasaki-u.ac.jp 竹内(栄養) mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp 梅原(看護) umehara#takasaki-u.ac.jp 篠原(理学) shinohara-t#takasaki-u.ac.jp 小竹(子ども) kotake#takasaki-u.ac.jp 高橋(薬学)				

		水曜 3 限(8 号館 403 研究室) 高橋(薬学)		takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp
		水曜 2 限(7 号館 323 研究室)		※メールでの質問可の教員のみ掲載
1	講義内容	チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について■		
	該当到達目標	予習	チーム医療とはどのようなものなのか、学習する。	1.5 時間
	1	復習	21 世紀の医療では、なぜ多職種協働のチーム医療が必須であるか理解する。	1.5 時間
2	講義内容	チーム医療における看護師の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	看護師の役割や業務について調べる	1.5 時間
	1,2,3	復習	看護師の役割・活動、チーム医療における看護職の役割について講義内容から復習しておく。	1.5 時間
3	講義内容	チーム医療における理学療法士の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	理学療法士の一般的な役割について調べる	1.5 時間
	1,2,3	復習	チームにおけるリハビリテーションの位置づけを復習し、チーム医療に求められる個人の資質について考察する。	1.5 時間
4	講義内容	チーム医療における薬剤師の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	チーム医療(病院・薬局)における薬剤師の役割と活動についてインターネット等の電子媒体を用いて調査する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	医薬品が患者や社会に与える影響(メリットとデメリット)を考え、その上でチーム医療を行うことの有益性についてレポートにまとめる。	1.5 時間
5	講義内容	チーム医療における管理栄養士の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	今までに学習した 1～4 のメディカル職の役割と活動について復習し、一般的な管理栄養士の役割と活動について各自で調査する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	管理栄養士と他のメディカル職との関わりについて理解し、それぞれの立場においてチーム医療で求められる役割・活動と、多職種連携について考察する	1.5 時間
6	講義内容	チーム医療における社会福祉士の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	① 高齢化社会の現状を調べる ② 地域における医療・介護・福祉の連携、地域包括ケアシステムの進展を調べる。 ③ 医療ソーシャルワーカーについて調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	地域での自立生活に必要となる、チーム医療における社会福祉士の役割を考察する。	1.5 時間
7	講義内容	チーム医療における特別支援学校教諭の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	乳幼児期・学齢期に罹患しやすい病気の概要や主要な障害について予習をすること。	1.5 時間
	1,2,3	復習	保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭と各種医療職との連携のあり方について復習をすること。	1.5 時間
8	講義内容	チーム医療における診療情報士の役割と活動■		
	該当到達目標	予習	診療情報管理士と病院事務職について調べてみる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	診療情報管理士と病院事務職について得た知識を整理する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	【キーワード】 専門職、チーム医療、チームアプローチ、多職種連携 「チーム医療アプローチ演習」(3 または 4 年次開講)履修には、原則として本科目の単位修得が必要となる。 本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『他職種連携コース』の対象科目である。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	国際保健医療論(人間理解)						科目ナンバリング	LAH012		
英文名	Theory of International Health						講義形態	講義		
担当教員	李 孟蓉、町田 修三									
科目に関連した実務経験	開発途上国の健康支援(経験) 元 JICA 専門家をゲストスピーカーとして招く(第 11 回) 元青年海外協力隊をゲストスピーカーとして招く(第 12 回)									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修が必須となる資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と職業倫理			3	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識			1	コミュニケーション能力				
	2	問題発見・解決力			1	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	①	②	③	④	⑩	⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰				
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○		○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 世界における健康格差の実態を知り、医療従事者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ、新たな国連の目標である SDGs を軸に、グローバルヘルスの基本理念と戦略を学び、国際保健医療の活動の場を地球的視野で認識できる。また、地球規模の健康課題やその影響要因、国際保健医療の関連分野の活動の理念と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得し、グローバル化の時代に活躍する医療職を目指すことができる。また本講義では、学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的に、学生が実際に海外に赴き実体験として諸外国の医療事情を見聞することにより、単位を取得することができる。 ② 授業方法は講義内容の要点について説明し、質問などに対して具体的に説明する。到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう学習内容を体系的に提示し進めいく。また、学生が自律的に学習を進められるようグループワークを取り入れ、発表させる。									
到達目標	1. 国際保健医療学、国際保健医療協力の概念と変遷を理解できる。 2. 保健医療分野での国際協力の必要性と意義を理解できる。 3. 諸外国の医療教育や医療の実態、医療制度、福祉を理解し、日本との違いを説明できる。 4. 国際保健医療協力の実際や実践手法を理解できる。■ 5. 異文化を理解し、異文化適応のプロセスを理解できる。■ 6. 日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる(海外研修参加者)									
使用教材	配布資料、各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと									
参考文献	① 「国際保健医療学」第 3 版 国際保健医療学会編 杏林書院 ② 「世界で一番いのちの短い国 シェアラオネの国境なき医師団」 山本敏晴 小学館 ③ 「国際協力—その新しい潮流」 下村恭人 有斐閣 ④ 世界の厚生労働 2019 有限会社正陽文庫/ 厚生労働省. 2020 年海外情勢報告 https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/21/ ⑤ 「国民衛生の動向 2020/2021」 厚生労働統計協会 ⑥ 「SDGs を学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社」(電子ブック) ⑦ 「世界の貧国 1 日 1 ドルで暮らす人びと」 ジェレミーシーブルック 青土社 適宜参考書を紹介する									

評価方法		【学内授業の場合】 ・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、発表・討論の参加度 30 点 (30%) (個人/グループワーク、プレゼンテーション)、期末レポート 70 点 (70%) の配分で合計 60 点以上を合格とする。 海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス (30%)、研修レポート (30%)、研修中のパフォーマンス (40%) 【オンライン授業の場合】 ・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、レポート 10 点 (10%)、授業参加・貢献度 20 点 (20%) (個人/グループワーク、プレゼンテーション)、期末レポート 70 点 (70%) の配分で合計 60 点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバック		授業後にアンケートを行い、次回の授業初めに振り返りを行う。 発表や討論については、その都度コメントやアドバイスをする。レポーについては、コメントを付して返却する。(対面授業・オンライン授業とも共通)			
オフィスアワー (研究室)		【李】 木曜日・金曜日の 3 限目 研究室: 3 号館 2 階 208 【町田】 月曜日 4 限目、金曜日 2 限目 研究室: 1 号館 6 階 603	メールアドレス (#→@)	【李】ri#takasaki-u.ac.jp 【町田】machida#takasaki-u.ac.jp	
1	講義内容	講義オリエンテーション、国際保健、国際保健医療学の定義、国際保健医療協力の概念 (一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく。国際保健医療協力に関する新聞・雑誌などの記事を読んでくこと。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料を目を通し、国際保健協力の定義、世界や国内の国際協力の概念についてまとめ、理解を深めること。また、自分の興味のある国の医療事情リサーチを開始する。		1.5 時間
2	講義内容	グローバルヘルスと開発理念の変遷 (プライマリーヘルスケア～SDGs) (一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	参考文献①「国際保健医療学」第 3 版の第 I 部 1～4、10～11 まで目を通しておくこと。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料に目を通し、世界の歴史の中でのプライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション、MDGs の基本理念と変遷について理解を深め、SDGs の目標と活動について興味関心をまとめること。		1.5 時間
3	講義内容	国際保健医療関連の国際機関、NGO の取り組みと日本の国際協力 (一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	参考文献②「世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団」、③国際協力—その新しい潮流に目を通しておくこと。		1.5 時間
	1,2	復習	配布資料に目を通し、国際保健医療協力の仕組み、国際保健医療関連の国際機関や NGO 団体、ODA の活動についてまとめ、理解を深めること。		1.5 時間
4	講義内容	日本の医療教育、医療制度、医療制度 (一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
5	講義内容	諸外国 (イギリス) における医療教育・医療制度 (一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
6	講義内容	諸外国 (ヨーロッパ①) における医療教育・医療制度 (一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
7	講義内容	諸外国 (ヨーロッパ②) における医療教育・医療制度 (一部 AL 実施)			
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく		1.5 時間
	3	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ		1.5 時間
8	講義内容	諸外国 (アメリカ) における医療教育・医療制度 (一部 AL 実施)			

	該当到達目標 3	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5 時間
		復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
9	講義内容	諸外国(発展途上国、インドネシア)における健康の格差①(保健指標、母子保健)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	参考文献④世界の厚生労働 2019 p.102-136、⑤「国民衛生の動向 2019/2020」を参考し、日本における衛生の主要指標、保健と医療の動向(人口動態、生命表、母子保健など)について目を通しておくこと。	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布資料に目を通し、世界で生じている健康格差の実態とその原因についてまとめ、理解を深めること。	1.5 時間
10	講義内容	諸外国(発展途上国、タイ・ベトナム)における健康の格差②(感染症と非感染性疾患)(一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	参考文献⑥SDGsを学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社(電子ブック)第2章 保健・健康 SDG3 に目を通しておくこと。	1.5 時間
	2,3,4	復習	開発途上国の保健医療課題とその原因についてまとめて、理解を深めること。	1.5 時間
11	講義内容	国際保健医療協力と異文化理解 ■ (一部 AL 実施) 元 JICA 専門家を招き、異文化の中での国際協力活動について事例をもとに解説を加えて講義する		
	該当到達目標	予習	世界で行われてる国際保健医療協力を調べておくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5	復習	配布資料に目を通し、国際協力として行われている支援について、目的、実際の活動内容、異文化適応について考察したことをまとめ、理解を深めること。	1.5 時間
12	講義内容	「持続可能な開発目標の達成に向けて」を考えるワークショップ ■ (一部 AL 実施) SDGs の目標にて世界の課題、日本ができること、自分にできることを考えるワークショップという形で取り入れて、各グループが円滑にディスカッションを進めるように指導をしながら行う		
	該当到達目標	予習	第2回目の授業内容を再度確認しておくこと。	1.5 時間
	2,3,4	復習	ワークショップに参加し、世界の不平等や格差に気づき、国の豊かさについて考えを深めること。 興味ある国の医療事情や SDGs の発表準備。自分たちが取り組めることについて考えておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク① (一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	興味ある国の医療事情や興味関心のある SDG の目標について調べておくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,5	復習	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のある SDG の目標やターゲットについてまとめて、発表の準備をすること。	1.5 時間
14	講義内容	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク② (一部 AL 実施)		
	該当到達目標	予習	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のある SDG における諸外国、国際機関や世界での NGO、企業等の活動・取り組みを調べておくこと。	1.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	調べてまとめた興味関心のある SDG について、第12回講義と関連付けて自分たちが取り組めることをまとめて、発表の準備をすること。	1.5 時間
15	講義内容	学生プレゼンテーションとまとめ		
	該当到達目標	予習	第13回～第14回の個人ワーク/グループワークの発表資料と発表の準備。	1.5 時間
	2,3,4,5,6	復習	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	AL(アクティブラーニング)は、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョンなど。			
	1. ルール 1) 能動的に、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨むこと。 2) 他学生の学習の妨げとなるような行為を慎むこと。 2. 出席登録の方法 出席の登録は、C-learning の下記 1)～2)のいずれかの方法で行う。方法は授業、「ニュース」で確認すること。 1) 「レポート」の課題をする。 2) 「アンケート」を提出する。 3. グループワークとレポートの詳細については授業を進めながら提示する。 4. オンライン講義を実施する場合には、講義内容のワークショップを変更することがある。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	Introduction to Healthcare Sciences(人間理解)						科目ナンバリング	LAH013		
英文名	Introduction to Healthcare Sciences						講義形態	講義		
担当教員	町田 修三、小澤 瀬司、東福寺 幾夫、松尾 仁司、クリストファー・ターン、應本 真、今井 純、大石 時子、富田 洋介									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数		選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と職業倫理			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識			3	コミュニケーション能力				
	1	問題発見・解決力			1	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○					○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	QUIZ、問いかけ、授業内カンバセーション等による双方向性授業									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。 ② 数人の教員がオムニバス形式で英語にて、学生の理解度を確認しながら講義を展開する。英語を使用する授業であるので、予習用に授業で用いる教材・資料・データ等をあらかじめ配布する。授業にはこれらの資料を十分に下調べしたうえで臨むことが特に重要である。									
到達目標	1. 医療に関する基礎的な内容に関して、英語での説明を理解できる 2. 理解した内容について、第三者に説明できる 3. 医療に関するトピックに関して、英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる 4. 医療に関するトピックについて、外国の学生と話をすることができる									
使用教材	各教員が作成した資料やデータを用いて講義する									
参考文献										
評価方法	担当各教員による評価を総合して決定する。各教員は、毎回の授業参加度(20%程度)や講義終了時に課す提出物または小レポート(80%程度)により、それぞれの持ち点に応じて学生を評価する									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出物や小レポートには、コメントを付して返却する									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 4 限目、金曜日 2 限目 研究室: 1 号館 6 階 603				メールアドレス (#→@)	machida#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	Introduction of the course (町田)								
	該当到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく						1 時間	

	1	復習	講義内容の復習, 特に専門用語(英語)を覚える	1 時間
2	講義内容	Medical globalization and Japan's healthcare system (町田)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく き, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
3	講義内容	Healthcare system of foreign countries (町田)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく き, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
4	講義内容	Introduction of nursing education in Japan and other countries (大石)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく き, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
5	講義内容	Introduction to telemedicine (東福寺)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく き, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
6	講義内容	Using Medline Plus to obtain medical information in English I (小澤)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく き, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
7	講義内容	Using Medline Plus to obtain medical information in English II (小澤)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく き, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
8	講義内容	Immunity and diseases I (今井)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく き, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
9	講義内容	Immunity and diseases II (今井)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく き, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
10	講義内容	Medical information system (松尾)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく き, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
11	講義内容	Introduction to sensory science (應本)		
	該当到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておく き, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間

12	講義内容	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation I（富田）		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
		復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
13	講義内容	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation II（富田）		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
		復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
14	講義内容	Mental health and social skills（ターン）		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
		復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
15	講義内容	Summary and concluding remarks（ターン）		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておく き，授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
		復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
合計時間（予習・復習） 44 時間				
備考	講義内容は学生の興味を持てそうな分野から、基礎的なものを選んでいる。学生の積極的な授業参加が求められる。 記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修により医療の国際化に関する理解を深め、単位修得に必要な時間を各自確保すること。			

科目名		囲碁の世界(人間理解)						科目ナンバリング		LAH014	
英文名		Introduction to Igo						講義形態		講義	
担当教員		三谷 哲也									
科目に関連した実務経験		2002 年に公益財団法人日本棋院に入段。囲碁教室や他大学の囲碁授業の講師（現在）									
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		2	豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
			専門的知識				3	コミュニケーション能力			
		3	問題発見・解決力				2	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
					○		○			○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法		インターネット・携帯電話アプリケーションでの対局を指示する場合あり									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 講義の目標 近年、囲碁は脳を活性化し考える力を養うということで注目されている。囲碁を学ぶことで「考える力」と「集中力」を磨き、「先を読む力」を身につける。 また、日本の伝統文化である囲碁を体得することで、言葉と世代を超えたコミュニケーション力を身につけ、国際交流のコミュニケーション力を高める。 ② 実施方法 ・ 講義形式で打ち方の解説をした後、受講生同士で対局を行う。 ・ 囲碁の心得や法則「ナナメにご用心」等、言葉で表したものを積極的に使い上達を図る。 ・ 決め打ち碁(模範的な碁を並べ、途中から打つ)で布石の考え方を身につけ、初心者でもすぐに終局まで打てるようにする。									
到達目標		1. 囲碁を全く知らない状態から囲碁の世界を知り、19 路盤で最後まで打てるようになる。■ 2. 「囲碁の心得、法則」の形を言葉で覚え、積極的に使い囲碁の考え方を身につける。■									
使用教材		光文社新書「東大教養囲碁講座」（備考欄を要確認）									
参考文献		日本棋院「実践囲碁総合演習」									
評価方法		毎回の授業貢献度、コメントシート、技術の習熟度を総合的に判断する(60%) 試験(20%)×2 回 ※対局結果は成績評価に含まない									
課題・評価に対するフィードバック方法		試験後に解説を行う。									
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談は授業の前後に応じる。状況により次回の授業での対応となる場合がある。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	囲碁の歴史と基本ルール■									
	該当到達目標	予習	教科書 第 1 章 1～3 に目を通し講義の目的を理解する。						1.5 時間		
	1,2	復習	囲碁の基本的なルールを理解する。						1.5 時間		
2	講義内容	ルールの復習(1)■									
	該当到達目標	予習	教科書 第 2 章 1-1～1-3 に目を通し基本ルールを確認する。						1.5 時間		
	1,2	復習	囲碁の 5 つの基本ルールを理解する。						1.5 時間		
3	講義内容	ルールの復習(2)■									
	該当到達目標	予習	教科書 第 2 章 1-4～1-5 に目を通し基本ルールを確認する。						1.5 時間		

	1,2	復習	打てない場所、打てる場所を理解する。インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 時間
4	講義内容	ルールの復習及び初歩技術(1)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P97 に目を通し、囲碁の打ち方のポイントを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	基本的な3つの心得を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	ルールの復習及び初歩技術(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第3章2に目を通し、石の取り方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	取れている石、シチョウを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	問題演習■		
	該当到達目標	予習	教科書 第2章1～2に目を通し基本的な考え方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	地の数え方、石のつながりを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	技術の解説(1)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P188～199 に目を通し終盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の終盤の考え方を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	技術の解説(2)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P173～188 に目を通し中盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の中盤の考え方を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	技術の解説(3)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P158～172 に目を通し序盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の序盤の考え方を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	9子局の解説・連碁(対局)■		
	該当到達目標	予習	教科書 第5章1に目を通し9子局の打ち方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	9子局の打ち方を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	技術の解説(4)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P207～220 に目を通し決め打ち碁のポイントを理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	隅の死活を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	技術の解説(5)とペア碁■		
	該当到達目標	予習	教科書 第4章に目を通し、19路盤の考え方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の中盤の打ち方を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	問題演習■		
	該当到達目標	予習	教科書 第2章4に目を通し、石の追い方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	石の取り方、死活、終局の仕方を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	技術の解説(6)■		
	該当到達目標	予習	教科書 P259～267 に目を通し、総合的な石の取り方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	19路盤の序盤～中盤の打ち方を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	イベント対局とまとめ■		
	該当到達目標	予習	教科書 第4章～5章に目を通し、これまで習ってきたことを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	●履修条件 - 本講義は、囲碁を知らない状態から19路盤で最後まで打てるようになることが目標です。 - 囲碁の未経験者や囲碁のルールを知らない者を強く求めます。 ●その他、授業に関する事項 - 第5回目の授業までは基本的なルールを学び復習します。欠席や遅刻などしないこと。 - 使用教材(教科書)は、授業形態(オンラインや録画配信)への変更により使用しない場合があります。 - 授業では毎回対局を行います。道具の準備や片づけも授業の一環であるため、積極的に関わること。 - PCや携帯端末で囲碁の対局ソフト(アプリ)を指示、使用場合があります。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	英語 IA(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL001		
英文名	English IA						講義形態	講義		
担当教員	柳澤 順一									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				4	コミュニケーション能力			
		問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	大学生に必要とされる基礎的な英語運用能力のうち、とりわけリーディング・スキル獲得のための講義を行う。 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。									
使用教材	Select Readings Pre-Intermediate, Linda Lee & Erik Gundersen, Oxford University Press (2011)									
参考文献										
評価方法	授業参加度 10%、平常点 40%(単語試験、提出物など)、定期試験 50%を総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートは評価またはショートコメントを付した後返却する(学期末課題については返却しないことがある)。期末試験は採点后、得点を通知する(通知方法については授業内で連絡する)。									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後に対応する。				メールアドレス (#→@)		jyanagisawa555#gmail.com			
1	講義内容	Introduction								
	該当到達目標	予習	特になし(語彙調べ)							0.5 時間
	1,2,3	復習	基礎語彙力テストの復習、プリント問題の解法							0.5 時間
2	講義内容	Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep? (1)								
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読							0.5 時間
	1,2,3	復習	スラッシュ・リーディング練習 p.3							0.5 時間
3	講義内容	Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep? (2)								
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読							0.5 時間
	1,2,3	復習	スラッシュ・リーディング練習 p.4							0.5 時間
4	講義内容	Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep? (3)								
	該当到達目標	予習	Post-reading exercises							0.5 時間
	1,2,3	復習	Building vocabulary p.7							0.5 時間
5	講義内容	Chapter 2 Mika's Homestay in London (1)								

	該当到達目標 1,2,3	予習	Pre-reading exercises	0.5	時間
		復習	スラッシュ・リーディング練習 p.13	0.5	時間
6	講義内容	Chapter 2 Mika's Homestay in London (2)			
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5	時間
	1,2,3	復習	スラッシュ・リーディング練習 p.14	0.5	時間
7	講義内容	Chapter 2 Mika's Homestay in London (3)			
	該当到達目標	予習	Post-reading exercises	0.5	時間
	1,2,3	復習	Building vocabulary p.17	0.5	時間
8	講義内容	Chapter 3 It's Not Always Black and White (1)			
	該当到達目標	予習	Pre-reading exercises	0.5	時間
	1,2,3	復習	スラッシュ・リーディング練習 p.23	0.5	時間
9	講義内容	Chapter 3 It's Not Always Black and White (2)			
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5	時間
	1,2,3	復習	スラッシュ・リーディング練習 p.24	0.5	時間
10	講義内容	Chapter 3 It's Not Always Black and White (3)			
	該当到達目標	予習	Post-reading exercises	0.5	時間
	1,2,3	復習	Building vocabulary p.27	0.5	時間
11	講義内容	Chapter 4 Helping Others (1)			
	該当到達目標	予習	Pre-reading exercises	0.5	時間
	1,2,3	復習	スラッシュ・リーディング練習 p.33	0.5	時間
12	講義内容	Chapter 4 Helping Others (2)			
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5	時間
	1,2,3	復習	スラッシュ・リーディング練習 p.34	0.5	時間
13	講義内容	Chapter 4 Helping Others (3)			
	該当到達目標	予習	Post-reading exercises	0.5	時間
	1,2,3	復習	Building vocabulary p.37	0.5	時間
14	講義内容	Chapter 5 Generation Z: Digital Natives (1)			
	該当到達目標	予習	Pre-reading exercises	0.5	時間
	1,2,3	復習	スラッシュ・リーディング練習 p.43	0.5	時間
15	講義内容	Chapter 5 Generation Z: Digital Natives (2)			
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5	時間
	1,2,3	復習	スラッシュ・リーディング練習 p.44	0.5	時間
合計時間(予習・復習)				15	時間
備考	PC 教室での講義の場合、テキストファイル保存用の USB メモリを必ず持参すること。				

科目名	英語 IB(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL001		
英文名	English IB						講義形態	講義		
担当教員	下田尾 誠									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				4	コミュニケーション能力			
		問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○	○								
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 現代社会を取り巻く環境、日々の生活習慣が私たちの健康に及ぼす影響についての理解を平易な英文を読みながら深めることを目的とする。テキストは、ボキャブラリー、リスニング、リーディングのアクティビティを通して題材となる事柄への理解を深めるように構成されている。このテキストを通して、総合的な英力を高め、健康について考えるきっかけをつくることを講義のねらいとする。 ② 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 環境と健康についての基本的な語彙を修得する。 2. 大学生基礎レベルのリーディング・スキルを身につける。 3. 関連テーマについて英語で簡単な作文ができる表現力を身につける。									
使用教材	Better Health for Every Day, Kinseido, 1,900 円									
参考文献	授業内で紹介する。									
評価方法	授業への参加度、発表、課題(50%)、期末試験(50%)で総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題はコメントをつけて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後に対応する。				メールアドレス (#→@)	shimotao.makoto#chuo.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス・Reading Strategies とは								
	該当到達目標	予習	教科書のまえがき、シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。						0.5 時間	
	1,2,3	復習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。						0.5 時間	
2	講義内容	What country is the fattest in the world?								
	該当到達目標	予習	テキストの英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。						0.5 時間	
	1,2,3	復習	テキストの英文内容が理解できているかを確認する。						0.5 時間	
3	講義内容	What do you know about sleep talking?								
	該当到達目標	予習	テキストの英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる						0.5 時間	
	1,2,3	復習	テキストの英文内容が理解できているかを確認する。						0.5 時間	
4	講義内容	Why are bug bites dangerous?								

	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	0.5	時間
5	講義内容	What kind of bacteria can be found in the Great Barrier Reef?			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	0.5	時間
6	講義内容	How much caffeine can we take?			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	0.5	時間
7	講義内容	How does Oxytocin work to improve relationships?			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文の内容理解を理解できているかを確認する。	0.5	時間
8	講義内容	What can happen when you are too clean?			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を再度読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認するする。	0.5	時間
9	講義内容	Does gender affect cancer susceptibility?			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	0.5	時間
10	講義内容	Why do we develop fear of heights with age?			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	0.5	時間
11	講義内容	What are the dangers of a sweltering summer?			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	0.5	時間
12	講義内容	Which makes a better athlete, a night owl or an early bird?			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	0.5	時間
13	講義内容	How better to release your stress?			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	0.5	時間
14	講義内容	What are the differences between real and robotic pets?			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を読み、知らない単語・フレーズを調べる。	0.5	時間
		復習	テキストの英文内容を理解できているかを確認する。	0.5	時間
15	講義内容	前期のまとめ、復習			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキストの指定された英文を再度読み、内容を再把握する。	0.5	時間
		復習	前期分の内容を総合的に理解する。	0.5	時間
合計時間(予習・復習)				15	時間
備考					

科目名	英語 IC(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL001	
英文名	English IC							講義形態	講義	
担当教員	織原 義明									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				4	コミュニケーション能力			
		問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	大学における英語学習のスタートとして基礎的な英語運用能力のうち、おもにリーディングとライティングのスキル獲得のための講義を行う。 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 英文法の基礎を学び、おもにリーディング・スキル及びライティング・スキルを向上させる。 2. 英語の基礎を学びながら、科学・技術に関する英語を身につける。 3. 英語学習を通して専門用語の学び方を身につける。									
使用教材	Basic Literacy for the Sciences 理工系英語の基本リテラシー， 鈴木栄 / Jethro Kenney 著，金星堂，¥1,900（税込 ¥2,090）									
参考文献										
評価方法	授業への参加度と平常点(小テスト)40%、期末試験 60%から総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テスト、期末試験は採点後に返却もしくは模範解答を提示する。									
オフィスアワー (研究室)	授業開始前または終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)		初回授業時に提示する。			
1	講義内容	ガイダンス、Unit 1 – Numbers								
	該当到達目標	予習	Pre-reading Activities, Vocabulary, Reading を調べておく。						0.5	時間
	1,2,3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。						0.5	時間
2	講義内容	Unit 2 – Mathematics								
	該当到達目標	予習	Pre-reading Activities, Vocabulary, Reading を調べておく。						0.5	時間
	1,2,3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。						0.5	時間
3	講義内容	Unit 3 - Mathematical Symbols								
	該当到達目標	予習	Pre-reading Activities, Vocabulary, Reading を調べておく。						0.5	時間
	1,2,3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。						0.5	時間
4	講義内容	Unit 4 – Science								
	該当到達目標	予習	Pre-reading Activities, Vocabulary, Reading を調べておく。						0.5	時間
	1,2,3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。						0.5	時間
5	講義内容	Unit 5 – Engineering								
	該当到達目標	予習	Pre-reading Activities, Vocabulary, Reading を調べておく。						0.5	時間

	1,2,3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
6	講義内容	Unit 6 - Wind Power		
	該当到達目標	予習	Pre-reading Activities, Vocabulary, Reading を調べておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
7	講義内容	Unit 7 - Solar Power		
	該当到達目標	予習	Pre-reading Activities, Vocabulary, Reading を調べておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
8	講義内容	Unit 8 - Earthquakes		
	該当到達目標	予習	Pre-reading Activities, Vocabulary, Reading を調べておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
9	講義内容	Unit 9 - Hurricanes		
	該当到達目標	予習	Pre-reading Activities, Vocabulary, Reading を調べておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
10	講義内容	Unit 10 - Volcanoes		
	該当到達目標	予習	Pre-reading Activities, Vocabulary, Reading を調べておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
11	講義内容	Unit 11 - Wi-Fi		
	該当到達目標	予習	Pre-reading Activities, Vocabulary, Reading を調べておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
12	講義内容	Unit 12 - Robots		
	該当到達目標	予習	Pre-reading Activities, Vocabulary, Reading を調べておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
13	講義内容	Unit 13 - Additive Manufacturing		
	該当到達目標	予習	Pre-reading Activities, Vocabulary, Reading の問題を解く。	0.5 時間
	1,2,3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
14	講義内容	Unit 14 - Elements		
	該当到達目標	予習	Pre-reading Activities, Vocabulary, Reading を調べておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
15	講義内容	Unit 15 - Matter and Energy		
	該当到達目標	予習	Pre-reading Activities, Vocabulary, Reading を調べておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	音声教材を使って復習する。特に間違ったところを中心に復習する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	音声教材は C-learning にアップします。			

科目名		英語 IIA(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL002		
英文名		English IIA						講義形態	講義		
担当教員		鈴木 文也									
科目に関連した実務経験		英語教諭として中学校・高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		6	豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
			専門的知識				4	コミュニケーション能力			
			問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		この授業は、大学生に必要とされる基礎的な英語 4 技能の獲得のための講義である。 授業では、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声教材を用いた言語活動を取り入れる。									
到達目標		1. 大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3. コミュニケーションのためのリスニング・スピーキング・ライティングの英語運用能力を高める。■									
使用教材		Reading Pass 1 Second Edition、南雲堂、2015、2,300 円＋税									
参考文献		参考となる文献はその都度紹介する。									
評価方法		授業参加(10%)、単語テスト(15%)、リアクションペーパー(15%)、試験(60%)から総合的に評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		リアクションペーパーはコメント・添削・評価の上返却する。 期末試験は採点の後返却する。									
オフィスアワー (研究室)		火曜日 2 限、木曜日 2 限 (9 号館 306 研究室)				メールアドレス (#→@)		suzuki-b#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	Guidance									
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで学習内容を把握する							0.5	時間
	1,2,3	復習	講義の目標、学位授与方針、評価方法などを確認する。							0.5	時間
2	講義内容	Unit 1 Olympic Cities									
	該当到達目標	予習	テキストに従って言語活動の準備をする。							0.5	時間
	1,2,3	復習	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。							0.5	時間
3	講義内容	Unit 4 Teleworking									
	該当到達目標	予習	単語テストの準備をし、テキストに従って言語活動の準備をする。							0.5	時間
	1,2,3	復習	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。							0.5	時間
4	講義内容	Unit 6 E-books									
	該当到達目標	予習	単語テストの準備をし、テキストに従って言語活動の準備をする。							0.5	時間
	1,2,3	復習	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。							0.5	時間
5	講義内容	Unit 7 Multiculturalism									
	該当到達目標	予習	単語テストの準備をし、テキストに従って言語活動の準備をする。							0.5	時間

	1,2,3	復習	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5 時間
6	講義内容	Unit 9 Cultural Taboos		
	該当到達目標	予習	単語テストの準備をし、テキストに従って言語活動の準備をする。	0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5 時間
7	講義内容	Unit 11 The Burj Al Arab		
	該当到達目標	予習	単語テストの準備をし、テキストに従って言語活動の準備をする。	0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5 時間
8	講義内容	Unit 12 Pop Culture Heroes		
	該当到達目標	予習	単語テストの準備をし、テキストに従って言語活動の準備をする。	0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5 時間
9	講義内容	Unit 15 High-Speed Trains		
	該当到達目標	予習	単語テストの準備をし、テキストに従って言語活動の準備をする。	0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5 時間
10	講義内容	Unit 16 Single-Child Families		
	該当到達目標	予習	単語テストの準備をし、テキストに従って言語活動の準備をする。	0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5 時間
11	講義内容	Unit 18 India on the Rise		
	該当到達目標	予習	単語テストの準備をし、テキストに従って言語活動の準備をする。	0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5 時間
12	講義内容	Unit 20 Artificial Intelligence		
	該当到達目標	予習	単語テストの準備をし、テキストに従って言語活動の準備をする。	0.5 時間
	1,2,3	復習	テキストの本文や練習問題で各技能の向上を目指した復習をする。	0.5 時間
13	講義内容	Unit 1, 4, 6, 7 のまとめ		
	該当到達目標	予習	単語テストの準備をし、Unit 1, 4, 6, 7 の復習をする。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間
14	講義内容	Unit 9, 11, 12, 15 のまとめ		
	該当到達目標	予習	Unit 9, 11, 12, 15 の復習をする。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間
15	講義内容	Unit 16, 18, 20 のまとめ		
	該当到達目標	予習	Unit 16, 18, 20 の復習をする。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	質問はメールでも受け付ける。授業は、アクティブ・ラーニングの方法を用いて行うので、授業外学修(ワークシートに基づいた予習・復習)を丁寧にやること。また、授業でのペア・グループ・全体での発表などの活動では、積極的に参加することが望まれる。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	英語 IIB(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL002		
英文名	English IIB						講義形態	講義		
担当教員	Matthew Potter									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と職業倫理				多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識			4	コミュニケーション能力				
		問題発見・解決力				自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	このコースは中級以下の学習者を対象とした、スピーキングに重点を置いた一般英語コースです。日常生活や生活習慣、学校生活や学習習慣、趣味や自由時間など様々なテーマを扱います。									
到達目標	1. 基本的な英会話に自信を持つこと 2. 英語のリスニングとスピーキングのスキルを向上させる 3. 学習した英語を強化 4. 英語で学習する方法を学。 5. 自立して英語を学ぶためのスキル、自信、モチベーションを身につける。									
使用教材	Notebook, Pens and Pencils, textbook, dictionary, smartphone Textbook: Conversations in Class, 4 th Edition, Book 1, ISBN 978-4-905343-42-4									
参考文献										
評価方法	In-Class Activities: 10%, Speaking Tests: 40%, Vocabulary Quizzes: 50%									
課題・評価に対するフィードバック方法	Teacher Assessment, Peer Feedback									
オフィスアワー (研究室)	Please contact me via email for questions outside of class hours.				メールアドレス (#→@)	matthewedwardpotter#gmail.com				
1	講義内容	Welcome and Introduction, Course outline, Textbook Orientation								
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	Purchase Textbook					0 時間		
		復習	Orientation Review					0.5 時間		
2	講義内容	Unit 1- Origins. <i>Where are you from/do you live?</i>								
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	Unit 1- Origins Preview. Create and learn your 10 item Vocabulary List					0.5 時間		
		復習	Unit 1- Origins Review.					0.5 時間		
3	講義内容	Unit 2- Your Lifestyle. <i>Do you live near here? Do you cook for yourself?</i>								
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	Unit 2- Your lifestyle Preview. Create and learn your 10 item Vocabulary List					0.5 時間		
		復習	Unit 2- Your lifestyle Review.					0.5 時間		
4	講義内容	Unit 3- Routines. <i>How long does it take you to get to campus?</i>								

	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	Unit 3- Routines Preview. Create and learn your 10 item Vocabulary List	0.5	時間
		復習	Unit 3- Routines Review.	0.5	時間
5	講義内容	Unit 4- Habits. <i>Do you ever fall asleep on the train?</i>			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	Unit 4- Habits Preview. Create and learn your 10 item Vocabulary List.	0.5	時間
		復習	Unit 4- Habits Review. Prepare test dialog with partner.	1	時間
6	講義内容	Unit 5- Your Studies. <i>What are you majoring in?</i>			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	Unit 5- Your Studies Preview. Create and learn your 10 item Vocabulary List	0.5	時間
		復習	Unit 5- Your studies. Review. Prepare and rehearse test dialog with partner.	1	時間
7	講義内容	Speaking Test			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	Prepare and rehearse test dialog with partner.	1	時間
		復習	Reflect on Test Performance	0.5	時間
8	講義内容	Unit 6- Clubs. <i>Are you in any clubs?</i>			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	Unit 6- Clubs Preview. Create and learn your 10 item Vocabulary List.	0.5	時間
		復習	Unit 6- Clubs Review.	0.5	時間
9	講義内容	Unit 7- Part Time Jobs. <i>Do you have a part time job?</i>			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	Unit 7- Part Time Jobs Preview. Create and learn your 10 item Vocabulary	0.5	時間
		復習	Unit 7- Part Time Jobs Review.	0.5	時間
10	講義内容	Unit 8- Future Jobs. <i>What field would you like to work in?</i>			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	Unit 8- Future Jobs Preview. Create and learn your 10 item Vocabulary List.	0.5	時間
		復習	Unit 8- Future Jobs Review.	0.5	時間
11	講義内容	Unit 9- Money. <i>What do you spend your money on?</i>			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	Unit-9 Money Preview. Create and learn your 10 item Vocabulary List.	0.5	時間
		復習	Unit 9 Money Review.	0.5	時間
12	講義内容	Unit 10- Going Out. <i>What's your favorite store to buy clothes?</i>			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	Unit 10- Going Out Preview. Create and learn your 10 item Vocabulary List	0.5	時間
		復習	Unit 10 Going Out Review. Prepare test dialog with partner.	1	時間
13	講義内容	Unit 11- Hobbies. <i>Do you play any sports/instruments?</i>			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	Unit 11- Hobbies Preview. Create and learn your 10 item Vocabulary List.	0.5	時間
		復習	Unit 11- Hobbies Review. Prepare and rehearse your test dialog with partner.	1	時間
14	講義内容	Speaking Test			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	Prepare and rehearse test dialog with partner.	1	時間
		復習	Reflect on Test Performance	0.5	時間
15	講義内容	Communicative Game, Catch-up for Tests and Quizzes			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	Check if you have missed any quizzes or tests and prepare.	0.5	時間
		復習		0	時間
合計時間(予習・復習)				17	時間
備考	Syllabus may be subject to minor changes. The instructor will advise as necessary.				

科目名		英語 IIC(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL002		
英文名		English IIC						講義形態	講義		
担当教員		山田 HAY 美由紀									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		6	豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
			専門的知識				4	コミュニケーション能力			
			問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○		○				○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法		英語会話で必要なアクティブラーニングに使える単語や文を指導する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		この講義では、英語をツールとして、情報医療の現場において必要とされるコミュニケーション能力を習得する。各自が自分の考えを持って英語で意見交換できる課題、コミュニケーションを必要とするグループ活動課題等を通し、日常英語の語彙、リスニング能力、英語表現力を身につける。また、専門用語に使用される英語についての理解、発音、使用例などに触れる。時事問題について時勢に沿ったテーマを取り上げる時間も設ける。 講義は学生の既習内容を考慮した上、英語で行う。質問、疑問、意見等はその都度か講義後に発言すること。質問や意見は、積極的な参加態度、自己表現として奨励し評価の対象となる。グループ課題終了後、自己評価・講義に対する評価用紙に意見を記入することもできる。									
到達目標		1. 英語を使って自己の考えを口頭表現することができる。 2. コミュニケーションに必要な英語表現を学び、日常的に実践できる。 3. 協力して課題を解決していくことにより、互いの能力を認め合い、個人を尊重する姿勢を身につける。									
使用教材		課題により印刷教材を配布する。									
参考文献											
評価方法		講義は実技中心のため、時間内のコミュニケーション状況（30%）、課題発表（50%）、講義への参加（20%）を評価する。個人課題は、内容を講義の始めに毎回評価する。ペア、グループ課題は講義内での実践中、各人の英語によるコミュニケーションの様子を評価する。コミュニケーションのためのキーフレーズを毎時紹介するので、記録して課題実践中に使うことが期待される。講義内外でのコミュニケーション（参加度）も評価の対象となる。自己評価用紙の記入は行うが、筆記試験による評価は行わない。講義に参加することが評価の対象になるので、欠席は 3 日を超えないよう留意すること。超える場合は要相談。									
課題・評価に対するフィードバック方法		実技実施中、グループ課題発表後に口頭にてフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)		授業の前後に対応する。				メールアドレス (#→@)		初回に指示する。			
1	講義内容	講義内容、出欠、評価の概要について理解する。個人活動。									
	該当到達目標	予習	英語に触れる機会を増やすための個人課題を出すので、受講期間中続けること。							0.5 時間	
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。							0.5 時間	

2	講義内容	個人課題について発表し教員評価を受ける。簡単なグループ活動と発表。ペア活動の紹介と実践。		
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
3	講義内容	個人課題について発表し教員評価を受ける。ペア活動。グループ課題1の紹介。		
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
4	講義内容	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題1について理解する。専門用語・時事問題等		
	該当到達目標	予習	個人課題を修正しながら続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
5	講義内容	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題1の実践。専門用語・時事問題等		
	該当到達目標	予習	個人課題を修正しながら続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
6	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の実践。専門用語・時事問題等		
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
7	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の実践。		
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	グループ課題1の発表に向けて個人練習すること。	0.5 時間
8	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1のリハーサル。		
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	グループ課題1の発表に向けて個人練習すること。	0.5 時間
9	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の発表。		
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
10	講義内容	発表について教員から口頭評価。自己評価・講義に対する評価(印刷物配布)。グループ課題2の説明		
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
11	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の内容構成。英語押韻について		
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。グループ課題2の内容について必要事項を調べておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
12	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の内容構成。英語押韻について		
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。グループ課題2の内容について必要事項を調べておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
13	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の練習。英語押韻について		
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
14	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2のリハーサル。		
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	グループ課題2の練習をしておく。	0.5 時間
15	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題の発表。口頭で評価。自己評価・講義に対する評価の記入(印刷物配布)。		
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	・ 講義内で電子辞書またはスマートフォンによる辞書検索を行うので持参すること。検索以外の使用については学生			

として品位のある態度で取り扱うこと。

- ・ コミュニケーションのためのフレーズを毎回紹介するので、記録して講義中に使用すること。記録用媒体はノート、スマートフォンなど個人で選択する。

科目名	英語 IIIA(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL003		
英文名	English IIIA						講義形態	講義		
担当教員	山田 HAY 美由紀									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数	必修 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と職業倫理				多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識			4	コミュニケーション能力				
		問題発見・解決力				自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○		○				○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	英語会話で必要なアクティブラーニングに使える単語や文を指導する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	この講義では、英語をツールとして、情報医療の現場において必要とされるコミュニケーション能力を習得する。各自が自分の考えを持って英語で意見交換できる課題、コミュニケーションを必要とするグループ活動課題等を通し、日常英語の語彙、リスニング能力、英語表現力を身につける。また、専門用語に使用される英語についての理解、発音、使用例などに触れる。時事問題について時勢に沿ったテーマを取り上げる時間も設ける。 講義は学生の既習内容を考慮した上、英語で行う。質問、疑問、意見等はその都度か講義後に発言すること。質問や意見は、積極的な参加態度、自己表現として奨励し評価の対象となる。グループ課題終了後、自己評価・講義に対する評価用紙に意見を記入することもできる。									
到達目標	1. 英語を使って自己の考えを口頭表現することができる。 2. コミュニケーションに必要な英語表現を学び、日常的に実践できる。 3. 協力して課題を解決していくことにより、互いの能力を認め合い、個人を尊重する姿勢を身につける。									
使用教材	課題により印刷教材を配布する。									
参考文献										
評価方法	講義は実技中心のため、時間内のコミュニケーション状況（30%）、課題発表（50%）、講義への参加（20%）を評価する。個人課題は、内容を講義の始めに毎回評価する。ペア、グループ課題は講義内での実践中、各人の英語によるコミュニケーションの様子を評価する。コミュニケーションのためのキーフレーズを毎時紹介するので、記録して課題実践中に使うことが期待される。講義内外でのコミュニケーション（参加度）も評価の対象となる。自己評価用紙の記入は行うが、筆記試験による評価は行わない。講義に参加することが評価の対象になるので、欠席は 3 日を超えないよう留意すること。超える場合は要相談。									
課題・評価に対するフィードバック方法	実技実施中、グループ課題発表後に口頭にてフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後に対応する。				メールアドレス (#→@)		初回に指示する。			
1	講義内容	講義内容、出欠、評価の概要について理解する。個人活動。								
	該当到達目標	予習	英語に触れる機会を増やすための個人課題を出すので、受講期間中続けること。					0.5 時間		

	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
2	講義内容	個人課題について発表し教員評価を受ける。簡単なグループ活動と発表。ペア活動の紹介と実践。		
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
3	講義内容	個人課題について発表し教員評価を受ける。ペア活動。グループ課題 1 の紹介。		
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
4	講義内容	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題 1 について理解する。専門用語・時事問題等		
	該当到達目標	予習	個人課題を修正しながら続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
5	講義内容	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題 1 の実践。専門用語・時事問題等		
	該当到達目標	予習	個人課題を修正しながら続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
6	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題 1 の実践。専門用語・時事問題等		
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
7	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題 1 の実践。		
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	グループ課題1の発表に向けて個人練習すること。	0.5 時間
8	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題 1 のリハーサル。		
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	グループ課題1の発表に向けて個人練習すること。	0.5 時間
9	講義内容	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題 1 の発表。		
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
10	講義内容	発表について教員から口頭評価。自己評価・講義に対する評価(印刷物配布)。グループ課題 2 の説明		
	該当到達目標	予習	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
11	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題 2 の内容構成。英語押韻について		
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
12	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題 2 の内容構成。英語押韻について		
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
13	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題 2 の練習。英語押韻について		
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。グループ課題 2 の練習をしておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
14	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題 2 のリハーサル。		
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。グループ課題 2 の練習をしておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	グループ課題2の練習をしておく。	0.5 時間
15	講義内容	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題の発表。口頭で評価。自己評価・講義に対する評価の記入(印刷物配布)。		
	該当到達目標	予習	個人課題を続ける。グループ課題 2 の練習をしておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	・ 講義内で電子辞書またはスマートフォンによる辞書検索を行うので持参すること。検索以外の使用については学生			

として品位のある態度で取り扱うこと。

- ・ コミュニケーションのためのフレーズを毎回紹介するので、記録して講義中に使用すること。記録用媒体はノート、スマートフォンなど個人で選択する。

科目名	英語 IIIB(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL003	
英文名	English IIIB							講義形態	講義	
担当教員	高橋 栄作									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				4	コミュニケーション能力			
		問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	食・栄養に関する英文を読み、栄養学を学ぶ学生にとって基本的な英語力を獲得する。									
①講義の目標	授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. 食・栄養に関する基本的な英語の語彙を身につける。 2. 食・栄養についての簡単な英文を読めるようになる。 3. 食・栄養について英語で話せるようになる。									
使用教材	須永紫乃生 (2010) Food for Thought: Eating for Health and Happiness 南雲堂									
参考文献	授業内で紹介する。									
評価方法	向上的変化 10%、平常点 40%(確認テスト、提出物、出席状況など)、定期試験 50%を総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	質問などはリアクションペーパーで確認する。確認テストなどは採点后返却する。									
オフィスアワー (研究室)	授業終了後				メールアドレス (#→@)		eisaku#tcue.ac.jp			
1	講義内容	Introduction、Warm-up Activity								
	該当到達目標	予習	教科書の Contents などを読む。						1	時間
	1,2,3	復習	Warm-up Activity の内容理解						1	時間
2	講義内容	Unit 1 Counting Calories (1)								
	該当到達目標	予習	Unit 1 の単語調べ						1	時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。						1	時間
3	講義内容	Unit 1 Counting Calories (2)								
	該当到達目標	予習	Reading を読み質問に解答する。						1	時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。						1	時間
4	講義内容	Unit 3 As American as Apple Pie (1)								
	該当到達目標	予習	Unit 3 の単語調べ						1	時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。						1	時間
5	講義内容	Unit 3 As American as Apple Pie (2)								
	該当到達目標	予習	Reading を読み質問に解答する。						1	時間

令和6年度 健康栄養学科シラバス

	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
6	講義内容	Recipe (1)		
	該当到達目標	予習	授業で指定された教材の単語と内容を確認する。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
7	講義内容	Recipe (2)		
	該当到達目標	予習	授業で指定された教材の単語と内容を確認する。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
8	講義内容	Unit 4 Use as Directed (1)		
	該当到達目標	予習	Unit 4 の単語調べ	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
9	講義内容	Unit 4 Use as Directed (2)		
	該当到達目標	予習	Reading を読み質問に解答する。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
10	講義内容	英語の音について(1)		
	該当到達目標	予習	英語の音について疑問点を明らかにする。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
11	講義内容	英語の音について(2)		
	該当到達目標	予習	英語の音について疑問点を明らかにする。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
12	講義内容	Unit 5 The End of Home Cooking? (1)		
	該当到達目標	予習	Unit 5 の単語調べ	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
13	講義内容	Unit 5 The End of Home Cooking? (2)		
	該当到達目標	予習	Reading を読み質問に解答する。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
14	講義内容	Unit 7 Supplemental Health (1)		
	該当到達目標	予習	Unit 7 の単語調べ	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
15	講義内容	Unit 7 Supplemental Health (2)		
	該当到達目標	予習	Reading を読み質問に解答する。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	英語を学習する意欲を持って出席してください。			

科目名	英語 IIIC（リテラシー）						科目ナンバリング	LAL003		
英文名	English IIIC						講義形態	講義		
担当教員	松田 幸子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数	必修 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と職業倫理				多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識			4	コミュニケーション能力				
		問題発見・解決力				自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	栄養について学ぶ大学生に必要とされるコミュニケーション・スキル獲得のための講義を行う。 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 日常的な話題についての基本的な語彙・英語表現を獲得する。 2. 栄養・食に関わる際に必要となる基本的な語彙・英語表現を獲得する。 3. 自身のことを英語で表現できるようになる。									
使用教材	Peter Vincent 他『食と栄養のコミュニケーション:Speaking of Nutrition』（南雲堂、2016 年）									
参考文献										
評価方法	期末試験 60% 平常点 40%（授業への参加度、課題、小テストなど）の総合評価とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題・試験はコメント・添削の上返却する。									
オフィスアワー （研究室）	金曜 1、2 限				メールアドレス （#→@）	matsuda-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスとテキストを照らし合わせ、予習、復習、評価方法について確認する。					0.5	時間	
	1, 2, 3	復習	講義におけるテキストの使用法について理解する。					0.5	時間	
2	講義内容	Unit 1 Meeting People								
	該当到達目標	予習	Words and Idioms の確認					0.5	時間	
	1, 2, 3	復習	ワークシートを完成させる					0.5	時間	
3	講義内容	Unit 2 Talking about the Kitchen (1)								
	該当到達目標	予習	Words and Idioms の確認					0.5	時間	
	1, 2, 3	復習	ワークシートを完成させる					0.5	時間	
4	講義内容	Unit 3 Talking about the Kitchen (2)								
	該当到達目標	予習	Words and Idioms の確認					0.5	時間	
	1, 2, 3	復習	ワークシートを完成させる					0.5	時間	
5	講義内容	Unit 4 Likes and Dislikes								
	該当到達目標	予習	Words and Idioms の確認					0.5	時間	
	1, 2, 3	復習	ワークシートを完成させる					0.5	時間	
6	講義内容	Unit 5 At a Restaurant								

令和 6 年度 健康栄養学科シラバス

	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Words and Idioms の確認	0.5	時間
		復習	ワークシートを完成させる	0.5	時間
7	該当到達目標 1, 2, 3	講義内容 Unit 6 Cooking			
		予習	Words and Idioms の確認	0.5	時間
	1, 2, 3	復習	ワークシートを完成させる	0.5	時間
		講義内容 Unit 7 Recipes			
8	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Words and Idioms の確認	0.5	時間
		復習	ワークシートを完成させる	0.5	時間
	1, 2, 3	講義内容 Unit 7 Giving Dietary Advice			
		予習	Words and Idioms の確認	0.5	時間
9	該当到達目標 1, 2, 3	復習	ワークシートを完成させる	0.5	時間
		講義内容 Unit 8 Talking about Diet			
10	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Words and Idioms の確認	0.5	時間
		復習	ワークシートを完成させる	0.5	時間
	1, 2, 3	講義内容 Unit 9 Researching Diet Information			
		予習	Words and Idioms の確認	0.5	時間
11	該当到達目標 1, 2, 3	復習	ワークシートを完成させる	0.5	時間
		講義内容 Unit 10 Life as a Dietitian			
12	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Words and Idioms の確認	0.5	時間
		復習	ワークシートを完成させる	0.5	時間
	1, 2, 3	講義内容 Unit 11 Talking about Diet			
		予習	Words and Idioms の確認	0.5	時間
13	該当到達目標 1, 2, 3	復習	ワークシートを完成させる	0.5	時間
		講義内容 Unit 12 People with Special Dietary Needs			
14	該当到達目標 1, 2, 3	予習	Words and Idioms の確認	0.5	時間
		復習	ワークシートを完成させる	0.5	時間
	1, 2, 3	講義内容 Unit Talking about Experience			
		予習	Words and Idioms の確認	0.5	時間
15	該当到達目標 1, 2, 3	復習	ワークシートを完成させる	0.5	時間
		合計時間(予習・復習)		15	時間
備考	辞書とテキストを必ず持参すること。				

科目名	英語 IVA(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL004		
英文名	English IVA							講義形態	講義		
担当教員	下田尾 誠										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位						
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識				4	コミュニケーション能力				
		問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
	○	○	○								
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	大学生に必要とされる基礎的な英語運用能力のうち、とりわけリーディング・スキル獲得のための講義を行う。 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。										
到達目標	1. 大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。										
使用教材	Better Health for Every Day(金星堂)										
参考文献	授業内で紹介する。										
評価方法	授業への参加度、課題(50%)、テスト(50%)で総合的に評価する。										
課題・評価に対するフィードバック方法	課題はコメントを付けて返却する。										
オフィスアワー (研究室)	授業の前後に対応する。				メールアドレス (#→@)		shimotao.makto#chuo.ac.jp				
1	講義内容	Introduction									
	該当到達目標	予習	特になし(語彙調べ)						0.5	時間	
	1,2,3	復習	基礎語彙力テストの復習、プリント問題の解法						0.5	時間	
2	講義内容	Chapter 1 Fuel Your Body and Mind									
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読						0.5	時間	
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise						0.5	時間	
3	講義内容	Chapter 2 What Helps Keep a Doctor Away?									
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読						0.5	時間	
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise						0.5	時間	
4	講義内容	Chapter 3 Laughing Will Save You From Going Crazy									
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読						0.5	時間	
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise						0.5	時間	
5	講義内容	Chapter 4 The French Paradox									
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読						0.5	時間	

令和6年度 健康栄養学科シラバス

	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
6	講義内容	Chapter 5 American's Interest in Sushi		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
7	講義内容	Chapter 6 Don't Stay Away from Natto		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
8	講義内容	Chapter 7 Acute Alcohol Intoxication Can Kill You		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
9	講義内容	Chapter 8 Is Snoring a Bad Sign?		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
10	講義内容	Chapter 9 Getting a Good Night's Sleep is a Challenge		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
11	講義内容	Chapter 10 Chocolate and its Magical Power		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
12	講義内容	Chapter 11 The Health Risks of Eating Processed Food		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
13	講義内容	Chapter 12 Is Genetically Modified Food Safe Enough?		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
14	講義内容	Chapter 13 Environmental Health Threats		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	Vocabulary Exercise	0.5 時間
15	講義内容	Chapter Reviews: Unit 1 ~ 14		
	該当到達目標	予習	当該パラグラフの精読	0.5 時間
	1,2,3	復習	スラッシュ・リーディング練習	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	英語 IVB(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL004		
英文名	English IVB						講義形態	演習		
担当教員	山田 敏幸									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				4	コミュニケーション能力			
		問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① テキストを主な教材として、日常的な話題、栄養に関わる際に必要とされる基本的な英語の語彙・表現を身につけ、自身のことについて英語で表現できるようになることを目標とする。 ② 基本的に演習形式で進め、受講者一人ひとりの実践的な英語運用能力、英語でのコミュニケーション能力を高めるために、ペア・ワークやグループ・ワークを適宜取り入れて協働学習を行なう。									
到達目標	1. 日常的な話題に関する基本的な英語の語彙・表現を使うことができるようになる。 2. 栄養に関わる際に必要とされる基本的な英語の語彙・表現を使うことができるようになる。 3. 自身のことについて英語で表現できるようになる。									
使用教材	西原俊明・西原真弓・Amy Mukamuri (2014) <i>Better Health for Every Day</i> . 東京, 金星堂. 2090 円.									
参考文献	授業中に随時提示する。									
評価方法	授業への積極的な参加(発言、グループワークなど)20%、課題 30%、中間・期末試験 50%の割合で、上記「到達目標」を達成できたか総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	クラス全体へのフィードバックをとおして、全体で問題解決する。									
オフィスアワー (研究室)	授業の前後で対応する。				メールアドレス (#→@)		初回に提示する。			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスの確認						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	学習内容の確認						0.5	時間
2	講義内容	Unit 1. Fuel Your Body and Mind								
	該当到達目標	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習						0.5	時間
3	講義内容	Unit 2. What Helps Keep a Doctor Away?								
	該当到達目標	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習						0.5	時間
4	講義内容	Unit 3. Laughing Will Save You from Going Crazy								
	該当到達目標	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く						0.5	時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習						0.5	時間

5	講義内容	Unit 4. The French Paradox			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
6	講義内容	Unit 5. Americans' Interest in Sushi			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
7	講義内容	Unit 6. Don't Stay Away from Natto			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
8	講義内容	中間試験			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	中間試験の準備	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
9	講義内容	Unit 7. Acute Alcohol Intoxication Can Kill You			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
10	講義内容	Unit 8. Is Snoring a Bad Sign?			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
11	講義内容	Unit 9. Getting a Good Night's Sleep is a Challenge			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
12	講義内容	Unit 10. Chocolate and its Magical Power			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
13	講義内容	Unit 11. The Health Risks of Eating Processed Food			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
14	講義内容	Unit 12. Is Genetically Modified Food Safe Enough?			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
15	講義内容	Unit 13. Environmental Health Threats			
	該当到達目標 1, 2, 3	予習	テキストの指定された範囲を読み、練習問題を解く	0.5	時間
		復習	新出単語・表現の復習	0.5	時間
合計時間(予習・復習)				15	時間
備考	テキストと辞書、および PC を毎回必ず持参すること。				

科目名	英語 IVC(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL004		
英文名	English IVC						講義形態	講義		
担当教員	高橋 栄作									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数	必修 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と職業倫理				多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識			4	コミュニケーション能力				
		問題発見・解決力				自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○	○		○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	一般的な話題を扱った英文テキストを、ICT を用いて理解し、大学生に必要な基本的な英語によるコミュニケーション能力を身につける。 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。									
到達目標	1. 大学生に必要な英語の語彙を身につける。 2. ICT を用いた英語学習について理解する。 3. 英語で適切にコミュニケーションをとれるようになる。									
使用教材	Internet English 三訂版 (2012) Yumi Press									
参考文献	授業内で紹介する。									
評価方法	向上的変化 10%、平常点 40%(e-Learning 教材の利用、確認テスト、提出物、出席状況など)、定期試験 50%を総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	質問などはリアクションペーパーで確認する。確認テストなどは採点后返却する。									
オフィスアワー (研究室)	授業終了後				メールアドレス (#→@)	eisaku#tcue.ac.jp				
1	講義内容	Introduction、Warm-up Activity								
	該当到達目標	予習	教科書の Contents などを読む。						1 時間	
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。						1 時間	
2	講義内容	Unit 1 Search Engine								
	該当到達目標	予習	指定された Web サイトへアクセスし課題を行う。e-Learning 教材で学修する。						1 時間	
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。						1 時間	
3	講義内容	Unit 3 Online English (1)								
	該当到達目標	予習	指定された Web サイトへアクセスし課題を行う。e-Learning 教材で学修する。						1 時間	
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。						1 時間	
4	講義内容	Unit 3 Online English (2)								
	該当到達目標	予習	指定された Web サイトへアクセスし課題を行う。e-Learning 教材で学修する。						1 時間	
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。						1 時間	
5	講義内容	Unit 4 Cooking (1)								
	該当到達目標	予習	指定された Web サイトへアクセスし課題を行う。e-Learning 教材で学修する。						1 時間	

令和 6 年度 健康栄養学科シラバス

	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
6	講義内容	Unit 4 Cooking (2)		
	該当到達目標	予習	指定された Web サイトへアクセスし課題を行う。e-Learning 教材で学修する。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
7	講義内容	Unit 6 Weather (1)		
	該当到達目標	予習	指定された Web サイトへアクセスし課題を行う。e-Learning 教材で学修する。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
8	講義内容	Unit 6 Weather (2)		
	該当到達目標	予習	指定された Web サイトへアクセスし課題を行う。e-Learning 教材で学修する。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
9	講義内容	英語の音について		
	該当到達目標	予習	英語の音について疑問点を明らかにする。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
10	講義内容	Unit 7 Music		
	該当到達目標	予習	指定された Web サイトへアクセスし課題を行う。e-Learning 教材で学修する。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
11	講義内容	Unit 8 Art		
	該当到達目標	予習	指定された Web サイトへアクセスし課題を行う。e-Learning 教材で学修する。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
12	講義内容	Unit 9 Famous People		
	該当到達目標	予習	指定された Web サイトへアクセスし課題を行う。e-Learning 教材で学修する。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
13	講義内容	Unit 10 Movies		
	該当到達目標	予習	指定された Web サイトへアクセスし課題を行う。e-Learning 教材で学修する。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
14	講義内容	Unit 11 News		
	該当到達目標	予習	指定された Web サイトへアクセスし課題を行う。e-Learning 教材で学修する。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
15	講義内容	Unit 12 Science		
	該当到達目標	予習	指定された Web サイトへアクセスし課題を行う。e-Learning 教材で学修する。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートで今時の内容を確認する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	英語を積極的に学習する意欲を持って出席してください。			

科目名	Integrated English I (リテラシー)							科目ナンバリング	LAL005	
英文名	Integrated English I							講義形態	講義	
担当教員	クリストファー・ターン									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				4	コミュニケーション能力			
		問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	本講義では、海外英語研修参加希望者を対象とする。英語による日常英会話レベルのコミュニケーション能力を獲得することを講義目標としている。 教員より、コミュニケーションをとる必要がある様々な場面設定が提示される。受講生はその対応を考え、実践演習を行う。その後課題を分析し、再度実践演習を行う。また、学生生活で学んだ英語をまとめてノートを作成する。									
到達目標	1. コミュニケーションの基礎知識を学ぶ 2. 海外での様々な場面を想定した英会話の練習をする 3. プレゼンテーションの実践演習を行う また海外英語研修に向けた事前準備や説明を行う。									
使用教材	特に定めない。									
参考文献										
評価方法	授業内パフォーマンス 90%、提出物 10%									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出物にはコメントをつけて返却する。個人面談を行う。									
オフィスアワー (研究室)	火曜 3 限、金曜 3 限 (1 号館 315 研究室)				メールアドレス (#→@)		tarn#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	What is communication?								
	該当到達目標	予習	なし						0.5	時間
	1,2,3	復習	授業内容について要約する						0.5	時間
2	講義内容	Cognitive Psychology: Get to Know Yourself								
	該当到達目標	予習	自分自身について書く						0.5	時間
	1,2,3	復習	自分のインターナショナル・スキルについて書く						0.5	時間
3	講義内容	Social Skills								
	該当到達目標	予習	社会心理学について事前調べを行う						0.5	時間
	1,2,3	復習	改善すべき自分の社会的スキルについて書く						0.5	時間
4	講義内容	The Power of Imagination and Innovation								
	該当到達目標	予習	行きたい国、行きたい理由を挙げる						0.5	時間
	1,2,3	復習	その国について調べる						0.5	時間
5	講義内容	Learning to Control a Conversation								

	該当到達目標 1,2,3	予習	言葉が理解できない状況でどういくコミュニケーションが有効か考える	0.5	時間
		復習	ホストファミリーとの会話例を考える	0.5	時間
6	講義内容	Listening Strategies			
	該当到達目標	予習	訪問国の英語発音について調べる	0.5	時間
	1,2,3	復習	訪問国の短編映画やアニメを見る	0.5	時間
7	講義内容	Basic English: Self Introduction and First Step for Communication in English			
	該当到達目標	予習	自己紹介文を書く	0.5	時間
	1,2,3	復習	自己紹介文を仕上げる	0.5	時間
8	講義内容	Create your own English Database			
	該当到達目標	予習	ノートの準備をする	0.5	時間
	1,2,3	復習	English Database を作成する	0.5	時間
9	講義内容	Meet a Foreigner			
	該当到達目標	予習	外国人ゲストとの会話を考える	0.5	時間
	1,2,3	復習	外国人ゲストとの会話から、スピーキングの課題を見つける	0.5	時間
10	講義内容	Speech Basics: Talking to Audience			
	該当到達目標	予習	相手に伝わるプレゼンテーションについて調べる	0.5	時間
	1,2,3	復習	大学紹介についてのパワーポイントを作成する	0.5	時間
11	講義内容	Presentation 1			
	該当到達目標	予習	自分の学科(専門)についてのプレゼンテーションを作成する	0.5	時間
	1,2,3	復習	プレゼンテーションの直しと仕上げをする	0.5	時間
12	講義内容	Presentation 2			
	該当到達目標	予習	テーマについてのプレゼンテーションの準備をする	0.5	時間
	1,2,3	復習	プレゼンテーションの直しと仕上げをする	0.5	時間
13	講義内容	Make your own Textbook 1			
	該当到達目標	予習	海外研修・ホームステイを想定し自分自身のテキストブックを作成する	0.5	時間
	1,2,3	復習	海外研修・ホームステイを想定し自分自身のテキストブックを作成する	0.5	時間
14	講義内容	Do Group Work to Improve your Textbook			
	該当到達目標	予習	グループごとに各自のテキストブックについて話し合い改善する	0.5	時間
	1,2,3	復習	想定した研修やホームステイについてレポートを書く	0.5	時間
15	講義内容	Conclusion			
	該当到達目標	予習	これまでの授業の復習をする	0.5	時間
	1,2,3	復習	全講義を通して学んだことをレポートにする	0.5	時間
合計時間(予習・復習)				15	時間
備考	本講義は海外英語研修参加者を対象とする。予習復習時間については各自補完すること。				

科目名	Integrated English II (リテラシー)							科目ナンバリング	LAL006		
英文名	Integrated English II							講義形態	講義		
担当教員	高橋 栄作										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位						
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応	6	豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識				4	コミュニケーション能力				
		問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
		○				○					
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	英語の基礎文法事項を整理し、語彙力をつけながら TOEIC®テスト受験に必要とされる基礎的な英語力養成を目指す。 そのため授業では、TOEIC®テスト形式の問題演習を中心に、英語の基礎力を主にリスニングとリーディングの面から強化する。練習問題の音声をリピートしたり、スクリプトを音読したり、耳に英語が入った瞬間に理解できるようにインプットする。リーディングでは正解不正解の確認だけでなく、解答の根拠を理解し、応用可能な解法を身につける。										
到達目標	1. TOEIC®テストの形式と内容を理解できる。 2. 語彙力が身につく。 3. 文法事項を理解できる。 4. リスニング力が身につく。 5. リーディング力が身につく。										
使用教材	Ayako Yokogawa and Tony Cook. (2016). <i>Level-up Trainer for the TOEIC® TEST</i> . 東京:センゲージラーニング.										
参考文献	授業内で紹介する。										
評価方法	授業への参加度、発表、課題(40%)、期末試験(60%)で評価する。										
課題・評価に対するフィードバック方法	課題の解説をする。										
オフィスアワー (研究室)	授業終了後				メールアドレス (#→@)		eisaku #tcue.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス・TOEIC テストとは									
	該当到達目標	予習	教科書の「はじめに」「目次」「本書の使い方」「シラバス」などの内容を読んで、講義の目標などを理解する。							0.5	時間
	1	復習	Pre-test を解いて現在の実力を把握しよう。							0.5	時間
2	講義内容	Unit 1: テスト形式を知る									
	該当到達目標	予習	Unit 1 の語彙の意味を調べる。							0.5	時間
	2,3,4,5	復習	Unit 1 の練習問題の内容を理解する。							0.5	時間
3	講義内容	Unit 2: 基本戦略①									
	該当到達目標	予習	Unit 2 の語彙の意味を調べる。							0.5	時間

	2,3,4,5	復習	Unit 2 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
4	講義内容	Unit 3: 基本戦略②		
	該当到達目標	予習	Unit 3 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 3 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
5	講義内容	Unit 4: 英文の基本構造を見抜く		
	該当到達目標	予習	Unit 4 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 4 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
6	講義内容	Unit 5: 解答根拠の登場順		
	該当到達目標	予習	Unit 5 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 5 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
7	講義内容	Unit 6: 正解の言い換えパターンを知る		
	該当到達目標	予習	Unit 6 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 6 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
8	講義内容	Units 1-6 のまとめ		
	該当到達目標	予習	指定されたリスニング・リーディングの問題を解く。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.5 時間
9	講義内容	Unit 7: 機能疑問文を聞き取る		
	該当到達目標	予習	Unit 7 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 7 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
10	講義内容	Unit 8: 動詞の時制を見極める		
	該当到達目標	予習	Unit 8 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 8 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
11	講義内容	Unit 9: 接続詞 vs. 前置詞		
	該当到達目標	予習	Unit 9 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 9 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
12	講義内容	Unit 10: 複数パッセージ問題の攻略		
	該当到達目標	予習	Unit 10 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 10 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
13	講義内容	Unit 11: 接続副詞に強くなる		
	該当到達目標	予習	Unit 11 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 11 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
14	講義内容	Unit 12: NOT 型設問のコツ		
	該当到達目標	予習	Unit 12 の語彙の意味を調べる。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	Unit 12 の練習問題の内容を理解する。	0.5 時間
15	講義内容	Units 7-12 のまとめ		
	該当到達目標	予習	Post-test の問題を解く。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考				

科目名	ドイツ語(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL007	
英文名	German							講義形態	講義	
担当教員	出雲 春明									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				1	コミュニケーション能力			
	1	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	7131415									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① ドイツの文化や取り組み、また基礎的な文法を知ることを通じて、多様な価値観への関心を深め、日本の文化と比較することで、自己理解の参照項とする。 ② C-learning「教材倉庫」に公開する資料などを用いて講義を実施する。文化などに関しては、学生による調査やそれにもとづいたディスカッションを組み込みながら行う。語学の部分に関しては、ドイツ語でのコミュニケーションに最低限必要な文法や挨拶などの定型表現を練習する。毎回、C-learning の「ドリル」「小テスト」で知識の定着を図る。									
到達目標	1. ドイツの文化や現代の取り組みを知り、自らと比較し、意見を述べることができる。 2. ドイツ語の初級文法を用いて挨拶や平易な表現をすることができる。									
使用教材	C-learning「教材倉庫」に予習・復習資料を公開する。									
参考文献	なし									
評価方法	授業への参加態度(授業内での課題の実施状況など)・・・30% 小テストなどの課題、確認テスト・・・70%									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning「ドリル」「小テスト」「アンケート」「レポート」などに対して解説、コメントを行う。									
オフィスアワー (研究室)	1 号館 511 研究室 面談希望の場合は C-learning「連絡・相談」あるいは左記アドレスまで。				メールアドレス (#→@)		izumo-s#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンスー日本とドイツ、外来語としてのドイツ語とそのアルファベットー								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み講義内容を理解する。教材倉庫の予習用資料に目を通しておく						1.5 時間	
	1,2	復習	ドリル、小テストで復習する。外来語としてのドイツ語について調べてみる。						1.5 時間	
2	講義内容	ドイツ語(1)母音の発音①、あいさつ ドイツ人の精神における「森」								
	該当到達目標	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。						1.5 時間	
	1,2	復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツの森林について調べてみる						1.5 時間	
3	講義内容	ドイツ語(2)母音の発音②、お店での注文 ドイツの食事、料理								
	該当到達目標	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。						1.5 時間	
	1,2	復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツの料理について調べてみる。						1.5 時間	
4	講義内容	ドイツ語(3)子音の発音① 首都ベルリン、ユダヤ人慰霊碑、ベルリンの壁								

	該当到達目標 1,2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	ドリル、小テストで復習する。現代ドイツが直面した歴史について調べる。		1.5 時間
5	講義内容	ドイツ語(4)子音の発音② オクトーバーフェスト			
	該当到達目標 1,2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	ドリル、小テストで復習する。オクトーバーフェストと日本のイベントについて調べる。		1.5 時間
6	講義内容	ドイツ語(5)子音の発音③ 第三の都市ミュンヘン			
	該当到達目標 1,2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	ドリル、小テストで復習する。ミュンヘンについて調べる。		1.5 時間
7	講義内容	ドイツ語(6)ドイツ語の文の作り方(一般動詞①) 第二の都市ハンブルク			
	該当到達目標 1,2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	ドリル、小テストで復習する。ハンブルクについて調べる。		1.5 時間
8	講義内容	ドイツ語(7)ドイツ語の文の作り方(一般動詞②) ドイツの気候・住居			
	該当到達目標 1,2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツの住居について調べる。		1.5 時間
9	講義内容	ドイツ語(8)ドイツ語の文の作り方(haben) ドイツの城・宮殿・美意識			
	該当到達目標 1,2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツの建築文化について調べる。		1.5 時間
10	講義内容	ドイツ語(9)ドイツ語の文の作り方(sein 動詞①) ドイツの美術			
	該当到達目標 1,2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツにおけるアートについて調べる。		1.5 時間
11	講義内容	ドイツ語(10)ドイツ語の文の作り方(sein 動詞②) ドイツの音楽 クラシック、テクノ、ラブパレード			
	該当到達目標 1,2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツの音楽について調べる。		1.5 時間
12	講義内容	ドイツ語(11)自己紹介① ドイツのビオ食品			
	該当到達目標 1,2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツのビオの認定基準について調べる。		1.5 時間
13	講義内容	ドイツの年末年始			
	該当到達目標 1,2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	ドリル、小テストで復習する。ドイツの年末年始について調べる。		1.5 時間
14	講義内容	ドイツ語(12)自己紹介② ドイツにおけるエコ			
	該当到達目標 1,2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	ドリル、小テストで復習する。環境先進国ドイツの取り組みを調べる。		1.5 時間
15	講義内容	まとめ			
	該当到達目標 1,2	予習	教材倉庫の予習用資料に目を通しておく。		1.5 時間
		復習	必要に応じて、補習課題を実施する。ドイツに対する関心を深める。		1.5 時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	毎回、授業の前週の水曜日に、C-learning「教材倉庫」に予習用の教材をアップする。授業終了後は、復習用の教材やドリル・小テストを用いて知識の定着を図ること。 詳細な成績評価の方法や、課題などについての連絡事項は C-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。				

科目名		フランス語(リテラシー)					科目ナンバリング	LAL008			
英文名		French					講義形態	講義			
担当教員		松島 洋子									
科目に関連した実務経験		医療通訳・翻訳(産婦人科、形成外科、外科)									
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数		選択 2 単位						
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		4	豊かな人間性と職業倫理				多様な社会・背景を理解し対応する能力				
			専門的知識			5	コミュニケーション能力				
			問題発見・解決力			1	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連		417									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
					○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		フランス語を通じて世界に関心を持ち、豊かな人間性を育む。 ① フランスの文化や習慣に触れ、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。 ② 毎回 1 つのテーマを中心に、「伝わるフランス語」を学ぶ。文法は会話に取り入れ、生徒が楽しんで身に付けられるように進める。									
到達目標		1. フランス語で簡単な会話ができる■ 2. フランス語検定 4 級相当の文法を理解する■									
使用教材		①今すぐ話せる！いちばんはじめのフランス語単語・CD-ROM 付き 東進ブック ISBN978-4-89085-719-7 ②フランス語をひとつひとつわかりやすく。―超基礎からの個人授業 学研教育出版 ISBN978-4-05-303813-5									
参考文献											
評価方法		授業内の課題及び期末テストにて文法理解度を確認 50%、 授業内の発言・質問・ロールプレイ等 50%									
課題・評価に対するフィードバック方法		授業内で取り組んだ課題とテストをチェックして返却する。									
オフィスアワー (研究室)		質問等は、開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	フランス語の基本／アルファベットの発音、発音記号、挨拶、仏語の特性■									
	該当到達目標	予習	第 1 回で取り組む単元を CD で聞いておく。							0.5 時間	
	1,2	復習	第 1 回で取り組んだ単元を再確認しておく。							0.5 時間	
2	講義内容	名詞／男性名詞と女性名詞の単数形、複数形■									
	該当到達目標	予習	第 2 回で取り組む単元を CD で聞いておく。							0.5 時間	
	1,2	復習	第 2 回で取り組んだ単元を再確認しておく。							0.5 時間	
3	講義内容	動詞の活用① フランス語の基礎となる動詞／名詞「性格」「国」■									
	該当到達目標	予習	第 3 回で取り組む単元を CD で聞いておく。							0.5 時間	
	1,2	復習	第 3 回で取り組んだ単元を再確認しておく。							0.5 時間	
4	講義内容	動詞の活用② 規則動詞と不規則動詞 動詞 avoir の使い方■									
	該当到達目標	予習	第 4 回で取り組む単元を CD で聞いておく。							0.5 時間	

	1,2	復習	第4回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
5	講義内容	動詞の活用③ 不規則動詞「GO」の意味を持つ「aller」／場所につける前置詞■		
	該当到達目標	予習	第5回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第5回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
6	講義内容	所有形容詞「私の」「彼の」／名詞「家族・友人・身の回りのもの」■		
	該当到達目標	予習	第6回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第6回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
7	講義内容	否定文の作り方／動詞「話す」、名詞「職業」■		
	該当到達目標	予習	第7回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第7回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
8	講義内容	動詞の活用④ 「ER 動詞」の使い方／数えられる名詞と数えられない名詞■		
	該当到達目標	予習	第8回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第8回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
9	講義内容	疑問文① 「はい・いいえ」で答える疑問文と具体的な答えを求める疑問文■		
	該当到達目標	予習	第9回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第9回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
10	講義内容	動詞の活用⑤ 「faire～する」の使い方／日常生活「宿題、家事等」■		
	該当到達目標	予習	第10回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第10回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
11	講義内容	疑問文② 「どこですか?」「誰ですか?」／動詞「～を知っている」、人を紹介する■		
	該当到達目標	予習	第11回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第11回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
12	講義内容	疑問文③ 方向、位置を尋ねる／方向を示す名詞「上下」「左右」等■		
	該当到達目標	予習	第12回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第12回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
13	講義内容	動詞の活用⑥ 「faire」の使い方・応用／名詞「スポーツ」■		
	該当到達目標	予習	第13回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第13回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
14	講義内容	時計の読み方／時間、曜日、月、季節■		
	該当到達目標	予習	第14回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第14回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
15	講義内容	動詞の活用⑦ 「〇〇が欲しい」／「〇〇ができる」 基礎～応用		
	該当到達目標	予習	第15回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5 時間
	1,2	復習	第15回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	ポルトガル語(リテラシー)							科目ナンバリング	LAL009	
英文名	Portuguese							講義形態	講義	
担当教員	アンジェラ カルステン									
科目に関連した実務経験	第二言語としてのポルトガル語教授、25 年の経験									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				5	コミュニケーション能力			
		問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○						○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	ロールプレイングと教育的ゲーム									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① クラスでは、基本的なポルトガル語を紹介し、練習しながら、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング、および基本的な文法知識の習得と語学スキルの向上を目指す。 ② クラスは、ディスカッションやビデオ視聴による日常会話に役立つポルトガル語の導入と、練習で構成され、その後、ロールプレイ、教育的ゲーム、グループ活動を通じて実用性を高める。									
到達目標	1. 初級レベルの日常会話■ 2. 各回に、ポルトガルの文化に触れる時間を設け、自身の文化と比較し、多様な価値観への関心を深める。■									
使用教材	教材プリント									
参考文献	ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語著者: Silvia Noriko Kaneyasu									
評価方法	授業への積極的な参加－15％ アンケートへの参加－15％ 宿題－20％ 中間グループプレゼンテーション－25％ 最終グループプレゼンテーション－25％									
課題・評価に対するフィードバック方法	教員は学生の授業活動をチェックしながら、実践的な活動や内容についてアドバイスや指導を行う。									
オフィスアワー (研究室)	授業日の授業開始前もしくは終了後に 教室等で相談に応じる。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	コースとクラスの紹介								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、疑問点があればメモしておく。							1.5 時間
	1,2	復習	1. 授業で練習した自己紹介や挨拶を覚える。 2. ビデオを見てポルトガル語のアルファベットを覚える。							1.5 時間
2	講義内容	ブラジルについて 自分自身について話す。(ポルトガル語の“Be”動詞 – <i>ser/estar</i>) ■								
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。							1.5 時間

	1,2	復習	自己紹介文を見直す。	1.5 時間
3	講義内容	家族について(私の、あなたの、彼女の、彼の... <i>meu, seu, dele, dela...</i>)■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。	1.5 時間
	1,2	復習	家族についての話し、文を見直す。	1.5 時間
4	講義内容	数字、曜日、月、天気、について■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 時間
	1,2	復習	ポルトガル語で曜日、1 から 10 までの数字、月を学ぶ。	1.5 時間
5	講義内容	好き嫌いについて 動詞「gostar」(ポルトガル語で色、食べ物、飲み物など)■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 時間
	1,2	復習	好きなことや嫌いなことについての話し方、文を見直す。	1.5 時間
6	講義内容	物事の説明(形容詞、反対語)■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 時間
	1,2	復習	ポルトガル語の便利な形容詞とその反対語を見直す。	1.5 時間
7	講義内容	日常の活動について(よく使われる規則動詞)■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 時間
	1,2	復習	動詞「comprar」、「estudar」、「trabalhar」、「comer」、「beber」、「escrever」、 partir、abrir の活用と使い方の練習。	1.5 時間
8	講義内容	これまでの内容の復習、中間グループ発表■		
	該当到達目標	予習	中間グループプレゼンテーション準備。	1.5 時間
	1,2	復習	授業で示される重要語彙の復習。	1.5 時間
9	講義内容	疑問詞の使い方(Como? Onde?, O que? Quem?...)■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 時間
	1,2	復習	ポルトガル語での質問文を見直す。(どのように、いつ、どこで、誰...)	1.5 時間
10	講義内容	時間について■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 時間
	1,2	復習	ポルトガル語で時間を言う練習をする。	1.5 時間
11	講義内容	ポルトガル語の動詞「estar」の使い方(前置詞、動詞の動名詞形)■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 時間
	1,2	復習	動詞の継続時制を使う練習をする。	1.5 時間
12	講義内容	私たちが持っているもの、欲しいもの、やっていること(不規則動詞「ter」、「querer」、「fazer」)■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 時間
	1,2	復習	あなたが持っているもの、欲しいもの、やっていることについて書き、話す練習をする。	1.5 時間

13	講義内容	予定について(動詞「行く」と「来る」－「ir」と「vir」)■		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケートの実施。 質問があればメモしておく。	1.5 時間
	1,2	復習	予定の短いリストを書き、読む練習をする。	1.5 時間
14	講義内容	知っていること、できることについて(動詞「saber」と「conhecer」の使い方)		
	該当到達目標	予習	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 時間
	1,2	復習	自分にできることについて書き、話す練習をする。	1.5 時間
15	講義内容	プレゼンテーション クラス全体でのディスカッション■		
	該当到達目標	予習	グループプレゼンテーションの準備。	1.5 時間
	1,2	復習	学習した動詞を使用しながら自分自身について話す練習をする。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	中国語(リテラシー)							科目 ナンバリング	LAL010	
英文名	Chinese							講義形態	講義	
担当教員	渡邊 賢									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする 資格										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				3	コミュニケーション能力			
		問題発見・解決力				6	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な語彙と構文とを身に付け、簡単なコミュニケーションができる語学力の養成を目指す。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。									
	② 1)授業は全 15 回を通じて、音声および表記の反復学習を徹底する形で展開し、中国語基礎学力の定着を目指す。失敗を恐れず、積極的に楽しく学んでほしい。外国語学習には習慣性となる程度の忍耐が必要である。学生諸君には外国語の学習を通じて、習慣的学習や知的忍耐力を身に付けられたい。 2)毎回、中国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。									
到達目標	1. 中国の地理、風俗および言語とその多様性を理解する。 2. 中国語音を表記する音声記号を習得する。 3. 中国語音を表記する音声記号を正確に発音する能力を育成する。 4. 中国語音を聞いて、弁別する聴力を育成する。 5. 日常会話に不自由しない程度の語彙と語法とを習得する。									
使用教材	教科書『大学一年生のための合格中国語』小幡敏行著(朝日出版社) ISBN97-4-255-45224-1C1087									
参考文献										
評価方法	毎回の小試験 20%、発音中間試験 30%、学期末筆記試験 50%により評価する。 総合評価 60%以上を合格とみなす。									
課題・評価に対する フィードバック方法	毎回の小試験は採点の上、返却する。各自、未熟な点をよく自覚し克服されたい。									
オフィスアワー (研究室)	授業開始前もしくは授業終了後に応じる。				メールアドレス	連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標 1	予習	シラバス内容、教科書第 8 頁「中国語について」を読み、講義目標や中国語の特性などについて理解する。						1 時間	
		復習	不要						0 時間	
2	講義内容	発音の基礎Ⅰ:ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。								
	該当到達目標 2,3,4	予習	不要						0 時間	
		復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。						1 時間	
3	講義内容	発音の基礎Ⅱ:複合母音、「声(子音)」の唇音・舌先音・舌根音などを学習する。								

	該当到達目標	予習	不要	0 時間
	2,3,4	復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。	1 時間
4	講義内容	発音の基礎Ⅲ：鼻母音、「声(子音)」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。		
	該当到達目標	予習	不要	0 時間
	2,3,4	復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。	1 時間
5	講義内容	教科書第 1 課、名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 1 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
6	講義内容	教科書第 2 課、指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 2 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
7	講義内容	教科書第 3 課、形容詞述語文や数量表現などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 3 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
8	講義内容	教科書第 4 課、存在文や構造助詞「的」などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 4 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
9	講義内容	教科書第 5 課、介詞構造や方位詞などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 5 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
10	講義内容	教科書第 6 課、連動文や能願動詞などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 7 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
11	講義内容	教科書第 7 課、数量補語や動態助詞の「了」と語気詞の「了」などの学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 7 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
12	講義内容	教科書第 8 課、動態助詞「過」や程度補語などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 8 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
13	講義内容	教科書第 9 課、能願動詞「会」「能」「可以」などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 9 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
14	講義内容	教科書第 10 課、方向補語や結果補語などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 10 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
15	講義内容	教科書第 11 課、主述述語文や比較表現などについての学習。		
	該当到達目標	予習	教科書第 11 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				26 時間
備考	復習は机に向かうには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10 分程度で構わぬので、必ず毎日、口や舌を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。毎回の積み重ねが肝要。後刻、自力でマスターしようとしてもほとんど不可能と心得よ。記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名		ハングル語(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL011		
英文名		Korean						講義形態	講義		
担当教員		丁 美貞									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		3	豊かな人間性と幅広い教養				4	コミュニケーションスキル			
			健康・医療および情報に関する知識・技能					生涯学習力			
		3	問題解決力								
SDGs との関連											
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① はじめて韓国語をまなぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものについて覚える。 ② ハングルの文字と単語の書き方、読み方から発音練習や会話表現の練習を行う。毎回、韓国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。									
到達目標		1. 正確なハングル文字の表記及び発音を習得する。 2. 합니다体の叙述・疑問に関する表現を習得する。 3. 100 語程度を用いた簡単な挨拶や自己紹介などの基本文型を習得する。 4. 日常生活でよく使われる基本的な表現や言い回しを理解し、簡単な会話ができる。									
使用教材		朴庾卿,仲島淳子,金美順,徐明煥(2023)『ワンアクション韓国語』朝日出版社									
参考文献		斉藤明美(2005)『ことばと文化の日韓比較—相互理解をめざして』世界思想社									
評価方法		授業への参加度 10%、課題・小テスト 30%、定期試験 60%									
課題・評価に対するフィードバック方法		課題にはコメントを付けて返却する。小テストを毎回返却し解説する。									
オフィスアワー (研究室)		質問等がある場合は授業の前後に応じる。もしくはメールで連絡すること。				メールアドレス (#→@)		mjjeong621#gmail.com			
1	講義内容	授業概要、ハングルについて、基本母音									
	該当到達目標	予習	テキストを用意し、2 頁～6 頁を読んでくる。韓国語のノートを用意すること。						1.5 時間		
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。						1.5 時間		
2	講義内容	基本子音 (平音、激音、濃音)									
	該当到達目標	予習	7 頁～17 頁を読んでくる。						1.5 時間		
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。						1.5 時間		
3	講義内容	複合母音									
	該当到達目標	予習	18 頁～21 頁を読んでくる。						1.5 時間		
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。						1.5 時間		
4	講義内容	終声(パッチム)									
	該当到達目標	予習	22 頁～25 頁を読んでくる。						1.5 時間		
	1	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。						1.5 時間		

5	講義内容	発音の変化			
	該当到達目標 1	予習	26 頁～30 頁を読んでくる。	1.5 時間	
		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間	
6	講義内容	基礎まとめ、日本語のハングル表記、ハングル入力(メール)			
	該当到達目標 1	予習	31 頁～32 頁を読んでくる。	1.5 時間	
		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間	
7	講義内容	「挨拶をする」입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	32 頁～35 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間	
		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間	
8	講義内容	「挨拶をする」입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다、作文練習			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	34 頁～43 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間	
		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間	
9	講義内容	「状況を説明する」합니다体、助詞「를/을」			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	44 頁～47 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間	
		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間	
10	講義内容	「状況を説明する」助詞「에서」、助詞「에」(位置)、否定形「지 않다」、作文練習			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	48 頁～53 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間	
		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間	
11	講義内容	「買い物をする」指示語、助詞「가/이」、助詞「와/과」			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	54 頁～59 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間	
		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間	
12	講義内容	「買い物をする」漢数詞、가/이 아니다、作文練習			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	60 頁～65 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間	
		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間	
13	講義内容	「予定を述べる」固有数詞、助詞「에」(時間)、助詞「에」(方向)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	66 頁～71 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間	
		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間	
14	講義内容	「予定を述べる」助詞「에서/부터～까지」、否定形「안」、를/을 좋아합니다、作文練習			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	72 頁～77 頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 時間	
		復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間	
15	講義内容	総まとめ			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	今まで勉強した内容をもう一度、確認して理解しておく。	1.5 時間	
		復習		1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	毎回課題や小テストを行うため必ず予習・復習を行うこと。音源を活用しテキストの読みを練習すること。 メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハングル語:名前」を必ず記入すること。				

科目名		情報リテラシー I (リテラシー)						科目ナンバリング		LAL012	
英文名		Information Literacy I						講義形態		講義	
担当教員		久保田 知里、森下 雄太、木幡 直樹									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		2 豊かな人間性と職業倫理				2		多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		4 専門的知識				2		コミュニケーション能力			
		問題発見・解決力						自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連		④									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
							○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的スキルを身につけることを目標とする。 ② 授業は基本的にオンライン・オンデマンドとし、一部を対面授業として開講する。									
到達目標		1. 書誌的事項を過不足なく記載でき、参考資料や引用文献を適切に取り扱い、レポートが作成できる。 2. メールや SNS を正しく扱うことができる。 3. 授業における調べものやレポート作成に使用するパソコンを適切に取り扱うことができる。 4. 大学のメールや学生ポータルサイト、学習支援サイトを適切に利用できる。 5. 情報倫理やアクセシビリティを理解し、パソコンや情報機器を利用できる。									
使用教材		配布資料									
参考文献											
評価方法		単元毎の小テスト(8回)100%で評価する。60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)		久保田:木曜1限(1号館3階316)、質問はメールでも受付ける。 森 下:木曜1限(1号館3階学外実習指導室)、質問はメールでも受付ける。 木 幡:水曜3限(1号館6階615研究室)				メールアドレス (#→@)		久保田:kubota-c#takasaki-u.ac.jp 森 下: morishita#takasaki-u.ac.jp 木 幡: kohata#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	Gメールの設定と利用(演習) ① 本学メールシステムへのログイン・ログアウト ② 画面構成(受信トレイ・送信済み・迷惑メール・ゴミ箱) ③ メールの作成・送信(To/Cc/Bcc)・返信・転送 ④ 署名の設定、ファイルの添付 ⑤ 実践(履修者同士での練習)									
		該当到達目標	1	予習 1 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5 時間	
	1		2	復習 1 回目の講義内容を復習する						1.5 時間	
2	講義内容	メール・SNS 利用のマナーと注意点									

		① メールの書き方(件名、本文の書き方、TO/CC/BCC の使い分け、署名) ② ファイルの添付/添付ファイルのダウンロード ③ 不審メールへの対処 ④ SNS 利用上の注意(マナー、リスク、注意事項) ⑤ クラウドサービス利用上の注意事項		
	該当到達目標 2,4	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	2 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
3	講義内容	Widows PC の操作 1(基本操作編) ① 起動、シャットダウン、スリープ、ロック、サインアウト/サインイン ② 文字入力とカナ漢字変換 ③ ネットワークの接続設定(無線/有線)と Web サイトへの接続 ④ Web ブラウザの便利機能とセキュリティ管理		
	該当到達目標 3	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	Widows PC の操作 2(エクスプローラ操作編) ① 各種表示機能の ON/OFF ② フォルダ・ファイル操作に関する基本機能と応用機能 ③ ファイル情報の表示と検索 ④ ショートカットの作成		
	該当到達目標 3	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	Widows PC の操作 3(実用操作編) ① 画面キャプチャ、アプリ強制終了、スタートアップ設定 ② Windows の各種設定とメンテナンス ③ アプリのインストール/アンインストール、関連付け、メニュー登録 ④ パーティションの作成 ⑤ クラウドの利用(OneDrive、GoogleDrive)		
	該当到達目標 3	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	レポートの書き方 ① レポートの記載事項 ② 参考文献・資料引用の注意点 ③ 知的財産権・著作権の取り扱い上の注意点		
	該当到達目標 2,4	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	情報の倫理とモラル ① 個人情報保護と情報倫理 ② 情報利用のモラル		
	該当到達目標 5	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	情報通信のアクセシビリティ ① アクセシビリティについて ② キーボード補助機能・マウス補助機能・見やすさの機能・他機能 ③ 音声認識アプリ・会話補助装置・意思伝達装置・他		
	該当到達目標	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間

	5	復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	第 1 回は対面で授業を行うため、大学から推奨された性能の PC を持参すること。			

科目名	情報リテラシーⅡ（リテラシー）							科目ナンバリング	LAL013	
英文名	Information LiteracyⅡ							講義形態	講義	
担当教員	木幡 直樹、久保田 知里、森下 雄太									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	6	専門的知識					コミュニケーション能力			
		問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的技能を身につけることを目標とする。 ② 授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	1. 情報量の表示に関わる接頭語が理解でき、正しく使える。 2. 論理演算が理解でき、真理値表やベン図で説明できる。 3. コンピュータの 5 大要素を説明でき、主要な入出力装置やインターフェースを適切に利用できる。 4. OS の役割を説明できる。									
使用教材	オンラインで PDF 資料を配布、動画閲覧									
参考文献										
評価方法	単元毎の小テスト(8 回)100%で評価する。60%以上を合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 3 限 1号館 6 階 615 研究室				メールアドレス(# → @)		kohata#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	コンピュータの仕組み 1 ① 情報量と補助単位(接頭語) ② 2 進数、8 進数、16 進数								
	該当到達目標	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5 時間	
	1	復習	1 回目の講義内容を復習する						1.5 時間	
2	講義内容	コンピュータの仕組み 2 ① 2 値論理 ② 真理値表 ③ ベン図								
	該当到達目標	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5 時間	

	2	復習	2 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
3	講義内容	コンピュータの仕組み 3 ① コンピュータの概要(5 大要素) ② コンピュータの種類		
	該当到達目標	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	コンピュータの仕組み 4 ① 入力装置 ② 出力装置 ③ 記憶装置 ④ 演算装置 ⑤ 制御装置		
	該当到達目標	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	コンピュータの仕組み 5 ① 周辺装置(入力装置・出力装置) ② 周辺装置(補助記憶装置) ③ ドライバー		
	該当到達目標	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	コンピュータの仕組み 6 ① OS の種類 ② OS の役割(ファイル管理) ③ OS の役割(タスク管理・メモリ管理・デバイス管理) ④ OS と GUI インターフェース		
	該当到達目標	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	コンピュータの仕組み 7 ① LAN とインターネット ② IP アドレスとルーティング ③ ファイヤーウォール ④ Web と Web アプリ		
	該当到達目標	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	4	復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	コンピュータの仕組み 8 ① パソコンの構造 ② 筐体 ③ マザーボード ④ 各種拡張ボード		
	該当到達目標	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
	3	復習	8 回目の講義内容を復習する	1.5 時間

		合計時間(予習・復習)	24 時間
備考			

科目名		情報リテラシーⅢ（リテラシー）					科目ナンバリング	LAL014			
英文名		Information Literacy Ⅲ					講義形態	演習			
担当教員		久保田 知里、森下 雄太、木幡 直樹									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格		栄養教諭									
学位授与方針との対応		2	豊かな人間性と職業倫理			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		4	専門的知識			2	コミュニケーション能力				
			問題発見・解決力				自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連		④									
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要		① 大学での学習に必要な文書作成やプレゼンテーションの基礎的技能を身につけることを目標とする。									
①講義の目標		② 授業は基本的にオンライン・オンデマンド開講とし、一部を対面授業として開講する。									
②講義の実施方法											
到達目標		1. Word を使って各種文書を作成できる。 2. PowerPoint を使ってスライドを作成でき、プレゼンテーションが出来る。									
使用教材		30 時間でマスターOffice2021 実教出版									
参考文献											
評価方法		単元毎の小テスト(8 回)の合計点を 80%、プレゼンテーション課題を 20%として、総合点が 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー （研究室）		久保田：木曜 1 限(1 号館 3 階 316)、質問はメールでも受付ける。 森 下：木曜 1 限(1 号館 3 階学外実習指導室)、質問はメールでも受付ける。 木 幡：水曜 3 限(1 号館 6 階 615 研究室)				メールアドレス （#→@）		久保田：kubota-c#takasaki-u.ac.jp 森 下：morishita#takasaki-u.ac.jp 木 幡：kohata#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	Word 利用の基礎(演習)1 ① Word の起動と画面構成 ② 文書の入力と編集 ③ ページ設定 Word 利用の基礎(演習)2 ① 文書の作成 ② 文字の配置 ③ 文字の修飾									
		該当到達目標		予習 該当する部分の教科書を読んでおくこと。						1.5 時間	
	1	復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。						1.5 時間		
2	講義内容	Word 利用の基礎(演習)3 ① 表の作成 ② 表のレイアウトの変更 ③ 表の編集 Word 利用の基礎(演習)4									

		① ページの色や罫線 ② ワードアートの利用 ③ 図形の挿入 ④ テキストボックスの挿入		
	該当到達目標 1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5 時間
3	講義内容	Word 利用の基礎(演習)5 ① 文書作成のまとめ(文書資料の作成)		
	該当到達目標 1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5 時間
4	講義内容	PowerPoint 利用の基礎(演習)1 ① PowerPoint の画面構成 ② プレゼンテーションの作成 ③ 文字修飾と図形の活用		
	該当到達目標 1	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5 時間
5	講義内容	PowerPoint 利用の基礎(演習)2 ① グラフの活用 ② スマートアートの活用 ③ アニメーション効果 ④ その他の機能		
	該当到達目標 1	予習	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	1.5 時間
		復習	課題内容に関する課題を行い提出すること。	1.5 時間
6	講義内容	PowerPoint 利用の基礎(演習)3 ① プレゼンテーション資料作成のまとめ(プレゼンテーション資料の作成)		
	該当到達目標 2	予習	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5 時間
7	講義内容	プレゼンテーション課題の発表(演習)1 ① プレゼンテーション資料を用いた発表		
	該当到達目標 2	予習	発表課題を準備し、発表練習をしておくこと。	2 時間
		復習	発表内容の優れた点、改善点をまとめて提出すること。	1 時間
8	講義内容	プレゼンテーション課題の発表(演習)2 ① プレゼンテーション資料を用いた発表		
	該当到達目標 2	予習	発表課題を準備し、発表練習をしておくこと。	1.5 時間
		復習	発表内容の優れた点、改善点をまとめて提出すること。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	講義での演習は、大学から推奨された性能の PC で進めること。なお、講義では office 系ソフト(Word、PowerPoint)を使用するものとする。			

科目名	情報リテラシーⅣ(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL015		
英文名	Information Literacy Ⅳ						講義形態	演習		
担当教員	久保田 知里、森下 雄太、木幡 直樹									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格	栄養教諭									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	6	専門知識					コミュニケーション能力			
		問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要										
①講義の目標	① 大学での学習に必要な表計算処理の基礎的技能を身につけることを目標とする。									
②講義の実施方法	② 授業は基本的にオンライン・オンデマンド開講とし、一部を対面授業として開講する。									
到達目標	1. Excel を使って基本的な集計ができる。 2. Excel の簡単な関数機能が利用できる。 3. Excel の表データからグラフを作成できる。 4. Excel でデータの検索や並べ替えができる。									
使用教材	30 時間でマスターOffice2021 実教出版									
参考文献										
評価方法	単元毎の小テスト(7 回)の合計点を 80%、第 8 回の課題を 20%として、総合点の 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)	久保田:木曜 1 限(1 号館 3 階 316)、質問はメールでも受付ける。 森 下:木曜 1 限(1 号館 3 階学外実習指導室)、質問はメールでも受付ける。 木 幡:水曜 3 限(1 号館 6 階 615 研究室)				メールアドレス (#→@)		久保田:kubota-c#takasaki-u.ac.jp 森 下:morishita#takasaki-u.ac.jp 木 幡:kohata#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)1 ① Excel の画面構成 ② ブックの操作 ③ データの入力と編集 ④ オートフィル Excel 利用の基礎(演習)2 ① 計算式の入力 ② 表示形式の変更 ③ 書式の変更								

	該当到達目標 1	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	1 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
2	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)3 ① 合計(SUM)関数 ② 平均(AVERAGE)関数 ③ 最大(MAX)最小(MIN)		
		予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	2 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
	該当到達目標 1	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
3	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)4 ① グラフの作成		
		予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	3 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
	該当到達目標 2	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
4	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)5 ① 条件判定(IF 関数)と順位付け(RANK.EQ 関数)I		
		予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	4 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
	該当到達目標 3	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
5	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)6 ① 条件判定(IF 関数)と順位付け(RANK.EQ 関数)II ② 検索関数の利用		
		予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	5 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
	該当到達目標 3	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
6	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)7 ① セルの参照機能 ② 文字列の結合 ③ セルの条件付き書式 ④ 並び替え		
		予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	6 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
	該当到達目標 4	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
7	講義内容	Excel 利用の基礎(演習)8 ① フィルター ② 文字の結合 ③ Word と Excel の活用		
		予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
		復習	7 回目の講義内容を復習する	1.5 時間
	該当到達目標 4	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく	1.5 時間
8	講義内容	Excel を活用した健康・栄養に関するデータ整理 ① 表示形式の変更 ② 表の作成 ③ グラフの作成		
		予習	7 回目までの講義内容をよく復習し、活用できるようにしておく	1.5 時間
		復習	課題を作成し提出する	1.5 時間
	該当到達目標 4	予習	7 回目までの講義内容をよく復習し、活用できるようにしておく	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	講義での演習は、大学から推奨された性能の PC で進めること。なお、講義では office 系ソフト(Excel)を使用するものとする。第 8 回は対面で授業を行うため、大学から推奨された性能の PC を持参すること。数理・データサイエンス・AI に関する授業科目として、群馬県より提供された健康・栄養に関するデータを活用する。			

科目名	情報リテラシーⅤ（リテラシー）						科目ナンバリング	LAL016		
英文名	Information Literacy Ⅴ						講義形態	講義		
担当教員	木幡 直樹、久保田 知里、森下 雄太									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数		選択 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と職業倫理			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	6	専門的知識				コミュニケーション能力				
		問題発見・解決力				自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	④									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ① 講義の目標 ② 講義の実施方法	① ネットワークに情報機器を接続し、安全かつ適切に利用できる基礎的知識と技能を身につけることを目標とする。 ② 授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標	1. ネットワーク利用に必要な基礎知識があり、利用できる。 2. 情報セキュリティに関する基礎知識があり、安全に気を配り情報機器やシステムを利用できる。 3. 専攻領域における ICT の利用事例や先進的利用について、説明できる。									
使用教材	配布資料									
参考文献										
評価方法	単元毎の小テスト(8 回)100%で評価する。60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー （研究室）	水曜 3 限 1 号館 6 階 615 研究室				メールアドレス （#→@）	kohata#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ネットワークの基礎知識 1 ① DHCP(IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS) ② ブラウザ ③ プロバイダと回線接続業者								
		該当到達目標	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく					1.5	時間
	1	復習	1 回目の講義内容を復習する					1.5	時間	
2	講義内容	ネットワークの基礎知識 2 ① Wi-Fi によるネットワーク接続(SSID とパスワード、接続周波数) ② 4G と 5G・無線 LAN 規格、テザリング ③ セキュリティの選択、トラブル対策								
		該当到達目標	予習	2 回目の講義内容を予め読んでおく					1.5	時間
	1	復習	2 回目の講義内容を復習する					1.5	時間	
3	講義内容	情報セキュリティの基礎 1								

		① 情報資産の脅威・脆弱性とリスク ② サイバー攻撃 ③ マルウェア対策			
	該当到達目標	予習	3 回目の講義内容を予め読んでおく		1.5 時間
2		復習	3 回目の講義内容を復習する		1.5 時間
4	講義内容	情報セキュリティの基礎 2 ① アクセス管理と認証 ② 不正アクセス対策 ③ 暗号とデジタル署名			
	該当到達目標	予習	4 回目の講義内容を予め読んでおく		1.5 時間
	2	復習	4 回目の講義内容を復習する		1.5 時間
5	講義内容	情報セキュリティの基礎 3 ① 組織のセキュリティ対策 ② 情報セキュリティ関連の法規と制度 ③ 知的財産保護と個人情報保護			
	該当到達目標	予習	5 回目の講義内容を予め読んでおく		1.5 時間
	2	復習	5 回目の講義内容を復習する		1.5 時間
6	講義内容	社会と ICT 活用 1 ① 医療・健康分野での ICT の活用 ② 社会福祉分野での ICT の活用 「※健康・医療・福祉分野の ICT 活用」			
	該当到達目標	予習	6 回目の講義内容を予め読んでおく		1.5 時間
	3	復習	6 回目の講義内容を復習する		1.5 時間
7	講義内容	社会と ICT 活用 2 ① 教育分野での ICT の活用			
	該当到達目標	予習	7 回目の講義内容を予め読んでおく		1.5 時間
	3	復習	7 回目の講義内容を復習する		1.5 時間
8	講義内容	社会と ICT 活用 3 ① 農業・食糧生産分野での ICT の活用 ② 食品産業分野での ICT の活用 「※食品・農業分野の ICT の活用」			
	該当到達目標	予習	8 回目の講義内容を予め読んでおく		1.5 時間
	3	復習	8 回目の講義内容を復習する		1.5 時間
合計時間(予習・復習)					24 時間
備考					

科目名		情報リテラシーⅥ(リテラシー)						科目ナンバリング	LAL017		
英文名		Information Literacy Ⅵ						講義形態	講義		
担当教員		久保田 知里、森下 雄太、木幡 直樹									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数		必修 1 単位						
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		2	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		6	専門知識					コミュニケーション能力			
			問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連		④									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
							○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 情報数理統計・データサイエンスの基礎的知識と処理の技能を身につけることを目標とする。 ② 授業はオンライン・オンデマンド開講とする。									
到達目標		1. 度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理ができ、ヒストグラムによるデータの可視化ができる。 2. 最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法が説明できる。 3. 四分位数、5 数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法を理解し、説明できる。 4. 分散と標準偏差の意味、定義、計算方法を理解し、説明できる。									
使用教材		オンラインで PDF 資料を配布									
参考文献											
評価方法		単元毎の小テスト(8 回)100%で評価する。60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。									
オフィスアワー (研究室)		久保田:木曜 1 限(1 号館 3 階 316)、質問はメールでも受付ける。 森 下:木曜 1 限(1 号館 3 階学外実習指導室)、質問はメールでも受付ける。 木 幡:水曜 3 限(1 号館 6 階 615 研究室)				メールアドレス (#→@)		久保田:kubota-c#takasaki-u.ac.jp 森 下:morishita#takasaki-u.ac.jp 木 幡:kohata#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	データサイエンスの基礎 1 ① データサイエンスとは何か、 ② 度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理 ③ ヒストグラムによるデータの可視化 ④ ヒストグラムから読み取るデータの特徴									
		該当到達目標	予習	1 回目の講義内容を予め読んでおく						1.5 時間	
	1	復習	1 回目の講義内容を復習する						1.5 時間		

2	講義内容	データサイエンスの基礎 2 ① Excelを使った度数分布とヒストグラムの作成			
	該当到達目標 1	予習	2回目の講義内容を予め読んでおく		1.5 時間
		復習	2回目の講義内容を復習する		1.5 時間
3	講義内容	データサイエンスの基礎 3 ① 最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法 ② 最頻値、中央値、平均値と度数分布、累積度数分布、ヒストグラムの関係			
	該当到達目標 2	予習	3回目の講義内容を予め読んでおく		1.5 時間
		復習	3回目の講義内容を復習する		1.5 時間
4	講義内容	データサイエンスの基礎 4 ① Excelを使った代表値の算出			
	該当到達目標 2	予習	4回目の講義内容を予め読んでおく		1.5 時間
		復習	4回目の講義内容を復習する		1.5 時間
5	講義内容	データサイエンスの基礎 5 ① 分位数の考え方 ② 四分位数、5数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法 ③ 箱ひげ図による5数要約の可視化 ④ 箱ひげ図とヒストグラムの形状との関係			
	該当到達目標 3	予習	5回目の講義内容を予め読んでおく		1.5 時間
		復習	5回目の講義内容を復習する		1.5 時間
6	講義内容	データサイエンスの基礎 6 ① Excelを使った5数要約の算出、箱ひげ図の作成			
	該当到達目標 3	予習	6回目の講義内容を予め読んでおく		1.5 時間
		復習	6回目の講義内容を復習する		1.5 時間
7	講義内容	データサイエンスの基礎 7 ① Σ 記号の定義と性質 ② 分散と標準偏差の意味、定義、計算方法 ③ データの一次変換と平均、分散、標準偏差 ④ 変動係数の定義と性質			
	該当到達目標 4	予習	7回目の講義内容を予め読んでおく		1.5 時間
		復習	7回目の講義内容を復習する		1.5 時間
8	講義内容	データサイエンスの基礎 8 ① Excelを使った分散、標準偏差、変動係数の算出			
	該当到達目標 4	予習	8回目の講義内容を予め読んでおく		1.5 時間
		復習	8回目の講義内容を復習する		1.5 時間
合計時間(予習・復習)					24 時間
備考					

科目名	情報化社会を生きる ～疑う力・創る力～(専門教養科目)					科目 ナンバリング	LSH003				
英文名	Confronting the Information Oriented Society: The Power of Doubt and the Power of Creation					講義形態	講義				
担当教員	岡田 豊										
科目に関連した 実務経験	日本経済新聞記者 共同通信記者 テレビ朝日(経済部記者・外報部デスク・プロデューサー・アメリカ総局長・コメンテーター)										
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位								
履修を必須とする 資格											
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と職業倫理				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識				2	コミュニケーション能力				
	3	問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰										
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
			○	○	○				○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	授業の中で質疑応答を随時実施する。										
実施概要 ② 講義の目標 ②講義の実施方法	①フェイク情報・フェイク映像が氾濫する今の情報化社会において、正確な情報は、水や空気のように欠かさない存在になっている。正確な情報を得られなければ、的確な判断ができないからだ。何も考えず、ただ情報の渦に身を委ねているとすれば、かけがえのない自分の人生の選択を見誤るようなことになりかねない。まず、この基本的な認識を自覚したい。 講義の最大の目標は、情報の「受け手」として、情報をきちんと疑い、正確な事実をしっかりと見極める力を修養することにある。同時に、情報の「送り手」として、正確な事実、的確な見識や、社会創生につながるアイデアを発信する力を修養する。つまり、情報の「受け手」「送り手」双方の立場において、質の高いリテラシーを身に付けるのである。このリテラシーは、学問のみならず、日常生活、仕事など、人間の活動において基本素養と位置付けられよう。 その際、古びた常識に流されずに、自分の心で感じ、自分の頭でオリジナルに考え抜くこと、つまり自考(じこう)をベースにしたい。自考は、今の日本人にとって必要不可欠な思考法だと考える。 ②授業は、時事問題や身近な社会的課題、あるいはみなさんが抱える課題や疑問などを題材にし、グループ討論などを展開する。みなさんが感じていること、考えていることを遠慮なく口に出し合い、大胆に論考していく。予習で求めた課題は、各自が授業で披露する前提である。また、適宜求めるリアクションペーパーには、みなさんのオリジナルな考え方を遠慮なく記してほしい。定期試験も実施する。素の自分をさらけ出し、楽しみつつ、本授業がみなさんの成長のきっかけの1つになることを期待している。										
到達目標	1.情報化社会の諸課題を理解し、それらの解決策を提案できる。■ 2.ジャーナリズムの意義を理解し、市民ジャーナリストとして実践できるリテラシーを身に付ける。■ 3.情報の「受け手」として、情報を疑い、正確な事実を見極めるリテラシーを身に付ける。■ 4.情報の「送り手」として、正確な事実、的確な見識、社会創生につながるアイデアを発信するリテラシーを身に付ける。■ 5.日本の衰退が加速する中、社会創生の意義と必要性を理解する。■ 6.自分の心で感じ、自分の頭で考える自考の意味と意義を理解し、実践できる。■										
使用教材	指定教材なし。録画画像、ニュース記事などを適宜講義で活用する										
参考文献	「自考」岡田豊著(プレジデント社)「他人から教えられた“常識”ではなく、自分自身の頭で考え抜く」という思考法のヒントが書かれている。この授業の理解が深まるので、もし経済的な余裕があれば、購入して読むことをお勧めする。										
評価方法	定期試験 40%、レポート 30%、発言・プレゼンなど授業中のアクション 30%、で評価する。										

		総合評価 65%以上を合格とする。		
課題・評価に対するフィードバック方法		レポートにはコメントを付けて返却する。授業での発言・プレゼンにはその場で必要に応じて適宜コメントする。定期試験の後に、出題の意図を掲示で示す。		
オフィスアワー (研究室)		授業後の1～2 時間	メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する
1	講義内容	ガイダンス		
	該当到達目標	予習	シラバス全体を読み、講義の目標を理解し、講義をどう活用するか考える	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する	1.5 時間
2	講義内容	基礎的な思考法「自考」を知る■		
	該当到達目標	予習	日本の衰退が進んでいる現状を認識し、その理由について考えておく	1.5 時間
	2,5,6	復習	自考について3回目の授業以降に実践できるよう理解する	1.5 時間
3	講義内容	情報・映像のフェイクがあふれる社会■		
	該当到達目標	予習	フェイクの実例を見つけ、それがどんな支障を招いたか、考えておく	1.5 時間
	1,2,3,6	復習	フェイク情報の存在に伴う社会の諸課題を理解し、解決策を見いだす	1.5 時間
4	講義内容	生成AIの功罪		
	該当到達目標	予習	無料の簡単な生成AIソフトで合成画像を作ってみる	1.5 時間
	1,2,3,6	復習	生成AIのメリットとデメリットを整理して理解する	1.5 時間
5	講義内容	事実にとどりに着く難しさ■		
	該当到達目標	予習	事実と思っていたのに事実でなかったケースを自らの経験から見つけておく	1.5 時間
	1,2,3,6	復習	事実を得ることは簡単ではないということを理解する	1.5 時間
6	講義内容	ジャーナリズムという社会機能の意義■		
	該当到達目標	予習	1つの情報や提案が社会を良くしたり人を助けたりしたケースを見つけておく	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	ジャーナリズムが市民や社会にいかに重要か、理解する	1.5 時間
7	講義内容	新聞・テレビへの不信 「マスゴミ」と呼ばれるワケ■		
	該当到達目標	予習	新聞、テレビがジャーナリズム機能を果たしていないケースを見つけておく	1.5 時間
	1,2,3,5,6	復習	新聞、テレビが抱えるジャーナリズムの課題を理解し、解決策を見いだす	1.5 時間
8	講義内容	企業広報とマスメディア■		
	該当到達目標	予習	トヨタ自動車の独自メディア「トヨタタイムズ」のHPを見ておく	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	自分が組織の広報担当となった場合に情報をどう発信するのかヒントを得る	1.5 時間
9	講義内容	ジャーナリズム先進国アメリカの事情 中国メディアの特性■		
	該当到達目標	予習	日米中のマスメディアの違いについて簡単に調べておく	1.5 時間
	1,2,3,4,6	復習	大手メディアのあり方が社会のあり方にどう影響を与えるかを理解する	1.5 時間
10	講義内容	大きく立ち遅れた日本の「リテラシー教育」■		
	該当到達目標	予習	情報やメディアをめぐるリテラシー教育を自ら受けた経験を整理しておく	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	情報やメディアをめぐる日本のリテラシー教育の遅れによる弊害を理解する	1.5 時間
11	講義内容	「受け手」と「送り手」の双方の機能を持った市民の課題■		
	該当到達目標	予習	情報の「送り手」として自らがどんな発信をしているのか、まとめておく	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	個々の市民が健全な情報化社会のカギを握っていることを理解する	1.5 時間
12	講義内容	「疑う力」 情報をどう見極めるか■		
	該当到達目標	予習	情報の疑い方、見極め方について自分がどうやっているか、まとめておく	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	情報を見極めるためのリテラシーを理解する	1.5 時間
13	講義内容	「新聞・テレビ・SNS」依存から「市民」の自己責任に■		

	該当到達目標 1.2,3,4,5,6	予習	新聞、テレビ、SNS を自らがどう活用し、どう向き合っているかまとめておく	1.5 時間
		復習	情報を自己責任で見極めるという意義を理解する	1.5 時間
14	講義内容	「創る力」 市民のジャーナリズムが社会を変える ■		
	該当到達目標 1.2,3,4,5,6	予習	社会の課題を自らが発信する情報でどう改善できるのか、案を考えておく	1.5 時間
		復習	ジャーナリズムを支え、社会創生するのは個々の市民だと理解する	1.5 時間
15	講義内容	「疑う力」「創る力」 2つのリテラシー普及の意義 ■		
	該当到達目標 1.2,3,4,5,6	予習	「疑う力」と「創る力」のリテラシーを社会に普及させるための案を考えておく	1.5 時間
		復習	「疑う力」と「創る力」の2つのリテラシーを社会に普及させる意義を理解する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	次の 3 点を抱いて授業に臨むこと。 1. 「自分の人生を切り拓くのは自分以外にいない」という自覚を持つ。 2. 「自分が生きるこの社会を良くするのは自分だ」という志を持つ。 3. この授業の主人公は自分であり、授業を楽しむマインドを持つ。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	人間行動学(専門教養科目)							科目ナンバリング	LSH002	
英文名	Theory of Human Behavior							講義形態	講義	
担当教員	上原 徹、服部 卓									
科目に関連した実務経験	精神科医として大学病院等で勤務経験 35 年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている(上原)。臨床心理士として大学病院等で勤務経験は約 35 年、現在に至る(服部)。									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	10	豊かな人間性					学際的な視点から取り組む力			
		基礎的知識力					応用・実践する能力			
		問題解決能力・コミュニケーション能力					専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力			
SDGs との関連	3 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、 実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	前半の授業で、一部実技や演習を取り入れる									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 学生が行動科学の基礎と応用を学ぶことで、臨床や対人支援の場面におけるクライアントの行動や、支援者である自らの行動との相互作用を理解することができる。前半を服部、後半を上原が担当する。 ② 授業では配布資料も使って要点をまとめ、一部 DVD を視聴しつつ進める。									
到達目標	1. 医療などの対人支援における基本的姿勢を身につける 2. ケアを受ける人の心理や行動を理解できる 3. 適切な対人的交流のための知識と技術が説明できる 4. 他職種と機能的に連携する視点を持てる■ 5. 行動科学や心理学の初級知識を解説できる									
使用教材	特定の教科書は指定しない。C-learning 上に資料をアップする。DVD 教材を用いた授業も行う。									
参考文献	福村出版「行動科学への招待〔改訂版〕 現代心理学のアプローチ」など									
評価方法	レポートを 90%とし、授業中の態度を 10%程度参考にして総合評価する。授業態度(不適切な授業態度、不必要な私語など)に問題がある場合は、個別に減点する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートについては、事前に課題内容を告知し、記載方法や出題意図、基準をフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	月 4 金 3 研究室:1 号館 5 階 501				メールアドレス (#→@)		授業で提示する			
1	講義内容	青年期の心理と性格								
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。							0.5 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。							2.5 時間
2	講義内容	対人行動								
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。							1 時間
	1,2	復習	ノートを読むこと。							2 時間
3	講義内容	集 団■								
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。							1 時間
	2,3,4	復習	ノートを読むこと。							2 時間
4	講義内容	異文化と自己								
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。							1 時間

	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
5	講義内容	ヒューマンファクター——労働の心理学		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
6	講義内容	きずなの発達		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	2,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
7	講義内容	自己の形成と発達		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	2,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
8	講義内容	医療における人間関係		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,2,3	復習	ノートを読むこと。	2 時間
9	講義内容	健 康		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,2,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
10	講義内容	学習と学習支援		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
11	講義内容	知 覚		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
12	講義内容	記 憶		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
13	講義内容	思 考		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	3,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
14	講義内容	疲労・メンタルヘルスと現代の職場■		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	4,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
15	講義内容	音楽と脳・まとめ■		
	該当到達目標	予習	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	ノートを読むこと。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	複数の学科学生が多数で聴講し、非常勤講師を迎え行うので、静粛に臨むこと。授業中の不必要な私語や不謹慎な態度は、厳に慎むこと(成績評価に影響する)。DVD 上映による映像授業を多用する。場合によって代替えとなるパワーポイントおよびウェブサイト動画の紹介を行う。 予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。オフィスアワーや連絡先は、主任講師の上原がオリエンテーション時に案内する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	健康運動実技(専門教養科目)					科目ナンバリング	LSH003			
英文名	Health Exercise Skills					講義形態	演習			
担当教員	大家 千枝子									
科目に関連した実務経験	「元気に“動こう・歩こう”」実践リーダー養成講座の講師として、リーダー養成事業に従事している。(群馬県健康長寿社会づくり推進課・2018 年度～2022 年度)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性と職業倫理				多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識			5	コミュニケーション能力				
		問題発見・解決力				自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	②③⑤									
実施概要	① 健康保持増進のための運動実践力育成と体力の向上を図り、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質と能力を身につける。									
①講義の目標										
②講義の実施方法	② 実技を中心に授業を進めていく。									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
到達目標	1. 運動に対する欲求や運動が好きであることを感じることができる。 2. 運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。■ 3. 公正・協力・責任・参画・勇気などに対する意欲をもつことができる。 4. 仲間や教員と積極的にコミュニケーションを図ることができる。 5. 健康・安全を確保して、運動を継続するための工夫や仕組みを創造することができる。■									
使用教材	プリントを適宜配布する。									
参考文献	参考文献を適宜紹介する。									
評価方法	授業ごとの取り組みの評価点 85%、記録(提出物・コメント)15%									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎回の授業後に授業記録カードの提出を求める。授業記録カードに付したコメントやスタンプは必ずチェックすること。また最終日には、授業で学んだことの整理・課題・目標到達度の確認(ルーブリックにて自己評価)を行う。課題は返却しないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。									
オフィスアワー(研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	oie#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス・履修者からの需要調査 ■								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで講義目標などを理解する。要配慮の場合は申告する。						0.5	時間
	3,4,5	復習	到達目標、学位記授与方針、成績評価方法などを確認する。						0.5	時間
2	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施								
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。						0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。						0.5	時間
3	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施								
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。						0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。						0.5	時間
4	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施								
	該当到達目標	予習	体調を整えて授業に備える。						0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。						0.5	時間
5	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施								

	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
		復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
6	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
		復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
7	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
		復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
8	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
		復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
9	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
		復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
10	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
		復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
11	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
		復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
12	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
		復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
13	講義内容	屋外種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
		復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
14	講義内容	室内種目からの需要調査結果による選択種目の実施		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	体調を整えて授業に備える。	0.5 時間
		復習	授業の様子を振り返り、知識や方法を復習する。実際に動く。	0.5 時間
15	講義内容	まとめ、授業で学んだことの整理・確認テスト(または課題)・目標到達度の確認 ■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	これまで授業で学んだこと、自身の授業態度を振り返る。	0.5 時間
		復習	目標達成度の確認。今後どのように運動を継続できるか検討する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	【単位修得に必要な時間について】 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			
	【受講上の注意】 ① 運動に適した服装(ジャージ、Tシャツなど)とシューズ(屋内外別)を着用すること。 (※ジーンズ・普段着での受講は不可。スマホや時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアスなどは外しておく。) ② 原則として見学は認めない。配慮を必要とする学生は初回ガイダンス終了までに申し出ること。 ③ 貴重品は各自で管理すること。 ④ 授業で使用する用具は基本的に大学側で用意するが、個人所有のラケットなどがあれば持参を推奨する。 ⑤ 天候による施設変更がある。C-learning で確認すること。 ⑥ フットサルコートの人芝がとれやすく、靴下やウエアに付着することがある。 ⑦ 屋外でウォーミングアップの際、グラウンドの砂で汚れることがある。※屋外の際は、汚れてもよい服装を推奨。 【履修条件】 準備・後片付けなどの授業運営は受講生の積極的な姿勢を求める。また、技術の高低や得意不得意、好き嫌い、勝ち負けにとらわれず、自分の持っている技術力をいかして、スポーツそのものを楽しむ能力や積極的に体を動かすことが求められる。			

【ルール】

授業開始時には整列し、出席をとる。授業終了時には、振り返りとして授業記録カードの提出がある。次の行為は授業中にしないこと。①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホ使用。

■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名		宗教と倫理(専門教養科目)						科目ナンバリング	LSH004		
英文名		Religion and Ethics						講義形態	講義		
担当教員		出雲 春明									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		5	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
			専門的知識				1	コミュニケーション能力			
		1	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連		10 16									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 東西の代表的な宗教・倫理思想に触れることで、世の多様な価値観への理解を養うことを目的とする。また、それによって自己の在り方に対する客観的・批判的な視座を養う。なるべく平易な表現を用いて講義を行う。「宗教」は「非日常的なもの」として敬遠されることも多い。しかし、だからこそ、そこで語られる教えや物語は、しばしば漠然と過ごされている私たちの日常を省みる絶好の機会を提供してくれる。自分が普段どのような判断や行動をしているか常に考えつつ、講義に臨んでほしい。 ② C-learning の教材倉庫にアップした資料に基づいて講義を行い、毎回アンケートに意見を記述してもらう。また、定期的にドリルと小テストを実施して知識の定着を図る。									
到達目標		1. 講義で取り扱った諸宗教・倫理思想の基本について説明することができる。 2. そして、それを自己理解、他者理解に役立てることができる。									
使用教材		C-learning の教材倉庫に資料をアップする。									
参考文献		関根正雄(訳)『旧約聖書 ヨブ記』、岩波文庫、1971 年。 金子大栄『歎異抄』、岩波文庫、改版、1981 年。									
評価方法		授業への取り組み(資料の閲覧状況など)・・・30% 毎回の課題(アンケートの実施状況)、ドリル・小テスト、期末レポート・・・70%									
課題・評価に対するフィードバック方法		毎回、授業終了時に意見や質問などを C-Learning「アンケート」に記述してもらい、それらに対してコメントを返す。有意義な意見に関しても紹介の時間を設ける。									
オフィスアワー (研究室)		1 号館 511 研究室 面談希望の場合は C-Learning「連絡・相談」あるいは左記アドレスまで。				メールアドレス (#→@)		izumo-s#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス									
	該当到達目標	予習	シラバスと予習資料を読み、授業の方法やアウトラインについて理解しておく。						1.5 時間		
	1	復習	自分自身の内にある「思い込み」について考えてみる。						1.5 時間		
2	講義内容	『聖書』の思想:一神教の系譜									
	該当到達目標	予習	予習資料から一神教について知識を得ておく。						1.5 時間		
	1,2	復習	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、それぞれの特徴について確認しておく。						1.5 時間		

3	講義内容	善人とは何か—『旧約聖書』(『ヨブ記』)より(1)「契約」について		
	該当到達目標	予習	予習資料から、「契約」について知識を得ておく。	1.5 時間
	1,2	復習	「旧約」、「新約」とは何か、「応報主義」とは何か理解する。	1.5 時間
4	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(2)生誕の災い		
	該当到達目標	予習	予習資料から『ヨブ記』のプロローグを確認しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	ヨブ記、ギリシア神話、仏教などにおけるペシミスティックな人間観を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(3)自己の在り方を省みる		
	該当到達目標	予習	予習資料をもとに『ヨブ記』の登場人物の関係性について考えておく。	1.5 時間
	1,2	復習	自己と他者の間にある鏡像的な相互関係について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(4)現代の事例から考える		
	該当到達目標	予習	予習資料からヨブと彼の友人たちの議論を確認しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	自己批判の欠如がもたらす事態について歴史的事件を通じて理解する。	1.5 時間
7	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(5)「懺悔」ということ		
	該当到達目標	予習	予習資料から『ヨブ記』エピローグについて確認しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	聖書の思想における「懺悔」の位置づけについて理解する。	1.5 時間
8	講義内容	旧約から新約へ：イエスの教え		
	該当到達目標	予習	予習資料よりイエスの教えについて知識を得ておく。	1.5 時間
	1,2	復習	イエスの教えが登場してくる背景とその意義について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(1)『歎異抄』について		
	該当到達目標	予習	予習資料から『歎異抄』という書について知識を得ておく。	1.5 時間
	1	復習	『歎異抄』第三条の特異性について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(2)罪の意識		
	該当到達目標	予習	予習資料から『歎異抄』第三条に関する様々な見解を確認しておく。	1.5 時間
	1	復習	親鸞の内面を支配していた深い罪の意識を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(3)浄土思想の展開(1)		
	該当到達目標	予習	予習資料から親鸞の師である法然が登場してきた時代背景について知る。	1.5 時間
	1,2	復習	当時の人々の心に去来していた思いについて理解する。	1.5 時間
12	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(4)浄土思想の展開(2)		
	該当到達目標	予習	予習資料から親鸞の生涯について知る。	1.5 時間
	1,2	復習	親鸞の罪の意識の由来について理解し、自らに引きつけて考える。	1.5 時間
13	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(5)「悪人正機説」		
	該当到達目標	予習	予習資料とあわせてこれまでの議論を確認しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	『歎異抄』第三条の悪人正機説の意味を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(6)悪の不可避性とそれゆえの無力		
	該当到達目標	予習	予習資料をもとに親鸞における悪について自らに引きつけて考えておく。	1.5 時間
	1,2	復習	我々が気づかず捕らわれている自己中心的な考え方について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	総括—東西の宗教		
	該当到達目標	予習	聖書の思想と浄土思想の核心部分について確認しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	東西の宗教、倫理思想の共通点について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

備考	C-learning の「教材倉庫」「ドリル」「小テスト」「アンケート」「レポート」機能を活用する。毎回、授業日の前週木曜日に予習用の教材をアップするのであらかじめ目を通しておくこと。授業終了後は復習用の資料をアップするので、よく確認し、アンケートにコメントを記入すること。 詳細な成績評価の方法や、期末レポートの課題や規定など連絡事項は C-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。 「自分ならどう考え、行動するか」を自らに問いかける姿勢を大切にしてほしい。

科目名		レクリエーション論(専門教養科目)					科目ナンバリング	LSH005		
英文名		Recreation Theory					講義形態	講義		
担当教員		大家 千枝子								
科目に関連した実務経験		レクリエーション・インストラクター養成講習会講師として、公認指導者養成に従事(現在)。(公益財団法人日本レクリエーション協会公認・群馬県レクリエーション協会主催、2015 年度より)								
学年・開講期		2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	5	豊かな人間性			1	学際的な視点から取り組む力				
	1	基礎的知識力			1	応用・実践する能力				
	1	問題解決能力・コミュニケーション能力			1	専門家としての倫理性・社会福祉への貢献力				
SDGs との関連		③								
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼン テーショ ン	演習、実験実 習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		人びとの「心を元気にする」ための手助けができるレクリエーション支援の強み(専門性)を理解する。支援の目的とそれを達成するための方法の裏付けとなる人の心の仕組みを学ぶ。 教員による講義がベースとなるが、グループワークによるテーマに沿った共同作業も予定している。「心を元気にする」ための理論をその実践へと結び付けるため、各グループによるレクリエーション活動を用いた短時間のレクリエーション支援を行い、「集団をリードする」、「コミュニケーションを促進する」、「楽しい空間をつくる」という感覚を養う。								
到達目標		1. レクリエーション支援の目的と手段について、理解し、説明できる。■ 2. レクリエーション活動の楽しさが心を元気にすることについて、理解できる。■ 3. コミュニケーションの促進がレクリエーション支援の基盤であることを理解し、説明できる。■ 4. 授業の性質やグループ内での個人の役割について、理解し、行動することができる。 5. 必要な資料や情報を収集し、意見をまとめ、期日を守って提出できる(C-learning も含む)。								
使用教材		「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」、公益財団法人日本レクリエーション協会、1,800 円+税 ISBN978-4-931180-95-6								
参考文献		「基本のアイスブレーキング・ゲーム」、公益財団法人日本レクリエーション協会、2,530 円(税込) ISBN978-4-931180-92-5 C2076								
評価方法		授業の取り組み実践点 30%、 課題点(小テスト、確認テスト、レク支援経験)70%								
課題・評価に対するフィードバック方法		自分以外の履修者による課題や感想、評価を知ることが学生相互の刺激になるため、C-learning を使ってフィードバックする。また紙媒体の提出課題は、適宜返却を予定している。ただし最終日の確認テストは返却予定がないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。								
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	oie#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス、さまざまな現場でのレク支援について理解を深める(視聴覚教材使用)■								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。						0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。						0.5	時間
2	講義内容	レクリエーション支援の方法(アイスブレーキングのプログラムを体験する)■、グループわけ								
	該当到達目標	予習	自身がこれまで体験したレクリエーション活動について振り返る。						0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。						0.5	時間
3	講義内容	レクリエーション概論(レクリエーションの主旨と手段を理解する)■、レク支援の説明と日程抽選								
	該当到達目標	予習	テキスト第 1 章(p.9～17)を読んでおくこと。						0.5	時間

	1,2,3,4,5	復習	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。	0.5 時間
4	講義内容	楽しさと心の元気づくりの理論(楽しさをとおした心の元気づくりを理解する)		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章(p.19～32)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。	0.5 時間
5	講義内容	楽しさと心の元気づくりの理論(楽しさをとおした心の元気づくりを理解する)		
	該当到達目標	予習	テキスト第2章(p.33～36)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
6	講義内容	レクリエーション支援の理論(コミュニケーションと信頼関係づくりの理論)		
	該当到達目標	予習	テキスト第3章(p.37～43)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
7	講義内容	レクリエーション支援の理論(良好な集団づくりの理論)		
	該当到達目標	予習	テキスト第3章(p.44～49)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
8	講義内容	レクリエーション支援の理論(自主的、主体的に楽しむ力を高める理論)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.50～55)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
9	講義内容	レクリエーション支援の方法(信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.57～65)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
10	講義内容	レクリエーション支援の方法(ホスピタリティの体験的理解 その1・その2)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.66～69)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
11	講義内容	レクリエーション支援の方法(ハードル設定の習得)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.70～82)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
12	講義内容	レクリエーション支援の方法(アレンジ方法の習得)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.70～82)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
13	講義内容	レクリエーション支援の方法(CSSプロセスの習得)		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章(p.70～82)を読んでおくこと。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
14	講義内容	安全管理の方法■		
	該当到達目標	予習	これまでの自身のレク活動における安全管理について振り返る。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
15	講義内容	授業で学んだことの整理・確認テスト(または課題)・目標到達度の確認		
	該当到達目標	予習	これまでの授業を振り返る。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	確認テストについて、授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				15 時間
備考	【単位修得に必要な時間について】 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			
	【履修条件】 ・心を元気にする知識と技術を習得して人前に立つことを目指すため、積極的に参加する学生を求める。 ・学内外のレクリエーション活動に関心を持ち、問題意識をもつことや自らすすんで支援に関わる姿勢を求める。			
	【ルール】 レクリエーション論を学ぶうえで、信頼関係づくりの方法における「あたたかくもてなす意識と配慮」の観点より、次の行為は授業中にしないこと。①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホ使用、③私語、わがまま、ふざけた態度をとる、④C-learning「出席管理」の不正行為(発覚時には厳正に対処する)			

	■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	生物学(専門導入科目)							科目ナンバリング	HNI111	
英文名	Biology							講義形態	講義	
担当教員	下川 哲昭									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格	食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	4	専門的知識					コミュニケーション能力			
	3	問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○							
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 現代生物学の基礎的事項について専門教育を受ける前に必要な生物学的知識を解説する。ただしヒトにおける食品・栄養学を履修する事を前提にヒトの生物学につながる事項を中心に講義を行う。生命現象の基盤である「細胞」「組織」及び「骨代謝」「筋収縮機構」「皮膚」等の理解を深めることを目標とする。 ② 授業は、双方向性を重視し、活発な議論が展開されるように進める。									
到達目標	1. ヒトにおける生物としての普遍的なシステムと特徴について正確に理解することができる。 2. 資料を基に各々の生命現象の物質的・機能的側面を統合し他人に説明することができる。									
使用教材	教科書：管理栄養士のためのイラスト解剖生理学、開道貴信著、講談社、3,800 円＋税。 講義のスライドを適宜プリントとして配布する。									
参考文献										
評価方法	定期(筆記)試験 100%で評価する。60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	定期試験後に出題の意図と試験結果を掲示する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 1 号館 3 階・311 研究室 6 号館 1 階・栄養生理学研究室				メールアドレス (#→@)		shimokawa-n#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス、イントロダクション、生物学とは？								
	該当到達目標	予習	教科書の前書き、講義の構成を理解する。						1.5 時間	
	1	復習	講義内容、到達目標、成績評価法などを確認する。						1.5 時間	
2	講義内容	人体の基本構造 1:細胞								
	該当到達目標	予習	教科書 P1-P18 に目を通し不明な単語を調べておく。						1.5 時間	
	1,2	復習	ヒトの細胞の概要について覚える。						1.5 時間	
3	講義内容	人体の基本構造 2:細胞								
	該当到達目標	予習	教科書 P1-P18 に目を通し不明な単語を調べておく。						1.5 時間	
	1,2	復習	細胞の基本構造と細胞分裂について覚える。						1.5 時間	
4	講義内容	人体の基本構造 3:組織								
	該当到達目標	予習	教科書 P19-P28 に目を通し不明な単語を調べておく。						1.5 時間	
	1,2	復習	組織:上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織を覚える。						1.5 時間	
5	講義内容	人体の基本構造 4:体液とホメオスタシス								

令和6年度 健康栄養学科シラバス

	該当到達目標 1,2	予習	教科書 P187-P197 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	細胞外液と内液、ホメオスタシスについて覚える。	1.5 時間
6	該当到達目標 1,2	講義内容	運動器系 1: 骨	
		予習	教科書 P235-P238 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	骨の概要について覚える。	1.5 時間
7	該当到達目標 1,2	講義内容	運動器系 2: 骨の形、主な骨、骨の結合	
		予習	教科書 P239-P250 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	骨の形、主な骨、骨の結合について覚える。	1.5 時間
8	該当到達目標 1,2	講義内容	運動器系 3: 靱帯、軟骨	
		予習	教科書 P250-P251 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	靱帯、軟骨について覚える。	1.5 時間
9	該当到達目標 1,2	講義内容	運動器系 4: 骨の働き	
		予習	教科書 P251-P254 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	骨の働きと骨疾患について覚える。	1.5 時間
10	該当到達目標 1,2	講義内容	運動器系 5: 筋肉の概要	
		予習	教科書 P255-258 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	筋肉の概要について覚える。	1.5 時間
11	該当到達目標 1,2	講義内容	運動器系 6: 筋の形と種類、骨格筋の名称	
		予習	教科書 P258-259、P266-P268 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	筋の形と種類、代表的な骨格筋の名称について覚える。	1.5 時間
12	該当到達目標 1,2	講義内容	運動器系 7: 骨格筋の収縮とエネルギー代謝	
		予習	教科書 P260-P264 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	骨格筋の収縮とエネルギー代謝のメカニズムを覚える。	1.5 時間
13	該当到達目標 1,2	講義内容	運動器系 8: 筋のグルコース代謝	
		予習	教科書 P265-P266 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	筋のグルコース代謝について覚える。	1.5 時間
14	該当到達目標 1,2	講義内容	皮膚 9: 皮膚の概要、皮膚の付属器	
		予習	教科書 P317-P326 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	皮膚の概要、皮膚の付属器について覚える。	1.5 時間
15	該当到達目標 1,2	講義内容	皮膚 10: 皮膚の働き、体温と感覚	
		予習	教科書 P326-P330 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	皮膚の働き、体温と感覚の受容を覚える。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	化学(専門導入科目)						科目ナンバリング	HNI112		
英文名	Chemistry						講義形態	講義		
担当教員	内田 薫									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格	食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と職業倫理				多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	4	専門的知識				コミュニケーション能力				
	3	問題発見・解決力				自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 様々な栄養成分やそれらの生体内での化学反応について理解するために、化学の基礎知識を学ぶことは重要である。本科目では化学の分野から主に無機化学・物理化学・分析化学の基礎を習得する。 ② 教科書に沿って学ぶが、項目によってはドリルを活用し、基礎の基礎を理解してから進む。									
到達目標	1. 物質の成り立ちについて説明できる。 2. 物質の化学的性質について説明できる。 3. 物質の化学的変化とその表し方を説明できる。 4. 具体的な食品を通して、物質の状態とその変化を説明できる。									
使用教材	「食を中心とした化学 第 5 版」北原重登、塚本貞次、野中靖臣、水崎幸一著（東京教学社） 2023 年(3 刷)、2,200 円。 「栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル」小野廣紀、日比野久美子、吉澤みな子著（化学同人）2022 年、1,800 円。 上記の教材に沿って授業を進める。									
参考文献										
評価方法	定期試験 60%、小テスト 20%、受講態度 20%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テスト後にその都度解説する。									
オフィスアワー (研究室)	金曜 4 限 (6 号館 1 階分子栄養学研究室)				メールアドレス (#→@)	uchida-k#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	物質の成り立ち①								
	該当到達目標 1	予習	ドリル p30~47 を読み、練習問題を解く。						1.5	時間
		復習	物質の分類、原子の構造、電子配置について理解する。						1.5	時間
2	講義内容	物質の成り立ち②								
	該当到達目標 1,2	予習	ドリル p48~66 を読み、練習問題を解く。						1.5	時間
		復習	イオン結合、共有結合について理解する。						1.5	時間
3	講義内容	物質の成り立ち③、第 1 章のまとめ								
	該当到達目標 1,2	予習	ドリル p67~71 を読み、練習問題を解く。						1.0	時間
		復習	分子の極性、水素結合について理解する。第 1 章の練習問題を解く。						2.0	時間
4	講義内容	化学反応式、物質質量								

	該当到達目標 2,3	予習	ドリル p72~78, 85~88 を読み、練習問題を解く。	1.5 時間
		復習	化学反応、化学量、物質量について理解する。	1.5 時間
5	該当到達目標 2,3	講義内容 中和反応、酸化還元反応		
		予習	ドリル p98~105 を読み、練習問題を解く。	1.5 時間
	2,3	復習	中和反応、酸化還元反応、酸化数について理解する。	1.5 時間
		講義内容 反応熱、反応速度		
6	該当到達目標 2,3	予習	教科書 p32~38 に目を通す。	1.5 時間
		復習	熱化学方程式、化学反応の反応速度に影響する要因について理解する。	1.5 時間
7	該当到達目標 2,3	講義内容 可逆反応、化学平衡、第 2 章のまとめ		
		予習	教科書 p39~43 に目を通す。	1.0 時間
	2,3	復習	可逆反応、化学平衡について理解する。第 2 章の練習問題を解く。	2.0 時間
		講義内容 物質の三態		
8	該当到達目標 2,3,4	予習	教科書 p48~55 に目を通す。	1.5 時間
		復習	物質の三態、相互間の状態変化、蒸気圧について理解する。	1.5 時間
9	該当到達目標 3,4	講義内容 水溶液、溶解度、濃度		
		予習	ドリル p79~84 を読み、練習問題を解く。	1.5 時間
	3,4	復習	水溶液、溶解度、濃度について理解する。	1.5 時間
		講義内容 浸透圧、蒸気圧降下		
10	該当到達目標 3,4	予習	教科書 p61~65 に目を通す。	1.5 時間
		復習	浸透圧、蒸気圧降下について理解する。	1.5 時間
11	該当到達目標 3,4	講義内容 電解質、非電解質		
		予習	教科書 p66~71 に目を通す。	1.5 時間
	3,4	復習	電解質、非電解質、水和について理解する。	1.5 時間
		講義内容 酸と塩基①		
12	該当到達目標 3,4	予習	ドリル p89~97 を読み、練習問題を解く。	1.5 時間
		復習	電離度、水のイオン積、pH について理解する。	1.5 時間
13	該当到達目標 3,4	講義内容 酸と塩基②		
		予習	教科書 p72~77 に目を通す。	1.5 時間
	3,4	復習	中和反応、加水分解、緩衝液について理解する。	1.5 時間
		講義内容 コロイド溶液		
14	該当到達目標 4	予習	教科書 p78~83 に目を通す。	1.5 時間
		復習	コロイド溶液とその性質について理解する。	1.5 時間
15	該当到達目標 1,2,3,4	第 3 章のまとめ		
		予習	第 3 章の練習問題(基礎問題)を解く。	1.5 時間
		復習	第 3 章の練習問題(発展問題)を解く。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施する場合は、C-Learning 上の教材や課題を使用することもある。 ドリルは、予習で指定していない部分も自主的に目を通し活用することが望ましい。			

科目名	有機化学(専門導入科目)							科目 ナンバリング	HNI113	
英文名	Organic Chemistry							講義形態	講義	
担当教員	内田 薫									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする 資格	食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針 との対応	3	豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	4	専門的知識					コミュニケーション能力			
	3	問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 栄養学・生化学・食品学に直結する有機化学の基礎知識を、身近なものを例に習得する。本科目では有機化合物の基本となる官能基から、食品成分・生命活動に関する物質の構造や性質にわたって学ぶ。 ② 教科書に沿って学ぶが、補足内容はプリントを使用する。									
到達目標	1. 炭化水素の分類と命名法、それぞれの性質、代表的な化合物を説明できる。 2. 官能基の種類と命名法、それぞれの性質、代表的な化合物を説明できる。 3. 異性体や立体化学について説明できる。 4. 栄養素・食品成分の種類・分類を説明できる。 5. 栄養素・食品成分の構造や性質を説明できる。									
使用教材	「食を中心とした化学 第 5 版」北原重登、塚本貞次、野中靖臣、水崎幸一 著（東京化学社） 2023 年(3 刷)、2,200 円。 上記の教材に沿って授業を進める。									
参考文献	「食と栄養を学ぶための化学」有井康博、川畑球一、升井洋至、吉岡泰淳著(化学同人) 2020 年、 2,200 円									
評価方法	定期試験 70%、小テスト 20%、受講態度 10%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	小テスト後にその都度解説する。									
オフィスアワー (研究室)	金曜 5 限 (6 号館 1 階分子栄養学研究室)				メールアドレス (#→@)		uchida-k#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	有機化合物の特徴								
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章 4.1 に目を通す。						1.0 時間	
	1	復習	教科書要点 45~46 を理解し、表をよく見直す。						1.5 時間	
2	講義内容	炭化水素①								
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章 4.2(1), (2)に目を通す。						1.5 時間	
	1	復習	教科書例題 4-1, 4-2 を解き直す。要点 47~49 を理解する。						2.0 時間	
3	講義内容	炭化水素②								
	該当到達目標	予習	教科書第 4 章 4.2(3)に目を通す。						1.0 時間	
	1	復習	教科書例題 4-3 を解き直す。要点 50 を理解する。						2.0 時間	
4	講義内容	混成軌道								

	該当到達目標 1	予習	教科書第4章4.3に目を通す。	1.5 時間
		復習	教科書要点51~53を理解し、図をよく見直す。	2.0 時間
5	講義内容	アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン		
	該当到達目標 2	予習	教科書第4章4.4に目を通す。	1.5 時間
		復習	教科書例題4-4, 4-5を解き直す。要点54~56を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	カルボン酸		
	該当到達目標 2	予習	教科書第4章4.5に目を通す。	1.0 時間
		復習	教科書要点57を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	エステル、アミン		
	該当到達目標 2	予習	教科書第4章4.6, 4.7に目を通す。	1.0 時間
		復習	教科書例題4-6を解き直す。要点58~60を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	異性体、第4章のまとめ		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書第4章4.8に目を通す。	1.5 時間
		復習	教科書例題4-7を解き直す。第4章の練習問題を解く。	2.5 時間
9	講義内容	炭水化物①		
	該当到達目標 3,4,5	予習	教科書第5章5.1(1)a, bに目を通す。	1.5 時間
		復習	教科書要点63~65を理解し、図表をよく見直す。	1.5 時間
10	講義内容	炭水化物②		
	該当到達目標 4,5	予習	教科書第5章5.1(1)c, (2), (3)に目を通す。	1.5 時間
		復習	教科書要点66を理解し、図表をよく見直す。	1.5 時間
11	講義内容	脂質		
	該当到達目標 4,5	予習	教科書第5章5.2に目を通す。	1.5 時間
		復習	教科書要点67~69を理解し、図表をよく見直す。	1.5 時間
12	講義内容	タンパク質、アミノ酸		
	該当到達目標 3,4,5	予習	教科書第5章5.3に目を通す。	1.5 時間
		復習	教科書要点70~71を理解し、図表をよく見直す。	1.5 時間
13	講義内容	酵素		
	該当到達目標 4,5	予習	教科書第5章5.4に目を通す。	1.0 時間
		復習	教科書要点72を理解し、図表をよく見直す。	1.5 時間
14	講義内容	核酸		
	該当到達目標 4,5	予習	教科書第5章5.5に目を通す。	1.0 時間
		復習	教科書要点73~74を理解し、図表をよく見直す。	1.5 時間
15	講義内容	ビタミン、第5章のまとめ		
	該当到達目標 4,5	予習	教科書第5章5.6に目を通す。	1.0 時間
		復習	教科書要点75を理解し、図表をよく見直す。第5章の練習問題を解く。	2.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	この科目は、「化学」を履修していることが望ましい。 オンラインで実施する場合は、C-Learning上の教材や課題を使用することもある。			

科目名	管理栄養士論Ⅰ（専門導入科目）							科目ナンバリング	HNI114	
英文名	Introduction to Registered Dietitian as profession of Nutrition and Dietetics							講義形態	講義	
担当教員	五十嵐 美絵 他（副専攻担当：未定）									
科目に関連した実務経験	管理栄養士として保健所、病院に勤務（経験） 病院栄養士として病院に勤務（経験） スポーツ栄養関連業務経験（現在）									
学年・開講期	1 年 通年	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	2	専門的知識				1	コミュニケーション能力			
	1	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	② ③									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○		○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	①栄養学の個別の知識・技術だけでなく、栄養学を総合的に実践するための資質・能力とはどのようなものかを包括的に学ぶ。									
①講義の目標	②同学年・他学年との積極的な交流を取り入れ、豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につける。									
②講義の実施方法	また、アクティブラーニング形式の授業を取り入れることで、問題発見・解決力、多様な社会・背景を理解し対応する能力、自律的に生涯にわたって学習する能力を身につける。									
到達目標	1. 管理栄養士の歴史、使命、役割を理解できる 2. 栄養の専門職としての職業倫理が理解できる■ 3. 管理栄養士として必要な個人の多様性や社会構造を理解することができる■ 4. 専門職として求められる 10 の基本的な資質・能力を理解できる■ 5. 管理栄養士の連携・協働を医療、行政、学校などの分野別に説明できる■ 6. 管理栄養士として求められるチームワークを発揮できる■ 7. 管理栄養士として求められるリーダーシップを発揮できる■ 8. 管理栄養士として求められるコミュニケーションをとることができる■ 9. 適切な栄養管理を行うために食の多様性と他者の価値観を理解できる■ 10. 栄養の専門職として、自らのキャリアデザインを考え実行することの重要性を理解できる■									
使用教材	担当教員作成の資料、プリント									
参考文献	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠「管理栄養士論」 NPO 法人日本栄養改善学会監修 医歯薬出版株式会社 IBSN978-4-263-72028-8									
評価方法	授業態度 30%、レポート、課題、試験 70%									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業中に解説を行う。									
オフィスアワー （研究室）	質問等は授業開始前又は後に応じる （1号館3階305研究室）				メールアドレス （#→@）	igarashi#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	健康栄養学科の学位授与方針と到達度 DP 達成に向けた目標設定 管理栄養士に求められる自利利他の精神								
	該当到達目標	予習	事前にシラバスを読み、DP の達成度を確認する						1.5	時間
	68910	復習	今期の自分自身の学位授与方針達成に向けたプランを作成する						1.5	時間
2	講義内容	管理栄養士のプロフェッショナリズム■ ・管理栄養士の歴史、使命、役割、職業倫理								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで講義の目標などを確認しておく						1.5	時間

	124	復習	管理栄養士が働いている場所、内容を調べておく	1.5 時間
3	講義内容	栄養学の知識と課題対応能力■ ・栄養学の定義と歴史 ・人と栄養の関係 ・食の情報リテラシー		
	該当到達目標	予習	栄養学の歴史、情報リテラシーなどを予習する	1.5 時間
	34	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
4	講義内容	管理栄養士に必要な個人と社会を見る目■ ・個人の多様性の管理と栄養管理の実践 ・社会構造の理解と調整能力		
	該当到達目標	予習	個人の多様性とは何か 現在の社会構造の特徴を予習する	1.5 時間
	349	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
5	講義内容	管理栄養士に必要な専門職としての能力(1)■ ・コミュニケーションの役割 ・安全な栄養・食事管理 ・アドボカシー能力		
	該当到達目標	予習	栄養の専門職としての能力は何か考える	1.5 時間
	48	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
6	講義内容	管理栄養士に必要な専門職としての能力(2)■ ・現場の課題と研究の繋がり ・生涯にわたって自律的に学ぶ		
	該当到達目標	予習	栄養の専門職としての能力は何か考える	1.5 時間
	410	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
7	講義内容	幅広い分野における管理栄養士の役割(病院、福祉施設での連携・協働)■		
	該当到達目標	予習	病院、福祉施設の概要、特徴を調べておく	1.5 時間
	5	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
8	講義内容	幅広い分野における管理栄養士の役割(行政での連携・協働)■		
	該当到達目標	予習	保健所、保健センターの概要、特徴を調べておく	1.5 時間
	5	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
9	講義内容	幅広い分野における管理栄養士の役割(スポーツ栄養等新しい分野での連携・協働)■		
	該当到達目標	予習	スポーツ栄養等新しい分野にはどのようなものがあるかを調べておく	1.5 時間
	5	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
10	講義内容	学年間交流 1 学科スポーツレクリエーション		
	該当到達目標	予習	交流のための企画 実施	1.5 時間
	6789	復習	実施後の評価 改善	1.5 時間
11	講義内容	学年間交流 2 先輩・後輩と語る		
	該当到達目標	予習	質問事項を検討する	1.5 時間
	6789	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
12	講義内容	栄養学教育セミナーの参加		
	該当到達目標	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
	910	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
13	講義内容	SDGsと管理栄養士の活動 学年間グループディスカッション		
	該当到達目標	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
	8910	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
14	講義内容	卒業研究への参加		
	該当到達目標	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
	8910	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
15	講義内容	健康栄養学科の学位授与方針と達成度 セルフ DP アセスメントチェックの実施		
	該当到達目標	予習	シラバス、履修ガイド、配布資料等に目を通す	1.5 時間
	68910	復習	実施した内容をまとめる	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修や課題の作成等で各自必要な学習時間を補完すること。 ・相談・質問がある場合は予めアポイントメントを取ること。 ・オンラインの場合:状況に応じ、講義内容、評価、試験方法は変更することがある。			

・講義内容、評価、試験の方法などは、授業開始時に文書で明示する。

本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定(N)」となり、GPA の算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時に CAP のカウントには含めない。

・本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目になっているが、副専攻用として別途開講予定のため、履修希望者は副専攻専用のシラバスを参照すること。

■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名		管理栄養士実践演習(専門導入科目)					科目ナンバリング	HNI115		
英文名		Basic Introduction for Registered Dietitians					講義形態	演習		
担当教員		村松 芳多子、内田 薫、佐藤 清香								
科目に関連した実務経験										
学年・開講期		1 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と職業倫理			1	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	2	専門的知識			2	コミュニケーション能力				
	2	問題発見・解決力			1	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連		③ ④								
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		・ 社会における管理栄養士の使命や役割および活動分野の理解を通して管理栄養士を目指す気持ちを育むことを目的とする。 ・ 専門科目を学ぶ前の管理栄養士を目指す動機づけとした学修を行う。 ・ 関連する教員がオムニバスで行う。教員が作成したプリントに沿ってパワーポイントを使用し授業を行う。自分の身体状況調査、食事調査を行い、それをもとにグループでディスカッションをして理解を深める。基礎化学については、教員作成のプリントによる説明の後、学生間で話し合って考えていく。								
到達目標		1. 日常生活の中で、食べ物、人間のからだの働きへの関心を深めることができる。 2. 自分の食生活を振り返り、より良い食生活を実践する力を身につけることができる。 3. 栄養学・食品学、管理栄養士・栄養士活動に関する基本を理解することができる。 4. 管理栄養士・栄養士の使命、役割を説明することができる。 5. 管理栄養士に必要な基礎的あるいは実践的な計算方法を理解することができる。								
使用教材		・ 担当教員作成のプリント ・ 「日本人の食事摂取基準 2020 年版」 伊藤貞嘉、佐々木敏監修(第一出版) ISBN978-4-8041-1408-8 ・ 「日本食品標準成分表 2020 年版(八訂)」文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会報告 ISBN978-4-904225-28-8 ・ 「オールガイド食品成分表 2024」, 実教出版編修部(実教出版)								
参考文献		・「栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル」小野廣紀 他(化学同人)								
評価方法		詳細は、講義のはじめに説明する。 (授業態度 20%、各担当教員が行う確認テスト・レポートなどの課題 80%)								
課題・評価に対するフィードバック方法		授業中に解説を行う。								
オフィスアワー (研究室)		備考参照			メールアドレス (#→@)		備考参照			
1	講義内容	オリエンテーション、グループ分け、自分の食事を知る 1								
	該当到達目標	予習	シラバスを読んで講義の目標などを確認しておく						1.5 時間	

	1,2,3,4,5	復習	管理栄養士が働いている場所等を調べる 食事を記録する	2 時間
2	講義内容	自分の生活(身体活動)を知る		
	該当到達目標	予習	運動不足が原因となる疾病には何があるかを考えてくる	1 時間
	1,2	復習	自分の身体活動状況を調査する	1 時間
3	講義内容	自分の食事を知る 2		
	該当到達目標	予習	「日本人の食事摂取基準」の総論を読む	2 時間
	1,2	復習	食事を秤量及び目視による記録と、簡易自記式食事歴質問票の記入を行う	1 時間
4	講義内容	自分の食事を知る 3 (日本食品標準成分表・日本人の食事摂取基準)		
	該当到達目標	予習	食事調査法の違いを整理する	1 時間
	1,2,3	復習	1 日目の食事調査記録の栄養計算を行う	3 時間
5	講義内容	自分の食事を知る 4 (日本食品標準成分表・日本人の食事摂取基準)		
	該当到達目標	予習	食事調査法の違いを整理する	1 時間
	1,2,4	復習	1 日目の食事調査記録の栄養計算を行う	2 時間
6	講義内容	自分の食事を知る 5 (日本食品標準成分表・日本人の食事摂取基準)		
	該当到達目標	予習	「日本食品標準成分表」第 1 章説明を読む	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	2 日目の食事調査記録の栄養計算と、集計を行う	2.5 時間
7	講義内容	グループワーク 1 (自分の生活を振り返る)		
	該当到達目標	予習	調査した身体活動状況からエネルギー消費量を求める	2 時間
	1,2	復習	自分の身体活動の特徴をまとめ考察する	1 時間
8	講義内容	管理栄養士のための基礎化学 1 (単位の接頭語・有効数字)		
	該当到達目標	予習	SI 接頭語や有効数字の定義を調べておく	0.5 時間
	3,5	復習	単位と接頭語の組み合わせや有効数字の使い方を理解する	2 時間
9	講義内容	管理栄養士のための基礎化学 2 (物質質量)		
	該当到達目標	予習	物質質量とモル濃度の関係を確認する	1.5 時間
	3,5	復習	試薬調製の計算について理解する	1.5 時間
10	講義内容	管理栄養士のための基礎化学 3 (力価)		
	該当到達目標	予習	力価について調べておく	1 時間
	3,5	復習	真の濃度、実験器具の精度について理解する	1.5 時間
11	講義内容	管理栄養士のための基礎化学 4 (パーセント濃度)		
	該当到達目標	予習	百分率、密度について確認する	1.5 時間
	1,3,5	復習	調味%について理解する	2 時間
12	講義内容	管理栄養士のための基礎化学 5 (含有率・含有量)		
	該当到達目標	予習	含有率、塩分濃度について調べておく	1.5 時間
	1,3,5	復習	汁物中の塩分含有率や試薬中の特定物質の含有量について理解する	2 時間
13	講義内容	管理栄養士のための基礎化学 6 (溶液の希釈)		
	該当到達目標	予習	パーセント濃度やモル濃度について確認する	1.5 時間
	3,5	復習	試薬調製における希釈について理解する	1.5 時間
14	講義内容	自分の食事を知る 6 (日本食品標準成分表・日本人の食事摂取基準)		
	該当到達目標	予習	2 日間の食事調査記録の栄養計算と集計等の入力終了していること	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	食事調査法の違いを整理する	1 時間
15	講義内容	グループワーク 2 (自分の食生活を振り返る)		
	該当到達目標	予習	食事摂取状況に関する調査のまとめと食事摂取基準の活用法を確認する	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	「まとめ 自分の食生活を振り返る」の記載と提出	1 時間

合計時間(予習・復習)		45 時間
備考	オフィスアワー ● 村松芳多子:講義のある曜日の午後(5, 6 時限)(1 号館 4 階 404 研究室) メールアドレス:muramatsu#takasaki-u.ac.jp ● 内田薫:講義のある曜日の午後(4, 5 時限)(6 号館 1 階 分子栄養学研究室) メールアドレス:uchida-k#takasaki-u.ac.jp ● 佐藤 清香: 未定 メールアドレス:未定 ・ 相談・質問がある場合は予めアポイントメントを取ること。 ・ 平日の予習・復習時間の不足分は、土日祝日等に必ず補うこと。課題は、記載の平日時間だけでは終了できません。 ・ オンラインの場合:状況に応じ、講義内容、評価、試験方法は変更することがある。 ・ 講義内容、評価、試験の方法などは、授業開始時に文書で明示する。	

科目名	管理栄養士基礎実習(専門導入科目)						科目ナンバリング	HNI116		
英文名	Practical Training in Registered Dietitians						講義形態	実習		
担当教員	河原田 律子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数	選択 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と職業倫理				多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	4	専門的知識			1	コミュニケーション能力				
	2	問題発見・解決力				自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○			○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	2 年生前期の段階で、管理栄養士がどのような場(病院、福祉施設、学校など)でどのように活躍しているのかを見学・体験することを目的としている。3 年次以降の「臨地実習Ⅰ～Ⅳ」がスムーズに行えるようにする。 夏休み期間に病院、福祉施設、障害者施設、保育園での実習を行う。事前学習のなかで、病院や福祉施設の管理栄養士の業務を理解することで、実習中に何を学びたいか目的をもって実習に臨む。									
到達目標	1. 管理栄養士という専門職に求められるニーズ(どのような技術や知識)を説明できる。 2. 現場体験を踏まえて、専門科目への学習意欲を高めることができる。 3. 専門職に就くための意識を高めることができる。									
使用教材	実習ノート(実習前に配布)・配布資料									
参考文献										
評価方法	実習態度や取り組み等 50%、課題レポート 30%、実習ノート 20%、巡回指導教員からの報告なども含め総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	実習ノートを提出期限内に提出した学生には、授業担当者からのコメントを付して返却する。									
オフィスアワー (研究室)	木曜日 1-4 時限 1 号館 406 研究室/臨床栄養研究室 質問はメールでも受付ける。				メールアドレス (#→@)		nasu#takasaki-u.ac.jp			
講義内容 1,2,3	学内(実習事前学習) 実習は夏季休業中に行うので、前期のあいている時間に事前学習を行う 1)実習の目的(身につけたいことは何か) 2)実習先の選定(実習先の概要) 3)実習現場におけるマナー 4)実習計画書の作成 実習体験 5 か所の実習先(5 日間)において、1 日あたり 9 時間(1 時間を 45 分として換算)通い、上記の到達目標達成に向けて実習を受講する。 1)管理栄養士の役割 2)管理栄養士の業務内容									

	3)管理栄養士のニーズ 4)管理栄養士の資質	
	学内(実習後学習) 1)実習ノートの作成 2)実習の反省と改善	
	予習	実習先の特徴を調べ、どのような対象者に対する施設かを知り、何を学びたいか考える。
	復習	実習内容の復習、実習ノートの作成・提出。
合計時間(予習・復習)		4.0 時間
備考	予習復習時間の不足分は、各自補完すること。 夏休み中の学外での実習が不可能になった場合、総合病院や福祉施設の管理栄養士による①それぞれの職場での管理栄養士の業務内容などについて講義をして頂き、動画あるいは Zoom で視聴する。②さらに実習課題を学内で行い、評価をすることで実習におきかえる。	

科目名	栄養情報処理論(専門基幹科目)							科目ナンバリング	HNB211	
英文名	Nutrition Information Processing							講義形態	講義	
担当教員										
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	3	専門的知識				1	コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				2	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○									
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	栄養学の専門領域および関連領域の情報を収集し、収集した情報を評価する能力を習得する。また調査・研究等で得られたデータを適切な統計学的手法を用いて分析し、正しい評価ができるような知識と技術を修得する。 授業は、板書と配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。									
到達目標	1.データの特性を考えた適切な集計方法や統計処理方法を選択できる。 2.課題解決に向けた目標を設定し、研究計画を立てることができる。									
使用教材	教科書はないが、講義に必要な資料は毎回作成し配布する。									
参考文献										
評価方法	期末試験(筆記試験)100%で評価する。 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題提出物は、コメントをつけて返却し解説する。									
オフィスアワー (研究室)					メールアドレス (#→@)					
1	講義内容	栄養情報処理とは								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解しておくこと。						0.5	時間
	1	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べること。						1	時間
2	講義内容	統計の基礎(1) データの種類								
	該当到達目標	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。						1.5	時間
	1	復習	授業の内容について要点をまとめ、練習問題などは繰り返し解くこと。						1.5	時間
3	講義内容	統計の基礎(2) データの表示方法								
	該当到達目標	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。						1.5	時間
	1	復習	授業の内容について要点をまとめ、練習問題などは繰り返し解くこと。						1.5	時間
4	講義内容	統計の基礎(3) 代表値								
	該当到達目標	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。						1.5	時間
	1	復習	授業の内容について要点をまとめ、練習問題などは繰り返し解くこと。						1.5	時間
5	講義内容	統計の基礎(4) 散布度								

令和6年度 健康栄養学科シラバス

	該当到達目標 1	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
		復習	授業の内容について要点をまとめ、練習問題などは繰り返し解くこと。	1.5 時間
6	講義内容	統計の基礎(5) データの分布		
	該当到達目標 1	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
		復習	授業の内容について要点をまとめ、練習問題などは繰り返し解くこと。	1.5 時間
7	講義内容	統計の基礎(6) クロス集計		
	該当到達目標 1	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
		復習	授業の内容について要点をまとめ、練習問題などは繰り返し解くこと。	1.5 時間
8	講義内容	統計の基礎(7) 平均値の推定		
	該当到達目標 1	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
		復習	授業の内容について要点をまとめ、練習問題などは繰り返し解くこと。	1.5 時間
9	講義内容	統計の基礎(8) 比率の推定		
	該当到達目標 1	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
		復習	授業の内容について要点をまとめ、練習問題などは繰り返し解くこと。	1.5 時間
10	講義内容	統計の基礎(9) 仮説検定の考え方		
	該当到達目標 1	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
		復習	授業の内容について要点をまとめ、練習問題などは繰り返し解くこと。	1.5 時間
11	講義内容	調査の進め方		
	該当到達目標 2	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
		復習	授業の内容について要点をまとめ、練習問題などは繰り返し解くこと。	1.5 時間
12	講義内容	調査対象の選定		
	該当到達目標 2	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
		復習	授業の内容について要点をまとめ、練習問題などは繰り返し解くこと。	1.5 時間
13	講義内容	調査票の作成		
	該当到達目標 2	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
		復習	授業の内容について要点をまとめ、練習問題などは繰り返し解くこと。	1.5 時間
14	講義内容	食事調査		
	該当到達目標 2	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
		復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べること。	1.5 時間
15	講義内容	健康情報の信頼性		
	該当到達目標 1,2	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
		復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べること。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				43.5 時間
備考	記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。			

科目名	栄養情報処理実習(専門基幹科目)						科目ナンバリング	HNB212		
英文名	Nutrition Information Processing [Practice]						講義形態	実習		
担当教員										
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格	管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	3	専門的知識				1	コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				2	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○				○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	コンピュータを用いて、栄養学分野のデータの扱い方、集計方法、解析方法等について学び、データを客観的に比較・検討するための知識と技術を修得し、栄養情報を正しく有効に活用する能力を身につける。 授業は、ICT と配布印刷物を用いて方法を説明したのち、実技を行う形式で進める。									
到達目標	1. 授業で取り上げた専門用語の説明ができる。 2. コンピュータを用いて、データの整理、集計、グラフ化ができる。 3. コンピュータを用いて、基本的な統計処理、解析ができる。 4. コンピュータを用いて、プレゼンテーションのための資料を作成できる。									
使用教材	教科書はないが、授業に必要な資料は毎回作成し配布する。									
参考文献										
評価方法	期末試験 90%、課題 10%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業中に提出した課題については、次の授業で解説する。									
オフィスアワー (研究室)					メールアドレス (#→@)					
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する。						0.5	時間
	1	復習	授業の内容を見直し、操作を確実に覚える。						1	時間
2	講義内容	データの種類と基礎統計量								
	該当到達目標	予習	技術的な予習は必要ないが、事前に示したキーワードについて調べる。						0.5	時間
	1	復習	授業の内容を見直し、操作を確実に覚える。						1	時間
3	講義内容	データの整理・集計(1) 論理関数								
	該当到達目標	予習	技術的な予習は必要ないが、事前に示したキーワードについて調べる。						0.5	時間
	1,2	復習	授業の内容を見直し、操作を確実に覚える。						1	時間
4	講義内容	データの整理・集計(2) ピボットテーブル								
	該当到達目標	予習	技術的な予習は必要ないが、事前に示したキーワードについて調べる。						0.5	時間

	1,2	復習	授業の内容を見直し、操作を確実に覚える。	1 時間
5	講義内容	統計グラフの作成		
	該当到達目標	予習	技術的な予習は必要ないが、事前に示したキーワードについて調べる。	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を見直し、操作を確実に覚える。	1 時間
6	講義内容	統計分析(1) 母平均の差の検定、分散分析		
	該当到達目標	予習	技術的な予習は必要ないが、事前に示したキーワードについて調べる。	0.5 時間
	1,3	復習	授業の内容を見直し、操作を確実に覚える。	1 時間
7	講義内容	統計分析(2) 相関分析、回帰分析		
	該当到達目標	予習	技術的な予習は必要ないが、事前に示したキーワードについて調べる。	0.5 時間
	1,3	復習	授業の内容を見直し、操作を確実に覚える。	1 時間
8	講義内容	統計分析(3) 区間推定		
	該当到達目標	予習	技術的な予習は必要ないが、事前に示したキーワードについて調べる。	0.5 時間
	1,3	復習	授業の内容を見直し、操作を確実に覚える。	1 時間
9	講義内容	差し込み印刷の応用		
	該当到達目標	予習	技術的な予習は必要ないが、事前に示したキーワードについて調べる。	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を見直し、操作を確実に覚える。	1 時間
10	講義内容	「栄養計算ソフト」の活用		
	該当到達目標	予習	技術的な予習は必要ないが、事前に示したキーワードについて調べる。	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を見直し、操作を確実に覚える。	1 時間
11	講義内容	プレゼンテーション資料の作成(1)		
	該当到達目標	予習	技術的な予習は必要ないが、事前に示したキーワードについて調べる。	0.5 時間
	1,4	復習	授業の内容を見直し、操作を確実に覚える。	1 時間
12	講義内容	プレゼンテーション資料の作成(2)		
	該当到達目標	予習	技術的な予習は必要ないが、事前に示したキーワードについて調べる。	0.5 時間
	1,4	復習	授業の内容を見直し、操作を確実に覚える。	1 時間
13	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
14	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
15	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
合計時間(予習・復習)				18 時間
備考	情報リテラシーⅢ(1年生・前期)を履修していることが望ましい。			

科目名	公衆衛生学Ⅰ（専門基幹科目）						科目ナンバリング	HNB213		
英文名	Public HealthⅠ						講義形態	講義		
担当教員										
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2年 前期		選必・単位数	必修 2単位						
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	3	専門的知識				コミュニケーション能力				
	2	問題発見・解決力			2	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGsとの関連	②③④									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○									
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	公衆衛生学は人間集団を対象として、疾病の予防、健康の維持・増進、福祉の向上を図り、QOLの向上に寄与することを目的とした学問である。本講義では、社会的要因が健康に及ぼす影響を理解し、現代社会における健康問題と対策について学ぶ。また、健康状態とその規定要因を評価し、健康の維持・増進や疾病予防に役立てるための知識や考え方および方法論を学習する。 授業は、板書と教科書・配布印刷物、視聴覚メディア(DVD)を用いて講義形式で進める。									
到達目標	1. 健康の概念と社会との関わりについて説明できる。 2. 健康の現状と問題について説明できる。 3. 健康状態や疾病の測定と評価ができる。 4. 生活習慣と主要疾患の現状と対策について説明できる。 5. 健康に関わる社会制度と保健対策について説明できる。									
使用教材	教科書：「社会・環境と健康」、辻一郎／吉池信男編集、南江堂(定価 3200 円)と講義に必要な資料は、適宜作成し配布する。									
参考文献										
評価方法	期末試験(筆記試験)100%で評価する。 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出物は返却時に解説をする。 期末試験については、問題の出題意図を説明する。									
オフィスアワー (研究室)					メールアドレス (#→@)					
1	講義内容	公衆衛生学概論								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解しておくこと。						1.5 時間	
	1	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。						1.5 時間	
2	講義内容	人口静態・動態統計								
	該当到達目標	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。						1.5 時間	
	2	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。						1.5 時間	
3	講義内容	死亡統計と傷病統計								
	該当到達目標	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。						1.5 時間	

	2	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
4	講義内容	疫学(1) 疫学概念と歴史		
	該当到達目標	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
	3	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
5	講義内容	疫学(2) 疫学指標と研究デザイン		
	該当到達目標	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
	3	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
6	講義内容	疫学(3) スクリーニング		
	該当到達目標	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
	3	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
7	講義内容	ライフスタイルの現状と対策		
	該当到達目標	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
	4	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
8	講義内容	主要疾患の疫学と予防対策		
	該当到達目標	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
	4	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
9	講義内容	保健・医療・福祉のしくみ		
	該当到達目標	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
	5	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
10	講義内容	母子保健		
	該当到達目標	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
	5	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
11	講義内容	学校保健		
	該当到達目標	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
	5	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
12	講義内容	感染症の予防と対策		
	該当到達目標	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
	5	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
13	講義内容	精神保健		
	該当到達目標	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
	5	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
14	講義内容	歯科保健		
	該当到達目標	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
	5	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
15	講義内容	国際保健		
	該当到達目標	予習	事前に示すキーワードや専門用語の意味を理解すること。	1.5 時間
	5	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	日頃から、新聞やテレビが報じる公衆衛生に関する情報に関心を持つことにより、授業の理解が深まる。			

科目名	公衆衛生学Ⅱ（専門基幹科目）							科目ナンバリング	HNB214	
英文名	Public Health Ⅱ							講義形態	講義	
担当教員										
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格	管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	3	専門的知識					コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				2	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	② ③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○			○						
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	公衆衛生学は人間集団を対象として、疾病の予防、健康の維持・増進、福祉の向上を図り、QOL の向上に寄与することを目的とした学問である。本講義では、人々の健康の維持・増進と環境の関わりを理解するために必要な知識を修得し、健康に関わる社会制度、労働者の保健対策について理解する。 授業は、板書と配布印刷物を用いて講義形式で進める。									
到達目標	1. 人間を取り巻く環境要因と健康障害について説明できる。 2. 労働者の健康の現状と問題および産業保健対策について説明できる。 3. わが国における社会保障制度の仕組みについて説明ができる。									
使用教材	講義に必要な資料は、適宜作成し配布する。									
参考文献										
評価方法	期末試験（筆記試験）100％で評価する。 60％以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出物は返却時に解説をする。 期末試験については、問題の出題意図を説明する。									
オフィスアワー（研究室）					メールアドレス（#→@）					
1	講義内容	生態系と人々の生活								
	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章の関連分野に目を通す。						1.5 時間	
	1	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。						1.5 時間	
2	講義内容	環境汚染と健康影響								
	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章の関連分野に目を通す。						1.5 時間	
	1	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。						1.5 時間	
3	講義内容	環境衛生（1）気候・大気・圧力・温度								
	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章の関連分野に目を通す。						1.5 時間	
	1	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。						1.5 時間	
4	講義内容	環境衛生（2）騒音・放射線・住宅環境								
	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章の関連分野に目を通す。						1.5 時間	

	1	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
5	講義内容	産業保健(1) 産業保健の目的		
	該当到達目標	予習	教科書の第 12 章の関連分野に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
6	講義内容	産業保健(2) 労働衛生管理		
	該当到達目標	予習	教科書の第 12 章の関連分野に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
7	講義内容	産業保健(3) 職業病		
	該当到達目標	予習	教科書の第 12 章の関連分野に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
8	講義内容	社会保障制度		
	該当到達目標	予習	教科書の第 7 章の関連分野に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
9	講義内容	医療制度(1) 医療保険制度		
	該当到達目標	予習	教科書の第 7 章の関連分野に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
10	講義内容	医療制度(2) 国民医療費		
	該当到達目標	予習	教科書の第 7 章の関連分野に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
11	講義内容	介護保険制度(1) 介護保険制度の概要		
	該当到達目標	予習	教科書の第 11 章の関連分野に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
12	講義内容	介護保険制度(2) 介護保険サービス		
	該当到達目標	予習	教科書の第 11 章の関連分野に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
13	講義内容	高齢者福祉		
	該当到達目標	予習	教科書の第 11 章の関連分野に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
14	講義内容	高齢者保健		
	該当到達目標	予習	教科書の第 11 章の関連分野に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
15	講義内容	衛生関係法規のまとめ		
	該当到達目標	予習	教科書の関連分野に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	授業の内容について要点をまとめ、関連事項について調べる。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	日頃から、新聞やテレビが報じる公衆衛生に関する情報に関心を持つことにより、授業の理解が深まる。			

科目名	解剖生理学Ⅰ（専門基幹科目）							科目 ナンバリング	HNB221	
英文名	Anatomy and PhysiologyⅠ							講義形態	講義	
担当教員	下川 哲昭									
科目に関連した 実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	必修 2 単位						
履修を必須とする 資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針 との対応		豊かな人間性と職業倫理			1	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	6	専門的知識				コミュニケーション能力				
	2	問題発見・解決力			1	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング 実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○							
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 正常な人体の仕組みについて、個体とその機能を構成する細胞レベルから組織・器官レベルまでの構造や機能を学修する。「解剖生理学Ⅰ」では、血液と免疫系の詳細、バイタルサインの基本である循環・呼吸器系、さらに生体調節の機能と維持に大きく関わる内分泌系さらに生殖器系を講義する。 ② 授業は、双方向性を重視し、活発な議論が展開されるように進める。									
到達目標	1. 人体の構成および構造の詳細を系統的に理解し説明できる。 2. ヒトにおける基本的活動（血圧や体液の恒常性の維持、呼吸、血流、等）を理解し他人に説明することができる。 3. 生理機能破綻による疾患の基本的な発症メカニズムを理解し説明することができる。									
使用教材	教科書：管理栄養士のためのイラスト解剖生理学、開道貴信著、講談社、3,800 円＋税。 講義のスライドを適宜プリントとして配布する。									
参考文献										
評価方法	定期（筆記）試験 100％で評価する。60％以上を合格とする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	定期試験後に出題の意図と試験結果を掲示する。									
オフィスアワー （研究室）	月曜日 1 号館 3 階・311 研究室 6 号館 1 階・栄養生理学研究室				メールアドレス （#→@）		shimokawa-n#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	血液学（1）血液、造血								
	該当到達目標	予習	教科書 P132-P136 に目を通し不明な単語を調べておく。						1.5 時間	
	1,2	復習	血液概要と造血についてその構成とメカニズムを理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	血液学（2）血漿、血球								
	該当到達目標	予習	教科書 P136-P147 に目を通し不明な単語を調べておく。						1.5 時間	
	1,2	復習	血漿、血球を理解する。						1.5 時間	
3	講義内容	免疫（1）免疫の種類								
	該当到達目標	予習	教科書 P148-P164 に目を通し不明な単語を調べておく。						1.5 時間	
	1,2	復習	免疫の種類を覚える。						1.5 時間	
4	講義内容	免疫（2）アレルギーと免疫不全								

令和6年度 健康栄養学科シラバス

	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 P165-P170 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間	
		復習	アレルギーと免疫不全について十分理解する。	1.5 時間	
5	講義内容	循環器(1)循環器系			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 P115-P119 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間	
		復習	循環器系の概要について理解する。	1.5 時間	
6	講義内容	循環器(2)心臓			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 P120-P127 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間	
		復習	心臓の構造と機能について理解する。	1.5 時間	
7	講義内容	循環器(3)血管			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 P128-P131 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間	
		復習	血管の構造と機能を理解する。血管の機能的分類を覚える。	1.5 時間	
8	講義内容	循環器(1)呼吸器と呼吸運動			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 P90-P101 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間	
		復習	呼吸器の構成と呼吸運動を理解する。	1.5 時間	
9	講義内容	呼吸器(2)胸郭と胸腔、肺循環、外呼吸と内呼吸			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 P101-P109 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間	
		復習	胸郭と胸腔、肺循環、外呼吸と内呼吸を理解する。	1.5 時間	
10	講義内容	呼吸器(3)呼吸調節			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 P109-P114 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間	
		復習	呼吸調節とそれが破綻した呼吸機能障害を理解する。	1.5 時間	
11	講義内容	内分泌(1)内分泌総論、ホルモンの種類と化学構造、ホルモンの作用機序			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 P210-P216 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間	
		復習	ホルモンの種類と化学構造、ホルモンの作用機序を理解する。	1.5 時間	
12	講義内容	内分泌(2)膵臓・副腎・視床下部・下垂体のホルモン			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 P216-P228 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間	
		復習	膵臓・副腎・視床下部・下垂体のホルモンについて理解し覚える。	1.5 時間	
13	講義内容	内分泌(3)甲状腺・副甲状腺・消化管・性腺・脂肪組織からのホルモン			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 P228-P234 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間	
		復習	甲状腺・副甲状腺・消化管・性腺・脂肪組織からのホルモンの作用を理解する。	1.5 時間	
14	講義内容	生殖器(1)生殖器系の概要、男性生殖器			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 P331-P338 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間	
		復習	生殖器系の概要、男性生殖器を理解する。	1.5 時間	
15	講義内容	生殖器(2)女性生殖器、性周期			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書 P338-P344 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間	
		復習	女性生殖器と性周期・排卵・月経を理解する。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考					

科目名		解剖生理学Ⅱ（専門基幹科目）						科目ナンバリング	HNB222		
英文名		Anatomy and Physiology Ⅱ						講義形態	講義		
担当教員		下川 哲昭									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格		管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応			豊かな人間性と職業倫理			1	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		6	専門的知識				コミュニケーション能力				
		2	問題発見・解決力			1	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連		④									
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○							
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 正常な人体の仕組みについて、個体とその機能を構成する細胞レベルから組織・器官レベルまでの構造や機能を学修する。「解剖生理学Ⅱ」では、消化器系および泌尿器系、神経系と感覚系の詳細を講義する。 ② 授業は、双方向性を重視し、活発な議論が展開されるように進める。									
到達目標		1. 人体の構成および構造の詳細を系統的に理解し説明できる。 2. ヒトにおける基本的活動（栄養素の消化と吸収、尿の生成、神経活動、感覚の受容等）を理解し他人に説明することができる。 3. 生理機能破綻による疾患の基本的な発症メカニズムを理解し説明することができる。									
使用教材		教科書：管理栄養士のためのイラスト解剖生理学、開道貴信著、講談社、3,800 円＋税。 講義のスライドを適宜プリントとして配布する。									
参考文献											
評価方法		定期（筆記）試験 100％で評価する。60％以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		定期試験後に出題の意図と試験結果を掲示する。									
オフィスアワー （研究室）		月曜日 1 号館 3 階・311 研究室 6 号館 1 階・栄養生理学研究室				メールアドレス （#→@）		shimokawa-n#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	消化器（1）消化器総論									
	該当到達目標	予習	教科書 P29-P32 に目を通し不明な単語を調べておく。						1.5 時間		
	1,2	復習	消化器の概要を理解する。						1.5 時間		
2	講義内容	消化器（2）消化器の構造と機能									
	該当到達目標	予習	教科書 P33-P35 に目を通し不明な単語を調べておく。						1.5 時間		
	1,2	復習	消化器の構造と機能を理解し覚える。						1.5 時間		
3	講義内容	消化器（3）口腔から下部消化器									
	該当到達目標	予習	教科書 P35-P37 に目を通し不明な単語を調べておく。						1.5 時間		
	1,2	復習	口腔から下部消化器、特に小腸での消化・吸収ついて理解して詳細を覚える。						1.5 時間		
4	講義内容	消化器（4）肝臓と胆嚢									

	該当到達目標 1,2	予習	教科書 P71-P86 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	肝臓と胆嚢の構造と機能について理解する。	1.5 時間
5	講義内容 該当到達目標 1,2	消化器(5)膵臓		
		予習	教科書 P87-P89 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	膵臓の構造と機能、膵液の構成と作用を理解し覚える。	1.5 時間
6	講義内容 該当到達目標 1,2	泌尿器(1)腎・泌尿器総論		
		予習	教科書 P171-P181 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	泌尿器系の概要と腎臓の構造と機能を理解する。	1.5 時間
7	講義内容 該当到達目標 1,2	泌尿器(2)尿の生成とそのホルモン作用		
		予習	教科書 P181-P184 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	尿の生成とそのホルモン作用について覚える。	1.5 時間
8	講義内容 該当到達目標 1,2,3	泌尿器系(3)尿路		
		予習	教科書 P185-P186 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	尿管、膀胱、尿道における排尿のメカニズムと泌尿器の疾患について理解する。	1.5 時間
9	講義内容 該当到達目標 1,2	神経系(1)自律神経総論		
		予習	教科書 P198-P205 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	自律神経の構成と特徴について理解する。	1.5 時間
10	講義内容 該当到達目標 1,2,3	神経系(2)自律神経の働きと障害		
		予習	教科書 P205-P209 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	自律神経の働きとその障害を理解し覚える。	1.5 時間
11	講義内容 該当到達目標 1,2	神経系(3)神経系総論		
		予習	教科書 P269-P279 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	神経系の構成と機能を理解する。神経細胞と情報伝達の仕組みを理解する。	1.5 時間
12	講義内容 該当到達目標 1,2	神経系(4)中枢神経系と末梢神経系		
		予習	教科書 P279-P294 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	中枢神経系(脳・脊髄)と末梢神経系(脳神経・脊髄神経)の機能と特性を覚える。	1.5 時間
13	講義内容 該当到達目標 1,2,3	神経系(5)運動・感覚の神経		
		予習	教科書 P294-P300 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	運動・感覚の神経に関して理解する。代表的な神経疾患(パーキンソン病、アルツハイマー病など)の発症原因や麻痺を理解する。	1.5 時間
14	講義内容 該当到達目標 1,2,3	感覚器系(1)視覚・嗅覚・聴覚		
		予習	教科書 P301-P313 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	視覚と聴覚の特性、および視覚障害、聴覚障害を理解する。	1.5 時間
15	講義内容 該当到達目標 1,2,3	感覚器系(2)平衡感覚・味覚・		
		予習	教科書 P313-P316 に目を通し不明な単語を調べておく。	1.5 時間
		復習	平衡感覚・味覚における特性とその破綻(目眩・味覚障害)を理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考				

科目名	解剖生理学実習(専門基幹科目)							科目ナンバリング	HNB223	
英文名	Anatomy and Physiology [Experiment]							講義形態	実習	
担当教員	下川 哲昭									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	2	専門的知識				3	コミュニケーション能力			
	4	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	① 「解剖生理学Ⅰ・Ⅱ」の講義で学習した臓器構成や血液、呼吸器、消化器の基礎的事項について実際に実験で確認し系統的な理解を確立することを目標とする。									
①講義の目標										
②講義の実施方法	② 授業は、自主性を重視し実践的な考え方・技術を習得できるように指導していく。									
到達目標	1. 人体の基本的な構造と機能を知るための実験方法とその原理を理解することができる。 2. 実験の結果得られたデータを適正に解釈し、その妥当性を他人と討論することができる。									
使用教材	実習毎に実験目的、プロトコル、課題が示されたプリントを配布する。									
参考文献										
評価方法	実習への出席 50%、取り組む姿勢 20%、レポートの採点 30%で総合的に評価する。 評価方法の基準については実習開始時と終了時にアナウンスする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出されたすべてのレポートは、詳細に検討する。 レポートとして完成度の著しく低いものは再提出を指示する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 研究室:1 号館 3 階・311、6 号館 1 階・栄養生理学研究室					メールアドレス (#→@)	shimokawa-n#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標	予習	事前に配布される実験の基礎事項について目を通しておく。							1.5 時間
	1	復習	実習に使用する器具・装置の使用法、試薬の調整法を理解する。							1 時間
2	講義内容	呼吸器系の実習 1・スパイロメーターによる呼吸・肺機能の測定								
	該当到達目標	予習	呼吸曲線と肺気量分画についてこれまでの講義内容を確認しておく。							1.5 時間
	1	復習	実験結果を整理する。							1 時間
3	講義内容	呼吸器系の実習 2・結果の解析とレポートの作成								
	該当到達目標	予習	呼吸曲線により肺気量分画を計算できるように理解する。							1.5 時間
	2	復習	肺機能障害を分類し説明できるようにする。							1 時間
4	講義内容	血液学と臓器構成 1								
	該当到達目標	予習	事前に配布される実験の基礎事項について目を通しておく。							1.5 時間
	1	復習	ラットの採血法、血球の計算、ヘマトクリット、溶血反応を理解する。							1 時間
5	講義内容	血液学と臓器構成 2								
	該当到達目標	予習	事前に配布される実験の基礎事項について目を通しておく。							1.5 時間
	1	復習	ラットの解剖による主要臓器の構造と各器官系を確認しておく。							1 時間

6	講義内容	血液学と臓器構成 3		
	該当到達目標	予習	事前に配布される実験の基礎事項について目を通しておく。	1.5 時間
	2	復習	1.血球の計算とヘマトクリット値の算出ができるようにする。 2.浸透圧の計算と溶血反応の説明ができるようにする。 3.ヒトとラットの臓器における位置関係の比較が説明できるようにする。	1 時間
7	講義内容	消化器系(口腔)1		
	該当到達目標	予習	事前に配布される実験の基礎事項について目を通しておく。	1.5 時間
	1	復習	舌の各部位における四味の味覚閾値の測定について理解する。	1 時間
8	講義内容	消化器系(口腔)2		
	該当到達目標	予習	味蕾の構造と機能、味覚の神経伝達についてこれまでの講義内容を確認しておく。	1.5 時間
	2	復習	1.味覚における舌上での部位差を説明できるようにする。 2.味覚の受容と神経伝達機構を説明できるようにする。 3.唾液腺、唾液の成分、分泌機序(反射)、分泌調節(自律神経系)を説明できるようにする。	1 時間
9	講義内容	感覚器系(重量感覚)1		
	該当到達目標	予習	事前に配布される実験の基礎事項について目を通しておく。	1.5 時間
	1	復習	実験結果を整理する。	1 時間
10	講義内容	感覚器系(重量感覚)2		
	該当到達目標	予習	「スチーブンスのべき法則」について理解しておく。	1.5 時間
	2	復習	重量感覚について主観値と客観値の間の法則について理解する。	1 時間
11	講義内容	消化器系 3・(顕微鏡による細胞観察実習)		
	該当到達目標	予習	ヒトの消化器系の細胞についてこれまでの講義内容を確認しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	味蕾、食道、胃、小腸、大腸、膵臓ランゲルハンス島を構成する細胞の特性について理解する。	1 時間
12	講義内容	感覚器系(視覚:対光反射とマリOTTの盲点)		
	該当到達目標	予習	視覚の解剖生理についてこれまでの講義内容を確認しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	対光反射による視覚刺激の伝達とマリOTTの盲点から眼球内の構造について理解する。	1 時間
13	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
14	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
15	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考				

科目名	生化学Ⅰ（専門基幹科目）						科目ナンバリング	HNB231		
英文名	BiochemistryⅠ						講義形態	講義		
担当教員	田中 進									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	5	専門的知識					コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				2	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	小テストに対して授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける。									
実施概要	① 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを理解するための基盤として、生体分子(たんぱく質・アミノ酸、糖質、脂質、核酸、ビタミン、ホルモン)の化学構造や生体内機能に関する知識を学ぶ。									
①講義の目標	② 講義では、主に教科書、資料の解説を行い、確認テストを実施する。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. 生体膜と細胞小器官の種類と機能について説明できる。 2. 生体分子(たんぱく質・アミノ酸、糖質、脂質、核酸、ビタミン、ホルモン)の種類、化学構造、生体内機能について説明できる。 3. 酵素反応の特性と酵素反応調節機構を説明できる。									
使用教材	教科書: Visual 栄養学テキスト人体の構造と機能および疾病の成り立ちⅡ生化学、編集: 岡 純(中山書店)、2022 年、2,700+税、ISBN978-4-521-74285-4C3347 講義や小テスト解説に教科書を使用 講義内容の一部はプリントを配布									
参考文献										
評価方法	定期試験 90%、小テスト 10%(10 回)で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テストは毎回、解説を行う。 期末試験後に問題出題意図を説明する。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる					メールアドレス (#→@)	tanaka#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	生体膜と細胞小器官								
	該当到達目標	予習	教科書の第 1 章 1-1～1-6 に目を通す。						1 時間	
	1	復習	生体膜と細胞小器官の種類、機能を理解する。小テストの復習を行う。						2 時間	
2	講義内容	アミノ酸・たんぱく質の構造と機能 1								
	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章 2-1～2-2 に目を通す。						1 時間	
	2	復習	アミノ酸の基本構造と性質、アミノ酸同士の結合や相互作用を理解する。小テストの復習を行う。						2 時間	
3	講義内容	アミノ酸・たんぱく質の構造と機能 2								
	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章 2-3 に目を通す。						1 時間	
	2	復習	代表的なペプチドやたんぱく質について構造、分類、性質などを理解する。小テストの復習を行う。						2 時間	
4	講義内容	糖質の構造と機能 1								

	該到達目標	予習	教科書の第 3 章 3-1～3-2 に目を通す。	1 時間
	2	復習	単糖、二糖の構造と機能を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
5	講義内容	糖質の構造と機能 2		
	該到達目標	予習	教科書の第 3 章 3-3～3-4 に目を通す。	1 時間
	2	復習	多糖、複合糖質の構造と機能を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
6	講義内容	脂質の構造と機能 1		
	該到達目標	予習	教科書の第 4 章 4-1～4-2 に目を通す。	1 時間
	2	復習	脂質の基本構造と種類を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
7	講義内容	脂質の構造と機能 2		
	該到達目標	予習	教科書の第 4 章 4-3～4-4 に目を通す。	1 時間
	2	復習	脂質の生体内の役割を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
8	講義内容	核酸の構造と機能 1		
	該到達目標	予習	教科書の第 5 章 5-1 に目を通す。	1 時間
	2	復習	DNA と RNA の構造を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
9	講義内容	核酸の構造と機能 2		
	該到達目標	予習	教科書の第 5 章 5-2 に目を通す。	1 時間
	2	復習	細胞内の核酸の分布と役割を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
10	講義内容	ビタミンの構造と機能 1		
	該到達目標	予習	教科書の第 6 章 6-1～6-2 に目を通す。	1 時間
	2	復習	脂溶性ビタミンの構造と機能を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
11	講義内容	ビタミンの構造と機能 2		
	該到達目標	予習	教科書の第 6 章 6-3～6-4 に目を通す。	1 時間
	2	復習	水溶性ビタミンの構造と機能を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
12	講義内容	酵素		
	該到達目標	予習	教科書の第 8 章 8-1～8-2 に目を通す。	1 時間
	3	復習	酵素の特徴と分類を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
13	講義内容	酵素反応の調節機構		
	該到達目標	予習	教科書の第 8 章 8-3～8-4 に目を通す。	1 時間
	3	復習	酵素反応の調節機構を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
14	講義内容	ホルモンの構造と機能 1		
	該到達目標	予習	教科書の第 9 章 9-1～9-2 に目を通す。	1 時間
	2	復習	視床下部ホルモン、下垂体前葉ホルモン、その下流のホルモンの構造と機能を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
15	講義内容	ホルモンの構造と機能 2		
	該到達目標	予習	教科書の第 9 章 9-3～9-4 に目を通す。	1 時間
	2	復習	ホルモンの作用機序について理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施の場合には、出席確認を兼ねた課題の提出を求める。			

科目名	生化学Ⅱ（専門基幹科目）					科目ナンバリング	HNB232			
英文名	Biochemistry Ⅱ					講義形態	講義			
担当教員	田中 進									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数	必修 2 単位						
履修を必須とする資格	管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理			1	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	5	専門的知識				コミュニケーション能力				
	2	問題発見・解決力			2	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	④									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	小テストに対して授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 人体の構造と機能および疾病の成り立ちを理解するため、生体を構成する成分（たんぱく質・アミノ酸、糖質、脂質、核酸）の生体内における代謝について基本的な知識を修得し、代謝調節と代謝異常について理解を深める。また、遺伝情報の伝達（セントラルドグマ）について学習し、遺伝子と栄養との関連について基礎知識を学ぶ。 ② 講義では、主に教科書、資料の解説を行い、確認テストを実施する。									
到達目標	1. 三大栄養素であるたんぱく質・アミノ酸、糖質の代謝とエネルギー産生について説明できる。 2. 核酸の合成と分解が説明できる 3. 生体内の代謝調節と代謝異常について栄養疾患、代謝疾患と関連づけて説明できる。 4. 遺伝情報の伝達（セントラルドグマ）が説明できる。									
使用教材	教科書：Visual 栄養学テキスト人体の構造と機能および疾病の成り立ちⅡ生化学、編集：岡 純（中山書店）、2022 年、2,700+税、ISBN978-4-521-74285-4C3347 講義や小テスト解説に教科書を使用 講義内容の一部はプリントを配布									
参考文献										
評価方法	定期試験 90%、小テスト 10%（10 回）で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テストは毎回、解説を行う。 期末試験後に問題出題意図を説明する。									
オフィスアワー（研究室）	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる				メールアドレス（#→@）	tanaka#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	生体エネルギーと代謝 1								
	該当到達目標	予習	教科書の第 10 章 10-1～10-4 に目を通す。					1 時間		
	1	復習	ATP の役割と ATP 産生におけるミトコンドリアの役割を理解する。小テストの復習を行う。					2 時間		
2	講義内容	生体エネルギーと代謝 2								
	該当到達目標	予習	教科書の第 10 章 10-5～10-8 に目を通す。					1 時間		
	1	復習	基質レベルのリン酸化、酸化的リン酸化、脱共役たんぱく質について理解する。					2 時間		

			小テストの復習を行う。	
3	講義内容	アミノ酸・たんぱく質の代謝 1		
	該当到達目標	予習	教科書の第 11 章 11-1～11-3 に目を通す。	1 時間
	1	復習	食餌性たんぱく質の消化と吸収の機序を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
4	講義内容	アミノ酸・たんぱく質の代謝 2		
	該当到達目標	予習	教科書の第 11 章 11-4～11-6 に目を通す。	1 時間
	1,3	復習	アミノ酸の代謝、たんぱく質の修飾と分解経路を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
5	講義内容	糖質の代謝 1		
	該当到達目標	予習	教科書の第 12 章 12-1～12-2 に目を通す。	1 時間
	1	復習	解糖系、クエン酸回路を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
6	講義内容	糖質の代謝 2		
	該当到達目標	予習	教科書の第 12 章 12-3～12-5 に目を通す。	1 時間
	1	復習	ペントースリン酸回路、グルクロン酸経路、グリコーゲンの合成・分解、糖新生を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
7	講義内容	糖質の代謝 3		
	該当到達目標	予習	教科書の第 12 章 12-6～12-7 に目を通す。	1 時間
	1,3	復習	血糖の調節、糖質代謝の異常と疾病を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
8	講義内容	脂質の代謝 1		
	該当到達目標	予習	教科書の第 13 章 13-1～13-4 に目を通す。	1 時間
	1	復習	リポたんぱく質の代謝、脂肪酸の合成・分解、エイコサノイドの代謝を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
9	講義内容	脂質の代謝 2		
	該当到達目標	予習	教科書の第 13 章 13-5～13-8 に目を通す。	1 時間
	1,3	復習	アシルグリセロール、リン脂質、コレステロールの代謝と脂質代謝異常を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
10	講義内容	ヌクレオチドの代謝 1		
	該当到達目標	予習	教科書の第 14 章 14-1～14-2 に目を通す。	1 時間
	2	復習	プリン・ピリミジン代謝を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
11	講義内容	ヌクレオチドの代謝 2		
	該当到達目標	予習	教科書の第 14 章 14-2～14-3 に目を通す。	1 時間
	2,3	復習	痛風と代謝異常を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
12	講義内容	遺伝子発現とその制御 1		
	該当到達目標	予習	教科書の第 15 章 15-1～15-3 に目を通す。	1 時間
	4	復習	DNA の複製と修復、転写、翻訳を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
13	講義内容	遺伝子発現とその制御 2		
	該当到達目標	予習	教科書の第 15 章 15-4～15-7 に目を通す。	1 時間
	3,4	復習	遺伝子発現の調節、先天性代謝異常、遺伝子と栄養、遺伝子操作・解析方法を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
14	講義内容	情報伝達の機構 1		
	該当到達目標	予習	教科書の第 16 章 16-1～16-2 に目を通す。	1 時間
	2	復習	内分泌系と神経系による情報伝達を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
15	講義内容	情報伝達の機構 2		

令和 6 年度 健康栄養学科シラバス

	該当到達目標 2	予習	教科書の第 16 章 16-3～16-4 に目を通す。	1 時間
		復習	受容体による情報伝達、細胞内シグナル伝達を理解する。小テストの復習を行う。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施の場合には、出席確認を兼ねた課題の提出を求める。			

科目名	生化学実験Ⅰ（専門基幹科目）						科目ナンバリング	HNB233		
英文名	BiochemistryⅠ [Experiment]						講義形態	実験		
担当教員	田中 進									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	3	専門的知識				3	コミュニケーション能力			
	4	問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 人体の構造と機能および疾病の成り立ちを理解するための基礎として、生体を構成する成分(たんぱく質・アミノ酸、糖質、脂質、核酸)の化学的性質とそれらを取り扱うための基本的技能を修得し、実験結果のまとめ方と評価方法を学ぶ。 ② 実験結果と考察については班ごとに発表を求め、各自にレポート作成を課す。									
到達目標	1. 生体を構成する成分(たんぱく質・アミノ酸、糖質、脂質、核酸)の定性的試験方法を理解し、実験できる。 2. 生体分子の機能と関連づけて、それぞれの実験原理が説明できる。 3. 代表的な酵素の活性測定ができる。 4. 他者が実験後その実験プロセスを追って再現性を確認できるような、正確な実験の記録を行うことができるようになる。 5. 他者が納得できるような実験データの整理・解析を行うことができるようになる。 6. 他者が理解しやすい実験レポート(論文)が作成できるようになる。 7. 他者との議論を活かして、自分のレポートの問題点を改善することができるようになる。									
使用教材	教科書：N ブックス 実験シリーズ 生化学実験、編集：後藤 潔(建帛社)、2009 年、1,900+税、ISBN978-4-7679-0380-4C3047 実験方法の説明に教科書を使用 実験ごとにプリントを配布									
参考文献										
評価方法	定期試験 60%、レポート 40%(8 回)で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出したレポートについては、ルーブリックで評価をし、フィードバックしていく。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる				メールアドレス (#→@)	tanaka#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	教科書の第 1 章 1-1～1-3 に目を通す。							1 時間
		復習	生化学実験の基礎を理解する。							1 時間

2	講義内容	細胞の観察		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリントに目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	観察結果をまとめ、レポートを作成する。	1 時間
3	講義内容	たんぱく質・アミノ酸の定性実験		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリントと講義用の教科書の第 2 章 2-1～2-3 に目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	観察結果をまとめ、レポートを作成する。	1 時間
4	講義内容	呈色反応を利用した未知の糖溶液の判定実験 1		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリントと講義用の教科書の第 3 章 3-1～3-4 に目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	観察結果をまとめ、レポートを作成する。	1 時間
5	講義内容	呈色反応を利用した未知の糖溶液の判定実験 2		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリントと講義用の教科書の第 3 章 3-1～3-4 に目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	観察結果をまとめ、レポートを作成する。	1 時間
6	講義内容	脂質実験 1 脂質の溶解度		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリントと講義用の教科書の第 4 章 4-1～4-4 に目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	観察結果をまとめ、レポートを作成する。	1 時間
7	講義内容	脂質実験 2 脂質一重層の透過性に対する脂質組成の影響		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリントと講義用の教科書の第 4 章 4-1～4-4 に目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	観察結果をまとめ、レポートを作成する。	1 時間
8	講義内容	酵素実験 1 検量線の作成と pH の影響		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリント、教科書の第 3 章 3-1～3-3、講義用の教科書の第 8 章 8-1～8-4 に目を通す。	1 時間
	2,3,4,5,6,7	復習	データをまとめ、レポートを作成する。	1 時間
9	講義内容	酵素実験 2 基質濃度の影響と阻害作用の影響		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリント、教科書の第 3 章 3-1～3-3、講義用の教科書の第 8 章 8-1～8-4 に目を通す。	1 時間
	2,3,4,5,6,7	復習	データをまとめ、レポートを作成する。	1 時間
10	講義内容	核酸実験 1 ニワトリ肝からの DNA 抽出		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリント、教科書の第 2 章 2-1、講義用の教科書の第 5 章 5-1～5-2 に目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	データをまとめ、レポートを作成する。	1 時間
11	講義内容	核酸実験 2 DNA 溶液の紫外部吸収曲線		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリント、講義用の教科書の第 5 章 5-1～5-2 に目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	データをまとめ、レポートを作成する。	1 時間
12	講義内容	核酸実験 3 制限酵素による DNA の切断と電気泳動による解析		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリント、教科書の第 9 章 9-4、9-7、講義用の教科書の第 5 章 5-1～5-2 に目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	データをまとめ、レポートを作成する。	1 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	オンラインで実施する場合には、別途提示する。			

科目名		生化学実験Ⅱ（専門基幹科目）						科目ナンバリング	HNB234		
英文名		BiochemistryⅡ [Experiment]						講義形態	実験		
担当教員		田中 進									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		2 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格		管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応			豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		3	専門的知識				3	コミュニケーション能力			
		4	問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連		4									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
							○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 人体の構造と機能および疾病の成り立ちを理解するための基礎として、栄養素(たんぱく質・アミノ酸、糖質、脂質、ビタミン、ミネラル)の定量方法と遺伝子の増幅方法(PCR 法)について基本的技能を修得し、実験結果のまとめ方と評価方法を学ぶ。 ② 実験結果と考察については班ごとに発表を求め、各自にレポート作成を課す									
到達目標		1. 栄養素(たんぱく質・アミノ酸、糖質、脂質、ビタミン、ミネラル)の定量方法を理解し、生体内の機能と関連づけて、それぞれの実験原理が説明できる。 2. 栄養素(たんぱく質・アミノ酸、糖質、脂質、ビタミン、ミネラル)の定量ができる。 3. PCR の原理を理解し、PCR を使用し遺伝子の増幅ができる。 4. 他者が実験後その実験プロセスを追って再現性を確認できるような、正確な実験の記録を行うことができるようになる。 5. 他者が納得できるような実験データの整理・解析を行うことができるようになる。 6. 他者が理解しやすい実験レポート(論文)が作成できるようになる。 7. 他者との議論を活かして、自分のレポートの問題点を改善することができるようになる。									
使用教材		教科書：N ブックス 実験シリーズ 生化学実験、編集：後藤 潔(建帛社)、2009 年、1,900+税、ISBN978-4-7679-0380-4C3047 実験方法の説明に教科書を使用 実験ごとにプリントを配布									
参考文献											
評価方法		定期試験 60%、レポート 40%(8 回)で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		提出したレポートについては、ルーブリックで評価をし、フィードバックしていく。									
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる				メールアドレス (#→@)		tanaka#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	たんぱく質・アミノ酸実験 紫外外部吸収によるタンパク質の定量									
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリント、教科書の第 2 章 2-2、講義用の第 2 章 2-1～2-3 に目を通す。							1 時間	

	1,2,4,5,6,7	復習	データをまとめ、レポートを作成する。	1 時間
2	講義内容	たんぱく質・アミノ酸実験 ELISA 法によるタンパク質の定量		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリント、講義用の第2章 2-1～2-3 に目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	データをまとめ、レポートを作成する。	1 時間
3	講義内容	糖質実験 グルコースの定量 1		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリントと講義用の教科書の第3章 3-1～3-4 に目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	データをまとめ、レポートを作成する。	1 時間
4	講義内容	糖質実験 グルコースの定量 2		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリントと講義用の教科書の第12章 12-1～12-7 に目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	データをまとめ、レポートを作成する。	1 時間
5	講義内容	脂質実験 遊離脂肪酸の定量 1		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリントと講義用の教科書の第4章 4-1～4-4 に目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	データをまとめ、レポートを作成する。	1 時間
6	講義内容	脂質実験 遊離脂肪酸の定量 2		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリントと講義用の教科書の第13章 13-1～13-8 に目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	データをまとめ、レポートを作成する。	1 時間
7	講義内容	無機質実験 リンの定量 1		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリントと講義用の教科書の第7章 7-1～7-2 に目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	データをまとめ、レポートを作成する。	1 時間
8	講義内容	無機質実験 リンの定量 2		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリントと講義用の教科書の第7章 7-1～7-2 に目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	データをまとめ、レポートを作成する。	1 時間
9	講義内容	ビタミン実験 ビタミンの定性実験 1		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリント、講義用の教科書の第6章 6-1～6-4 に目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	データをまとめ、レポートを作成する。	1 時間
10	講義内容	ビタミン実験 ビタミンの定性実験 2		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリント、講義用の教科書の第6章 6-1～6-4 に目を通す。	1 時間
	1,2,4,5,6,7	復習	データをまとめ、レポートを作成する。	1 時間
11	講義内容	遺伝子実験 PCR による遺伝子の増幅 1		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリント、教科書の第6章 6-2、講義用の教科書の第15章 5-7 に目を通す。	1 時間
	3,4,5,6,7	復習	データをまとめ、レポートを作成する。	1 時間
12	講義内容	遺伝子実験 PCR による遺伝子の増幅 2		
	該当到達目標	予習	事前に配布したプリント、教科書の第6章 6-2、講義用の教科書の第15章 5-7 に目を通す。	1 時間
	3,4,5,6,7	復習	データをまとめ、レポートを作成する。	1 時間
13	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
14	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
15	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間

		復習		時間
			合計時間(予習・復習)	24 時間
備考	オンラインで実施する場合には、別途提示する。			

科目名	疾病の成り立ちⅠ（専門基幹科目）							科目 ナンバリング	HNB241	
英文名	Understanding Human DiseasesⅠ							講義形態	講義	
担当教員	岡村 信一									
科目に関連した 実務経験	常勤医師として病院に勤務（経験）、非常勤医師として病院に勤務（現在）									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする 資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針 との対応		豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	6	専門的知識					コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング 実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法	提示されたドリル問題に、繰り返し自主的に取り組むことで予習と復習に役立てる。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 管理栄養士として修得すべき疾病の成因・病態・診断・治療および栄養学との関わりについて学び、 修得した知識を統合して臨床栄養管理に活用できるようにする。「疾病の成り立ちⅠ」では、診断の ための身体診察と検査、加齢・疾患に伴う変化、疾患の治療、栄養障害と代謝疾患について学ぶ。 ② 教科書・配布資料に基づいたパワーポイントを映写しながら、授業を進める。本講座で習得した思 考方法・知識・技術を臨床現場で活用できるように、理解を深める。									
到達目標	1. 代表的な疾病の成因について理解し説明できる。 2. 代表的な疾病の病態について理解し説明できる。 3. 代表的な疾病の診断について理解し説明できる。 4. 代表的な疾病の治療について理解し説明できる。 5. 代表的な疾病と栄養学との関わりについて理解し説明できる。 6. 臨床現場で活用できるように、本講座で習得した思考方法・知識・技術の理解を深める。■									
使用教材	1. 「栄養科学イラストレイテッド 臨床医学疾病の成り立ち 第 3 版」・田中明ほか・羊土社 ISBN978-4-7581-1367-0 2. 講義スライドをプリントして配布する。									
参考文献	「病気がみえる」シリーズ（メディックメディア）									
評価方法	1. 筆記試験 100％ 2. 評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	定期試験は、正答の提示と解説をする。クラスの平均得点および得点分布を示すことで、学生自身の学 修状況を客観的に把握させる。									
オフィスアワー （研究室）	オフィスアワー：金曜日の 5 時限 研究室：1 号館 4 階 403 号室				メールアドレス （#→@）		okamura#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	診断のための身体診察と検査(1) 問診、全身状態、全身徴候■								
	該当到達目標	予習	教科書の第 1 章 1～3 に目を通す。						1.5	時間
	1,2,3,4,5,6	復習	問診、全身状態、全身徴候について理解する。						1.5	時間
2	講義内容	診断のための身体診察と検査(2) 特徴的な病態と臨床検査の基本、基準値■								

	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	教科書の第 1 章 4～6 に目を通す。	1.5 時間
		復習	特徴的な病態と臨床検査の基本を理解する。	1.5 時間
3	講義内容	診断のための身体診察と検査(3) 一般臨床検査■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	教科書の第 1 章 7～9 に目を通す。	1.5 時間
		復習	一般臨床検査について理解する。	1.5 時間
4	講義内容	診断のための身体診察と検査(4) 特殊検査、生理機能検査、画像検査■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	教科書の第 1 章 10～14 に目を通す。	1.5 時間
		復習	特殊検査、生理機能検査、画像検査について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	加齢・疾患に伴う変化■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	教科書の第 2 章 1～3 に目を通す。	1.5 時間
		復習	加齢に伴う変化、疾患に伴う変化、個体の死について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	疾患の治療について(1)■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	教科書の第 3 章 1～2 に目を通す。	1.5 時間
		復習	治療の種類と特徴、評価法について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	疾患の治療について(2)■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	教科書の第 3 章 3 に目を通す。	1.5 時間
		復習	治療方法について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	講義 1～7 で学んだ内容のまとめ		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	講義 1～8 で学んだ内容を復習する。	1.5 時間
		復習	習得が不十分だったところをさらに復習する。	1.5 時間
9	講義内容	栄養・代謝系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(1) 栄養障害■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	教科書の第 4 章 1 に目を通す。	1.5 時間
		復習	栄養障害の病態を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	栄養・代謝系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(2) 糖尿病■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	教科書の第 4 章 2 に目を通す。	1.5 時間
		復習	糖尿病について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	栄養・代謝系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(3) 脂質異常症■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	教科書の第 4 章 3 に目を通す。	1.5 時間
		復習	脂質異常症について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	栄養・代謝系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(4) 肥満、高尿酸血症■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	教科書の第 4 章 4～5 に目を通す。	1.5 時間
		復習	肥満、高尿酸血症について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	栄養・代謝系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(5) 先天代謝異常ほか■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	教科書の第 4 章 6～9 に目を通す。	1.5 時間
		復習	先天代謝異常、ビタミン・ミネラル異常症、酸塩基平衡について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	内分泌系の基本知識■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	配布資料に目を通す。	1.5 時間
		復習	内分泌系の仕組みを理解する。	1.5 時間
15	講義内容	講義 9～14 で学んだ内容のまとめ		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6	予習	講義 9～14 で学んだ内容を復習する。	1.5 時間
		復習	習得が不十分だったところをさらに復習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

備考	予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。 オンラインで実施する場合には、オンライン用のシラバスを別途提示する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名		疾病の成り立ちⅡ（専門基幹科目）						科目ナンバリング	HNB242		
英文名		Understanding Human DiseasesⅡ						講義形態	講義		
担当教員		岡村 信一									
科目に関連した実務経験		常勤医師として病院に勤務（経験）、非常勤医師として病院に勤務（現在）									
学年・開講期		2 年 後期	選必・単位数		必修 2 単位						
履修を必須とする資格		栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応			豊かな人間性と職業倫理			1	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		6	専門的知識				コミュニケーション能力				
		2	問題発見・解決力			1	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連		③									
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
											○
「その他」のアクティブラーニング実施方法		提示されたドリル問題に、繰り返し自主的に取り組むことで予習と復習に役立てる。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 管理栄養士として修得すべき疾病の成因・病態・診断・治療および栄養学との関わりについて学び、修得した知識を統合して臨床栄養管理に活用できるようにする。「疾病の成り立ちⅡ」では、内分泌疾患、消化管疾患、肝・胆・膵疾患、循環器系疾患、腎・尿路系疾患について学ぶ。 ② 教科書・配布資料に基づいたパワーポイントを映写しながら、授業を進める。本講座で習得した思考方法・知識・技術を臨床現場で活用できるように、理解を深める。									
到達目標		1. 代表的な疾病の成因について理解し説明できる。 2. 代表的な疾病の病態について理解し説明できる。 3. 代表的な疾病の診断について理解し説明できる。 4. 代表的な疾病の治療について理解し説明できる。 5. 代表的な疾病と栄養学との関わりについて理解し説明できる。 6. 臨床現場で活用できるように、本講座で習得した思考方法・知識・技術の理解を深める。■									
使用教材		1. 「栄養科学イラストレイテッド 臨床医学疾病の成り立ち 第 3 版」・田中明ほか・羊土社・ISBN978-4-7581-1367-0 2. 講義スライドをプリントして配布する。									
参考文献		「病気がみえる」シリーズ（メディックメディア）									
評価方法		1. 筆記試験 100％ 2. 評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		定期試験は、正答の提示と解説をする。クラスの平均得点および得点分布を示すことで、学生自身の学修状況を客観的に把握させる。									
オフィスアワー（研究室）		オフィスアワー：金曜日の 5 時限 研究室：1 号館 4 階 403 号室				メールアドレス（#→@）		okamura#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	消化管疾患の成因・病態・診断・治療の概要(1) 口腔疾患、食道疾患■									
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章 1～2 に目を通す。							1.5 時間	
	1,2,3,4,5,6	復習	口腔疾患、食道疾患について理解する。							1.5 時間	

2	講義内容	消化管疾患の成因・病態・診断・治療の概要(2) 胃・十二指腸疾患■		
	該当到達目標	予習	教科書の第6章2に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	胃・十二指腸疾患について理解する。	1.5 時間
3	講義内容	消化管疾患の成因・病態・診断・治療の概要(3) 下部消化管疾患■		
	該当到達目標	予習	教科書の第6章3に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	下部消化管疾患について理解する。	1.5 時間
4	講義内容	肝・胆・膵疾患の成因・病態・診断・治療の概要(1) 急性肝疾患■		
	該当到達目標	予習	教科書の第7章1に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	急性肝疾患について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	肝・胆・膵疾患の成因・病態・診断・治療の概要(2) 慢性肝疾患、肝がん■		
	該当到達目標	予習	教科書の第7章1に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	慢性肝疾患、肝がんについて理解する。	1.5 時間
6	講義内容	肝・胆・膵疾患の成因・病態・診断・治療の概要(3) 膵・胆道疾患■		
	該当到達目標	予習	教科書の第7章2に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	膵・胆道疾患について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	循環器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(1) 心不全、動脈硬化■		
	該当到達目標	予習	教科書の第8章1～2に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	心不全、動脈硬化について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	講義1～7で学んだ内容のまとめ		
	該当到達目標	予習	講義1～7で学んだ内容を復習する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	習得が不十分だったところをさらに復習する。	1.5 時間
9	講義内容	循環器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(0) 虚血性心疾患、高血圧■		
	該当到達目標	予習	教科書の第8章3～4に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	虚血性心疾患、高血圧について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	循環器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(3) 不整脈、静脈血栓塞栓症、脳血管疾患■		
	該当到達目標	予習	教科書の第8章5～7に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	不整脈、静脈血栓塞栓症、脳血管疾患について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	腎・尿路系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(1) 急性・慢性腎炎症候群■		
	該当到達目標	予習	教科書の第9章1～4に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	急性・慢性腎炎症候群について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	腎・尿路系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(2) ネフローゼ症候群、急性腎障害■		
	該当到達目標	予習	教科書の第9章5～7に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	ネフローゼ症候群、急性腎障害について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	腎・尿路系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(3) 慢性腎臓病、末期腎不全の治療■		
	該当到達目標	予習	教科書の第9章8～9に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	慢性腎臓病、末期腎不全の治療について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	腎・尿路系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(4) 尿路系疾患、腎・尿路系の腫瘍■		
	該当到達目標	予習	教科書の第9章10～11に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	尿路系疾患、腎・尿路系の腫瘍について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	講義9～14で学んだ内容のまとめ		
	該当到達目標	予習	講義9～14で学んだ内容を復習する。	1.5 時間

令和 6 年度 健康栄養学科シラバス

	1,2,3,4,5,6	復習	習得が不十分だったところをさらに復習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。 オンラインで実施する場合には、オンライン用のシラバスを別途提示する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		疾病の成り立ちⅢ（専門基幹科目）						科目ナンバリング	HNB243		
英文名		Understanding Human DiseasesⅢ						講義形態	講義		
担当教員		岡村 信一									
科目に関連した実務経験		常勤医師として病院に勤務（経験）、非常勤医師として病院に勤務（現在）									
学年・開講期		3 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格		管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応			豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		6	専門的知識					コミュニケーション能力			
		2	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連		③									
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
											○
「その他」のアクティブラーニング実施方法		提示されたドリル問題に、繰り返し自主的に取り組むことで予習と復習に役立てる。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 管理栄養士として修得すべき疾病の成因・病態・診断・治療および栄養学との関わりについて学び、修得した知識を統合して臨床栄養管理に活用できるようにする。「疾病の成り立ちⅢ」では、呼吸器系疾患、血液・造血器系疾患、運動器系疾患、皮膚系疾患、免疫・アレルギー系疾患、婦人科系疾患、加齢・疾患に伴う変化について学ぶ。 ② 教科書・配布資料に基づいたパワーポイントを映写しながら、授業を進める。本講座で習得した思考方法・知識・技術を臨床現場で活用できるように、理解を深める。									
到達目標		1. 代表的な疾病の成因について理解し説明できる。 2. 代表的な疾病の病態について理解し説明できる。 3. 代表的な疾病の診断について理解し説明できる。 4. 代表的な疾病の治療について理解し説明できる。 5. 代表的な疾病と栄養学との関わりについて理解し説明できる。 6. 臨床現場で活用できるように、本講座で習得した思考方法・知識・技術の理解を深める。■									
使用教材		1. 「栄養科学イラストレイテッド 臨床医学疾病の成り立ち 第 3 版」・田中明ほか・羊土社・ ISBN978-4-7581-1367-0 2. 講義スライドをプリントして配布する。									
参考文献		「病気がみえる」シリーズ（メディックメディア）									
評価方法		1. 筆記試験 100% 2. 評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		定期試験は、正答の提示と解説をする。クラスの平均得点および得点分布を示すことで、学生自身の学修状況を客観的に把握させる。									
オフィスアワー（研究室）		オフィスアワー：金曜日の 5 時限 研究室：1 号館 4 階 403 号室				メールアドレス （#→@）		okamura#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	神経・精神系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 摂食障害、認知症、神経変性疾患など									
	該当到達目標	予習	教科書の第 10 章 1～6 に目を通す。							1.5 時間	

	1,2,3,4,5,6	復習	摂食障害、認知症、神経変性疾患などについて理解する。	1.5 時間
2	講義内容	呼吸器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(1) 呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患(COPD)■		
	該当到達目標	予習	教科書の第11章1～3に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患(COPD)について理解する。	1.5 時間
3	講義内容	呼吸器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(2) 気管支喘息、肺がん■		
	該当到達目標	予習	教科書の第11章4～5に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	気管支喘息、肺がんについて理解する。	1.5 時間
4	講義内容	血液・造血器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(1) 代表的な貧血■		
	該当到達目標	予習	教科書の第12章1に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	代表的な貧血について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	血液・造血器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(2) 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫■		
	該当到達目標	予習	教科書の第12章2～4に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	血液・造血器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(3) 出血傾向を来す疾患■		
	該当到達目標	予習	教科書の第12章5に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	出血傾向を来す疾患について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	運動器疾患の成因・病態・診断・治療の概要 骨粗鬆症などの代表的な運動器疾患■		
	該当到達目標	予習	教科書の第13章1～6に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	骨粗鬆症などの代表的な運動器疾患について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	講義1～7で学んだ内容のまとめ		
	該当到達目標	予習	講義1～7で学んだ内容を復習する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	習得が不十分だったところをさらに復習する。	1.5 時間
9	講義内容	皮膚系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 代表的な皮膚疾患と栄養管理■		
	該当到達目標	予習	教科書の第14章1～3に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	代表的な皮膚疾患と栄養管理について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	免疫・アレルギー系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(1) アレルギー疾患、後天性免疫不全症候群■		
	該当到達目標	予習	教科書の第15章1～3に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	アレルギー疾患、後天性免疫不全症候群について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	免疫・アレルギー系疾患の成因・病態・診断・治療の概要(2) 膠原病■		
	該当到達目標	予習	教科書の第15章4に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	代表的な膠原病について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	婦人科疾患の成因・病態・診断・治療の概要(1) 婦人科の腫瘍性疾患■		
	該当到達目標	予習	教科書の第16章1に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	婦人科の腫瘍性疾患について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	婦人科疾患の成因・病態・診断・治療の概要(2) 子宮内膜症、月経異常、更年期障害、妊娠特有の疾患■		
	該当到達目標	予習	教科書の第16章2～3に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	子宮内膜症、月経異常、更年期障害、妊娠特有の疾患について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	感染症■		
	該当到達目標	予習	教科書の第17章に目を通す。	1.5 時間

令和 6 年度 健康栄養学科シラバス

	1,2,3,4,5,6	復習	代表的な感染症について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	講義 9～14 で学んだ内容のまとめ		
	該当到達目標	予習	講義 9～14 で学んだ内容を復習する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	習得が不十分だったところをさらに復習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。 オンラインで実施する場合には、オンライン用のシラバスを別途提示する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	疾病の成り立ち実習(専門基幹科目)						科目 ナンバリング	HNB244		
英文名	Understanding Human Diseases [Practice]						講義形態	実習		
担当教員	岡村 信一									
科目に関連した 実務経験	常勤医師として病院に勤務(経験)、非常勤医師として病院に勤務(現在)									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする 資格	管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	4	専門的知識				1	コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	③									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○					
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	「疾病の成り立ちⅠ、Ⅱ、Ⅲ」と「総合演習Ⅱ」で取得した基礎知識について、実習を通してさらに理解を深め、臨床栄養管理に活用できるようにする。臨床診査(聴診、打診など)や臨床検査(血圧測定、尿検査、血液検査、血糖検査、心電図検査、超音波検査など)、心肺蘇生の体験をする。グループワークで各種疾患の症例問題作成と検討をおこない、理解を深める。 本講座は、各自の能動的学習に基づいて進められる。予習・復習も各自積極的に行う。次回の実習内容については、関連する教科書等により予習する。実習後には実習内容をまとめて、習得した点や不明点について明らかにするとともに、教科書・文献等を参照・引用しながら考察を加える。本実習で習得した思考方法・知識・技術を臨床現場で活用できるように、理解を深める。									
到達目標	1. 代表的な臨床診査や検査について意義を理解し、実施することができる。 2. 検査データを解釈し、栄養管理へ結びつけることができる。 3. 臨床現場で活用できるように、本実習で習得した思考方法・知識・技術の理解を深める。■									
使用教材	1. 実習資料を配布する。 2. 「栄養科学イラストレイテッド 臨床医学疾病の成り立ち 第 3 版」・田中明ほか・羊土社・ISBN978-4-7581-1367-0 3. 「栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方・考え方・ケーススタディ 第 2 版」・奈良信雄・医歯薬出版・INBN978-4-263-70626-8C3047 4. 教科書は授業および予習・復習で使用する。									
参考文献	「病気がみえる」シリーズ(メディックメディア)									
評価方法	1. 実習参加および実習態度を重視し、レポート・プレゼンテーション等も含めて総合的に評価する。 2. 評価方法の詳細については初回講義でアナウンスする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	毎回授業の後にリアクションペーパーの提出を求めており、その回答について各自振り返りを行い、次の授業に活かすこと。									
オフィスアワー (研究室)	オフィスアワー: 金曜日の 5 時限 研究室: 1 号館 4 階 403 号室				メールアドレス (#→@)		okamura#takasaki-u.ac.jp			

1	講義内容	ガイダンス及びバイタルサイン■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	シラバスを確認する。	0.5 時間	
		復習	実習の概略を把握する。バイタルサインの基本について理解する。	0.5 時間	
2	講義内容	食物アレルギー			
	該当到達目標 1,2,3	予習	授業で配布された実習予定表を参照して、実習内容を把握する。	0.5 時間	
		復習	食物アレルギーの基本と救急対応方法について理解する。	0.5 時間	
3	講義内容	尿検査■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	授業で配布された実習予定表を参照して、実習内容を把握する。	0.5 時間	
		復習	尿検査の基本と実施方法について理解する。	0.5 時間	
4	講義内容	血球検査およびヘモグロビン推定値■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	授業で配布された実習予定表を参照して、実習内容を把握する。	0.5 時間	
		復習	血球検査およびヘモグロビン濃度測定の基本を理解する。	0.5 時間	
5	講義内容	血糖検査および末梢血液塗抹観察■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	授業で配布された実習予定表を参照して、実習内容を把握する。	0.5 時間	
		復習	血糖の基本と測定法および末梢血液塗抹観察について理解する。	0.5 時間	
6	講義内容	心電図検査、超音波検査■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	授業で配布された実習予定表を参照して、実習内容を把握する。	0.5 時間	
		復習	心電図の基本と測定法、超音波検査の基本と実施方法について理解する。	0.5 時間	
7	講義内容	身体所見と診察方法の基本■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	授業で配布された実習予定表を参照して、実習内容を把握する。	0.5 時間	
		復習	代表的な身体所見とその診察方法を理解する。	0.5 時間	
8	講義内容	各種疾患の症例問題①の作成■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	授業で配布された実習予定表を参照して、実習内容を把握する。	0.5 時間	
		復習	各種疾患の病態や検査値異常などについて、例題を通じて理解する。	0.5 時間	
9	講義内容	各種疾患の症例問題①の検討・解説■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	授業で配布された実習予定表を参照して、実習内容を把握する。	0.5 時間	
		復習	各種疾患の病態や検査値異常などについて、例題を通じて理解する。	0.5 時間	
10	講義内容	各種疾患の症例問題②の作成■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	授業で配布された実習予定表を参照して、実習内容を把握する。	0.5 時間	
		復習	各種疾患の病態や検査値異常などについて、例題を通じて理解する。	0.5 時間	
11	講義内容	各種疾患の症例問題②の検討・解説■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	授業で配布された実習予定表を参照して、実習内容を把握する。	0.5 時間	
		復習	各種疾患の病態や検査値異常などについて、例題を通じて理解する。	0.5 時間	
12	講義内容	救急蘇生法			
	該当到達目標 1,2,3	予習	授業で配布された実習予定表を参照して、実習内容を把握する。	0.5 時間	
		復習	心肺蘇生法および異物除去法の基本と実施方法について理解する。	0.5 時間	
合計時間(予習・復習)					12 時間
備考	受講の前後には、疾病の成り立ちⅠ・Ⅱ・Ⅲおよび総合演習Ⅱの関連部分を予習・復習することが大切です。 ※2 単位を修得するためには、実習時間(60 時間(実質 180 分×15 回))+自習時間(30 時間)が必要です。自習時間の不足分は各自で補完すること。 オンラインで実施する場合には、オンライン用のシラバスを別途提示する。				

	■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	調理学(専門基幹科目)						科目ナンバリング	HNB251		
英文名	Cookery						講義形態	講義		
担当教員	阿部 雅子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格	管理栄養士、栄養士、栄養教諭、フードスペシャリスト、専門フードスペシャリスト									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	6	専門的知識					コミュニケーション能力			
	1	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑦ ⑫									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○						○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	課題を相互評価しコメントを付し、その結果をもとにブラッシュアップを行う。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 調理とは、食品に手を加え、安全性・栄養性・嗜好性の高い食べ物にする過程である。「調理学」では、人間と食べ物の関わりについての歴史的変遷、食べ物の嗜好性を学び、さらに栄養面・安全面・嗜好面の各特性を高める調理の方法および食事計画について講義する。 ② 各講義は、教科書と教員が作成したプリントおよびパワーポイントを使用して、要点を説明していく。									
到達目標	1. 食べ物のおいしさとその知覚について説明できる。 2. 種々の調理操作を理解し説明できる。 3. 食生活・食文化・食事計画について説明できる。									
使用教材	栄養管理と生命科学シリーズ「調理学」、吉田恵子、綾部園子編、理工図書									
参考文献										
評価方法	筆記試験 60%、小テスト 30%(15%×2)、課題 10%									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テストを返却し解説する。提出課題にコメントをつけて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 5 時限目 1 号館 4 階 405 研究室				メールアドレス (#→@)		abe-m#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	調理学の概要: 調理の意義・目的								
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す。						1 時間	
	1,2,3	復習	調理学の概要: 調理の意義・目的について理解する						2 時間	
2	講義内容	食生活・食文化の変遷								
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す。						1 時間	
	3	復習	食生活・食文化の変遷について理解する						2 時間	
3	講義内容	食物の嗜好性(おいしさ)(1)おいしさとは・食べ物の化学的要因								
	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章 p8～24 に目を通す。						1 時間	
	1	復習	おいしさ、食べ物の化学的要因を理解する						2 時間	
4	講義内容	教科書の第 2 章 p20～25 に目を通す。								
	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章 p24～30 に目を通す。						1 時間	
	1	復習	食べ物の物理的要因、食べる側の要因を理解する						2 時間	
5	講義内容	食物の嗜好性(おいしさ)(3)おいしさの評価								

	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章 p30～38 に目を通す。	1 時間
	1	復習	官能評価について理解する。小テストをするので復習しておく。	2 時間
6	講義内容	調理操作(1)非加熱調理操作、小テスト		
	該当到達目標	予習	教科書の第 4 章 p68～78 に目を通す。	1 時間
	2	復習	非加熱調理操作について理解する	2 時間
7	講義内容	調理操作(2)加熱調理操作(伝熱・湿式加熱)		
	該当到達目標	予習	教科書の第 4 章 p78～84 に目を通す。	1 時間
	2	復習	伝熱、湿式加熱について理解する	2 時間
8	講義内容	調理操作(3)加熱調理操作(乾式加熱)		
	該当到達目標	予習	教科書の第 4 章 p84～88 に目を通す。	1 時間
	2	復習	乾式加熱について理解する	2 時間
9	講義内容	調理操作(4)加熱調理操作(誘電・誘導加熱)		
	該当到達目標	予習	教科書の第 4 章 p88～89 に目を通す。	1 時間
	2	復習	誘電・誘導加熱について理解する	2 時間
10	講義内容	調理操作(5)調味について		
	該当到達目標	予習	教科書の第 4 章 p90～98 に目を通す。	1 時間
	2	復習	調味について理解する	2 時間
11	講義内容	調理機器		
	該当到達目標	予習	教科書の第 5 章 p102～118 に目を通す。	1 時間
	2	復習	調理器具について理解する。小テストをするので試験範囲の復習しておく。	2 時間
12	講義内容	食事計画 (1)食事設計の基礎知識、小テスト		
	該当到達目標	予習	教科書の第 3 章 p40～50 に目を通す。	1 時間
	3	復習	食事設計の基礎を理解し、課題を完成する	2 時間
13	講義内容	食事計画 (2)献立作成①		
	該当到達目標	予習	教科書の第 3 章 p50～55 に目を通す。	1 時間
	3	復習	献立作成の課題を完成する	2 時間
14	講義内容	食事計画 (3)献立作成② 相互評価		
	該当到達目標	予習	教科書の第 3 章 p56～65 に目を通す。	1 時間
	3	復習	評価に基づき、課題を修正する。	2 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	教科書 p278～284 を確認する	1 時間
	1,2,3	復習	学習事項について、確実に理解する	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	食事計画は、各自が献立作成し相互評価して、その結果をもとに修正する。 オンラインまたはオンデマンドで実施の場合は、毎回出席確認を兼ねたアンケートまたは小テストを実施する。			

科目名	調理学実習Ⅰ（専門基幹科目）						科目ナンバリング	HNB252		
英文名	CookingⅠ [Practice]						講義形態	講義		
担当教員	阿部 雅子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 前期		選必・単位数	必修 1 単位						
履修を必須とする資格	「管理栄養士」「栄養士」「栄養教諭」「フードスペシャリスト」「専門フードスペシャリスト」指定科目									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理			1	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	4	専門的知識			2	コミュニケーション能力				
	1	問題発見・解決力			1	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑫									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 食物摂取の最終段階である調理について、食品が人に摂取されるまでの過程であることを理解し、人々の健康をサポートする管理栄養士として必要な調理の知識と技術の基礎を、実習を通して確実に修得する。 ② 各回の実習は、はじめに教員がデモンストレーションを行い、その後班ごとに調理し、試食して片づけまでを授業とする。									
到達目標	1. 衛生に留意し、安全に調理ができる 2. 食材の洗浄、切裁、加熱が適切にできる 3. 日常の基礎的な食事を作ることができる									
使用教材	・ 流れと要点がわかる 調理学実習、香西みどり・綾部園子編著、光生館 ・ 調理のためのベーシックデータ、女子栄養大学出版部									
参考文献	・ オールガイド食品成分表、実教出版									
評価方法	筆記試験 30%、実技テスト 20%、レポート（実習ノート）30%、実習への積極性 20%									
課題・評価に対するフィードバック方法	実習レポートに対してコメントを付し返却する。									
オフィスアワー （研究室）	水曜 5 時限目 （1 号館 4 階 405 研究室）				メールアドレス （#→@）	abe-m#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、調理実習室の使い方・実習心得								
	該当到達目標	予習	教科書の前書き、シラバスを読んで実習の目標を確認する						0.5 時間	
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針との対応、成績評価方法などを確認する。						1 時間	
2	講義内容	炊飯 p29、野菜の切り方① キャベツ：千切り キュウリ：輪切り、千切り、乱切り								
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す。						0.5 時間	
	1,2,3	復習	実習内容をレポートにまとめ、関連事項を調べる。						2 時間	
3	講義内容	野菜の切り方② ゴボウ：千切り、ささがき ニンジン：短冊切り、千切り （白飯、厚焼き卵 p30、きんぴらごぼう p39、にんじんシリシリ）								
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す。						0.5 時間	
	1,2,3	復習	実習内容をレポートにまとめ、関連事項を調べる。						2 時間	
4	講義内容	日本の料理①								

		たけのごはん p41、れんこんつくね、酢の物 p35、若竹汁 p42、桜餅 p141			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の該当ページに目を通す。	0.5 時間	
		復習	実習内容をレポートにまとめ、関連事項を調べる。テストの勉強をする。	2 時間	
5	講義内容	中国の料理① 白飯、麻婆豆腐 p62、涼拌三絲 p61、蕃茄蛋花湯 p82、杏仁豆腐 p71			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の該当ページに目を通す。	0.5 時間	
		復習	実習内容をレポートにまとめ、関連事項を調べる。	1 時間	
6	講義内容	西洋の料理① ピラフ p94、ハンバーグ p93、コンソメスープ p94、オレンジゼリーp95			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の該当ページに目を通す。	0.5 時間	
		復習	実習内容をレポートにまとめ、関連事項を調べる。	2 時間	
7	講義内容	実技テスト 1			
	該当到達目標 1,2,3	予習	試験課題の練習、基本事項を確認する。	0.5 時間	
		復習	試験内容を振り返る。	2 時間	
8	講義内容	野菜の切り方③ジャガイモ:皮むき、さいの目切り 玉ねぎ:薄切り、みじん切り (ハッシュドビーフ p106、ポテトサラダ p106)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の該当ページに目を通す。	0.5 時間	
		復習	実習内容をレポートにまとめ、関連事項を調べる。	2 時間	
9	講義内容	日本の料理② 赤飯 p45、あじの塩焼き p47、炊き合わせ p50、かきたま汁 p34、水羊羹 p143			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の該当ページに目を通す。	0.5 時間	
		復習	実習内容をレポートにまとめ、関連事項を調べる。	2 時間	
10	講義内容	中国の料理② 古滷肉 p65、涼拌茄子 p73、搾菜肉絲湯 p74、花捲児 p91			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の該当ページに目を通す。	0.5 時間	
		復習	実習内容をレポートにまとめ、関連事項を調べる。	2 時間	
11	講義内容	西洋の料理② いわしの香草焼き p98、キャロットスープ p99、トマトサラダ p97、マドレーヌ p107			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の該当ページに目を通す。	0.5 時間	
		復習	実習内容をレポートにまとめ、関連事項を調べる。	2 時間	
12	講義内容	郷土の料理 手打ちうどん p148、天ぷら p43、挽茶饅頭 p142			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の該当ページに目を通す。	0.5 時間	
		復習	実習内容をレポートにまとめ、関連事項を調べる。	2 時間	
13	講義内容	実技テスト 2・筆記試験			
	該当到達目標 1,2,3	予習	試験課題の練習、基本事項を確認する。	2 時間	
		復習	試験内容を振り返る。夏季休業中の課題の計画をたてる。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					31.5 時間
備考	・ 受講ルール:ユニホーム、クッキングシューズ着用、包丁、ノート必携 ・ 実習レポート:調理のポイントと実習内容に関連した事項を調べてまとめること オンラインで実施する際は、別途提示する。				

科目名	調理学実習Ⅱ（専門基幹科目）						科目ナンバリング	HNB253		
英文名	CookingⅡ [Practice]						講義形態	実習		
担当教員	阿部 雅子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格	管理栄養士、栄養士、栄養教諭、フードスペシャリスト、専門フードスペシャリスト									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	4	専門的知識				2	コミュニケーション能力			
	1	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑫									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 前期の調理学実習Ⅰを基礎として、応用・発展的な実習を通して、調理の技術と知識を高め、栄養バランス、食品、食文化、経済等に配慮して、献立作成する力を修得する。 ② 各回の実習は、はじめに教員がデモンストレーションを行い、その後班ごとに調理し、試食して片づけまでを授業とする。									
到達目標	1. 応用的な調理技術を修得する 2. 安全で衛生的に調理を作ることができる 3. 主な食品の調理性を説明できる 4. 適切な調味、供卓方法ができる									
使用教材	・ 流れと要点がわかる 調理学実習、香西みどり・綾部園子編著、光生館 ・ 調理のためのベーシックデータ、女子栄養大学出版部									
参考文献	・ オールガイド食品成分表、実教出版									
評価方法	筆記試験 30%、実技テスト 20%、レポート(実習ノート)30%、実習への積極性 20%									
課題・評価に対するフィードバック方法	実習レポートに対してコメントを付し返却する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 5 時限目 (1 号館 4 階 405 研究室)				メールアドレス (#→@)	abe-m#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	野菜の切り方① ジャガイモ:皮むき・乱切り ニンジン:短冊切り (ひじき混ぜごはん p59、肉じゃが p39、菊花豆腐の吸い物 p42)								
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書の該当ページに目を通す						0.5 時間	
		復習	実習内容をレポートにまとめ、栄養計算し、関連事項を調べる						2 時間	
2	講義内容	日本の料理① 栗ご飯 p33、ぶりの照り焼き p58、菊花カブ p58、白和え p47、茶碗蒸し p51、じょうよまんじゅう p142								
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	教科書の該当ページに目を通す						0.5 時間	
		復習	実習内容をレポートにまとめ、栄養計算し、関連事項を調べる						2 時間	
3	講義内容	自主献立								
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	実施献立を確認する。						0.5 時間	
		復習	実習内容をレポートにまとめ、栄養計算し、関連事項を調べる						2 時間	
4	講義内容	西洋の料理①								

		ウイーンナーシュニッツェル p116、キッシュ p149、アップルストウルーデル、チーズスープ p114		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	実習内容をレポートにまとめ、栄養計算し、関連事項を調べる	2 時間
5	講義内容	中国の料理① 鍋貼餃子 p81、干焼明蝦 p74、辣白菜 p66、西湖魚羹 p69、拔絲地瓜 p78、白飯		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	実習内容をレポートにまとめ、栄養計算し、関連事項を調べる	2 時間
6	講義内容	西洋料理のテーブルマナー		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	実習内容をレポートにまとめ、関連事項を調べる	2 時間
7	講義内容	西洋の料理② マカロニグラタン p101、ラトウユ p118、人参サラダ p115、シュークリーム p115、バゲット		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	実習内容をレポートにまとめ、栄養計算し、関連事項を調べる	2 時間
8	講義内容	日本の料理② 巻きずし p53、いなりずし p54、手まり寿司、けんちん汁 p38、即席漬け		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	実習内容をレポートにまとめ、栄養計算し、関連事項を調べる	2 時間
9	講義内容	中国の料理② 八宝肉飯、糖醋魚、涼拌芹菜豆芽、玉米湯、杏仁酥餅		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	実習内容をレポートにまとめ、栄養計算し、関連事項を調べる	2 時間
10	講義内容	野菜の切り方② 大根、人参:千切り りんご:皮むき、飾り切り (ビビンバ p153、紅白なます p128、わかめスープ)		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	実習内容をレポートにまとめ、栄養計算し、関連事項を調べる	2 時間
11	講義内容	正月料理 田作り、松風焼き、伊達巻、栗きんとん、紅白なます、野菜の煮しめ、かまぼこ、えびのうま煮、黒豆、雑煮		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	実習内容をレポートにまとめ、栄養計算し、関連事項を調べる	2 時間
12	講義内容	クリスマス料理 ブッシュドノエル、パンプキンスープ、ローストチキン、キャロットライス		
	該当到達目標	予習	教科書の該当ページに目を通す。	1 時間
	1,2,3,4	復習	実習内容をレポートにまとめ、栄養計算し、関連事項を調べる	0.5 時間
13	講義内容	実技・筆記試験		
	該当到達目標	予習	基本事項を確認し、練習する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	振り返り	2 時間
合計時間(予習・復習)				31.5 時間
備考	- 受講ルール:ユニホーム、クッキングシューズ着用、包丁、ノート必携 - 実習レポート:調理のポイントと実習内容に関連した事項を調べてまとめること オンラインで実施する際は、別途提示する。			

科目名	調理科学(専門基幹科目)							科目ナンバリング	HNB254	
英文名	Cookery Science							講義形態	演習	
担当教員	阿部 雅子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格	管理栄養士、栄養教諭、食品衛生監視員、フードスペシャリスト、専門フードスペシャリスト									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	5	専門的知識				1	コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	2 3 4 12 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 食品が調理を経て人に摂取されるまでの過程を学ぶとともに、人体に対しての栄養面や安全面等への影響や評価を理解する。 「調理」の要点は、調理操作による食品の物理的、化学的、組織学的変化を望ましい状態に制御することであり、そのためには個々の食品の調理特性を熟知しておく必要がある。調理科学では食品の調理特性を学び、調理操作の諸条件と関連づけて理解する。食品の物性および嗜好性とその評価方法について修得する。 ② 講義ではパワーポイントを使用して、食品の調理性について理論を学ぶ。 実験ではグループに分かれてテーマごとに実験を行う。結果はレポートにまとめるとともにプレゼンテーションを実施し、調理の理論をより深く理解する。									
到達目標	1. 食品の調理性を理解し説明できる。 2. 食べ物の嗜好性とテクスチャーの評価方法を、理解し説明できる。									
使用教材	栄養管理と生命科学シリーズ「調理学」、吉田恵子、綾部園子編、理工図書									
参考文献	調理科学実験、今井悦子、柳沢幸江編、アイ・ケイ コーポレーション									
評価方法	筆記試験 60%、小テスト 20%(10%×2)、レポート 20%									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テストを返却し解説する。提出課題に対してコメントし返却する。									
オフィスアワー (研究室)	水曜 5 時限目 1 号館 4 階 405 研究室				メールアドレス (#→@)		abe-m#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス、炭水化物を主成分とする食品① 米								
	該当到達目標	予習	教科書の前書き、シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する。 教科書の第 6 章 p122~137 に目を通す。						1 時間	
	1,2	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針との対応、成績評価方法などを確認する。炭水化物の特徴、米の調理性について理解する。						2 時間	
2	講義内容	炭水化物を主成分とする食品② 小麦								
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章 p137~162 に目を通す。						1 時間	
	1,2	復習	小麦の調理性を理解する。						2 時間	
3	講義内容	炭水化物を主成分とする食品③ いも・豆								
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章 p137~162 に目を通す。						1 時間	
	1,2	復習	いも・豆の調理性を理解する。小テストをするので復習しておく。						2 時間	

4	講義内容	たんぱく質を主成分とする食品① 肉		
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章 p163~178 に目を通す。	1 時間
	1,2	復習	たんぱく質の特徴、肉の調理性について理解する。	2 時間
5	講義内容	たんぱく質を主成分とする食品② 魚・卵		
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章 p178~196 に目を通す。	1 時間
	1,2	復習	魚介類・卵の調理性について、理解する。	2 時間
6	講義内容	たんぱく質を主成分とする食品③ 乳・乳製品・大豆類		
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章 p196~206 に目を通す。	1 時間
	1,2	復習	乳・乳製品、大豆類の調理性について、理解する。	2 時間
7	講義内容	ビタミン・無機質の給源となる食品		
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章 p206~225 に目を通す。	1 時間
	1,2	復習	野菜類の調理性について、理解する。小テストをするので復習しておく。	2 時間
8	講義内容	成分抽出素材の調理性		
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章 p225~263 に目を通す。	1 時間
	1,2	復習	成分抽出素材の調理性について、理解する。	2 時間
9	講義内容	実験内容の説明		
	該当到達目標	予習	実験ノートに目を通す。	1 時間
	1,2	復習	実験の目的、方法、結果のまとめ方を理解する。	2 時間
10	講義内容	【実験 1】米の吸水に及ぼす温度と時間		
	該当到達目標	予習	実験ノートの該当ページに目を通す。	1 時間
	1,2	復習	実験結果をまとめ、レポートを作成する。	2 時間
11	講義内容	【実験 2】ゲル化剤の種類と特徴		
	該当到達目標	予習	実験ノートの該当ページに目を通す。	1 時間
	1,2	復習	実験結果をまとめ、レポートを作成する。	2 時間
12	講義内容	【実験 3】蒸しパンに及ぼす膨化剤の影響		
	該当到達目標	予習	実験ノートの該当ページに目を通す。	1 時間
	1,2	復習	実験結果をまとめ、レポートを作成する。	2 時間
13	講義内容	【実験 4】野菜の加熱による色の変化		
	該当到達目標	予習	実験ノートの該当ページに目を通す。	1 時間
	1,2	復習	実験結果をまとめ、レポートを作成する。	2 時間
14	講義内容	実験データの整理、結果および考察		
	該当到達目標	予習	実験結果の予測およびデータ整理の方法を確認する。	1 時間
	1,2	復習	実験結果を考察し、プレゼンテーションの準備をする。	2 時間
15	講義内容	結果報告、まとめ		
	該当到達目標	予習	教科書 p278~284 を確認する	1 時間
	1,2	復習	学習事項について、確実に理解する	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	- 指定期日までに実験レポートを提出すること。 - オンラインで実施する場合は、別途提示する。			

科目名	食品学Ⅰ（専門基幹科目）						科目ナンバリング	HNB261		
英文名	Food ChemistryⅠ						講義形態	講義		
担当教員	應本 真									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員、（専門）フードスペシャリスト									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理			1	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	7	専門的知識				コミュニケーション能力				
	1	問題発見・解決力			1	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGsとの関連	2 3 4 9									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○								○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	本講義は、食品の三つの機能（栄養機能、嗜好機能、生体調節機能）について学習することにより、食・健康についての科学的な理解を深めることを目標とします。また、食品の分類、食品成分表の理解するための主要栄養成分および微量栄養素を学び、食品ごとの特徴的な嗜好成分の機能と役割を理解することを目標とします。 講義では、主に教科書、資料の解説を行い、確認テストを実施します。									
到達目標	1. 食品成分表を理解し、その意味について説明できる。 2. 食品中の成分（栄養成分・嗜好成分・機能性成分）の特性について説明できる。 3. 有機化学的な視点から食品を説明できる。									
使用教材	教科書：「栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ 食べ物と健康―食品の成分と機能を学ぶ」水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎／編、羊土社									
参考文献	特に指定しませんが、関連の教科書や図書を調べてください。									
評価方法	授業参加度（40％）、試験（60％）などで総合的に評価します。									
課題・評価に対するフィードバック方法	試験問題出題の意図について解説します。									
オフィスアワー （研究室）	随時 1 号館 4 階 402				メールアドレス （#→@）	oumoto#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	ガイダンス、食品について								
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 p.12～25 を読み、重要と思われる事項を書きだす						1 時間	
		復習	講義内容について復習する						2 時間	
2	講義内容	食品の機能								
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 p.26～28 を読み、重要と思われる事項を書きだす						1 時間	
		復習	講義内容について復習する						2 時間	
3	講義内容	炭水化物（単糖類）								
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 p.28～39 を読み、重要と思われる事項を書きだす						1 時間	
		復習	講義内容について復習する						2 時間	
4	講義内容	炭水化物（多糖類・食物繊維）								
	該当到達目標	予習	教科書 p.39～43 を読み、重要と思われる事項を書きだす						1 時間	

	1,2,3	復習	講義内容について復習する	2 時間
5	講義内容	脂質		
	該当到達目標	予習	教科書 p.43～57 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間
	1,2,3	復習	講義内容について復習する	2 時間
6	講義内容	たんぱく質		
	該当到達目標	予習	教科書 p.57～69 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間
	1,2,3	復習	講義内容について復習する	2 時間
7	講義内容	ビタミン		
	該当到達目標	予習	教科書 p.69～77 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間
	1,2,3	復習	講義内容について復習する	2 時間
8	講義内容	ミネラル		
	該当到達目標	予習	教科書 p.77～81 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間
	1,2,3	復習	講義内容について復習する	2 時間
9	講義内容	水分		
	該当到達目標	予習	教科書 p.90～99 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間
	1,2,3	復習	講義内容について復習する	2 時間
10	講義内容	嗜好成分(色素成分)		
	該当到達目標	予習	教科書 p.100～106 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間
	1,2,3	復習	講義内容について復習する	2 時間
11	講義内容	嗜好成分(呈味成分)		
	該当到達目標	予習	教科書 p.107～111 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間
	1,2,3	復習	講義内容について復習する	2 時間
12	講義内容	嗜好成分(香気成分)		
	該当到達目標	予習	教科書 p.111～114 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間
	1,2,3	復習	講義内容について復習する	2 時間
13	講義内容	食品の三次機能		
	該当到達目標	予習	教科書 p.123～137 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間
	1,2,3	復習	講義内容について復習する	2 時間
14	講義内容	保健機能食品		
	該当到達目標	予習	教科書 p.176～195 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間
	1,2,3	復習	講義内容について復習する	2 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	授業全体を見直し、これまでの学修で不十分と思われる事項を書きだす	1 時間
	1,2,3	復習	講義内容について復習する	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	インターネットやニュース等での食品に関する情報は日頃からチェックしておいて下さい。 本講義がオンラインでの授業となる場合、具体的なスケジュール等は、初回の授業時にお知らせします。			

科目名	食品学Ⅱ（専門基幹科目）						科目ナンバリング	HNB262		
英文名	Food Chemistry Ⅱ						講義形態	講義		
担当教員	應本 真									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員、（専門）フードスペシャリスト									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理			1	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	7	専門的知識				コミュニケーション能力				
	1	問題発見・解決力			1	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	2 3 4 9									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	本講義は、食品の三つの機能（栄養機能、嗜好機能、生体調節機能）について学習することにより、食・健康についての科学的な理解を深めることを目標とします。また、食品の分類、食品成分表の理解するための主要栄養成分および微量栄養素を学び、食品ごとの特徴的な嗜好成分の機能と役割を理解することを目標とします。 講義では、主に教科書、資料の解説を行い、確認テストを実施します。									
到達目標	1. 食品中の成分（栄養成分・嗜好成分・機能性成分）の特性について説明できる。 2. 植物性食品、動物性食品などの特性と機能性について説明できる。 3. 有機化学的な視点から食品を説明できる。									
使用教材	教科書：「栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅱ 食べ物と健康―食品の分類と特性、加工を学ぶ」栢野新市、水品善之、小西洋太郎／編、羊土社									
参考文献	特に指定しませんが、関連の教科書や図書を調べてください。									
評価方法	授業参加度（40％）、試験（60％）などで総合的に評価します。									
課題・評価に対するフィードバック方法	試験問題出題の意図について解説します。									
オフィスアワー（研究室）	随時 1 号館 4 階 402				メールアドレス （＃→＠）		oumoto#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	食品の分類								
	該当到達目標	予習	教科書 p.12～26 を読み、重要と思われる事項を書きだす						1 時間	
	1,2,3	復習	講義内容について復習する						2 時間	
2	講義内容	植物性食品（1）								
	該当到達目標	予習	教科書 p.27～42 を読み、重要と思われる事項を書きだす						1 時間	
	1,2,3	復習	講義内容について復習する						2 時間	
3	講義内容	植物性食品（2）								
	該当到達目標	予習	教科書 p.43～55 を読み、重要と思われる事項を書きだす						1 時間	
	1,2,3	復習	講義内容について復習する						2 時間	

4	講義内容	植物性食品(3)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 p.56～68 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間	
		復習	講義内容について復習する	2 時間	
5	講義内容	植物性食品(4)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 p.69～81 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間	
		復習	講義内容について復習する	2 時間	
6	講義内容	動物性食品(1)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 p.82～91 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間	
		復習	講義内容について復習する	2 時間	
7	講義内容	動物性食品(2)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 p.92～103 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間	
		復習	講義内容について復習する	2 時間	
8	講義内容	動物性食品(3)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 p.104～119 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間	
		復習	講義内容について復習する	2 時間	
9	講義内容	油脂			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 p.120～137 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間	
		復習	講義内容について復習する	2 時間	
10	講義内容	調味料・香辛料			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 p.138～153 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間	
		復習	講義内容について復習する	2 時間	
11	講義内容	嗜好飲料			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 p.154～162 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間	
		復習	講義内容について復習する	2 時間	
12	講義内容	加工食品			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 p.163～179 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間	
		復習	講義内容について復習する	2 時間	
13	講義内容	微生物利用食品			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 p.180～193 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間	
		復習	講義内容について復習する	2 時間	
14	講義内容	バイオテクノロジーと食品			
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 p.194～204 を読み、重要と思われる事項を書きだす	1 時間	
		復習	講義内容について復習する	2 時間	
15	講義内容	まとめ			
	該当到達目標 3	予習	授業全体を見直し、これまでの学修で不十分と思われる事項を書きだす	1 時間	
		復習	講義内容について復習する	2 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	インターネットやニュース等での食品に関する情報は日頃からチェックしておいて下さい。 本講義がオンラインでの授業となる場合、具体的なスケジュール等は、初回の授業時にお知らせします。				

科目名	食べ物と健康基礎実験(専門基幹科目)						科目ナンバリング	HNB263		
英文名	Food Chemistry [Basic Experiment]						講義形態	実験		
担当教員	應本 真									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	1	専門的知識				4	コミュニケーション能力			
	4	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	2 3 4 9									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○			○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	本実験は 2～3 年生で学ぶ実験のための基礎的な科学知識や実験技術を習得し、また、実験操作を俯瞰的に捉え、「考えながら実践する」ことを目標とします。									
①講義の目標	授業前に関連の資料を配布し、授業時に配布資料を用いて、実験の流れを説明します。実験中は、考えながら行動し、注意点・変更点・疑問点を常に記録してください。不明な点はそのままにしないで、必ず									
②講義の実施方法	スタッフや班員に質問をしてください。									
到達目標	1. 実験器具の名称と用途及び操作を理解し、説明できる。 2. 試料の適切な取り扱いができる。 3. 食品分析法について理解し、実験方法の基礎を身につけることができる。 4. 実験の結果をまとめ、わかりやすいレポートを作成できる。									
使用教材	適宜、実験前に資料を配布します。									
参考文献	特に指定しませんが、関連の教科書や実験書、ウェブサイトなどを調べてください。									
評価方法	レポート(40%)、授業参加度(40%)、小テスト(20%)などで総合的に評価します。									
課題・評価に対するフィードバック方法	実験レポートに対しては、授業時間の中でコメントを述べる、あるいは直接レポートに書き込み返却します。合格点に満たないレポートは、再提出を求めます。									
オフィスアワー(研究室)	随時 1 号館 4 階 402				メールアドレス (#→@)		oumoto#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習							時間	
	1	復習	必要に応じて、授業中に提示された課題を復習する						1 時間	
2	講義内容	実験器具の取り扱いと測容								
	該当到達目標	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ						0.5 時間	
	1,2,3,4	復習	実験レポートの作成						1 時間	
3	講義内容	試薬の調整								
	該当到達目標	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ						0.5 時間	
	1,2,3,4	復習	実験レポートの作成						1 時間	
4	講義内容	pH 緩衝液調製と pH 測定								

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ	0.5 時間
		復習	実験レポートの作成	1 時間
5	講義内容	水分の定量		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ	0.5 時間
		復習	実験レポートの作成	1 時間
6	講義内容	灰分の定量		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ	0.5 時間
		復習	実験レポートの作成	1 時間
7	講義内容	たんぱく質・アミノ酸の定性分析		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ	0.5 時間
		復習	実験レポートの作成	1 時間
8	講義内容	糖類の定性分析		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ	0.5 時間
		復習	実験レポートの作成	1 時間
9	講義内容	香気成分の化学合成		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ	0.5 時間
		復習	実験レポートの作成	1 時間
10	講義内容	色素成分の抽出		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ	0.5 時間
		復習	実験レポートの作成	1 時間
11	講義内容	色素成分の薄相クロマトグラフィー分析		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ	0.5 時間
		復習	実験レポートの作成	1 時間
12	講義内容	まとめ		
	該当到達目標 4	予習	これまで行ってきた実験を復習しておく	0.5 時間
		復習	これまで行ってきた実験内容を理解する	1 時間
13	講義内容			
	該当到達目標	予習		
		復習		
14	講義内容			
	該当到達目標	予習		
		復習		
15	講義内容			
	該当到達目標	予習		
		復習		
合計時間(予習・復習)				17.5 時間
備考	レポート課題は学んだことを振り返る上で大切な作業です。期限内に提出するよう心がけて下さい。 他の科目(食品学など)とのつながりも考えて予習・復習をして下さい。 本講義がオンラインでの授業となる場合、具体的なスケジュール等は、初回の授業時にお知らせします。			

科目名	食品学実験(専門基幹科目)						科目ナンバリング	HNB264		
英文名	Food Chemistry [Experiment]						講義形態	実験		
担当教員	應本 真									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格	管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員、(専門)フードスペシャリスト									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	1	専門的知識				4	コミュニケーション能力			
	4	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑨									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○			○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	本実験は「食べ物と健康基礎実験」で学んだことを基に、機器分析による食品成分の分析法を学習します。本実験により、機器分析のための基礎知識や実験技術を習得することを目指します。									
①講義の目標	授業前に関連の資料を配布し、授業時に配布資料を用いて、実験の流れを説明します。実験中は、考									
②講義の実施方法	えながら行動し、注意点・変更点・疑問点を常に記録してください。不明な点はそのままにしないで、必ず									
	スタッフや班員に質問をしてください。									
到達目標	1. 食品分析法について理解し、説明できる。 2. 高度な分析機器を用いた定量分析ができる。 3. 食品分析法について理解し、実験方法の基礎を身につけることができる。 4. 実験の結果をまとめ、わかりやすいレポートを作成できる。									
使用教材	適宜、実験前に資料を配布します。									
参考文献	特に指定しませんが、関連の教科書や実験書、ウェブサイトなどを調べてください。									
評価方法	レポート(60%)、授業参加度(40%)などで総合的に評価します。									
課題・評価に対するフィードバック方法	実験レポートに対しては、授業時間の中でコメントを述べる、あるいは直接レポートに書き込み返却します。合格点に満たないレポートは、再提出を求めます。									
オフィスアワー (研究室)	随時 1 号館 4 階 402				メールアドレス (#→@)		oumoto#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習							時間	
	1	復習	必要に応じて、授業中に提示された課題を復習する						1 時間	
2	講義内容	実験のための基礎演習								
	該当到達目標	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ						0.5 時間	
	1	復習	実験レポートの作成						1 時間	
3	講義内容	ミネラルの定量(沈殿滴定法)								
	該当到達目標	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ						0.5 時間	
	1,2,3,4	復習	実験レポートの作成						1 時間	
4	講義内容	ミネラルの定量(原子吸光分析)								

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ		0.5 時間
		復習	実験レポートの作成		1 時間
5	講義内容	ポリフェノールの定量(フォーリン・チオカルト法)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ		0.5 時間
		復習	実験レポートの作成		1 時間
6	講義内容	ポリフェノールの定量(DPPH ラジカル消去試験)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ		0.5 時間
		復習	実験レポートの作成		1 時間
7	講義内容	たんぱく質・アミノ酸の定量(試料の調製)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ		0.5 時間
		復習	実験レポートの作成		1 時間
8	講義内容	たんぱく質・アミノ酸の定量(高速液体クロマトグラフィー分析)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ		0.5 時間
		復習	実験レポートの作成		1 時間
9	講義内容	脂質・脂肪酸の定量(ケン化・メチルエステル化による試料調製)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ		0.5 時間
		復習	実験レポートの作成		1 時間
10	講義内容	脂質・脂肪酸の定量(ガスクロマトグラフィー分析)			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ		0.5 時間
		復習	実験レポートの作成		1 時間
11	講義内容	遺伝子組換え食品の検出			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	配布資料に記載されている原理および実験方法を読み、実験の流れをつかむ		0.5 時間
		復習	実験レポートの作成		1 時間
12	講義内容	まとめ			
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	これまで行ってきた実験を復習しておく		0.5 時間
		復習	これまで行ってきた実験内容を理解する		1 時間
13	講義内容				
	該当到達目標	予習			
復習					
14	講義内容				
	該当到達目標	予習			
復習					
15	講義内容				
	該当到達目標	予習			
復習					
合計時間(予習・復習)					17.5 時間
備考	レポート課題は学んだことを振り返る上で大切な作業です。期限内に提出するよう心がけて下さい。 他の科目(食品学など)とのつながりも考えて予習・復習をして下さい。 本講義がオンラインでの授業となる場合、具体的なスケジュール等は、初回の授業時にお知らせします。				

科目名		食品衛生学(専門基幹科目)					科目ナンバリング		HNB271		
英文名		Food Hygiene					講義形態		講義		
担当教員		村松 芳多子									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		1 年 後期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格		栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員、(専門)フードスペシャリスト									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		6 専門的知識					コミュニケーション能力				
		問題発見・解決力				3	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連		2 3 4 6 9 12									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
											○
「その他」のアクティブラーニング実施方法		初回講義時に配布する国家試験問題を最終講義時に学生が解説する(誤文を正文に修正と用語説明)									
実施概要		① 食品の安全に関する基本的な知識と衛生的取扱いやその原理に関する知識を修得し、人体に対しての栄養面や安全面等への影響や評価について理解することを目標とする									
①講義の目標											
②講義の実施方法		② 講義中に予習課題の解答を求めることがある。また、試験前に復習課題の提出を必ず求める									
到達目標		1. 食品における理化学的、微生物学的劣化の原理を理解し説明できる 2. 食品の安全性を損なうウイルス、細菌、かびなどの微生物の特徴や有害化学物質について説明できる 3. 食品安全に関する基本的知識を説明できる									
使用教材		教科書:「新入門食品衛生学 改訂第 4 版」, 松岡麻男・小田隆弘・富田雅弘・池田光壺・玉記雷太・伊藤裕才・津村有紀共著, 南江堂, 2020 (ISBN978-4-524-24875-9), 価格 2,640 円(本体 2,400 円+税) その他:授業支援システム C-Learning(Google Classroom)を活用する									
参考文献											
評価方法		試験(90%)、課題(10%)にて評価する(課題提出は必須事項で、試験前までに合格する必要がある) ◎評価方法の基準については講義初回時と 2/3 終了時頃に説明する									
課題・評価に対するフィードバック方法		課題レポートはコメントスタンプを付けて返却する 講義時に解説する									
オフィスアワー(研究室)		講義のある曜日の午後(3~6 時限) (研究室:1 号館 4 階 404)				メールアドレス (#→@)		muramatsu#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	食品衛生学の概念(概要, 食品衛生管理, 食品の安全性問題)									
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 p.1~4 を読み、重要と思われる事項に下線や付箋をつける							1.5 時間	
		復習	【課題】国家試験過去問題を解き、誤文を正文に修正、不理解用語を調べる							1.5 時間	
2	講義内容	食品衛生行政(食品等の検査, 食品衛生監視, 輸入食品監視), 食品衛生関係法規(食品衛生法規, 一般食品の規格, 食品の規格基準, 国際食品規格)									
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 p.1~40 を読み、重要と思われる事項に下線や付箋をつける							1.5 時間	
		復習	【課題】国家試験過去問題を解き、誤文を正文に修正、不理解用語を調べる							1.5 時間	
3	講義内容	食品と微生物 1(微生物の種類と特徴)									
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書 p.41~53 を読み、重要と思われる事項に下線や付箋をつける							1.5 時間	
		復習	【課題】国家試験過去問題を解き、誤文を正文に修正、不理解用語を調べる							1.5 時間	

4	講義内容	食品と微生物 2(微生物の増殖と環境、食品と微生物の関係)		
	該当到達目標	予習	教科書 p.53～58 を読み、重要と思われる事項に下線や付箋をつける	1.5 時間
	1,2,3	復習	【課題】国家試験過去問題を解き、誤文を正文に修正、不理解用語を調べる	1.5 時間
5	講義内容	食品の変質とその防止(変質・腐敗と防止・制御)		
	該当到達目標	予習	教科書 p.59～72 を読み、重要と思われる事項に下線や付箋をつける	1.5 時間
	1,2,3	復習	【課題】国家試験過去問題を解き、誤文を正文に修正、不理解用語を調べる	1.5 時間
6	講義内容	食中毒 1(食中毒の発生状況、細菌性食中毒(感染型))		
	該当到達目標	予習	教科書 p.73～97 を読み、重要と思われる事項に下線や付箋をつける	1.5 時間
	1,2,3	復習	【課題】国家試験過去問題を解き、誤文を正文に修正、不理解用語を調べる	1.5 時間
7	講義内容	食中毒 2(細菌性食中毒(毒素型)、ウイルス性食中毒)		
	該当到達目標	予習	教科書 p.97～116 を読み、重要と思われる事項に下線や付箋をつける	1.5 時間
	1,2,3	復習	【課題】国家試験過去問題を解き、誤文を正文に修正、不理解用語を調べる	1.5 時間
8	講義内容	食中毒 3(自然毒食中毒、化学物質による食中毒、マスターテーブル法、その他の食中毒)		
	該当到達目標	予習	教科書 p.116～134 を読み、重要と思われる事項に下線や付箋をつける	1.5 時間
	1,2,3	復習	【課題】国家試験過去問題を解き、誤文を正文に修正、不理解用語を調べる	1.5 時間
9	講義内容	食品の媒介による経口感染・寄生虫(赤痢、腸チフス、コレラ、伝染性下痢症、人畜感染症、寄生虫の種類、有害昆虫、経口感染対策)		
	該当到達目標	予習	教科書 p.135～164 を読み、重要と思われる事項に下線や付箋をつける	1.5 時間
	1,2,3	復習	【課題】国家試験過去問題を解き、誤文を正文に修正、不理解用語を調べる	1.5 時間
10	講義内容	食品中の汚染物質(カビ毒、農薬の食品汚染、有害物質の生体内蓄積)		
	該当到達目標	予習	教科書 p.165～184 を読み、重要と思われる事項に下線や付箋をつける	1.5 時間
	1,2,3	復習	【課題】国家試験過去問題を解き、誤文を正文に修正、不理解用語を調べる	1.5 時間
11	講義内容	食品添加物 1(種類と用途、食品添加物の安全性)		
	該当到達目標	予習	教科書 p.185～201 を読み、重要と思われる事項に下線や付箋をつける	1.5 時間
	1,2,3	復習	【課題】国家試験過去問題を解き、誤文を正文に修正、不理解用語を調べる	1.5 時間
12	講義内容	食品添加物 2(食品の表示制度と規格基準、健康や栄養に関する表示制度と基準)		
	該当到達目標	予習	教科書 p.20～40, p.185～201 を読み、重要と思われる事項に下線や付箋をつける	1.5 時間
	1,2,3	復習	【課題】国家試験過去問題を解き、誤文を正文に修正、不理解用語を調べる	1.5 時間
13	講義内容	集団給食における衛生管理 1(危害分析重要管理事項;HACCP、食材料の仕入れから喫食までの汚染防止対策、施設衛生とその取扱)		
	該当到達目標	予習	教科書 p.213～231 を読み、重要と思われる事項に下線や付箋をつける	1.5 時間
	1,2,3	復習	【課題】国家試験過去問題を解き、誤文を正文に修正、不理解用語を調べる	1.5 時間
14	講義内容	集団給食における衛生管理 2(集団給食従事者の衛生管理、検食・保存食、事故発生時の対応)		
	該当到達目標	予習	教科書 p.231～232 及び「大量調理施設衛生管理マニュアル」を読み、重要と思われる事項に下線や付箋をつける	1.5 時間
	1,2,3	復習	【課題】国家試験過去問題を解き、誤文を正文に修正、不理解用語を調べる	1.5 時間
15	講義内容	食品用の器具と包装(素材と衛生、素材の環境汚染)、食品の安全性問題		
	該当到達目標	予習	教科書 p.203～212, p.233～240 を読み、重要と思われる事項に下線や付箋をつける	1.5 時間
	1,2,3	復習	【課題】国家試験過去問題を解き、誤文を正文に修正、不理解用語を調べる	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	平日の予習・復習時間では、学習時間が不足です。土日祝日及び長期休暇時等に不足の学習時間を補うこと(復習内容は、国家試験過去問題を解き、誤文を正文に修正、不理解用語を調べる内容です。課題は平日だけでは終了できません)。 ◎相談・質問がある場合は予めアポイントメントを取る。 ※ 状況によりオンラインになった場合は別途メール等で連絡する。			

科目名		食品衛生学実験(専門基幹科目)					科目ナンバリング	HNB272			
英文名		Food Hygiene [Experiment]					講義形態	実験			
担当教員		村松 芳多子									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		2 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格		栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員、(専門)フードスペシャリスト									
学位授与方針との対応			豊かな人間性と職業倫理		4	多様な社会・背景を理解し対応する能力					
			専門的知識		3	コミュニケーション能力					
		3	問題発見・解決力			自律的に生涯にわたって学習する力					
SDGs との関連		3 4 6									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○				○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 「食品衛生学」で修得した基礎知識について、実験を通してさらに理解を深めることを目的とする。 「食品衛生学実験」では、化学物質の特性や検出方法、微生物の特性と取り扱い方、細菌やかびの検出、観察、取り扱い実験、保存料や発色剤などの食品添加物の検出実験を取り上げ、知識をより深める ② 予習課題を実施したかについて、講義中に必ず確認する。実験ノートおよび共同実験記録用紙等を、実験大項目または中項目終了後に必ず提出する									
到達目標		1. 微生物の実験操作ができる 2. 飲料水の水質検査ができる 3. 食品の鮮度を測定できる 4. 調理器具を衛生に管理することができる 5. 食品の抗菌効果について理解できる 6. 食品添加物の検出ができる									
使用教材		教科書 1: 専用の食品衛生学実験書と実験ノートを配布する 教科書 2: 「新入門食品衛生学 改訂第 4 版」, 松岡麻男・小田隆弘・富田雅弘・池田光堯・玉記雷太・伊藤裕才・津村有紀共著, 南江堂, 2020 (ISBN978-4-524-24875-9), 価格 2,640 円(本体 2,400 円+税) その他: 授業支援システム C-Learning、Google Classroom を活用する									
参考文献											
評価方法		実験ノート(40%)、試験(33%)、共同の実験記録用紙(27%)等の総合評価。ただし、総合評価の条件は試験を 6 割超えた場合に限る。試験前までに実験ノートの提出は必須事項である。試験の際は計算機の持込み可能 ◎評価方法の基準については実験初回時と終了時頃に説明する 実験ノートの評価方法は、実験書および実験ノートに記載した評価法による 定期試験範囲は、初回に説明し試験前頃に提示する									
課題・評価に対するフィードバック方法		実験ノートはコメントスタンプを付けて返却する 授業支援システム C-Learning、Google Classroom に記載する									
オフィスアワー (研究室)		講義のある曜日の午後(5,6 時限) (研究室: 1 号館 4 階 404)				メールアドレス (#→@)		muramatsu#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	食品衛生学実験の基本 1 (実験の概要、微生物の取扱方等、パン酵母の観察と培養)									
	該当到達目標	予習	教科書 1 に記載されている原理および実験方法を読み、実験のフローチャートまたはプロトコルを作成する							0.5 時間	

	1	復習	実験ノートの作成;【課題】について調べる	1 時間
2	講義内容	食品衛生学実験の基本2 (微生物の分離・培養方法;微生物の釣菌方法)		
	該当到達目標	予習	教科書 1 に記載されている原理および実験方法を読み、実験のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5 時間
	1	復習	実験ノートの作成;【課題】について調べる	1 時間
3	講義内容	食品衛生学実験の基本3 (食品からの微生物の分離・培養;生菌数の測定および算定方法)		
	該当到達目標	予習	教科書 1 に記載されている原理および実験方法を読み、実験のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5 時間
	1	復習	実験ノートの作成;【課題】について調べる	1 時間
4	講義内容	飲料水の水質検査 (残留塩素の測定, pH の測定, 亜硝酸性窒素の測定他)		
	該当到達目標	予習	教科書 1・2 に記載されている原理および実験方法を読み、実験のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5 時間
	2	復習	実験ノートの作成;【課題】について調べる	1 時間
5	講義内容	食品の鮮度測定 1 (品質判定・鑑別:食品の簡易鮮度試験)		
	該当到達目標	予習	教科書 1 に記載されている原理および実験方法を読み、実験のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5 時間
	1,3	復習	実験ノートの作成;【課題】について調べる	1 時間
6	講義内容	食品の鮮度測定 2 (揮発性塩基窒素の測定)		
	該当到達目標	予習	教科書 1 に記載されている原理および実験方法を読み、実験のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5 時間
	1,3	復習	実験ノートの作成;【課題】について調べる	1 時間
7	講義内容	食品の衛生検査 1 (食品からの環境衛生管理上の汚染指標菌の検査) 調理器具等の衛生検査 1 (食器等洗浄の簡易検査, 拭き取り検査法, 簡易微生物測定法)		
	該当到達目標	予習	教科書 1・2 に記載されている原理および実験方法を読み、実験のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5 時間
	1,4	復習	実験ノートの作成;【課題】について調べる	1 時間
8	講義内容	食品添加物の検査 1 (保存料の抗菌力測定(ペーパーディスク法), 防ばい剤の抗菌試験) 調理器具等の衛生検査 2 (簡易測定法の評価方法)		
	該当到達目標	予習	教科書 1 に記載されている原理および実験方法を読み、実験のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5 時間
	1,4,5,6	復習	実験ノートの作成;【課題】について調べる	1 時間
9	講義内容	食品添加物の検査 2 (食品中の発色剤の検出)		
	該当到達目標	予習	教科書 1 に記載されている原理および実験方法を読み、実験のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5 時間
	1,6	復習	実験ノートの作成;【課題】について調べる	1 時間
10	講義内容	食中毒菌の分離検査 1 (選択培地による分離法)		
	該当到達目標	予習	教科書 1 に記載されている原理および実験方法を読み、実験のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5 時間
	1	復習	実験ノートの作成;【課題】について調べる	1 時間
11	講義内容	食品衛生検査 2 (分離微生物のグラム染色) 食品添加物の検査 3 (食品からの漂白剤の検出)		
	該当到達目標	予習	教科書 1 に記載されている原理および実験方法を読み、実験のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5 時間
	1,6	復習	実験ノートの作成;【課題】について調べる	1 時間
12	講義内容	食中毒菌の分離検査 2 (食中毒菌の同定鑑別) 食品添加物の検査 4 (食品からの保存料の検出)		
	該当到達目標	予習	教科書 1 に記載されている原理および実験方法を読み、実験のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5 時間
	1,6	復習	実験ノートの作成;【課題】について調べる	1 時間
13	講義内容	食品添加物の検査 5 (食品からの着色料の検出)		

	該当到達目標	予習	教科書 1 に記載されている原理および実験方法を読み、実験のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5	時間
	6	復習	実験ノートの作成;【課題】について調べる	1	時間
14	講義内容				
	該当到達目標	予習			時間
		復習			時間
15	講義内容				
	該当到達目標	予習			時間
		復習			時間
合計時間(予習・復習)				19.5	時間
備考	微生物系の実験は結果を導くために期間を要する場合があるため、講義内容全てを記載することができません。実験ごとの詳細内容は、授業支援システム C-Learning、Google Classroom を活用し公開する。 ◎相談・質問がある場合は予めアポイントメントを取ることを。 ※状況によりオンラインになった場合は別途メール等で連絡する。				

科目名		食品加工学(専門基幹科目)					科目ナンバリング	HNB281			
英文名		Food Processing and Preservation					講義形態	講義			
担当教員		村松 芳多子									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		2 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格		栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員、(専門)フードスペシャリスト									
学位授与方針との対応			豊かな人間性と職業倫理		1	多様な社会・背景を理解し対応する能力					
		8	専門的知識			コミュニケーション能力					
			問題発見・解決力		1	自律的に生涯にわたって学習する力					
SDGs との関連		46912									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○								
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 栄養面, 安全面, 嗜好面の各特性を高める各種食品の加工・貯蔵原理や方法, 容器包装食品等について理解することを目標とする。 ② 予習課題を C-Learning へ講義前までに入力する。講義中にその課題解答を求めることがある。定期試験前に復習課題を必ず提出していただく。									
到達目標		1. 食品加工法と加工食品(日本食品標準成分表に収載されている加工食品)を理解し説明できる 2. 食品の貯蔵法, 食品の包装を理解し説明できる 3. 加工食品の製造規格を理解し説明できる									
使用教材		教科書 1:「日本食品標準成分表 2020 年版(八訂)」, 文部科学省 科学技術・学術審議会 資源調査分科報告, 全官報, 2020 (ISBN978-4-904225-28-8), 価格 2,420 円(本体 2,200 円+税) 教科書 2:「N ブック 四訂 食品加工学」, 宮尾茂雄・北尾悟編著, 建帛社, 2019 (ISBN978-4-7679-0644-7), 価格 2,970 円(本体 2,700 円+税) 教科書 3:「オールガイド食品成分表 2022」, 実教出版編修部, 実教出版, 2022 (ISBN 978-4-407-35242 -9), 価格 910 円(本体 827 円+税) その他:授業支援システム C-Learning(Google Classroom)を活用する									
参考文献											
評価方法		試験(67%)、食品選択の理解(20%)、課題(13%)にて評価する(課題提出は必須事項で、試験前までに合格する必要がある) ◎評価方法の基準については講義初回時と 4/5 終了時頃に説明する									
課題・評価に対するフィードバック方法		課題レポートはコメントスタンプを付けて返却する 講義時に解説する									
オフィスアワー(研究室)		講義のある曜日の午後(3~6 時限) (研究室:1 号館 4 階 404)				メールアドレス (#→@)	muramatsu#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	食品加工貯蔵の原理(食品の変敗, 加工と貯蔵による食品の変化, 食品の保存法, 食品加工貯蔵の新技术等, 日本食品標準成分表に収載されている加工食品)									
	該当到達目標 1,2,3	予習	日本食品標準成分表の第 1 章説明 p.1~67 を読む							0.5	時間
		復習	国家試験過去問題を解く 1							0.5	時間
2	講義内容	農産食品加工貯蔵(穀類・いも類およびでん粉類の加工貯蔵)									
	該当到達目標	予習	【課題】加工食品と食品標準成分表を理解する 1							0.5	時間

	1,2,3	復習	国家試験過去問題を解く 2	0.5 時間
3	講義内容	農産食品・発酵食品加工貯蔵(砂糖及び甘味類・豆類・種実類の加工貯蔵)		
	該当到達目標	予習	【課題】加工食品と食品標準成分表を理解する 2	0.5 時間
	1,2,3	復習	国家試験過去問題を解く 3	0.5 時間
4	講義内容	農産食品加工貯蔵(野菜類・果物類・きのこ類の加工貯蔵)		
	該当到達目標	予習	【課題】加工食品と食品標準成分表を理解する 3, 4	0.5 時間
	1,2,3	復習	国家試験過去問題を解く 4	0.5 時間
5	講義内容	海産食品加工貯蔵(藻類・魚介類の加工貯蔵)		
	該当到達目標	予習	【課題】加工食品と食品標準成分表を理解する 5	0.5 時間
	1,2,3	復習	国家試験過去問題を解く 5	0.5 時間
6	講義内容	畜産食品加工貯蔵(肉類・卵類・乳類の加工貯蔵)		
	該当到達目標	予習	【課題】加工食品と食品標準成分表を理解する 6	0.5 時間
	1,2,3	復習	国家試験過去問題を解く 6	0.5 時間
7	講義内容	嗜好食品・その他の加工貯蔵(油脂類・菓子類・嗜好飲料類・調味料及び香辛料類・調理加工食品類加工貯蔵)		
	該当到達目標	予習	【課題】加工食品と食品標準成分表を理解する 7	0.5 時間
	1,2,3	復習	国家試験過去問題を解く 7	0.5 時間
8	講義内容	器包装食品(食品と包装素材), 食品流通・保存と栄養		
	該当到達目標	予習	【課題】加工食品と食品標準成分表を理解する 8, 9	0.5 時間
	1,2,3	復習	国家試験過去問題を解く 8	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				8 時間
備考	平日の復習時間 0.5 時間では学習時間が不足です。土日祝日等に不足の学習時間を補うこと(復習内容は、国家試験過去問題を解き、誤文を正文に修正、不理解用語を調べる内容です。平日だけでは終了できません)。 ◎相談・質問がある場合は予めアポイントメントを取ること。 ※状況によりオンラインになった場合は別途メール等で連絡する。			

科目名	食品加工学実習(専門基幹科目)					科目ナンバリング	HNB282			
英文名	Food Processing and Preservation [Practice]					講義形態	実習			
担当教員	村松 芳多子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格	管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員、(専門)フードスペシャリスト									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理				多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識			3	コミュニケーション能力				
	7	問題発見・解決力				自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	4 6 9 12									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○				○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 食品の生育・生産から、加工を経て人に摂取されるまでの過程を学び、人体に対しての栄養面や安全面の影響や評価を理解・修得する。「食品学ⅠとⅡ」や「食品加工学」で学んだことを基礎として実習し、より実践的に食品の嗜好性・栄養性・機能性の変化および品質保持技術と安全性の確保についての知識を深めることを目的とする。 ② 予習課題を実施したかについて、講義中に必ず確認する。実習ノートを各実習終了後に提出する。									
到達目標	1. 各食品原料の特性、特有成分の栄養的・し好的・化学的性質を理解し説明できる 2. 食品の安全な取扱の基本を修得する 3. 食品加工製造方法および原理を理解し、実際に製造できる 4. 食品の評価および選択の方法を理解する 5. 食品表示および食品添加物について説明できる									
使用教材	教科書 1: 専用の食品加工学実習書と実習ノートを配布する 教科書 2: 「Nブック 五訂 食品加工学」, 宮尾茂雄・北尾悟編著, 建帛社, 2022 (ISBN978-4-7679-0719-2), 価格 2,970 円(本体 2,700 円+税) 教科書 3: 「食品学Ⅱ」, 栢野新市, 水品義之, 小西洋太郎, 羊土社, 2021 (ISBN978-4-7581-1366-3), 価格 2,970 円(本体 2,700 円+税) その他: 授業支援システム C-Learning、Google Classroom を活用する									
参考文献										
評価方法	実習ノート(57%)、試験(43%)等の総合評価。ただし総合評価の条件は試験を 6 割超えた場合に限る ◎評価方法の基準については実習初回時と終了時頃に説明する 実習ノートの評価方法は、実習書および実習ノートに記載した評価法による 定期試験範囲は、初回に説明し試験前頃に提示する 試験前までに実習ノートの提出は必須である									
課題・評価に対するフィードバック方法	実習ノートはコメントスタンプを付けて返却する 実習時に解説、またはメールにて説明連絡を行う 授業支援システム C-Learning、Google Classroom に記載する									
オフィスアワー (研究室)	講義のある曜日の午後(5,6時限) (研究室:1号館4階 404 研究室)				メールアドレス (#→@)		muramatsu#takasaki-u.ac.jp			

1	講義内容	畜産物の加工品 1 バター, カッテージチーズ(カゼインの実験)			
	該当到達目標	予習	教科書 1・2 に記載されている原理および加工方法を読み、加工工程のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	実習ノートの作成;【課題】学習ポイントについて調べる	0.5	時間
2	講義内容	農産物の加工品 1 こんにゃく, こんにゃくゼリー			
	該当到達目標	予習	教科書 1・2 に記載されている原理および加工方法を読み、加工工程のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	実習ノートの作成;【課題】学習ポイントについて調べる	0.5	時間
3	講義内容	農産物の加工品 2 豆腐			
	該当到達目標	予習	教科書 1・2 に記載されている原理および加工方法を読み、加工工程のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	実習ノートの作成;【課題】学習ポイントについて調べる	0.5	時間
4	講義内容	発酵食品の加工品 1 ヨーグルト 1 発酵食品および乳製品の加工			
	該当到達目標	予習	教科書 1・2 に記載されている原理および加工方法を読み、加工工程のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	実習ノートの作成;【課題】学習ポイントについて調べる	0.5	時間
5	講義内容	発酵食品の加工品 2 ヨーグルト 2 乳製品の種類とその保存			
	該当到達目標	予習	教科書 1・2 に記載されている原理および加工方法を読み、加工工程のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	実習ノートの作成;【課題】学習ポイントについて調べる	0.5	時間
6	講義内容	発酵食品の加工品 3 納豆			
	該当到達目標	予習	教科書 1・2 に記載されている原理および加工方法を読み、加工工程のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	実習ノートの作成;【課題】学習ポイントについて調べる	0.5	時間
7	講義内容	農産物の加工品 3 リンゴジャム			
	該当到達目標	予習	教科書 1・2 に記載されている原理および加工方法を読み、加工工程のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	実習ノートの作成;【課題】学習ポイントについて調べる	0.5	時間
8	講義内容	水産物の加工品 1 かまぼこ			
	該当到達目標	予習	教科書 1・2 に記載されている原理および加工方法を読み、加工工程のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	実習ノートの作成;【課題】学習ポイントについて調べる	0.5	時間
9	講義内容	畜産物の加工品 2 ポークソーセージ			
	該当到達目標	予習	教科書 1・2 に記載されている原理および加工方法を読み、加工工程のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	実習ノートの作成;【課題】学習ポイントについて調べる	0.5	時間
10	講義内容	農産物の加工品 4 みかんの缶詰			
	該当到達目標	予習	教科書 1・2 に記載されている原理および加工方法を読み、加工工程のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	実習ノートの作成;【課題】学習ポイントについて調べる	0.5	時間
11	講義内容	農産物の加工品 5 みかんの缶詰検査			
	該当到達目標	予習	教科書 1・2 に記載されている原理および加工方法を読み、加工工程のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	実習ノートの作成;【課題】学習ポイントについて調べる	0.5	時間
12	講義内容	農産物の加工品 6 つぶしあん			
	該当到達目標	予習	教科書 1・2 に記載されている原理および加工方法を読み、加工工程のフローチャートまたはプロトコルを作成する	0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	実習ノートの作成;【課題】学習ポイントについて調べる	0.5	時間

13	講義内容	し好食品の加工品 1 キャラメル(砂糖の加熱実験)			
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	教科書 1・2 に記載されている原理および加工方法を読み、加工工程のフローチャートまたはプロトコールを作成する	0.5	時間
		復習	実習ノートの作成;【課題】学習ポイントについて調べる	0.5	時間
14	講義内容				
	該当到達目標	予習			時間
		復習			時間
15	講義内容				
	該当到達目標	予習			時間
		復習			時間
合計時間(予習・復習)					13 時間
備考	課題の「学習ポイント」は、復習で実施するより予習で実施した方が理解をより深めることができる。 ◎相談・質問がある場合は予めアポイントメントを取ること。 ※状況によりオンラインになった場合は別途メール等で連絡する。				

科目名	基礎栄養学(専門科目)						科目ナンバリング	HNA311		
英文名	Basic Nutrition						講義形態	講義		
担当教員	内田 薫									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数	必修 2 単位						
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、(専門)フードスペシャリスト									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理			3	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	5	専門的知識				コミュニケーション能力				
	1	問題発見・解決力			1	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	34									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 食事から摂取した栄養成分が、生体の構成成分へ代謝変換され、さらに体内で相互変換される、この一連の栄養代謝を理解する。管理栄養士を目指す上で、いちばんの土台となりうる栄養学の基本概念を習得し、さらに近年の様々な栄養学的問題についての基礎知識を身につける。 ② 教科書に沿って学ぶが、補足内容はプリントを使用する。各自担当する項目について重要だと思われる箇所をまとめ、発表する。									
到達目標	1. 栄養学史を理解し、これからの栄養学を見据えて、栄養学という学問の必要性を説明できる。 2. 食事と健康、生活習慣との関係性を説明できる。 3. 食物の消化吸収機構と栄養素の関係性を説明できる。 4. 各栄養素・水分の機能と代謝機構ならびに相互作用を説明できる。 5. エネルギー代謝について説明できる。									
使用教材	「サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 基礎栄養学 第 8 版」鈴木和春、鈴木孝子、梶田泰孝 著 (第一出版) 2023 年、2,000 円。 上記の教材に沿って授業を進める。補足内容はプリントを使用する。									
参考文献										
評価方法	定期試験 80%、授業内課題 10%、受講態度 10%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題実施後にその都度解説する。									
オフィスアワー (研究室)	金曜 4 限 (6 号館 1 階分子栄養学研究室)				メールアドレス (#→@)	uchida-k#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	栄養の概念								
	該当到達目標	予習	教科書の 1.に目を通す。						1.0	時間
	1,2	復習	栄養の定義、歴史、遺伝形質との関連を理解する。Check 1 を解く。						1.5	時間
2	講義内容	食物の摂取								
	該当到達目標	予習	教科書の 2.に目を通す。						1.0	時間
	2	復習	摂食行動の調節や食事のリズムを理解する。Check 2 を解く。						1.0	時間
3	講義内容	消化・吸収と栄養素の体内動態①								
	該当到達目標	予習	教科書の 3. A, B, C に目を通す。						1.5	時間
	3	復習	消化器系の基本構造や消化酵素を理解する。						1.5	時間
4	講義内容	消化・吸収と栄養素の体内動態②								

	該到達目標 3	予習	教科書の 3. D, E, F に目を通す。	1.5 時間	
		復習	管腔内消化と膜消化、吸収を理解する。	1.5 時間	
5	講義内容	消化・吸収と栄養素の体内動態③			
	該到達目標 3	予習	教科書の 3. G, H に目を通す。	1.5 時間	
		復習	栄養素別の消化吸收機構を理解する。Check 3 を解く。		2.0 時間
6	講義内容	炭水化物の栄養①			
	該到達目標 4,5	予習	教科書の 4. A, B, C に目を通す。	1.5 時間	
		復習	糖質の体内代謝、血糖調節を理解する。		1.5 時間
7	講義内容	炭水化物の栄養②			
	該到達目標 4,5	予習	教科書の 4. D, E に目を通す。	1.5 時間	
		復習	他の栄養素との関係、食物繊維について理解する。Check 4 を解く。		2.0 時間
8	講義内容	たんぱく質の栄養①			
	該到達目標 4	予習	教科書の 5. A, B に目を通す。	1.5 時間	
		復習	たんぱく質・アミノ酸の体内代謝、臓器間輸送を理解する。		1.5 時間
9	講義内容	たんぱく質の栄養②			
	該到達目標 4,5	予習	教科書の 5. C, D に目を通す。	1.5 時間	
		復習	量と質の評価、他の栄養素との関係を理解する。Check 5 を解く。		2.0 時間
10	講義内容	脂質の栄養①			
	該到達目標 4	予習	教科書の 6. A, B, C に目を通す。	1.5 時間	
		復習	脂質の体内代謝、臓器間輸送を理解する。		1.5 時間
11	講義内容	脂質の栄養②			
	該到達目標 4,5	予習	教科書の 6. D, E, F に目を通す。	1.0 時間	
		復習	コレステロール代謝、他の栄養素との関係を理解する。Check 6 を解く。		1.5 時間
12	講義内容	ビタミンの栄養			
	該到達目標 4,5	予習	教科書の 7. に、目を通す。	1.5 時間	
		復習	ビタミンの構造と機能、他の栄養素との関係を理解する。Check 7 を解く。		1.5 時間
13	講義内容	ミネラルの栄養			
	該到達目標 4	予習	教科書の 8. に目を通す。	1.5 時間	
		復習	ミネラルの分類と機能、他の栄養素との関係を理解する。Check 8 を解く。		1.5 時間
14	講義内容	水・電解質の栄養的意義			
	該到達目標 4	予習	教科書の 9. に目を通す。	1.0 時間	
		復習	水の出納、電解質の代謝を理解する。Check 9 を解く。		1.5 時間
15	講義内容	エネルギー代謝、まとめ			
	該到達目標 1,2,3,4,5	予習	教科書の 10. に目を通す。	1.5 時間	
		復習	エネルギー代謝とその測定法を理解する。Check 10 を解く。ここまで学習してきたこと全体をつなげて整理する。		2.5 時間
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	この科目は、「有機化学」を履修していることが望ましい。 オンラインで実施する場合は、C-Learning 上の教材や課題を使用することもある。				

科目名	基礎栄養学実験(専門科目)						科目ナンバリング	HNA312		
英文名	Basic Nutrition [Experiment]						講義形態	実験		
担当教員	内田 薫									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数	必修 1 単位						
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	4	専門的知識			1	コミュニケーション能力				
	2	問題発見・解決力			1	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	① 基礎栄養学の講義科目を受け、五大栄養素の性質やそれらの代謝変換に関して、実験を通してさらに理解する。また、実験データの考え方、レポートでの表し方、他者への伝え方を習得する。									
①講義の目標										
②講義の実施方法	② 配布される実験書に沿って学ぶが、講義科目の教科書も使用する。									
到達目標	1. 自分の手を動かして行う実験によって、講義科目「基礎栄養学」の理解を深めることができる。 2. 他者と協力して、あるいは合理的に分担して、実験を進めることができる。 3. その実験にふさわしいデータ解析を行うことができる。 4. 得られた実験結果から適切な考察ができる。 5. 他者が見て、その実験についてわかりやすく再現しやすいレポートを作成できる。									
使用教材	教員作成の実験書を配布する。 「サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 基礎栄養学 第 8 版」鈴木和春、鈴木孝子、梶田泰孝 著 (第一出版) 2023 年、2,000 円。									
参考文献										
評価方法	レポート 40%、定期試験 30%、授業への取り組み姿勢 30%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出されたレポートは添削後に返却する。									
オフィスアワー (研究室)	金曜 5 限 (6 号館 1 階分子栄養学研究室)				メールアドレス (#→@)	uchida-k#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション、糖質実験①								
	該当到達目標	予習	到達目標、評価方法などを確認する。					0.5	時間	
	1,2,3,4,5	復習	実験結果をまとめ、レポートを作成する。					2.0	時間	
2	講義内容	糖質実験②								
	該当到達目標	予習	実験書に目を通す。					0.5	時間	
	1,2,3,4,5	復習	実験結果をまとめ、レポートを作成する。					2.0	時間	
3	講義内容	糖質実験③								
	該当到達目標	予習	実験書に目を通す。					0.5	時間	
	1,2,3,4,5	復習	実験結果をまとめ、レポートを作成する。					2.0	時間	
4	講義内容	糖質実験のまとめ								
	該当到達目標	予習	ここまでの実験書を再読し、実験結果から考えられることをまとめておく。					1.0	時間	

	1,3,4	復習	実験全体を理解したか確認する。	1.0	時間
5	講義内容	脂質実験			
	該当到達目標	予習	実験書に目を通す。	0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	実験結果をまとめ、レポートを作成する。	2.0	時間
6	講義内容	脂質実験のまとめ			
	該当到達目標	予習	前回の実験書を再読し、実験結果から考えられることをまとめておく。	1.0	時間
	1,3,4	復習	実験全体を理解したか確認する。	1.0	時間
7	講義内容	たんぱく質実験			
	該当到達目標	予習	実験書に目を通す。	0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	実験結果をまとめ、レポートを作成する。	2.0	時間
8	講義内容	たんぱく質実験のまとめ			
	該当到達目標	予習	前回の実験書を再読し、実験結果から考えられることをまとめておく。	1.0	時間
	1,3,4	復習	実験全体を理解したか確認する。	1.0	時間
9	講義内容	ビタミン実験①			
	該当到達目標	予習	実験書に目を通す。	0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	実験結果をまとめ、レポートを作成する。	2.0	時間
10	講義内容	ビタミン実験②			
	該当到達目標	予習	実験書に目を通す。	0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	実験結果をまとめ、レポートを作成する。	2.0	時間
11	講義内容	ビタミン実験のまとめ			
	該当到達目標	予習	ここまでの実験書を再読し、実験結果から考えられることをまとめておく。	1.0	時間
	1,3,4	復習	実験全体を理解したか確認する。	1.0	時間
12	講義内容	ミネラル実験、まとめ			
	該当到達目標	予習	実験書に目を通す。	0.5	時間
	1,2,3,4,5	復習	実験結果をまとめ、レポートを作成する。実験全体を理解したか確認する。	2.0	時間
13	講義内容				
	該当到達目標	予習			時間
		復習			
14	講義内容				
	該当到達目標	予習			時間
		復習			
15	講義内容				
	該当到達目標	予習			時間
		復習			
合計時間(予習・復習)				28	時間
備考	この科目は、「基礎栄養学」を履修していることが望ましい。 白衣と名札を必ず着用すること。1年次に購入した計算機を持参すること。				

科目名	応用栄養学Ⅰ（専門科目）							科目ナンバリング	HNA321	
英文名	Applied NutritionⅠ							講義形態	講義	
担当教員	佐藤 清香									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、（専門）フードスペシャリスト									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	6	専門的知識					コミュニケーション能力			
	4	問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能、特性等を踏まえ、健康にかかわるリスク管理の基本的な考え方について理解する。 ② パワーポイントによる解説をきき、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を学ぶ。その上で、課題を通して栄養管理の方法を実践し、習得内容を小テストで確認する。									
到達目標	1. 健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能、特性等について説明できる。 2. 健康にかかわるリスク管理の基本的な考え方について説明できる。 3. 身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方や方法について説明できる。									
使用教材	教科書「日本人の食事摂取基準」日本人の食事摂取基準策定委員会編（第一出版株式会社） 「応用栄養学」渡邊令子・伊藤節子・瀧本秀美編著（南江堂） 講義に関する資料を適宜プリントして配布する。									
参考文献										
評価方法	定期試験で評価する。定期試験での得点率 6 割以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テストを毎回返却し、解説する。									
オフィスアワー（研究室）	火曜 5 限				メールアドレス（#→@）		最初の授業日にお知らせします			
1	講義内容	食事摂取基準の策定の方針と基本的事項								
	該当到達目標	予習	食事摂取基準の第Ⅰ章 1-1 を読み理解する。理解できない部分を確認する。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	食事摂取基準の第Ⅰ章 1-1 を熟読する。講義で取り扱われた内容を見直し、関連事項をまとめる。正答できるまで小テストの内容を復習する。						1.5 時間	
2	講義内容	食事摂取基準の指標の概要								
	該当到達目標	予習	食事摂取基準の第Ⅰ章 1-2 を読み理解する。理解できない部分を確認する。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	食事摂取基準の第Ⅰ章 1-2 を熟読する。講義で取り扱われた内容を見直し、関連事項をまとめる。正答できるまで小テストの内容を復習する。						1.5 時間	
3	講義内容	事摂取基準策定の留意事項、活用に関する基本的事項								
	該当到達目標	予習	食事摂取基準の第Ⅰ章 1-3～1-4 を読み理解する。理解できない部分を確認する。						1.5 時間	

	1,2,3	復習	食事摂取基準の第Ⅰ章 1-3～1-4 を熟読する。講義で取り扱われた内容を見直し、関連事項をまとめる。正答できるまで小テストの内容を復習する。	1.5 時間
4	講義内容	食事改善を目的とした食事摂取基準の活用の基本的な考え方		
	該当到達目標	予習	食事摂取基準の第Ⅰ章 1-4 を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	食事摂取基準の第Ⅰ章 1-4 を熟読する。講義で取り扱われた内容を見直し、関連事項をまとめる。正答できるまで小テストの内容を復習する。	1.5 時間
5	講義内容	エネルギーに関する基本的な考え方		
	該当到達目標	予習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-1(前半)を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-1(前半)を熟読する。講義で取り扱われた内容を見直し、関連事項をまとめる。正答できるまで小テストの内容を復習する。	1.5 時間
6	講義内容	ライフステージ別のエネルギー必要量の推定方法		
	該当到達目標	予習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-1(後半)を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-1(後半)を熟読する。講義で取り扱われた内容を見直し、関連事項をまとめる。正答できるまで小テストの内容を復習する。	1.5 時間
7	講義内容	たんぱく質・脂質に関する基本的な考え方		
	該当到達目標	予習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-2～1-3 を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-2～1-3 を熟読する。講義で取り扱われた内容を見直し、関連事項をまとめる。正答できるまで小テストの内容を復習する。	1.5 時間
8	講義内容	炭水化物・エネルギー産生栄養素に関する基本的な考え方		
	該当到達目標	予習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-3～1-4 を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-3～1-4 を熟読する。講義で取り扱われた内容を見直し、関連事項をまとめる。正答できるまで小テストの内容を復習する。	1.5 時間
9	講義内容	脂溶性ビタミンに関する基本的な考え方		
	該当到達目標	予習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-6(1)を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-6(1)を熟読する。講義で取り扱われた内容を見直し、関連事項をまとめる。正答できるまで小テストの内容を復習する。	1.5 時間
10	講義内容	水溶性ビタミン(ビタミン B 群等)に関する基本的な考え方		
	該当到達目標	予習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-6(2)を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-6(2)を熟読する。講義で取り扱われた内容を見直し、関連事項をまとめる。正答できるまで小テストの内容を復習する。	1.5 時間
11	講義内容	水溶性ビタミン(葉酸・パントテン酸、ビオチン、ビタミン C 等)に関する基本的な考え方		
	該当到達目標	予習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-6(2)を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-6(2)を熟読する。講義で取り扱われた内容を見直し、関連事項をまとめる。正答できるまで小テストの内容を復習する。	1.5 時間
12	講義内容	微量ミネラルに関する基本的な考え方		
	該当到達目標	予習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-7(1)を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-7(1)を熟読する。講義で取り扱われた内容を見直し、関連事項をまとめる。正答できるまで小テストの内容を復習する。	1.5 時間
13	講義内容	多量ミネラルに関する基本的な考え方		

	該当到達目標	予習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-7(2)を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	食事摂取基準の第Ⅱ章 1-7(2)を熟読する。講義で取り扱われた内容を見直し、関連事項をまとめる。正答できるまで小テストの内容を復習する。	1.5 時間
14	講義内容	学校給食摂取基準の考え方と活用方法		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	、講義で取り扱われた内容を見直し、関連事項をまとめる。正答できるまで小テストの内容を復習する。	1.5 時間
15	講義内容	栄養マネジメントの基礎、演習用問題集の復習		
	該当到達目標	予習	配布資料を読み理解する。理解できない部分を確認する。 演習用問題集の問題を解く。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義で取り扱われた内容を見直し、関連事項をまとめる。正答できるまで小テストの内容を復習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	キーワード; 食事摂取基準、学校給食摂取基準 授業の実施方法の通知や課題提出等は、C-learning システムを用いて行う			

科目名	応用栄養学Ⅱ（専門科目）							科目ナンバリング	HNA322	
英文名	Applied Nutrition Ⅱ							講義形態	講義	
担当教員	佐藤 清香									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数	必修 2 単位						
履修を必須とする資格	管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	6	専門的知識					コミュニケーション能力			
	4	問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 妊娠や発育、加齢等における人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の変化について理解し、栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)の基本的な考え方を習得する。 ② パワーポイントによる解説をきき、ライフステージに応じた栄養状態の評価・判定の考え方を学ぶ。その上で、課題を通して栄養管理の方法を実践し、習得内容を問題集で確認する。									
到達目標	1. 妊娠や発育、加齢等における人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の変化について説明できる。 2. 栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)の基本的な考え方について説明できる。									
使用教材	教科書「日本人の食事摂取基準」日本人の食事摂取基準策定委員会編(第一出版株式会社) 「応用栄養学」渡邊令子・伊藤節子・瀧本秀美編著(南江堂) 「管理栄養士・栄養士必携 データ資料集」日本栄養士会編(第一出版株式会社) 講義に関する資料を適宜プリントして配布する。									
参考文献										
評価方法	定期試験で評価する。定期試験での得点率 6 割以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テストを毎回返却し、解説する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 5 限				メールアドレス (#→@)		最初の授業日にお知らせします			
1	講義内容	栄養マネジメントの基礎、栄養ケア・プロセスの基礎								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所、配布資料を読み理解する。理解できない部分を確認する。							1.5 時間
	1,2	復習	教科書、配布資料を見直し、講義で取り扱われた内容をまとめる。練習問題集の該当箇所の問題を解き、誤った問題を修正し、関連事項を復習する。							1.5 時間
2	講義内容	栄養アセスメントの方法								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所、配布資料を読み理解する。理解できない部分を確認する。							1.5 時間
	1,2	復習	教科書、配布資料を見直し、講義で取り扱われた内容をまとめる。練習問題集の該当箇所の問題を解き、誤った問題を修正し、関連事項を復習する。							1.5 時間
3	講義内容	妊娠期の特性								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所、配布資料を読み理解する。理解できない部分を確認する。							1.5 時間

	1,2	復習	教科書、配布資料を見直し、講義で取り扱われた内容をまとめる。練習問題集の該当箇所の問題を解き、誤った問題を修正し、関連事項を復習する。	1.5 時間
4	講義内容	妊娠期の健康管理		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所、配布資料を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書、配布資料を見直し、講義で取り扱われた内容をまとめる。練習問題集の該当箇所の問題を解き、誤った問題を修正し、関連事項を復習する。	1.5 時間
5	講義内容	妊娠期の栄養アセスメントと栄養管理		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所、配布資料を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書、配布資料を見直し、講義で取り扱われた内容をまとめる。練習問題集の該当箇所の問題を解き、誤った問題を修正し、関連事項を復習する。	1.5 時間
6	講義内容	授乳期の特性		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所、配布資料を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書、配布資料を見直し、講義で取り扱われた内容をまとめる。練習問題集の該当箇所の問題を解き、誤った問題を修正し、関連事項を復習する。	1.5 時間
7	講義内容	授乳期の栄養アセスメントと栄養管理、乳汁の特性		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所、配布資料を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書、配布資料を見直し、講義で取り扱われた内容をまとめる。練習問題集の該当箇所の問題を解き、誤った問題を修正し、関連事項を復習する。	1.5 時間
8	講義内容	新生児期・乳児期の特性		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所、配布資料を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書、配布資料を見直し、講義で取り扱われた内容をまとめる。練習問題集の該当箇所の問題を解き、誤った問題を修正し、関連事項を復習する。	1.5 時間
9	講義内容	新生児期・乳児期の栄養アセスメントと栄養管理		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所、配布資料を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書、配布資料を見直し、講義で取り扱われた内容をまとめる。練習問題集の該当箇所の問題を解き、誤った問題を修正し、関連事項を復習する。	1.5 時間
10	講義内容	幼児期の栄養アセスメントと栄養管理		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所、配布資料を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書、配布資料を見直し、講義で取り扱われた内容をまとめる。練習問題集の該当箇所の問題を解き、誤った問題を修正し、関連事項を復習する。	1.5 時間
11	講義内容	学童期の栄養アセスメントと栄養管理、食物アレルギー		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所、配布資料を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書、配布資料を見直し、講義で取り扱われた内容をまとめる。練習問題集の該当箇所の問題を解き、誤った問題を修正し、関連事項を復習する。	1.5 時間
12	講義内容	思春期の栄養アセスメントと栄養管理		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所、配布資料を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書、配布資料を見直し、講義で取り扱われた内容をまとめる。練習問題集の該当箇所の問題を解き、誤った問題を修正し、関連事項を復習する。	1.5 時間
13	講義内容	成人期(更年期を含む)の栄養アセスメントと栄養管理		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所、配布資料を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書、配布資料を見直し、講義で取り扱われた内容をまとめる。練習問題集の該当箇所の問題を解き、誤った問題を修正し、関連事項を復習する。	1.5 時間
14	講義内容	高齢期の栄養アセスメントと栄養管理		

	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所、配布資料を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書、配布資料を見直し、講義で取り扱われた内容をまとめる。練習問題集の該当箇所の問題を解き、誤った問題を修正し、関連事項を復習する。	1.5 時間
15	講義内容	特殊環境における栄養管理、災害時の栄養管理		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所、配布資料を読み理解する。理解できない部分を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書、配布資料を見直し、講義で取り扱われた内容をまとめる。練習問題集の該当箇所の問題を解き、誤った問題を修正し、関連事項を復習する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	キーワード; ライフステージ、栄養マネジメント 授業の実施方法の通知や課題提出等は、C-learning システムを用いて行う			

科目名	スポーツ栄養学(専門科目)						科目ナンバリング	HNA323		
英文名	Sports Nutrition						講義形態	講義		
担当教員	木村 典代									
科目に関連した実務経験	公認スポーツ栄養士として、競技団体における栄養サポートに従事(現在)									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格	管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	3	専門的知識				1	コミュニケーション能力			
	1	問題発見・解決力				2	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	3 4 5									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○			○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	身体活動状況に応じた栄養管理の考え方を理解すること。身体活動時の人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について十分に理解し、身体活動時の栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)ができるようになることを目標とする。 授業の基本的な進め方として、2～3名のグループを形成し、前回学習内容の復習を10～15分、本時の学習目標に対するグループディスカッションを5分、演習形式の授業を60分、グループディスカッションで本時のまとめを10分行う。									
到達目標	1. スポーツ現場の栄養士の役割を説明できる。■ 2. 競技者の身体計測の意義を理解し説明できる。■ 3. 身体活動と生理機能の関係を説明できる。 4. 身体活動のメリットを説明できる。 5. 身体活動時のエネルギー代謝を理解し、適切な補給方法を説明できる。■ 6. 身体活動時の糖質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルの代謝を説明できる。■ 7. 身体活動時の水分補給・栄養補給法について説明できる。■ 8. 対象者の身体活動状況に合わせたスポーツ栄養マネジメントの計画を立てることができる。■									
使用教材	エッセンシャルスポーツ栄養学、日本スポーツ栄養学会監修、高田和子、海老久美子、木村典代 編、市村出版、2,800 円 なお、教科書は基本的に授業の予習・復習用として使用する。 講義毎に配布するプリントと教科書およびパワーポイントを併用して講義を進める。									
参考文献										
評価方法	「期末試験」100%で採点し、そこに提出物や積極的な授業参加の状況を加味する。 期末試験は、以下を評価する。 1. スポーツ現場の栄養士の役割を説明できる。 2. 競技者の身体計測の意義を理解し説明できる。 3. 身体活動と生理機能の関係を説明できる。 4. 身体活動のメリットを説明できる。 5. 身体活動時のエネルギー代謝を理解し、適切な補給方法を説明できる。 6. 身体活動時の糖質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルの代謝を説明できる。									

		7. 身体活動時の水分補給・栄養補給法について説明できる。 8. 対象者の身体活動状況に合わせたスポーツ栄養マネジメントの計画を立てることができる。			
課題・評価に対するフィードバック方法		毎授業後に授業理解度を問う課題を出題し、授業実施日に Web 上で提出を求める。 フィードバックは、翌週の授業時に復習の時間を設け、課題の解説を行う。 期末試験後には、問題解説を行う。			
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談は授業実施日の 13:00-17:00 に応じる。 研究室:1 号館 301 研究室		メールアドレス (#→@)	kimura#takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	スポーツ現場の栄養士の役割■			
	該当到達目標	予習	教科書の該当範囲に目を通してくること		1.5 時間
	1	復習	配布プリントの課題を行うこと		1.5 時間
2	講義内容	スポーツ栄養マネジメント■			
	該当到達目標	予習	教科書の該当範囲に目を通してくること		1.5 時間
	1	復習	配布プリントの課題を行うこと		1.5 時間
3	講義内容	スポーツ現場における栄養教育・行動科学■			
	該当到達目標	予習	教科書の該当範囲に目を通してくること		1.5 時間
	1	復習	配布プリントの課題を行うこと		1.5 時間
4	講義内容	身体組成・摂食障害・ウェイトコントロール■			
	該当到達目標	予習	教科書の該当範囲に目を通してくること		1.5 時間
	2	復習	配布プリントの課題を行うこと		1.5 時間
5	講義内容	身体活動時の生理・生化学、臨床診査			
	該当到達目標	予習	教科書の該当範囲に目を通してくること		1.5 時間
	3,4	復習	配布プリントの課題を行うこと		1.5 時間
6	講義内容	エネルギー消費量の測定と算出			
	該当到達目標	予習	教科書の該当範囲に目を通してくること		1.5 時間
	5	復習	配布プリントの課題を行うこと		1.5 時間
7	講義内容	身体活動とエネルギー補給■			
	該当到達目標	予習	教科書の該当範囲に目を通してくること		1.5 時間
	5	復習	配布プリントの課題を行うこと		1.5 時間
8	講義内容	身体活動とたんぱく質代謝■			
	該当到達目標	予習	教科書の該当範囲に目を通してくること		1.5 時間
	6	復習	配布プリントの課題を行うこと		1.5 時間
9	講義内容	コンディション維持とビタミン・ミネラル摂取■			
	該当到達目標	予習	教科書の該当範囲に目を通してくること		1.5 時間

	6	復習	配布プリントの課題を行うこと	1.5 時間
10	講義内容	サプリメントとアンチドーピング■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当範囲に目を通してくること	1.5 時間
	6	復習	配布プリントの課題を行うこと	1.5 時間
11	講義内容	スポーツ現場における水分補給■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当範囲に目を通してくること	1.5 時間
	7	復習	配布プリントの課題を行うこと	1.5 時間
12	講義内容	種目別・目的別の栄養・食事計画■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当範囲に目を通してくること	1.5 時間
	7	復習	配布プリントの課題を行うこと	1.5 時間
13	講義内容	試合前・中・後と遠征・合宿帯同に必要な基礎知識■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当範囲に目を通してくること	1.5 時間
	7	復習	配布プリントの課題を行うこと	1.5 時間
14	講義内容	運動処方とメディカルチェック・運動負荷試験		
	該当到達目標	予習	事前資料に目を通してくること	1.5 時間
	4,8	復習	配布プリントの課題を行うこと	1.5 時間
15	講義内容	1～14 回までのまとめ および 運動の健康影響		
	該当到達目標	予習	半期で学んだ範囲に目を通してくること	1.5 時間
	1,2,3,4,5,6, 7,8	復習	半期で学んだ学習内容を理解すること	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	キーワード: 身体活動基準、エネルギー補給、競技スポーツ、スポーツ傷害、スポーツ栄養マネジメント オンラインで授業を実施する際の変更点: ・ 授業実施方法及び内容の通知・課題提出等は、全て C-Learning システムを用いて行う ・ 授業内容によっては Zoom を用いたリモート授業を行う ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	応用栄養学実習(専門科目)					科目ナンバリング	HNA324			
英文名	Applied Nutrition [Practice]					講義形態	実習			
担当教員	佐藤 清香									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理				多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	2	専門的知識			2	コミュニケーション能力				
	3	問題発見・解決力			3	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	3 4									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○			○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	① 栄養マネジメントの方法の基本的事項を習得する。また、食事摂取基準を活用し、さまざまなライフステージの対象者に対する適切な栄養マネジメントの方法を習得する。									
①講義の目標	② パワーポイントによる解説をきき、事例課題に取り組みながら、応用力を養う。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. 栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養管理計画(主にエネルギー・栄養素の設定)の作成、評価を実施することができる。 2. さまざまなライフステージの心身機能の特徴を理解し、適切な栄養アセスメントを行うことができる。 3. 食事摂取基準の科学的根拠、策定の基本的な考え方にに基づき、さまざまなライフステージの対象者に適切な栄養管理計画を提案し、栄養ケアを実施することができる。									
使用教材	教科書「NEXT 応用栄養学実習」木戸康博・小林ゆき子編(株式会社講談社サイエンティフィック) 講義に関する資料を適宜プリントして配布する。									
参考文献	「日本人の食事摂取基準」日本人の食事摂取基準策定委員会編(第一出版株式会社) 「応用栄養学」渡邊令子・伊藤節子・瀧本秀美編著(南江堂) 「管理栄養士・栄養士必携 データ資料集」日本栄養士会編(第一出版株式会社) 「食品成分表」文部科学省(全国官報販売協同組合) 「調理のためのベーシックデータ」女子栄養大学出版部									
評価方法	定期試験 60%、授業内課題提出 40%として評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業内課題について、事例研究、解説を行う。定期試験について、出題の意図を講評する。									
オフィスアワー (研究室)	火曜 5 限				メールアドレス (#→@)	最初の授業日にお知らせします				
1	講義内容	栄養アセスメントの基礎								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所、配布資料を読み理解する。						1 時間	
	1	復習	教科書、配布資料を見直し、実習で取り扱われた内容の関連事項を復習する。 授業で課された実習課題に取り組む。						1 時間	
2	講義内容	食事調査方法と評価								
	該当到達目標	予習	食事摂取基準策定の活用に関する基本的事項を復習する。教科書、応用栄養学Ⅱで配布された資料を読み、ワークフローを理解する。						1 時間	
	1	復習	教科書、配布資料を見直し、実習で取り扱われた内容の関連事項を復習する。						1 時間	

			授業で課された実習課題に取り組む。	
3	講義内容	栄養ケア・プロセスの基礎		
	該当到達目標	予習	教科書、応用栄養学Ⅱで配布された資料を読み、ワークフローを理解する。	1 時間
	1	復習	教科書、配布資料を見直し、実習で取り扱われた内容の関連事項を復習する。 授業で課された実習課題に取り組む。	1 時間
4	講義内容	エネルギー・栄養素量の設定、栄養管理計画の基礎		
	該当到達目標	予習	食事摂取基準の食事摂取基準策定の留意事項、活用に関する基本的事項を復習する。応用栄養学Ⅱで配布された資料を読み、ワークフローを理解する。	1 時間
	1	復習	教科書、配布資料を見直し、実習で取り扱われた内容の関連事項を復習する。 授業で課された実習課題に取り組む。	1 時間
5	講義内容	妊娠期・授乳期の栄養管理		
	該当到達目標	予習	教科書、応用栄養学Ⅱで配布された資料を読み、ワークフローを理解する。	1 時間
	1,2,3	復習	教科書、配布資料を見直し、実習で取り扱われた内容の関連事項を復習する。 授業で課された実習課題に取り組む。	1 時間
6	講義内容	乳児期の栄養管理		
	該当到達目標	予習	教科書、応用栄養学Ⅱで配布された資料を読み、ワークフローを理解する。	1 時間
	1,2,3	復習	教科書、配布資料を見直し、実習で取り扱われた内容の関連事項を復習する。 授業で課された実習課題に取り組む。	1 時間
7	講義内容	小児期の栄養管理		
	該当到達目標	予習	教科書、応用栄養学Ⅱで配布された資料を読み、ワークフローを理解する。	1 時間
	1,2,3	復習	教科書、配布資料を見直し、実習で取り扱われた内容の関連事項を復習する。 授業で課された実習課題に取り組む。	1 時間
8	講義内容	高齢期の栄養管理		
	該当到達目標	予習	教科書、応用栄養学Ⅱで配布された資料を読み、ワークフローを理解する。	1 時間
	1,2,3	復習	教科書、配布資料を見直し、実習で取り扱われた内容の関連事項を復習する。 授業で課された実習課題に取り組む。	1 時間
9	講義内容	妊娠期・授乳期の栄養管理の実践		
	該当到達目標	予習	第 5 回の授業で課された実習課題に記載されている内容をよく読み、ワークフローを理解する。	1 時間
	1,3	復習	教科書、配布資料を見直し、実習で取り扱われた内容の関連事項を復習する。 授業で課された実習課題に取り組む。	1 時間
10	講義内容	乳児期の栄養管理の実践		
	該当到達目標	予習	第 6 回の授業で課された実習課題に記載されている内容をよく読み、ワークフローを理解する。	1 時間
	1,3	復習	教科書、配布資料を見直し、実習で取り扱われた内容の関連事項を復習する。 授業で課された実習課題に取り組む。	1 時間
11	講義内容	小児期の栄養管理の実践		
	該当到達目標	予習	第 7 回の授業で課された実習課題に記載されている内容をよく読み、ワークフローを理解する。	1 時間
	1,3	復習	教科書、配布資料を見直し、実習で取り扱われた内容の関連事項を復習する。 授業で課された実習課題に取り組む。	1 時間
12	講義内容	高齢期の栄養管理の実践		
	該当到達目標	予習	第 8 回の授業で課された実習課題に記載されている内容をよく読み、ワークフロー	1 時間

	1,3		一を理解する。	
		復習	教科書、配布資料を見直し、実習で取り扱われた内容の関連事項を復習する。 授業で課された実習課題に取り組む。	1 時間
13	講義内容	定期試験、及び講評		
	該当到達目標	予習	教科書、配布資料を見直し、講義で取り扱われた内容を復習する。	3 時間
	1,2,3	復習	誤った問題を修正し、関連事項を復習する。	3 時間
14	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
15	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	授業の実施方法の通知や課題提出等は、C-learning システムを用いて行う			

科目名	栄養教育論Ⅰ（専門科目）						科目ナンバリング	HNA331		
英文名	Nutrition EducationⅠ						講義形態	講義		
担当教員	木村 典代									
科目に関連した実務経験	管理栄養士として栄養教育の実践と指導に従事（現在）									
学年・開講期	1 年 後期	選必・単位数		必修 2 単位						
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理			1	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	3	専門的知識			2	コミュニケーション能力				
	2	問題発見・解決力			1	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○			○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 栄養教育論では、対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう健康や生活の質（QOL）の向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な健康・栄養教育の理論や方法を修得する。特に「栄養教育論Ⅰ」では栄養教育の定義・目的、行動科学やカウンセリングの理論と方法を修得することを目標とする。 ② 授業の基本的な進め方として、2～4 名のグループを形成し、前回学習内容の復習を 10～15 分、本時の学習目標に対するグループディスカッションを 5 分、アクティブラーニング形式の授業を 60 分、グループディスカッションで本時のまとめを 10 分行う。									
到達目標	1. 栄養教育を行う目的を説明できる。 2. 栄養教育のアセスメントおよび実施において必要となる行動科学の理論を説明できる。 3. 栄養教育に必要なカウンセリング技法の理論を説明できる。 4. 組織や地域づくりと食環境づくりの関係を説明できる。 5. 栄養教育マネジメントの目的を理解し、計画が立てられる■									
使用教材	健康・栄養科学シリーズ 栄養教育論 医薬基盤・健康・栄養研究所監修 武見ゆかり/足達淑子/木村典代/林芙美 編 南江堂 2021 年 ISBN978-4-524-22577-1 ¥3,200 教科書は基本的に授業の予習・復習用として使用する。 講義毎に配布するプリントと教科書およびパワーポイントを併用して講義を進める。									
参考文献	管理栄養士養成のための栄養学教育モデルコアカリキュラム準拠 第 9 巻 栄養教育論 多様な場での展開と実践 日本栄養改善学会監修 赤松利恵/木村典代 編 医歯薬出版株式会社 2022 年									
評価方法	期末試験 100%とし、提出物と積極的な授業参加の状況を加味して採点する。 期末試験では、以下を評価する 1. 栄養教育の目的を説明できるか 2. 行動科学理論・モデルのフレームワークができるか 3. カウンセリング技法の種類や手法について理解できているか 4. 栄養教育と組織・地域づくりの関係や食環境整備について理解できているか 5. 栄養教育マネジメントの目的を理解し、計画が立てられるか									

課題・評価に対する フィードバック方法		毎授業後に授業理解度を問う課題を出題し、授業実施日に Web 上で提出を求める。 フィードバックは、翌週の授業時に復習の時間を設け、課題の解説を行う。 また、期末試験後には、問題解説を行う。			
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談は授業実施日の 13:00-17:00 に応じる。 研究室:1 号館 301 研究室		メールアドレス (#→@)	kimura#takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	栄養教育の定義・目的と目標			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでおくこと		1.5 時間
	1	復習	配布プリントの見直しと、実施した教科書の範囲を確認すること		1.5 時間
2	講義内容	食行動変容と栄養教育 1(刺激・反応理論、ヘルスビリーフモデル)			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでおくこと		1.5 時間
	2	復習	日常のオペラント条件付け レスポナント条件付けを探し、理解すること		1.5 時間
3	講義内容	食行動変容と栄養教育 2(計画的行動理論と自己効力理論)			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでおくこと		1.5 時間
	2	復習	計画的行動理論の活用方法を考えること		1.5 時間
4	講義内容	食行動変容と栄養教育 3(トランスセオレティカル			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでおくこと		1.5 時間
	2	復習	トランスセオレティカルモデルの活用法を考えること		1.5 時間
5	講義内容	食行動変容と栄養教育 4(社会的認知理論、行動科学技法 1)			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでくること		1.5 時間
	2	復習	社会的認知理論の活用法を考えること		1.5 時間
6	講義内容	食行動変容と栄養教育 5(行動科学技法 2) ここまでの小テスト			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでくること		1.5 時間
	2	復習	行動科学技法の応用例をそれぞれ 5 つずつ考えること		1.5 時間
7	講義内容	食行動変容と栄養教育 6(栄養カウンセリング技法 1 カウンセリングの基本テクニック)			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでくること		1.5 時間
	3	復習	課題プリントを実施してくること		1.5 時間
8	講義内容	食行動変容と栄養教育 7(栄養カウンセリング技法 2 行動カウンセリングの基本テクニック)■			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでくること		1.5 時間
	3	復習	課題プリントを実施してくること		1.5 時間
9	講義内容	食行動変容と栄養教育 8(コミュニティオーガニゼーション)			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでくること		1.5 時間
	4	復習	コミュニティオーガニゼーションの例を確認してくること		1.5 時間
10	講義内容	食行動変容と栄養教育 9(イノベーション普及理論とソーシャルマーケティング)			

	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでくること	1.5 時間
	2	復習	イノベーション普及理論とソーシャルマーケティングの例を考えてくること	1.5 時間
11	講義内容	食行動変容と栄養教育 10(エコロジカルモデル ナッジ ヘルスリテラシー)		
	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでくること	1.5 時間
	2	復習	エコロジカルモデル ナッジ ヘルスリテラシーを用いた応用例を考えてくること	1.5 時間
12	講義内容	食行動変容と栄養教育 11(プリシードプロシードモデル)		
	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでくること	1.5 時間
	5	復習	プリシード部分を用いた自分のアセスメントをしてくること	1.5 時間
13	講義内容	栄養教育マネジメント PDCA アセスメントの種類と方法		
	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでくること	1.5 時間
	5	復習	課題プリントを実施してくること	1.5 時間
14	講義内容	栄養教育マネジメント 個人要因と環境要因のアセスメント		
	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでくること	1.5 時間
	5	復習	課題プリントを実施してくること	1.5 時間
15	講義内容	栄養教育論 I のまとめ		
	該当到達目標	予習	半期で実施した教科書の全範囲を読んでくること	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業中に実施した課題を見直し、完全に理解できるようにすること	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	キーワード: 行動変容・行動科学・栄養カウンセリング・食環境・栄養教育マネジメント オンラインで授業を実施する際の変更点: ・ 授業実施方法及び内容の通知・課題提出等は、全て C-learning システムを用いて行う ・ 授業内容によっては Zoom を用いたリモート授業を行う ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	栄養教育論Ⅱ（専門科目）						科目ナンバリング	HNA332		
英文名	Nutrition Education Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員	木村 典代									
科目に関連した実務経験	管理栄養士として栄養教育の実践と指導に従事（現在）									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	1	専門的知識				3	コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○	○	○		○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	対象に応じた栄養教育プログラムの作成・評価のために必要な、健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析の方法、栄養教育プログラム実施の理論と方法を講義・演習形式で修得することを目標とする。 授業の基本的な進め方として、2～4 名のグループを形成し、前回学習内容の復習を 10～15 分、本時の学習目標に対するグループディスカッションを 5 分、アクティブラーニング形式の授業を 60 分、グループディスカッションで本時のまとめを 10 分行う。									
到達目標	1. 栄養教育に必要なアセスメントの種類とその特徴を説明し、計画に活かすことができる。■ 2. 対象に応じた栄養教育の目標の種類とその特徴を説明し、計画に活かすことができる。■ 3. 対象に応じた栄養教育の方法とその特徴を説明し、実施することができる。■ 4. 栄養教育プログラムの評価の種類とその特徴を説明し、評価・改善に活かすことができる。■ 5. 栄養教育プログラムを作成し、PDCA を回すことができる。■									
使用教材	管理栄養士養成のための栄養学教育モデルコアカリキュラム準拠 第 9 巻 栄養教育論 多様な場での展開と実践 日本栄養改善学会監修 赤松利恵/木村典代 編 医歯薬出版株式会社 2022 年 教科書は基本的に授業の予習・復習用として使用する。 講義毎に配布するプリントと教科書およびパワーポイントを併用して講義を進める。									
参考文献	健康・栄養科学シリーズ 栄養教育論 医薬基盤・健康・栄養研究所監修 武見ゆかり/足達淑子/木村典代/林英美 編 南江堂 2021 年 ISBN978-4-524-22577-1 ¥3,200									
評価方法	期末試験 60%、平常点を 40%で評価する 期末試験は、以下を評価する。 1. 栄養教育マネジメントの一連の流れを理解し説明できるか 2. 栄養教育の計画立案ができるか 3. 栄養教育の実施ができるか 4. 栄養教育実施後の評価改善ができるか 5. 栄養教育プログラム全体の評価・改善を行うことができるか 平常点は、以下を評価する。 1. 毎回予習・復習を行った上で授業に臨んでいるか									

		2. 定期的に実施する課題の達成度 3. 積極的な授業への参加の状況		
課題・評価に対する フィードバック方法		毎授業後に授業理解度を問う課題を出題し、授業実施日に Web 上で提出を求める。 フィードバックは、翌週の授業時に復習の時間を設け、課題の解説を行う。 また、期末試験後には、問題解説を行う。		
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談は授業実施日の 13:00-17:00 に応じる。 研究室:1号館 301 研究室	メールアドレス (#→@)	kimura#takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	栄養教育マネジメント 栄養教育の目標設定■		
	該当到達目標 1,2	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解しておくこと	1.5 時間
		復習	授業終了時に課す課題を実施してくること	1.5 時間
2	講義内容	栄養教育マネジメント 栄養教育の計画 カリキュラム■		
	該当到達目標 2	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解しておくこと	1.5 時間
		復習	授業終了時に課す課題を実施してくること	1.5 時間
3	講義内容	栄養教育マネジメント 栄養教育の計画 教材■		
	該当到達目標 3	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解しておくこと	1.5 時間
		復習	授業終了時に課す課題を実施してくること	1.5 時間
4	講義内容	栄養教育マネジメント 栄養教育の形式		
	該当到達目標 3	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解しておくこと	1.5 時間
		復習	授業終了時に課す課題を実施してくること	1.5 時間
5	講義内容	栄養教育マネジメント 栄養教育の計画 指導案の作成■		
	該当到達目標 3	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解しておくこと	1.5 時間
		復習	授業終了時に課す課題を実施してくること	1.5 時間
6	講義内容	栄養教育マネジメント 栄養教育の実施 プレゼンテーション■		
	該当到達目標 3	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解しておくこと	1.5 時間
		復習	授業終了時に課す課題を実施してくること	1.5 時間
7	講義内容	栄養教育マネジメント 栄養教育のバイアス		
	該当到達目標 4	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解しておくこと	1.5 時間
		復習	授業終了時に課す課題を実施してくること	1.5 時間
8	講義内容	栄養教育マネジメント 栄養教育の評価の種類■		
	該当到達目標 4	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解しておくこと	1.5 時間
		復習	授業終了時に課す課題を実施してくること	1.5 時間
9	講義内容	栄養教育マネジメント 栄養教育の実践演習 1 プログラムの立案■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解しておくこと	1.5 時間

	5	復習	授業終了時に課す課題を実施してくること	1.5 時間
10	講義内容	栄養教育マネジメント 栄養教育の実践演習 2 プログラムの準備■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解しておくこと	1.5 時間
	5	復習	授業終了時に課す課題を実施してくること	1.5 時間
11	講義内容	栄養教育マネジメント 栄養教育の実践演習 3 プログラムの実施■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解しておくこと	1.5 時間
	5	復習	授業終了時に課す課題を実施してくること	1.5 時間
12	講義内容	栄養教育マネジメント 栄養教育の実践演習 4 プログラムの評価■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解しておくこと	1.5 時間
	5	復習	授業終了時に課す課題を実施してくること	1.5 時間
13	講義内容	栄養教育マネジメント 栄養教育の実践演習 5 プログラムの改善■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解しておくこと	1.5 時間
	5	復習	授業終了時に課す課題を実施してくること	1.5 時間
14	講義内容	栄養教育マネジメント 栄養教育の実践演習 6 プログラム事業の全体評価■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解しておくこと	1.5 時間
	5	復習	授業終了時に課す課題を実施してくること	1.5 時間
15	講義内容	栄養教育マネジメント 全体のまとめ		
	該当到達目標	予習	半期で実施した教科書の全範囲を読んでくこと	1.5 時間
	1,2,3,4,5,	復習	授業中に実施した課題を見直し、完全に理解できるようにすること	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	キーワード:行動変容・行動科学・栄養カウンセリング・食環境・栄養教育マネジメント オンラインで授業を実施する際の変更点: ・ 授業実施方法及び内容の通知・課題提出等は、全て C-learning システムを用いて行う ・ 授業内容によっては Zoom を用いたリモート授業を行う ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	栄養教育論Ⅲ(専門科目)						科目ナンバリング	HNA333		
英文名	Nutrition Education Ⅲ						講義形態	講義		
担当教員	木村 典代									
科目に関連した実務経験	管理栄養士として栄養教育の実践と指導に従事(現在) 公認スポーツ栄養士として、競技団体における栄養サポートに従事(現在)									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格	管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と職業倫理				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	1	専門的知識				2	コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○			○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	身体的、精神的、社会的状況等ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方や方法を講義・演習形式で修得することを目指す。 授業の基本的な進め方として、2～4 名のグループを形成し、前回学習内容の復習を 10～15 分、本時の学習目標に対するグループディスカッションを 5 分、アクティブラーニング形式の授業を 60 分、グループディスカッションで本時のまとめを 10 分行う。									
到達目標	1. 対象者の特性に応じた栄養教育の特徴を説明できる。■ 2. 対象者の特性に応じた栄養教育プログラムを作成できる。■									
使用教材	健康・栄養科学シリーズ 栄養教育論 医薬基盤・健康・栄養研究所監修 武見ゆかり/足達淑子/木村典代/林芙美 編 南江堂 2021 年 ISBN978-4-524-22577-1 ¥3,200 教科書は基本的に授業の予習・復習用として使用する。 講義毎に配布するプリントと教科書およびパワーポイントを併用して講義を進める。									
参考文献	管理栄養士養成のための栄養学教育モデルコアカリキュラム準拠 第 9 巻 栄養教育論 多様な場での展開と実践 日本栄養改善学会監修 赤松利恵/木村典代 編 医歯薬出版株式会社 2022 年									
評価方法	期末試験 80%、平常点 20%とする。 期末試験は、以下評価する。 1. ライフステージ・スタイルに応じた栄養教育の特徴を説明できるか 2. ライフステージ・スタイルに応じた栄養教育の計画立案ができるか 平常点は、 1. 毎回予習・復習を行った上で授業に臨んでいるか 2. 定期的に実施する小テストの点数 3. 積極的な授業への参加の状況 を含むものとする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎授業後に授業理解度を問う課題を出題し、授業実施日に Web 上で提出を求める。 フィードバックは、翌週の授業時に復習の時間を設け、課題の解説を行う。 また、期末試験後には、問題解説を行う。									
オフィスアワー	質問及び学習相談は授業実施日の				メールアドレス	kimura#takasaki-u.ac.jp				

(研究室)		13:00-17:00 に応じる。 研究室:1号館 301 研究室		(#→@)	
1	講義内容	妊娠期の栄養教育			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる	1.5	時間
	1,2	復習	妊婦を対象とした栄養教育指導案の作成	1.5	時間
2	講義内容	授乳期の栄養教育			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる	1.5	時間
	1,2	復習	授乳婦を対象とした栄養教育指導案の作成	1.5	時間
3	講義内容	乳児期の栄養教育			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる	1.5	時間
	1,2	復習	乳児および保護者を対象とした栄養教育指導案の作成	1.5	時間
4	講義内容	幼児期の栄養教育			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる	1.5	時間
	1,2	復習	幼児および保護者を対象とした栄養教育指導案の作成	1.5	時間
5	講義内容	学童期の栄養教育■			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる	1.5	時間
	1,2	復習	学童を対象とした栄養教育指導案の作成	1.5	時間
6	講義内容	思春期の栄養教育■			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる	1.5	時間
	1,2	復習	思春期の若者を対象とした栄養教育指導案の作成	1.5	時間
7	講義内容	成人期の栄養教育 1 職域 単身者 外国人■			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる	1.5	時間
	1,2	復習	単身者を対象とした栄養教育指導案の作成	1.5	時間
8	講義内容	成人期の栄養教育 2 特定保健指導			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる	1.5	時間
	1,2	復習	メタボリックシンドローム予備群を対象とした栄養教育指導案の作成	1.5	時間
9	講義内容	成人期の栄養教育 3 性格別			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる	1.5	時間
	1,2	復習	疾病を持つ患者に対する栄養教育 性格別の栄養教育指導案の作成	1.5	時間
10	講義内容	高齢者の栄養教育■			
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる	1.5	時間
	1,2	復習	高齢者に対する栄養教育指導案	1.5	時間
11	講義内容	障害者の栄養教育■			

	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる	1.5 時間
	1,2	復習	障害者を対象とした栄養教育指導案の作成	1.5 時間
12	講義内容	栄養教育マネジメント計画 1		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる	1.5 時間
	1,2	復習	テーマ別 対象者のアセスメントと課題の抽出	1.5 時間
13	講義内容	栄養教育マネジメント計画 2		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる	1.5 時間
	1,2	復習	テーマ別 対象者の目標設定	1.5 時間
14	講義内容	栄養教育マネジメント計画 3		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる	1.5 時間
	1,2	復習	テーマ別 対象者の栄養教育計画	1.5 時間
15	講義内容	ライフスタイル・ステージ別栄養教育のまとめ		
	該当到達目標	予習	半期で実施した教科書の全範囲を読んでくること	1.5 時間
	1,2	復習	授業中に実施した課題を見直し、完全に理解できるようにすること	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	キーワード: 行動変容・行動科学・栄養カウンセリング・食環境・栄養教育マネジメント オンラインで授業を実施する際の変更点: ・ 授業実施方法及び内容の通知・課題提出等は、全て C-learning システムを用いて行う ・ 授業内容によっては Zoom を用いたリモート授業を行う ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	栄養教育論実習(専門科目)						科目ナンバリング	HNA334		
英文名	Nutrition Education [Practice]						講義形態	実習		
担当教員	木村 典代									
科目に関連した実務経験	栄養教育論の担当教員として栄養教育の実践と指導に従事(現在)									
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	1	専門的知識				3	コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○	○	○		○	○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	「栄養教育論実習」は、「栄養教育論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」において学んできた基礎的理論を踏まえて、事例をあげた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるようにすることを目標とする。 授業は、1～7 回までは集団指導実習として、6 人組での演習を経て、一人ずつの実演実習を行う(一人 15 分ずつロールプレイする)。演習実施時に、行う教員からのフィードバックをもとに、栄養教育プログラムの改善・計画を立てる。8～12 回は個別指導実習として、2 人組での演習 2 回と 4 人組での演習 1 回を実施する(一人 30 分ずつ栄養士と対象者をロールプレイする)。									
到達目標	1. アセスメントにより対象者の特徴や状況が把握できる。■ 2. 対象者に応じた支援計画をたてることができる。■ 3. 対象者に応じた支援を実施できる。■ 4. 栄養教育計画・実施内容・対象者の変化を正しく評価でき、教育計画を改善できる。■ 5. カウンセリングテクニック、行動科学スキルを使った指導ができる。■ 6. コミュニケーションスキル・プレゼンテーションスキルを使うことができる。■									
使用教材	管理栄養士養成のための栄養学教育モデルコアカリキュラム準拠 第 9 巻 栄養教育論 多様な場での展開と実践 日本栄養改善学会監修 赤松利恵/木村典代 編 医歯薬出版株式会社 2022 年 なお、教科書は基本的に授業の予習・復習用として使用する。 講義毎に配布するプリントと教科書およびパワーポイントを併用して講義を進める。									
参考文献	健康・栄養科学シリーズ 栄養教育論 医薬基盤・健康・栄養研究所監修 武見ゆかり/足達淑子/木村典代/林芙美 編 南江堂 2021 年 ISBN978-4-524-22577-1 ¥3,200									
評価方法	「期末試験」40%、「実技点」60%とする。 期末試験は、以下を評価する。 1. 個別指導の支援計画、実践、評価、改善ができるか 2. 集団指導の計画、実践、評価、改善ができるか 3. 行動科学理論を用いたアセスメントと栄養教育の実践ができるか 実技点は、 1. 個別指導実習のレポートと実施 30% 2. 集団指導実習のレポートと実施 30%									

		上記に、平常点として積極的な授業参加と課題取り組み姿勢を加味する。 評価方法の基準については講義初回時と終了時にアナウンスする。			
課題・評価に対する フィードバック方法		毎授業後に授業理解度を問う課題を出題し、授業実施日に Web 上で提出を求める。 フィードバックは、翌週の授業時に復習の時間を設け、課題の解説を行う。 また、期末試験後には、問題解説を行う。			
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談は授業実施日の 13:00-17:00 に応じる。 研究室:1 号館 301 研究室		メールアドレス (#→@)	kimura#takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	集団指導の概要■			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでおくこと		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	パワーポイント資料の作成方法を確認する		1.5 時間
2	講義内容	集団指導実習 1■ 妊婦・授乳婦			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでおくこと		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	集団指導計画を完成させる		1.5 時間
3	講義内容	集団指導実習 2■ 幼児期 学童期			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでおくこと		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	課題プリントを実施してくること		1.5 時間
4	講義内容	集団指導実習 3■ 思春期			
	該当到達目標	予習	集団指導の準備		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	課題プリントを実施してくること		1.5 時間
5	講義内容	集団指導実習 4■ 青年期			
	該当到達目標	予習	集団指導の準備		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	課題プリントを実施してくること		1.5 時間
6	講義内容	集団指導実習 5■ 成人期			
	該当到達目標	予習	集団指導の準備		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	課題プリントを実施してくること		1.5 時間
7	講義内容	集団指導実習 6■ 高齢期			
	該当到達目標	予習	指定した教科書の範囲を読んでおくこと		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	課題プリントを実施してくること		1.5 時間
8	講義内容	集団支援の評価・改善計画の立て直し■			
	該当到達目標	予習	栄養教育論Ⅰで習得した栄養教育の理論的基礎を確認しておく		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	栄養教育論Ⅱで習得した栄養教育マネジメントの一連の流れを確認する		1.5 時間
9	講義内容	個別指導計画			
	該当到達目標	予習	栄養教育論Ⅱで習得した栄養教育マネジメントの一連の流れを確認する		1.5 時間

	1,2,3,4,5,6	復習	個別支援に向けたアセスメント項目を決定する		1.5 時間
10	講義内容	個別指導実習 1(対象者 A・B)■			
	該当到達目標	予習	アセスメント項目を確認し、支援計画を練ってくる		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	次週の支援に向けたアセスメント項目を決定する		1.5 時間
11	講義内容	個別指導実習 2(対象者 C・D)■			
	該当到達目標	予習	2 週後の支援に向けた対象者表の作成と、次週のアセスメント項目の確認し支援計画を練ってくる		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	次週の支援に向けたアセスメント項目を決定する		1.5 時間
12	講義内容	個別指導実習 3(対象者 E・F)■			
	該当到達目標	予習	アセスメント項目を確認し、支援計画を練ってくる		1.5 時間
	1,2,3,4,5,6	復習	個別支援資料を作成する		1.5 時間
13	講義内容				
	該当到達目標	予習			時間
		復習			時間
14	講義内容				
	該当到達目標	予習			時間
		復習			時間
15	講義内容				
	該当到達目標	予習			時間
		復習			時間
合計時間(予習・復習)					36 時間
備考	キーワード: 行動変容・行動科学・栄養カウンセリング・食環境・栄養教育マネジメント オンラインで授業を実施する際の変更点: ・ 授業実施方法及び内容の通知・課題提出等は、全て C-learning システムを用いて行う ・ 授業内容によっては Zoom を用いたりリモート授業を行う 集団指導実習に関しては、1 日に実施できる人数に限りがあるため、受講者数に応じて、シラバスに示している日数よりも実施日数が増える可能性がある。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。				

科目名		臨床栄養学Ⅰ（専門科目）					科目ナンバリング	HNA341			
英文名		Clinical NutritionⅠ					講義形態	講義			
担当教員		河原田 律子									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		2 年 後期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格		栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応		3	豊かな人間性と職業倫理			3	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		4	専門的知識				コミュニケーション能力				
			問題発見・解決力				自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連		3 4									
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
											○
「その他」のアクティブラーニング実施方法		毎回実施する小テストに対して、授業中に振り返りを行う。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、各種疾患別に身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法について修得することを目標とする。各種疾患の概要（定義・原因・治療方法）に基づいて、身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法について修得する。「臨床栄養学Ⅰ」では、内分泌疾患、肝・胆・腎臓疾患などの臨床的疾患構造と各疾病治療ガイドラインを基に治療および栄養療法を学修、修得する。 配布資料をもとに講義を進め、最後に確認テストを行う。練習問題を課題とし、次の授業で復習したうえで、次の単元を学修する。									
到達目標		1. 各種疾患の定義・原因について、説明できる。 2. 疾患ごとの診断基準や治療法について、説明できる。 3. 疾患ごとの栄養基準や栄養指導方法について、説明できる。									
使用教材		栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学疾患別編・本田佳子、曾根博仁・2022 年・羊土社・2800 円+税 教科書に沿って講義を行う。配布資料を毎回使用する。									
参考文献		月間 臨床栄養、医歯薬出版、実践臨床栄養学実習、第一出版									
評価方法		中間試験・筆記試験 80%、平常点 20%（授業参加度・課題への取り組みを含む）									
課題・評価に対するフィードバック方法		授業時（毎回）の課題は、次週の授業時に学生に回答してもらったうえで解説を行う。									
オフィスアワー （研究室）		木曜日 1-4 時限 1 号館 406 研究室/臨床栄養学研究室 質問はメールでも受付ける。				メールアドレス （#→@）	nasu#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション・代謝系疾患 1									
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第 1 章の 1 に目を通す。						1.5 時間		
		復習	糖尿病の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次回の授業時に確認。						1.5 時間		
2	講義内容	代謝系疾患 2									
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第 1 章の 2-3 に目を通す。						1.5 時間		
		復習	脂質異常症・肥満症の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次回の授業時に確認。						1.5 時間		
3	講義内容	代謝系疾患 3									
	該当到達目標	予習	教科書の第 1 章の 4-7 に目を通す。						1.5 時間		

	1,2,3	復習	痛風・低栄養・ビタミン・ミネラル異常症・アジドーシスの概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次回の授業時に確認。	1.5 時間
4	講義内容	内分泌系疾患		
	該当到達目標	予習	教科書の第 2 章の 1-4 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	脳下垂体異常・甲状腺異常の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次回の授業時に確認。	1.5 時間
5	講義内容	消化器系疾患 1		
	該当到達目標	予習	教科書の第 3 章の 1-2 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	口腔・歯科疾患や上部消化管疾患の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次回の授業時に確認。	1.5 時間
6	講義内容	消化器系疾患 2・肝疾患 1		
	該当到達目標	予習	教科書の第 3 章の 3、第 4 章の 1 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	下部消化管疾患や肝疾患の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次回の授業時に確認。	1.5 時間
7	講義内容	肝疾患 2		
	該当到達目標	予習	教科書の第 4 章の 2 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	膵・胆道系疾患の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次回の授業時に確認。	1.5 時間
8	講義内容	循環器疾患 1		
	該当到達目標	予習	教科書の第 5 章の 1-3 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	高血圧・動脈硬化・虚血性心疾患の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次回の授業時に確認。	1.5 時間
9	講義内容	循環器疾患 2		
	該当到達目標	予習	教科書の第 5 章の 4-5 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	心不全・脳血管疾患の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次回の授業時に確認。	1.5 時間
10	講義内容	呼吸器疾患・腎疾患 1		
	該当到達目標	予習	教科書の第 8 章 1-4 と第 6 章の 1 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	上気道疾患や COPD、CKD の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次回の授業時に確認。	1.5 時間
11	講義内容	腎疾患 2		
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章の 2-4 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	糸球体腎炎・ネフローゼ症候群・腎不全の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次回の授業時に確認。	1.5 時間
12	講義内容	腎疾患 3		
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章の 5-6 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	糖尿病性腎症・透析療法の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次回の授業時に確認。	1.5 時間
13	講義内容	腎疾患 4・血液系疾患 1		
	該当到達目標	予習	教科書の第 6 章の 7 と第 9 章の 1 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	尿路系疾患や貧血の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次回の授業時に確認。	1.5 時間
14	講義内容	血液系疾患 2・免疫アレルギー疾患 1		
	該当到達目標	予習	教科書の第 9 章の 2 と第 11 章の 1 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	造血系器腫瘍やアレルギー性疾患の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次回の授業時に確認。	1.5 時間
15	講義内容	免疫アレルギー疾患 2		
	該当到達目標	予習	教科書の第 11 章の 2-3 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	自己免疫性疾患・AIDS の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次回の授業時に確認。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	本科目は臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)の履修条件になっている。			

	オンライン授業になった場合は、講義の動画配信をする。毎回の課題（講義資料と課題は印刷して配布）は、次週までに提出し、その提出をもって出席としてカウントする。

科目名	臨床栄養学Ⅱ（専門科目）						科目ナンバリング	HNA342		
英文名	Clinical Nutrition Ⅱ						講義形態	講義		
担当教員	河原田 律子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格	管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と職業倫理				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	4	専門的知識					コミュニケーション能力			
		問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	毎回実施する小テストに対して、授業中に振り返りを行う。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、各種疾患別に身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法について修得することを目標とする。各種疾患の概要（定義・原因・治療方法）に基づいて、身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法について修得する。「臨床栄養学Ⅱ」では、運動器疾患、神経・精神疾患、小児・妊娠期における疾患などの臨床的疾患構造と各疾病治療ガイドラインを基に治療および栄養療法を学修、修得する。 配布資料をもとに講義を進め、授業の最後に確認テストを行う。練習問題を課題とし、次の授業で復習したうえで、次の単元を学修する。									
到達目標	1. 各種疾患の定義・原因について、説明できる。 2. 疾患ごとの診断基準や治療法について、説明できる。 3. 疾患ごとの栄養基準や栄養指導方法について、説明できる。									
使用教材	栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学疾患別編・本田佳子、曾根博仁・2022 年・羊土社・2800 円+税教科書に沿って講義を行う。配布資料を毎回使用する。									
参考文献	月間 臨床栄養、医歯薬出版、実践臨床栄養学実習、第一出版									
評価方法	筆記試験 80%、平常点 20%（授業参加度・小テスト等を含む）									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業時（毎回）の課題は、次週の授業時に学生に回答してもらったうえで解説を行う。									
オフィスアワー（研究室）	木曜日 1-4 時限 1 号館 406 研究室/臨床栄養学研究室 質問はメールでも受付ける。				メールアドレス（#→@）	nasu#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	運動器系疾患 1 骨粗鬆症、くる病								
	該当到達目標	予習	教科書の第 10 章の 1-3 に目を通す。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	骨粗鬆症、くる病の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次の授業時に確認。						1.5 時間	
2	講義内容	運動器系疾患 2 サルコペニア、ロコモティブシンドローム								
	該当到達目標	予習	教科書の第 10 章の 4-5 に目を通す。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	サルコペニア、ロコモティブシンドロームの概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次の授業時に確認。						1.5 時間	
3	講義内容	クリティカルケア								

	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の第15章に目を通す。	1.5 時間
		復習	外傷・熱傷・集中治療の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次の授業時に確認。	1.5 時間
4	該当到達目標 1,2,3	講義内容	障がい者に対するケア	
		予習	教科書の第17章に目を通す。	1.5 時間
		復習	精神障害・重症心身障害の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次の授業時に確認。	1.5 時間
5	該当到達目標 1,2,3	講義内容	神経・精神系疾患 1 認知症、パーキンソン病	
		予習	教科書の第7章の1-3に目を通す。	1.5 時間
		復習	認知症、パーキンソン病、摂食障害の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次の授業時に確認。	1.5 時間
6	該当到達目標 1,2,3	講義内容	神経・精神系疾患 2 アルコール依存症、精神疾患	
		予習	教科書の第7章の4-5に目を通す。	1.5 時間
		復習	アルコール依存症、精神疾患の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次の授業時に確認。	1.5 時間
7	該当到達目標 1,2,3	講義内容	摂食嚥下障害	
		予習	教科書の第16章に目を通す。	1.5 時間
		復習	摂食嚥下障害の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次の授業時に確認。	1.5 時間
8	該当到達目標 1,2,3	講義内容	周術期の管理	
		予習	教科書の第14章に目を通す。	1.5 時間
		復習	術前・術後管理、消化管切除術前・術後の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次の授業時に確認。	1.5 時間
9	該当到達目標 1,2,3	講義内容	がんとターミナルケア	
		予習	教科書の第13章に目を通す。	1.5 時間
		復習	消化管のがん、消化管以外のがん、末期医療、緩和医療の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次の授業時に確認。	1.5 時間
10	該当到達目標 1,2,3	講義内容	小児疾患 1 消化不良症、周期性嘔吐症	
		予習	教科書の第18章1-5に目を通す。	1.5 時間
		復習	消化不良症、周期性嘔吐症、アレルギー疾患、小児肥満の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次の授業時に確認。	1.5 時間
11	該当到達目標 1,2,3	講義内容	小児疾患 2 先天性代謝異常症	
		予習	教科書の第18章の6章に目を通す。	1.5 時間
		復習	先天性代謝異常症、小児糖尿病、小児腎臓病の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次の授業時に確認。	1.5 時間
12	該当到達目標 1,2,3	講義内容	妊娠期・授乳期の疾患 1 肥満、妊娠高血圧症	
		予習	教科書の第19章の1-3に目を通す。	1.5 時間
		復習	肥満、貧血、妊娠高血圧症の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次の授業時に確認。	1.5 時間
13	該当到達目標 1,2,3	講義内容	妊娠期・授乳期の疾患 2 妊娠糖尿病	
		予習	教科書の第19章の4章と第20章の1に目を通す。	1.5 時間
		復習	妊娠糖尿病の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次の授業時に確認。	1.5 時間
14	該当到達目標 1,2,3	講義内容	高齢期の疾患	
		予習	教科書の第20章の2に目を通す。	1.5 時間
		復習	褥瘡の概要や栄養管理方法を理解する。小テストの練習問題を解き、次の授業時に確認。	1.5 時間
15	該当到達目標 1,2,3	講義内容	まとめ	
		予習	これまでの配布資料に目を通す。	1.5 時間
		復習	これまでに学んだ疾患を復習しながら、問題を解く。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	本科目は臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)の履修条件になっている。			

	オンライン授業になった場合は、講義の動画配信をする。毎回の課題(講義資料と課題は印刷して配布)は、次週までに提出し、その提出をもって出席としてカウントする。

科目名	臨床栄養学Ⅲ(専門科目)						科目ナンバリング	HNA343		
英文名	Clinical Nutrition Ⅲ						講義形態	講義		
担当教員	竹内 真理									
科目に関連した実務経験	管理栄養士として国立病院機構に勤務(経験)、高崎健康福祉大学附属クリニック管理栄養士兼務(現在)									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 2 単位							
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応	3	豊かな人間性と職業倫理				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	4	専門的知識					コミュニケーション能力			
		問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	2 3 4 8 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理(栄養ケアマネジメント)を行うために、具体的な栄養スクリーニングおよび栄養アセスメントの手技を修得し、栄養補給、栄養教育などの栄養ケアプランの立案、作成、実施、モニタリング、評価の方法を修得する。 ② 授業は、教科書と要点をまとめたプリントを使って進める。事例や症例を用いた説明で理解を深める。									
到達目標	1. 栄養スクリーニングおよび栄養アセスメントができる。■ 2. 栄養アセスメントの結果をふまえ、栄養補給、栄養教育などの栄養ケアプランの立案、作成、実施、モニタリング、評価ができ、アウトカムを得ることができる。■ 3. 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理(栄養ケアマネジメント)を行うことができる。■									
使用教材	栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学基礎編 第3版 本田佳子他編 羊土社 2,700(税抜),配布した資料									
参考文献										
評価方法	筆記試験 80%、平常点(積極的な授業への参加状況など)20%									
課題・評価に対するフィードバック方法	毎授業時に前回内容の振り返りを行い、リアクションペーパーのフィードバックを行う。講義内容は臨床栄養学実習Ⅱおよび総合演習Ⅱで実践演習を通して活かす。定期試験後に問題解説をし、結果について総評コメントを掲示する。									
オフィスアワー(研究室)	木曜 2-4 時限 1 号館 308 研究室 質問等はメールでも受け付ける。				メールアドレス (#→@)		mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	栄養ケアの基礎■								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく						1.5 時間	
	3	復習	講義内容を復習する						1.5 時間	
2	講義内容	栄養スクリーニングの手技■								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく						1.5 時間	
	1	復習	講義内容を復習する						1.5 時間	
3	講義内容	栄養アセスメント 1 身体計測、臨床検査と評価■								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく						1.5 時間	

	1,2	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	栄養アセスメント 2 臨床診査(医療面接と身体観察)と評価■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	栄養アセスメント 3 栄養・食事調査と評価、必要栄養量の算定■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	栄養・食事療法と栄養補給法 1 経口栄養補給法、経腸栄養、静脈栄養■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	栄養ケアの実施(栄養補給方法の決定)と栄養教育■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	栄養ケアの目標設定と計画の立案、および実施とモニタリング■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
9	講義内容	栄養ケアの評価とフィードバックおよびリアセスメント、栄養ケア記録■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
10	講義内容	栄養ケアと薬物療法、■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
11	講義内容	症候への栄養ケア 1 発熱、ビタミン欠乏症、脱水、浮腫■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
12	講義内容	症候への栄養ケア 2 下痢、便秘、褥瘡■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
13	講義内容	新生児期・乳幼児期の栄養ケア(新生児、低出生体重児)■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
14	講義内容	回復を促す栄養ケア(外科療法、化学療法、放射線療法)■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
15	講義内容	終末期の栄養ケア■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	予習・復習は試験前の学習で補完すること。 本科目は臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)の履修条件になっている。 オンラインで実施する場合:状況に応じ、講義内容、評価方法、試験を変更することがある。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		臨床栄養学Ⅳ(専門科目)						科目ナンバリング		HNA344	
英文名		Clinical Nutrition Ⅳ						講義形態		講義	
担当教員		竹内 真理									
科目に関連した実務経験		管理栄養士として国立病院機構に勤務(経験)、高崎健康福祉大学附属クリニック管理栄養士兼務(現在)									
学年・開講期		3 年 後期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格		管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応		3	豊かな人間性と職業倫理				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		4	専門的知識					コミュニケーション能力			
			問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連		234816									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理(栄養マネジメント)を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解する。具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について理解する。医療・介護制度やチーム医療における役割について理解する。 ② 授業は、教科書と要点をまとめたプリントを使って進める。事例や症例を用いた説明で理解を深める。									
到達目標		1. 適切な栄養管理(栄養マネジメント)を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解できる。■ 2. 具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について理解できる。■ 3. 医療・介護制度やチーム医療における役割について理解できる。■									
使用教材		栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学基礎編 第3版 本田佳子他編 羊土社 2,700(税抜), 配布した資料									
参考文献											
評価方法		筆記試験 80%、平常点(積極的な授業への参加状況など)20%									
課題・評価に対するフィードバック方法		毎授業時に前回内容の振り返りを行い、リアクションペーパーのフィードバックを行う。講義内容は臨地実習Ⅲ(病院実習)で実践演習を通して活かす。定期試験後に問題解説をし、結果について総評コメントを掲示する。									
オフィスアワー (研究室)		木曜 2-4 時限 1 号館 308 研究室 質問等はメールでも受け付ける。				メールアドレス (#→@)		mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	臨床栄養学の基礎、意義と目的、疾病と栄養■									
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく							1.5 時間	
	1	復習	講義内容を復習する							1.5 時間	
2	講義内容	チーム医療、在宅医療■									
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく							1.5 時間	

	3	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
3	講義内容	医療保険制度、介護保険制度■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	3	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
4	講義内容	栄養ケアマネジメント■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
5	講義内容	栄養ケアプログラムのプラン・目標設定■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
6	講義内容	栄養ケアプログラムの実施と評価■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
7	講義内容	傷病者・要介護者の栄養アセスメント、栄養スクリーニング■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
8	講義内容	必要栄養量の算定■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
9	講義内容	栄養・食事療法、栄養補給の方法■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
10	講義内容	薬と栄養・食物の相互作用■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
11	講義内容	栄養ケア計画書の作成と実施■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
12	講義内容	問題志向型システム(POS)の活用とSOAPに基づく記録■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
13	講義内容	傷病者・要介護者への栄養教育■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
14	講義内容	栄養ケアの評価、臨床経過のモニタリング、リアセスメント■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
15	講義内容	評価と評価結果のフィードバック■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容を復習する	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

備考	本科目は臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)の履修条件になっている。 オンラインで実施する場合:状況に応じ、講義内容、評価方法、試験を変更することがある。 ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	臨床栄養学実習Ⅰ（食事療法実習）（専門科目）						科目ナンバリング	HNA345		
英文名	Clinical NutritionⅠ [Practice]						講義形態	実習		
担当教員	河原田 律子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3年 前期	選必・単位数	必修 1単位							
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	4	専門的知識				1	コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGsとの関連	③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○		○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、各種疾患別に身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法について修得することを目標とする。 「臨床栄養学実習Ⅰ」では、「臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ」で学んできた傷病者の病態や栄養状態に基づいた栄養管理法の理論をもとに、臨床現場における急性および慢性疾患の病期・病態に応じた適正な食事デザインを作成でき、精度の高い食事を提供することができる知識や技能を学ぶ。各食種の献立は、常食を基に展開し、献立に合わせた適切な調理方法・食材の使い分けを理解し、それに基づいた献立作成や調理作業について修得する。 各自、初回の授業で常食献立を作成し、その献立をもとに献立の展開および調理実習を行います。献立作成の基本を復習したうえで、実習に臨んでください。									
到達目標	1. 治療食の種類を説明できる。 2. 指示された栄養基準に合わせた献立が作成できる。 3. 常食からそれぞれの病態への展開ができる。 4. 献立に合わせた調理法や食材の使い分けができる。									
使用教材	・ 糖尿病食事療法のための食品交換表・日本糖尿病学会編・2013年・900円＋税：エネルギーコントロール食で使用 ・ 腎臓病食品交換表 第8版 黒川清・中尾俊之・医歯薬出版・2016年出版・1500円＋税：たんぱく質コントロール食で使用 ・ 調理のためのベーシックデータ・女子栄養大学出版部・2022年・2000円＋税：献立作成の時に使用 使用方法：授業時に配布するプリントと併用して用いる。									
参考文献	月間 臨床栄養, 医歯薬出版; 実践臨床栄養学実習, 第一出版									
評価方法	課題提出 70%、平常点（授業態度・実習態度等を含む）30%									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題については、授業内で個々に達成度の確認をする。指摘事項があればその点を直し次回の授業で提出する。提出された課題は評価後に返却するので、臨地実習などの献立作成時に資料として使用する。									
オフィスアワー （研究室）	木曜日 1-4 時限 1号館 406 研究室/臨床栄養学研究室 質問はメールでも受付ける。				メールアドレス （#→@）	nasu#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション・栄養ケアの基礎（栄養食事療法）、特別治療食の種類（成分栄養管理） 一般食（常食）説明・献立作成								

	該当到達目標 1,2,4	予習	シラバスを確認	0.5 時間
		復習	特別治療食の種類を理解し、献立作成のポイントを把握する。	1.0 時間
2	該当到達目標 1,2,4	講義内容 常食の献立作成		
		予習	常食の献立に必要な資料を準備する。	0.5 時間
		復習	常食の献立作成のポイントを確認し、献立作成を行う。	1.0 時間
3	該当到達目標 2,3,4	講義内容 常食から全粥食への献立展開する方法と献立作成		
		予習	全粥の献立に必要な資料を準備する。	0.5 時間
		復習	全粥の献立作成のポイントを確認し、献立作成を行う。	1.0 時間
4	該当到達目標 2,3,4	講義内容 全粥の献立作成 常食をエネルギーコントロール食に展開する方法と献立作成。		
		予習	エネルギーコントロール食の献立作成に必要な資料を準備する。 糖尿病食品交換表を読んで、使い方を理解する。	0.5 時間
		復習	全粥献立作成	1.0 時間
5	該当到達目標 2,3,4	講義内容 全粥食の調理実習		
		予習	授業で配布する全粥の資料をよく読み、理解すること。	0.5 時間
		復習	実習で作成した献立の評価をして、改善点があれば次回にいかす。	1.0 時間
6	該当到達目標 2,3,4	講義内容 エネルギーコントロール食の献立作成 常食をたんぱく質コントロール食(腎臓食)に展開する方法と献立作成。		
		予習	たんぱく質コントロール食の献立作成に必要な資料を準備する。 糖尿病食品交換表をみる。	0.5 時間
		復習	エネルギーコントロール食の献立作成	1.0 時間
7	該当到達目標 2,3,4	講義内容 エネルギーコントロール食の調理実習		
		予習	授業で配布するエネルギーコントロール食の資料をよく読み、理解すること。	0.5 時間
		復習	実習で作成した献立の評価をして、改善点があれば次回にいかす。	1.0 時間
8	該当到達目標 2,3,4	講義内容 たんぱく質コントロール食(腎臓病食)の献立作成。 常食を脂質コントロール食に展開する方法。		
		予習	脂質コントロール食の献立作成に必要な資料を準備する。	0.5 時間
		復習	実習で作成した献立の評価をして、改善点があれば次回にいかす。	1.0 時間
9	該当到達目標 2,3,4	講義内容 たんぱく質コントロール食(腎臓病食)の調理実習		
		予習	授業で配布するたんぱく質コントロール食の資料をよく読み、理解すること。	0.5 時間
		復習	実習で作成した献立の評価をして、改善点があれば次回にいかす。	1.0 時間
10	該当到達目標 2,3,4	講義内容 脂質コントロール食の献立作成。		
		予習	脂質コントロール食の献立作成に必要な資料を準備する。	0.5 時間
		復習	実習で作成した献立の評価をして、改善点があれば次回にいかす。	1 時間
11	該当到達目標 2,3,4	講義内容 脂質コントロール食の調理実習。		
		予習	授業で配布する脂質コントロール食の資料をよく読み、理解すること。	0.5 時間
		復習	実習で作成した献立の評価をして、改善点があれば次回にいかす。	1.0 時間
12	該当到達目標 2,3,4	講義内容 常食、全粥、エネルギーコントロール食、たんぱく質コントロール食、脂質コントロール食の献立作成の ポイントを復習し、常食からどのように展開していくか理解する。		
		予習	常食、全粥、エネルギーコントロール食、たんぱく質コントロール食、脂質コントロール食についての資料をよく読み、ポイントを理解する。	0.5 時間
		復習	常食の献立から展開をし、栄養計算をする。	1.0 時間
13	該当到達目標	講義内容		
		予習		時間
		復習		時間
14	該当到達目標	講義内容		
		予習		時間
		復習		時間

15	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
合計時間(予習・復習)				18 時間
備考	本科目は臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)の履修条件になっている。 献立の作成は各自で行うが、調理実習で作る献立は、各グループで相談し決める。 オンラインで授業を行う場合は、講義を動画で配信し、課題の献立作成を進める。献立作成を各自自宅で行った上で、個別指導を行い、調理実習は各自、自分の献立について調理をおこない、評価する。			

科目名	臨床栄養学実習Ⅱ（臨床栄養ケアマネジメント実習）（専門科目）							科目 ナンバリング	HNA346		
英文名	Clinical Nutrition Ⅱ [Practice]							講義形態	実習		
担当教員	竹内 真理										
科目に関連した 実務経験	管理栄養士として国立病院機構に勤務（経験）、高崎健康福祉大学附属クリニック管理栄養士兼務（現在）										
学年・開講期	3 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位						
履修を必須とする 資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員										
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	3	専門的知識				2	コミュニケーション能力				
	2	問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	② ③ ④ ⑧ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿										
アクティブラーニング 実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他	
	○		○	○	○	○			○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方 法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理（栄養ケアマネジメント）を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解する。具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について理解する。医療・介護保険制度やチーム医療における役割について理解する。 ② 授業は、概要を先に 30 分程度説明し、その後テーマについての実習や演習などを行い、最後にレポートをまとめて提出する形で進める。										
到達目標	1. 適切な栄養管理（栄養ケアマネジメント）を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解できる。■ 2. 具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について理解できる。■ 3. 医療・介護保険制度やチーム医療における役割について理解できる。■										
使用教材	三訂 臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理 中村富予他編 建帛社 2,800 円（税抜）、ステップアップ臨床栄養管理実習〔第 2 版〕 桑原節子他編著 建帛社 2,000 円（税抜）										
参考文献	Visual 栄養学テキスト 臨床栄養学Ⅰ 総論 津田謹輔監修 中山書店 2,700 円（税抜） 栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学基礎編 第 3 版 本田佳子他編 羊土社 2,700（税抜） ステップアップ臨床栄養管理実習〔第 2 版〕 桑原節子他編著 建帛社 2,000 円（税抜） 栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方・考え方・ケーススタディ第 3 版 奈良信雄著 医歯薬出版 2,700 円（税抜）										
評価方法	筆記試験 60%、レポート提出 30%、平常点 10% 平常点は授業への参加度や積極性を評価する。評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。										
課題・評価に対す る フィードバック方法	実習ごとに課題を完成させて提出する。提出物はコメントを付けて返却する。 実習内容は臨地実習Ⅲ（病院実習）の実習課題設定の際に反映させる。また病院実習での実体験で活かす。										
オフィスアワー （研究室）	木曜 2-4 時限 1 号館 308 研究室 質問等はメールでも受け付ける。				メールアドレス （#→@）		mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	職業倫理、栄養ケアマネジメント、栄養スクリーニングとアセスメント 症例検討1■									
	該当到達目標	予習	臨床栄養管理論を復習し、教科書の該当箇所を読んでおく								1 時間

	1	復習	栄養スクリーニングおよび栄養アセスメントの手法について確認し、次回以降の実習内容に活かせるよう準備する。	1 時間
2	講義内容	栄養アセスメント(身体計測)、栄養評価■		
	該当到達目標	予習	身体計測の手技および評価についての復習をしておく	1 時間
	1,2	復習	実習内容をまとめてレポート提出	1 時間
3	講義内容	栄養アセスメント(栄養・食事調査)、栄養評価■		
	該当到達目標	予習	食事摂取状況調査および栄養調査についての復習をしておく	1 時間
	1,2	復習	実習内容をまとめてレポート提出	1 時間
4	講義内容	栄養補給法、経腸栄養剤の種類と選択(半固形栄養)■		
	該当到達目標	予習	栄養補給方法(経腸栄養法)についての復習をしておく	1 時間
	1,2	復習	実習内容をまとめてレポート提出	1 時間
5	講義内容	栄養管理計画書の作成(栄養必要量の算定<推定>)、メタボリックアナライザー 症例検討 2■		
	該当到達目標	予習	栄養ケアマネジメントの流れと必要栄養量の算出方法、経静脈栄養法についての復習をしておく	1 時間
	1,2	復習	実習内容をまとめてレポート提出	1 時間
6	講義内容	病棟訪問と患者面接 症例検討 2■		
	該当到達目標	予習	病棟訪問および患者面接について復習しておく	1 時間
	1,2	復習	実習内容をまとめてレポート提出	1 時間
7	講義内容	栄養診断に基づいた管理計画(栄養介入) 症例検討 3■		
	該当到達目標	予習	栄養ケアプロセス、PES 報告について復習しておく	1 時間
	1,2,3	復習	実習内容をまとめてレポート提出	1 時間
8	講義内容	栄養診断を取り入れた SOAP 記録 症例検討 3■		
	該当到達目標	予習	POS [問題志向型システム]に基づく SOAP の記入について復習しておく	1 時間
	1,2	復習	実習内容をまとめてレポート提出	1 時間
9	講義内容	口腔ケアと摂食・嚥下障害者の栄養管理■		
	該当到達目標	予習	嚥下障害および嚥下訓練食、嚥下調整食分類(学会分類)についての復習をしておく	1 時間
	1,2,3	復習	実習内容をまとめてレポート提出	1 時間
10	講義内容	在宅療養者の食支援 症例検討 4■		
	該当到達目標	予習	在宅患者訪問栄養食事指導、医療保険制度、介護保険制度について復習しておく	1 時間
	1,2,3	復習	実習内容をまとめてレポート提出	1 時間
11	講義内容	終末期の栄養ケア 症例検討 5■		
	該当到達目標	予習	終末期の栄養ケア、緩和ケア、がんの栄養管理についての復習をしておく	1 時間
	1,2,3	復習	実習内容をまとめてレポート提出	1 時間
12	講義内容	総合演習(各種課題症例検討) 症例検討 6■		
	該当到達目標	予習	症例検討に用いる症例を選択し、検査数値や身体計測値、病状等から病態を把握しておく。	1 時間
	1,2,3	復習	実習内容をまとめてレポート提出	1 時間
13	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
14	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間

令和6年度 健康栄養学科シラバス

		復習		時間
15	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、臨床栄養学実習Ⅰを履修していることが望ましい。 本科目は臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)の履修条件になっている。 オンラインで実施する場合:状況に応じて対面授業を縮小し、動画配信や Zoom などを利用した、遠隔での演習やグループワークを取り入れる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	公衆栄養学Ⅰ（専門科目）							科目ナンバリング	NHA351	
英文名	Public Health NutritionⅠ							講義形態	講義	
担当教員	五十嵐 美絵									
科目に関連した実務経験	行政管理栄養士として群馬県庁、保健所に勤務（経験）									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	6	専門的知識					コミュニケーション能力			
		問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	2 3 12									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	ミニテストに対して、コメントを行い、振り返りや質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 公衆栄養学は、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。また、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連プログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。 「公衆栄養学Ⅰ」では、基本的な公衆栄養関連法規の他、健康・栄養問題の現状と課題、要因を理解し、健康増進と疾病予防を目指す栄養政策や公衆栄養活動の現状について学ぶ。 ② 教科書、プリント、パワーポイントを使用して授業を進める。内容を深めるために、ミニテスト、レポート作成を行う。									
到達目標	1. 公衆栄養の意義と目的、公衆栄養関連法規の内容が説明できる。■ 2. 日本や諸外国及び、地域や職域等の健康・栄養問題の現状と課題が説明できる。■ 3. 健康・栄養問題を取り巻く、自然、社会、文化的要因が分析、評価できる。■ 4. 健康・栄養課題を解決するため現在行われている健康づくり及び食環境づくりのプログラムについて説明できる。■									
使用教材	教科書「ウエルネス公衆栄養学」 加島浩子、森脇弘子編集（医歯薬出版） ISBN978-4-263-70841-5 教科書は、関連する図表、関連法規が掲載されているため使用する。 同時に、講義のスライドを印刷し教科書と合わせて使用する。									
参考文献	参考図書・ホームページ： ・ 「管理栄養士・栄養士必携」データ・資料集（公社）日本栄養士会編（第一出版） ・ 「国民衛生の動向」（最新版）厚生労働協会編（厚生統計協会） ・ 「厚生労働省国民健康・栄養調査報告国民栄養の現状」健康・栄養情報研究会編（第一出版） ・ 厚生労働省、農林水産省、文部科学省、内閣府、国立健康・栄養研究所、食品安全委員会のホームページ									
評価方法	①レポート（地域の健康増進計画、食育推進計画の調べ）及びミニテスト 13 回（授業復習）10% ②期末試験（筆記試験）90% ①、②すべて 6 割以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業中に解説を行う									
オフィスアワー（研究室）	質問等は授業開始前又は後に応じる （1 号館 3 階 305 研究室）				メールアドレス （#→@）		igarashi#takasaki-u.ac.jp			

1	講義内容	講義の目的・ガイダンス 公衆栄養の概念(意義と目的・公衆栄養活動の歴史)		
	該当到達目標	予習	シラバス、教科書の 1-1 公衆栄養の概念を読んでおく。	1 時間
	1	復習	教科書、プリントを読んで復習する。	1.5 時間
2	講義内容	健康・栄養問題の現状と課題 1 (社会環境と健康・栄養問題、健康状態の変化)■		
	該当到達目標	予習	教科書 2-1 社会環境と健康・栄養問題、2-2 健康状態の変化を読んでおく	1.5 時間
	1	復習	ミニテスト範囲の復習しておく	1.5 時間
3	講義内容	健康・栄養問題の現状と課題 2 (食事・食生活の変化、食環境の変化)■		
	該当到達目標	予習	教科書 2-3 食事の変化、2-4 食生活の変化、2-5 食環境の変化を読んでおく	1.5 時間
	2,3	復習	ミニテスト範囲の復習しておく	1.5 時間
4	講義内容	健康・栄養問題の現状と課題 3 (食料需給表、食料自給率、食品ロス)		
	該当到達目標	予習	教科書 2-5 食環境の変化、フードバランスシート、食料自給率を読んでおく	1.5 時間
	2,3	復習	ミニテスト範囲の復習しておく	1.5 時間
5	講義内容	健康・栄養問題の現状と課題 4 (諸外国の健康・栄養問題)		
	該当到達目標	予習	教科書 2-6 諸外国の健康・栄養問題の現状と課題を読んでおく	1.5 時間
	2,3	復習	ミニテストの範囲を復習しておく	1.5 時間
6	講義内容	健康づくり施策と公衆栄養活動 1 (栄養士法:管理栄養士・栄養士制度)■		
	該当到達目標	予習	栄養士法の条文を読んで内容を確認しておく	1.5 時間
	2,3	復習	ミニテスト範囲の復習しておく	1.5 時間
7	講義内容	健康づくり施策と公衆栄養活動 2 (健康増進法の制定と経緯・意義・内容)■		
	該当到達目標	予習	健康増進法の条文を読んで内容を確認しておく	1.5 時間
	1	復習	ミニテスト範囲の復習しておく	1.5 時間
8	講義内容	健康づくり施策と公衆栄養活動 3 (国民健康・栄養調査の目的・実施方法)■		
	該当到達目標	予習	教科書 3-4 国民健康・栄養調査を読んでおく	1.5 時間
	1	復習	ミニテスト範囲の復習しておく	1.5 時間
9	講義内容	健康づくり施策と公衆栄養活動 4 (食育基本法と地域保健法)■		
	該当到達目標	予習	食育基本法、地域保健法の条文を読んでおく	1.5 時間
	4	復習	ミニテスト範囲の復習しておく	1.5 時間
10	講義内容	健康づくり施策と公衆栄養活動 5 (国の健康増進対策、健康日本 21、地方計画)■		
	該当到達目標	予習	教科書 3-6 国の健康増進基本方針と地方計画を読んでおく	1.5 時間
	4	復習	ミニテスト範囲の復習しておく 地元の健康増進計画、食育推進計画を調べてレポート作成を行う	3 時間
11	講義内容	健康づくり施策と公衆栄養活動 6 (健康づくりのための指針・ツール)■		
	該当到達目標	予習	教科書 3-5 実施に関する指針、ツールを読んでおく	1.5 時間
	4	復習	ミニテスト範囲の復習しておく	1.5 時間
12	講義内容	健康づくり施策と公衆栄養活動 7 (諸外国の健康・栄養政策)		
	該当到達目標	予習	教科書 3-7 諸外国の健康・栄養政策を読んでおく	1.5 時間
	1	復習	ミニテスト範囲の復習しておく	1.5 時間
13	講義内容	健康づくり施策と公衆栄養活動 8 (特定健康診査・特定保健指導)■		
	該当到達目標	予習	特定健康診査・特定保健指導を読んでおく	1.5 時間
	4	復習	ミニテスト範囲の復習しておく	1.5 時間
14	講義内容	健康づくり施策と公衆栄養活動 9 (食環境づくり:食品の表示)■		
	該当到達目標	予習	教科書食品表示法による表示の活用を読んでおく	1.5 時間
	2,4	復習	ミニテスト範囲の復習しておく	1.5 時間
15	講義内容	公衆栄養学 I 授業のまとめ		
	該当到達目標	予習	期末試験練習問題を行い、教科書、プリントで見直す	0.5 時間
	1,2,3	復習	13 回分のミニテストの復習、教科書、プリントの復習等期末試験に備える	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

備考	・記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修や課題の作成等で各自必要な学習時間を補完すること。 ・相談・質問がある場合は予めアポイントメントを取ること。 ・オンラインの場合：状況に応じ、講義内容、評価、試験方法は変更することがある。 ・講義内容、評価、試験の方法などは、授業開始時に文書で明示する。 ■：実務経験に基づく内容を示す。

科目名	公衆栄養学Ⅱ（専門科目）						科目ナンバリング	HNA352		
英文名	Public Health Nutrition Ⅱ						講義形態	講義		
担当教員	五十嵐 美絵									
科目に関連した実務経験	行政管理栄養士として本庁、保健所に勤務（経験）									
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格	管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				3	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	6	専門的知識					コミュニケーション能力			
		問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	② ③									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
										○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	ミニテストに対して、コメントを行い、振り返りや質疑応答の時間を設ける。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 「公衆栄養学Ⅱ」では、「公衆栄養学Ⅰ」で学んだ基礎と現状を土台とし、地域、職域等の健康・栄養問題と要因の把握、分析、評価、判定と栄養上のハイリスク集団を特定する能力を養う。同時に、保健・医療・福祉・介護システムの中で、適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの立案・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。さらに、公衆栄養活動に必要な各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。 ② 教科書、プリント、パワーポイントを使用して授業を進める。内容を深めるために、ミニテストを行う。									
到達目標	1. 地域、職域等の健康・栄養問題とその要因の分析、評価、判定ができる。■ 2. 適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの立案、実施、評価、フィードバックを行う総合的な公衆栄養マネジメントの理論と方法がわかる。■ 3. 各種サービスやプログラムの調整、社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて説明できる。■									
使用教材	教科書「ウエルネス公衆栄養学」 加島浩子、森脇弘子編集（医歯薬出版） ISBN978-4-263-70825-5 教科書は、関連する図表、関連法規が掲載されているため、使用する。 同時に、講義のスライドを印刷し、教科書と合わせて使用する。 「日本人の食事摂取基準」菱田明、佐々木敏（第一出版）ISBN978-4-8041-1408-8 を使用する。									
参考文献	参考図書・ホームページ： ・ 「管理栄養士・栄養士必携」データ・資料集（公社）日本栄養士会編（第一出版） ・ 「国民衛生の動向」（最新版）厚生労働協会編（厚生統計協会） ・ 「厚生労働省国民健康・栄養調査報告国民栄養の現状」健康・栄養情報研究会編（第一出版） ・ 厚生労働省、農林水産省、文部科学省、内閣府、国立健康・栄養研究所、食品安全委員会のホームページ									
評価方法	①ミニテスト（14 回）10％（授業の復習確認のため実施） ②期末試験（筆記試験）90％ ①、②ともに 6 割以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業中に解説を行う									
オフィスアワー（研究室）	質問等は授業開始前又は後に応じる （1 号館 3 階 305 研究室）				メールアドレス （#→@）		igarashi#takasaki-u.ac.jp			

1	講義内容	講義の目的・ガイダンス 栄養疫学の概要 1（栄養疫学の概念）		
	該当到達目標	予習	教科書 4-1 栄養疫学の概要、4-2 曝露情報としての食事摂取量を読んでおく	1 時間
	1	復習	ミニテストの復習をしておく	1.5 時間
2	講義内容	栄養疫学の概要 2（食事調査法）■		
	該当到達目標	予習	教科書 4-3 食事摂取量の測定方法を読んでおく	1.5 時間
	1	復習	ミニテストの復習をしておく	1.5 時間
3	講義内容	栄養疫学の概要 3（食事摂取量の評価方法、結果の解釈）■		
	該当到達目標	予習	教科書 4-4 食事摂取量の評価方法を読んでおく	1.5 時間
	1	復習	ミニテストの復習をしておく	1.5 時間
4	講義内容	公衆栄養マネジメント 1（公衆栄養活動、栄養行政の組織・業務・役割）■		
	該当到達目標	予習	教科書 3-1 わが国の公衆栄養活動を読み、厚生労働省の HP などを見ておく	1.5 時間
	2	復習	教科書 5-1 公衆栄養マネジメントを読んでおく	1.5 時間
5	講義内容	公衆栄養マネジメント 2（公衆栄養マネジメントの考え方）■		
	該当到達目標	予習	教科書 5-1 公衆栄養マネジメントを読んでおく	1.5 時間
	2	復習	ミニテストの復習をしておく	1.5 時間
6	講義内容	公衆栄養マネジメント 3（アセスメントの目的と方法、食事摂取基準の集団への活用）■		
	該当到達目標	予習	教科書 5-2 公衆栄養アセスメントを読んでおく	1.5 時間
	2	復習	質問紙調査の方法と活用を調べておく	1.5 時間
7	講義内容	公衆栄養マネジメント 4（地域の実態把握の方法と活用）■		
	該当到達目標	予習	質問紙調査の方法と活用を調べておく	1.5 時間
	2	復習	ミニテストの復習をしておく 課題(国民健康・栄養調査の結果をまとめるプリント)の実施	3 時間
8	講義内容	公衆栄養マネジメント 5（国民健康・栄養調査結果とアセスメント）■		
	該当到達目標	予習	一番新しい国民健康・栄養調査の概要に目を通しておく	1.5 時間
	2	復習	ミニテストの復習をしておく	1.5 時間
9	講義内容	公衆栄養プログラム 1（目標設定）■		
	該当到達目標	予習	教科書 5-3 公衆栄養プログラムの目標設定を読んでおく	1.5 時間
	2	復習	ミニテストの復習をしておく	1.5 時間
10	講義内容	公衆栄養プログラム 2（計画・実施）■		
	該当到達目標	予習	教科書 5-4 公衆栄養プログラム計画、実施部分を読んでおく	1.5 時間
	2	復習	ミニテストの復習をしておく	1.5 時間
11	講義内容	公衆栄養プログラム 3（評価）■		
	該当到達目標	予習	教科書 5-4 公衆栄養プログラム評価・評価の実際部分を読んでおく	1.5 時間
	2	復習	ミニテストの復習をしておく	1.5 時間
12	講義内容	公衆栄養プログラムの展開 1（地域特性に対応したプログラム）■		
	該当到達目標	予習	教科書 6-1 地域特性に対応したプログラムの展開を読んでおく	1.5 時間
	3	復習	ミニテストの復習をしておく	1.5 時間
13	講義内容	公衆栄養プログラムの展開 2（食環境づくりのためのプログラム）■		
	該当到達目標	予習	教科書 6-2 食環境づくりのためのプログラムの展開を読んでおく	1.5 時間
	3	復習	ミニテストの復習をしておく	1.5 時間
14	講義内容	公衆栄養プログラムの展開 3（地域集団の特性別プログラム）■		
	該当到達目標	予習	教科書 6-3 地域集団の特性別プログラムの展開を読んでおく	1.5 時間
	3	復習	ミニテストの復習をしておく	1.5 時間
15	講義内容	公衆栄養学Ⅱ授業のまとめ		
	該当到達目標	予習	期末試験練習問題の教科書、プリントで見直す	0.5 時間
	1,2,3	復習	14 回分のミニテストの復習、教科書、プリントの復習等期末試験に備える	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間

備考	・記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修や課題の作成等で各自必要な学習時間を補完すること。 ・相談・質問がある場合は予めアポイントメントを取ること。 ・オンラインの場合：状況に応じ、講義内容、評価、試験方法は変更することがある。 ・講義内容、評価、試験の方法などは、授業開始時に文書で明示する。 ■：実務経験に基づく内容を示す。

科目名		公衆栄養学実習(専門科目)						科目ナンバリング	HNA353		
英文名		Public Health Nutirition [Practice]						講義形態	実習		
担当教員		五十嵐 美絵									
科目に関連した実務経験		行政管理栄養士として本庁、保健所に勤務(経験)									
学年・開講期		3 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格		栄養士、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員									
学位授与方針との対応			豊かな人間性と職業倫理			3	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		3	専門的知識			2	コミュニケーション能力				
		2	問題発見・解決力				自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連		② ③									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
		○		○	○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 「公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ」において学んだ理論を基盤として、理論的な考え方で公衆栄養実践活動へ展開するための具体的な技能や姿勢を身につける。 ② 事前学習、グループワーク、発表、ディスカッションを行うので、自発的、積極的に参加することを必要とする。									
到達目標		1. 食事記録の書き方が説明できる。■ 2. 記入された食事調査の聞き取り、コード付け、栄養量の(栄養計算ソフトで)算出ができる。■ 3. 集団の食事調査結果の解析ができる。■ 4. 結果の解析をもとに、集団の健康・栄養アセスメント、目標設定、実践事例の作成、評価等の地域公衆栄養活動計画が作成できる。■ 5. グループのチームワークを固め、お互いの意義を高めことができる。									
使用教材		講義のスライドを印刷し、毎回配布したものを使用する。 実習内容に合わせた書き込み式ワークシートを毎回配布し、使用する。 公衆栄養学Ⅰ、Ⅱで使用した教科書「ウエルネス公衆栄養学」加島浩子、森脇弘子編集(医歯薬出版)ISBN978-4-263-70825-5、「日本人の食事摂取基準」伊藤貞嘉、佐々木敏監修(第一出版)ISBN978-4-8041-1408-8、「日本食品標準成分表」文部科学省科学技術、学術審議会資源調査分科会報告 IBSN978-4-904225-28-8を使用する。									
参考文献		・ 「管理栄養士・栄養士必携」データ・資料集(公社)日本栄養士会編(第一出版) ・ 「国民衛生の動向」(最新版)厚生労働協会編(厚生統計協会) ・ 「厚生労働省国民健康・栄養調査報告国民栄養の現状」健康・栄養情報研究会編(第一出版) ・ 厚生労働省、農林水産省、総務省、文部科学省、内閣府、国立健康・栄養研究所のホームページ									
評価方法		① 授業態度、出席状況、グループ活動による発表、ワークシート提出状況 20% ・ワークシートは、期日までもれなく提出されていること。 ② 期末テスト 80% (適切に食事調査の聞き取りができるか等) ①～②すべて 6 割以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		実習課題、ワークシートは授業内で返却し、解説を行う。 期末試験後に出題意図を示す。									
オフィスアワー (研究室)		質問等は授業開始前又は後に応じる (1 号館 3 階 305 研究室)				メールアドレス (#→@)		igarashi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション 公衆栄養アセスメントのための情報収集									
	該当到達目標	予習	シラバスを確認する アセスメントのための情報収集にはどのような情報源は何か予習する						1.5 時間		
	5	復習	ワークシート 1 食事調査法の種類と概要を整理し、次回提出する						1.5 時間		

2	講義内容	地域での食事調査の実際 1（食事記録の書き方の説明とコード化、重量換算の方法）■		
	該当到達目標	予習	食事調査法の種類と利用方法を予習する	0.5 時間
	1,2,5	復習	自分の2日分の食事を食事記録法で記録し、次回提出する	3 時間
3	講義内容	地域での食事調査の実際 2（食事記録の聞き取り、コード化、重量換算の実施）■		
	該当到達目標	予習	食事記録の聞き取り方法を予習する	0.5 時間
	1,2,5	復習	食事記録の聞き取り方をまとめる	1 時間
4	講義内容	地域での食事調査の実際 3（コード化、重量換算の実施、食事記録の集計）■		
	該当到達目標	予習	食事記録集計ソフトが使用できるようにしておく	1 時間
	2,5	復習	自身の食事記録集計結果をまとめ、評価し、次回提出する	1 時間
5	講義内容	地域での食事調査の実際 4（食事調査データの解析 1）■		
	該当到達目標	予習	エクセルの基本統計量の算出ができるようにしておく 食事摂取基準「集団の食事改善を目的として食事摂取基準を活用する場合の基本的事項」及びエネルギー調整法がわかるようにしておく	2 時間
	3,5	復習	集団の食事調査の評価方法を復習する	1 時間
6	講義内容	地域での食事調査の実際 5（集団の食事調査結果の評価・国民健康・栄養調査の実施）■		
	該当到達目標	予習	国民健康・栄養調査の実施方法を予習する	0.5 時間
	1,5	復習	集団の食事調査結果をまとめる。 栄養摂取状況調査票の書き方をまとめ、比例案分法の実施方法を復習する。	1 時間
7	講義内容	地域での栄養・食生活支援（健康危機管理）		
	該当到達目標	予習	自宅の備蓄品を調べておく	1 時間
	5	復習	備蓄品を使った献立作成（ライフラインの違いで2種類）	1 時間
8	講義内容	公衆栄養活動計画策定の実際 1（アセスメント、課題の抽出）■		
	該当到達目標	予習	フリート・プロットモデルの使い方の予習する	0.5 時間
	3,4,5	復習	既存資料から地域診断のためのデータを収集する	1 時間
9	講義内容	公衆栄養活動計画策定の実際 2（課題の整理、目標設定）■		
	該当到達目標	予習	目標設定の方法を予習する	0.5 時間
	4,5	復習	目標設定の方法を復習する	0.5 時間
10	講義内容	公衆栄養活動計画策定の実際 3（実践事例の内容、評価指標の検討）■		
	該当到達目標	予習	目標にあった各方面の実践事例をいくつか調べておく	0.5 時間
	4,5	復習	次の発表に向けて、作成した事例を確認しておく	0.5 時間
11	講義内容	公衆栄養活動計画策定の実際 4（実践事例の発表、相互評価）■		
	該当到達目標	予習	他の班の作成した事例を全部確認しておく	1 時間
	4,5	復習	発表後他の班から出たアドバイスをまとめておく。	0.5 時間
12	講義内容	公衆栄養活動計画策定の実際 5（実践事例のブラッシュアップ、実習の振り返り）■		
	該当到達目標	予習	ブラッシュアップしたいところを確認しておく	0.5 時間
	4,5	復習	実習の振り返りをレポートに備えまとめておく	1 時間
13	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
14	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
15	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
合計時間（予習・復習）				13 時間
備考	・記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修や課題の作成等で各自必要な学習時間を補完すること。 ・相談・質問がある場合は予めアポイントメントを取ること。			

	・オンラインの場合: 状況に応じ、講義内容、評価、試験方法は変更することがある。 ・講義内容、評価、試験の方法などは、授業開始時に文書で明示する。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。

科目名	給食経営管理Ⅰ（専門科目）							科目ナンバリング	HNA361	
英文名	Food Service ManagementⅠ							講義形態	講義	
担当教員	高梨 美穂									
科目に関連した実務経験	病院に勤務（経験）									
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	4	専門的知識					コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				2	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	23412									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 給食施設における管理栄養士の役割は、特定多数人の人々の健康状態及び栄養状態の改善・維持・向上と QOL の向上を目標とした栄養・食事管理ならびに給食を活用した栄養教育の実施である。さらに、栄養・食事管理を効率的且つ効果的に継続して実施できるシステムの構築とそのシステムのマネジメントも行わなければならない。本科目では、給食の概要や各施設における給食の位置づけについて理解すると共に、給食の計画・生産・評価といった給食運営の基本を習得することを目標とする。 ② 講義内容は教科書および配布資料を基に講義を実施し、受講生の理解度に合わせて演習等を実施しながら進行速度を調整する。									
到達目標	1. 給食の意義及び運営について説明できる。■ 2. 各施設、対象（喫食）者に応じた給食の概要について説明できる。■ 3. 給食施設における管理栄養士の役割と使命について説明できる。■ 4. 給食施設における栄養・食事管理について説明できる。■ 5. 給食における品質管理について説明できる。■ 6. 給食における安全・衛生管理について説明できる。■									
使用教材	健康・栄養科学シリーズ 給食経営管理論 南江堂 2,800 円 講義スライドを随時プリントして配布する。									
参考文献	給食のための基礎からの献立作成 建帛社 2,000 円									
評価方法	筆記試験 80%、課題 10%、授業への取り組み姿勢 10%として総合的に評価する。 評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題は適宜返却し、説明する。期末試験終了後、試験問題のポイントについて説明する。									
オフィスアワー （研究室）	木曜日の 3 時限（6 号館 1 階） メールによる質問も受け付ける				メールアドレス （#→@）		takanashi-m#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	給食の概要（1）給食の概念 ■								
	該当到達目標 1,3	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。						1.5 時間	
		復習	配布資料による復習を行い、給食の概念について理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	給食の概要（2）給食システム、給食を提供する施設と関連法規 ■								

	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、給食システム、給食を提供する施設と関連法規について理解する。	1.5 時間
3	講義内容	給食の概要(3)各施設における給食の意義(医療施設、高齢者・介護福祉施設、障害者福祉施設) ■		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、各施設の給食の意義について理解する。	1.5 時間
4	講義内容	給食の概要(4)各施設における給食の意義(児童福祉施設、学校、事業所、その他の給食施設)		
	該当到達目標 1,2,3	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、各施設の給食の意義について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	栄養・食事管理(1)栄養・食事管理の概要とアセスメント・食事計画 ■		
	該当到達目標 4	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、栄養・食事管理の概要について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	栄養・食事管理(2)食事計画の実施・評価・改善(個人における給与栄養目標量の作成) ■		
	該当到達目標 4	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、食事計画の評価・改善について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	栄養・食事管理(3)食事計画の実際(集団における給与栄養目標量の作成) ■		
	該当到達目標 4	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、給与栄養目標量の算出方法を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	栄養・食事管理(4)献立作成の基本、食品構成 ■		
	該当到達目標 4	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、献立作成の基本及び食品構成について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	給食経営における品質管理(1)品質と標準化 ■		
	該当到達目標 5	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、品質と標準化について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	給食経営における品質管理(2)原価・食材 ■		
	該当到達目標 5	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、原価・食材について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	給食経営における品質管理(3)生産と提供① ■		
	該当到達目標 5	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、生産と提供について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	給食経営における品質管理(4)生産と提供②～大量調理の特性 ■		
	該当到達目標 5	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、大量調理の特性について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	給食の安全・衛生(1)安全・衛生の概念 ■		
	該当到達目標 6	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、給食における安全と衛生について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	給食の安全・衛生(2)安全・衛生の実際～大量調理施設衛生管理マニュアル ■		
	該当到達目標 6	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、大量調理施設衛生管理マニュアルについて理解する。	1.5 時間
15	講義内容	給食の安全・衛生(3)事故・災害時対策 ■		

令和6年度 健康栄養学科シラバス

	該当到達目標 6	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、事故・災害対策について理解する。 全授業内容の確認を行う。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施の場合:指定の期間内に動画視聴等を行い、必要に応じて課題に取り組むこと。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	給食経営管理Ⅱ（専門科目）							科目ナンバリング	HNA362	
英文名	Food Service Management Ⅱ							講義形態	講義	
担当教員	高梨 美穂									
科目に関連した実務経験	病院に勤務（経験）									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		必修 2 単位					
履修を必須とする資格	管理栄養士、栄養教諭、フードスペシャリスト、専門フードスペシャリスト									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	5	専門的知識					コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				2	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	2 3 4 8 9 12 13									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 給食施設における管理栄養士の役割である給食経営管理の概念を理解し、給食における資源を総合的に管理マネジメントするために必要な基礎知識を習得することを目標とする。また、食糧の生産から消費までの流通のしくみやマーケティングについても理解することを目指す。さらに、関連科目で学習した給食の運営を経営管理へと展開できる能力を身に付けることを目標とする。 ② 講義内容は教科書および配布資料を基に講義を実施し、受講生の理解度に合わせて演習等を実施しながら進行速度を調整する。									
到達目標	1. 給食運営管理の概念について説明できる。■ 2. 給食の栄養・食事管理、生産管理、安全・衛生管理、施設・設備管理に関するマネジメントについて説明できる。■ 3. 食品の生産、流通、加工、消費の仕組みや現状について説明できる。 4. 食品流通や消費の課題について考察できる。 5. 給食を取り巻く環境や経済情勢に応じたマーケティング手法について説明できる。									
使用教材	健康・栄養科学シリーズ 給食経営管理論 南江堂 2,800 円 四訂食品の消費と流通 建帛社 1,900 円 講義のスライドを随時配信・配布する。									
参考文献	サクセス管理栄養士講座 給食経営管理論 第一出版 2,400 円 給食のための基礎からの献立作成 建帛社 2,000 円									
評価方法	筆記試験 70%、レポート 20%、授業への取り組み姿勢 10%として総合的に評価する。 評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	課題は適宜返却し、解説する。期末試験終了後、試験問題のポイントについて説明する。									
オフィスアワー （研究室）	木曜日の 3 時限（6 号館 1 階） メールによる質問も受け付ける。				メールアドレス （#→@）		takanashi-m#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	給食の施設・設備管理、人事管理（1）■								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。						1.5 時間	
		2 復習	配布資料による復習を行い、施設・設備管理、人事管理について理解する。						1.5 時間	
2	講義内容	給食の施設・設備管理、人事管理（2）■								

	該当到達目標 2	予習	大量調理施設衛生管理マニュアルについて復習する。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、給食施設について理解する。	1.5 時間
3	講義内容	給食経営管理の概念(1)給食経営と献立、経営管理の概要■		
	該当到達目標 1	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、給食経営と献立、経営管理の概要について理解する。	1.5 時間
4	講義内容	給食経営管理の概念(2)給食とマーケティング、給食経営と組織■		
	該当到達目標 1,5	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、給食とマーケティング、給食経営と組織について理解する。	1.5 時間
5	講義内容	給食経営管理の実際(1)栄養・食事計画■		
	該当到達目標 2	予習	給食経営管理Ⅰの資料を復習する。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、栄養・食事計画について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	給食経営管理の実際(2)献立作成①■		
	該当到達目標 2	予習	栄養食事計画について復習し、献立課題を検討する。	1.5 時間
		復習	献立課題を検討する。	1.5 時間
7	講義内容	給食経営管理の実際(3)献立作成②■		
	該当到達目標 2	予習	献立課題を検討する。	1.5 時間
		復習	献立課題を完成させる。	1.5 時間
8	講義内容	給食経営管理の実際(4)生産計画■		
	該当到達目標 2	予習	大量調理施設衛生管理マニュアルについて復習する。	1.5 時間
		復習	大量調理施設衛生管理マニュアルにそった作業計画について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	食品の消費と流通(1)食市場の変化①食市場		
	該当到達目標 3	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、食市場の変化について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	食品の消費と流通(2)食市場の変化②		
	該当到達目標 3	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、消費者の食品消費の変化や食生活の多様化について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	食品の消費と流通(3)食品の流通		
	該当到達目標 3	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、食品の流通について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	食品の消費と流通(4)外食・中食産業のマーチャンダイジング		
	該当到達目標 3	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、外食・中食産業のマーチャンダイジングについて理解する。	1.5 時間
13	講義内容	食品の消費と流通(5)主要食品の流通①		
	該当到達目標 3	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
		復習	配布資料による復習を行い、商品の分類、食品流通について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	食品の消費と流通(6)主要食品の流通②		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間

	3	復習	配布資料による復習を行い、主要食品の流通について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	食品の消費と流通(7)フードマーケティングと食料消費の課題、関係統計		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	4,5	復習	配布資料による復習を行い、フードマーケティングと食料消費の課題、関係統計について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施の場合:指定の期間内に動画視聴等を行い、必要に応じて課題に取り組むこと。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	給食経営管理実習Ⅰ（専門科目）						科目ナンバリング	HNA363		
英文名	Food Service ManagementⅠ [Practice]						講義形態	実習		
担当教員	高梨 美穂									
科目に関連した実務経験	病院に勤務（経験）									
学年・開講期	2 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	3	専門的知識				2	コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	2 3 4 8 9 12 13									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 関連科目において学習した基本的な知識や技術、及び給食経営管理Ⅰ・Ⅱで学習した給食運営の基礎知識を基に約 100 食の給食提供実習を行うことにより、給食計画から評価までの一連の業務について理解することを目標とする。さらに、PDCA（マネジメント）サイクルを活用して給食システム構築の基礎を体験し、経営管理へと展開できる能力の基礎を培うことを目標とする。 ② グループごとに給食実習の計画・準備・実施・評価を行う。									
到達目標	1. 健康な人を対象とした給食提供を経営管理の PDCA サイクルに従い計画することができる。■ 2. 大量調理の特性を理解し、少量調理から大量調理へと展開することができる。■ 3. 「大量調理施設衛生管理マニュアル」に基づく衛生管理について理解する。■ 4. チームにおけるコミュニケーション力を身に付け、給食組織の運営力を培う。■ 5. 給食運営業務に関する基本的な方法、技術を取得することができる。■									
使用教材	・ 給食のための基礎からの献立作成 大量調理の基本から評価まで 建帛社 2,000 円 ・ 日本人の食事摂取基準 2020、日本標準食品成分表 2020 ・ 担当教員作成実習書（プリント）及び帳票 ・ 白衣、実習用白ズボン、実習用帽子、クッキングシューズ、包丁セット、電卓									
参考文献	調理のためのベーシックデータ									
評価方法	課題 20%、授業への取り組み姿勢 80%として総合的に評価する。 評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	献立作成、試作、各計画書は、個別にアドバイスをを行う。									
オフィスアワー （研究室）	木曜日の 3 時限（6 号館 1 階） メールによる質問も受け付ける				メールアドレス （#→@）		takanashi-m#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション（実習の目的、方法、日程、グループ編成、実習室説明、大量調理基礎演習） ■								
	該当到達目標	予習	給食経営管理Ⅰ・Ⅱの内容について復習する。						1 時間	
	1	復習	実習で使用する各種帳票の作成手順および大量調理の基礎を理解する。						2 時間	
2	講義内容	大量調理施設の施設・設備管理、衛生管理 ■								
	該当到達目標	予習	大量調理施設衛生管理マニュアルについて復習する。						1 時間	

	3	復習	給食経営管理実習室における衛生管理について理解する。	2 時間
3	講義内容	基礎実習Ⅰ－1(給食提供実習事前準備)		
	該当到達目標	予習	配布資料を基に大量調理について復習する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	計画書を基に使用する食材や器具、調理手順について確認する。	2 時間
4	講義内容	基礎実習Ⅰ－2(給食提供実習)		
	該当到達目標	予習	計画書を基に使用する食材や器具、調理手順について確認する。	1 時間
	2,3,4,5	復習	実施内容について振り返り、留意事項等をまとめる。	2 時間
5	講義内容	基礎実習Ⅱ－1(給食提供実習事前準備)		
	該当到達目標	予習	基礎実習Ⅰのまとめを基に提供実習について復習する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	計画書を基に使用する食材や器具、調理手順について確認する。	2 時間
6	講義内容	基礎実習Ⅱ－2(給食提供実習)		
	該当到達目標	予習	計画書を基に使用する食材や器具、調理手順について確認する。	1 時間
	2,3,4,5	復習	実施内容について振り返り、留意事項等をまとめる。	2 時間
7	講義内容	給食提供実習Ⅰ－1(事前準備)		
	該当到達目標	予習	基礎実習Ⅰ・Ⅱのまとめを基に提供実習について復習する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	計画書を基に使用する食材や器具、調理手順について確認する。	2 時間
8	講義内容	給食提供実習Ⅰ－2(実施)		
	該当到達目標	予習	計画書を基に使用する食材や器具、調理手順について確認する。	1 時間
	2,3,4,5	復習	実施内容について振り返り、留意事項等をまとめる。	2 時間
9	講義内容	給食提供実習Ⅰ－3(評価と改善)		
	該当到達目標	予習	記録簿を整理する。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	給食の運営・経営管理について理解する。	2 時間
10	講義内容	大量調理基礎演習Ⅰ(食材の規格・質量確認、盛付の精度管理演習)		
	該当到達目標	予習	献立計画について復習する。	1 時間
	1,2,5	復習	記録簿をまとめる。	2 時間
11	講義内容	大量調理基礎演習Ⅱ(衛生管理・施設設備管理)		
	該当到達目標	予習	衛生管理方法とその評価方法について確認する。	1 時間
	1,3,5	復習	各記録簿をまとめる。	2 時間
12	講義内容	課題演習Ⅰ(献立作成、生産計画)		
	該当到達目標	予習	献立を検討する。	1 時間
	1,2	復習	献立を検討する。	2 時間
13	講義内容	課題演習Ⅱ(献立作成、生産計画)		
	該当到達目標	予習	献立を検討する。	1 時間
	1,2	復習	献立を完成させる。	2 時間
14	講義内容	給食提供実習のまとめ		
	該当到達目標	予習	各実習で得られた知識や技術をまとめる	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	給食の運営業務についてまとめる。	2 時間
15	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
合計時間(予習・復習)				42 時間

備考	予習・復習の時間数:各種帳票作成は、授業時間では不足するため、家庭学習で補完すること ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	給食経営管理実習Ⅱ(専門科目)						科目ナンバリング	HNA364		
英文名	Food Service ManagementⅡ[Practice]						講義形態	実習		
担当教員	高梨 美穂									
科目に関連した実務経験	病院に勤務(経験)									
学年・開講期	3 年 前期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格	管理栄養士、栄養教諭、(専門)フードスペシャリスト									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	2	専門的知識				2	コミュニケーション能力			
	3	問題発見・解決力				2	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	2 3 4 8 9 12 13									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 給食経営管理実習Ⅰで身に付けた知識や技術及び評価結果を基に栄養面・安全面・経済面を統合した給食の経営管理を行う能力を習得することを目標とする。さらに、与えられたテーマと課題(給食経営管理実習Ⅰにおける評価、マーケティング結果)に対応した給食を、PDCA サイクルを活用して計画・実施し、給食経営におけるトータルマネジメント能力を養うことを目標とする。また、給食を活用した栄養教育の工夫や新調理システムについても理解することを目標とする。 ② グループごとに給食実習の計画・実施・評価を行う。									
到達目標	1. 給食経営管理実習Ⅰにおける評価結果から改善策を検討することができる。■ 2. 栄養面、安全面、経済面全般について円滑にマネジメントすることができる。■ 3. 提供する給食を活用した栄養教育を実施することができる。■ 4. 新調理システム(真空調理)について理解することができる。 5. 実施給食を活用した望ましい3日間(1日3食)の献立を作成することができる。■									
使用教材	・ 給食のための基礎からの献立作成 大量調理の基本から評価まで 建帛社 2,000 円 ・ 日本人の食事摂取基準 2020、日本標準食品成分表 2020 ・ 担当教員作成実習書(プリント)及び帳票 ・ 白衣、実習用白ズボン、実習用帽子、クッキングシューズ、包丁セット、電卓									
参考文献	調理のためのベーシックデータ									
評価方法	課題 20%、授業への取り組み姿勢 80%として総合的に評価する。 評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	献立作成、試作、各計画書は、個別にアドバイスをを行う。									
オフィスアワー(研究室)	木曜日の3時限(6号館1階) メールによる質問も受け付ける				メールアドレス (#→@)	takanashi-m#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	オリエンテーション(実習の目的、方法、日程、グループ編成、実習室説明)■								
	該当到達目標	予習	給食経営管理実習Ⅰ最終回の評価と改善について確認する。							1 時間
	1	復習	グループ内で作業を分担し、実習計画を行う。							2 時間
2	講義内容	給食経営管理計画(食事計画・栄養計画・献立作成)■								
	該当到達目標	予習	グループ内で作業を分担し、実習計画を行う。							1 時間

	1,2	復習	グループ内で作業を分担し、実習計画を行う。	2 時間
3	講義内容	施設・設備管理、衛生管理実習■		
	該当到達目標	予習	大量調理機器の取り扱いおよび衛生管理方法について確認する。	1 時間
	2	復習	大量調理施設衛生管理マニュアルについて確認する。	2 時間
4	講義内容	新調理システム(真空調理)■		
	該当到達目標	予習	給食の調理システムについて確認する。	1 時間
	4,5	復習	新調理システムの種類と特徴について理解する。	2 時間
5	講義内容	試作(グループ実習)■		
	該当到達目標	予習	使用する食材や器具、調理手順の確認	1 時間
	1,2	復習	予定献立を完成させる。	2 時間
6	講義内容	献立に基づく作業計画、栄養指導資料作成(グループ実習)■		
	該当到達目標	予習	予定献立に使用する食材や器具、調理手順の確認をする。栄養指導資料を確認する。	1 時間
	1,2,3	復習	グループごとに、必要な計画書を完成させる。	2 時間
7	講義内容	給食提供実習Ⅱ-1(栄養班:事前準備)、栄養指導資料作成■		
	該当到達目標	予習	各計画書を確認する。	1 時間
	1,2,3	復習	実習に向け、留意事項等をまとめる。	2 時間
8	講義内容	給食提供実習Ⅱ-2(栄養班:提供実習)■		
	該当到達目標	予習	各計画書に目を通し、担当する作業の確認をする。	1 時間
	2,3,4	復習	各記録簿をまとめる。	2 時間
9	講義内容	給食提供実習Ⅱ-3(栄養班:評価と改善)■		
	該当到達目標	予習	実習記録を確認する。	1 時間
	2	復習	評価と改善策をまとめ考察する。	2 時間
10	講義内容	給食提供実習Ⅱ-4(事務・情報処理)■		
	該当到達目標	予習	アンケート調査の集計やまとめ方、事務処理方法の確認をする。	1 時間
	1,2	復習	アンケート調査を集計しまとめる。	2 時間
11	講義内容	給食提供実習Ⅲ-1(調理班:事前準備)■		
	該当到達目標	予習	各計画書を確認する。	1 時間
	2,3,4	復習	実習に向け、留意事項等をまとめる。	2 時間
12	講義内容	給食提供実習Ⅲ-2(調理班:提供実習)■		
	該当到達目標	予習	各計画書に目を通し、担当する作業の確認をする。	1 時間
	2	復習	各記録簿をまとめる。	2 時間
13	講義内容	給食提供実習Ⅳ(衛生・洗浄班)■		
	該当到達目標	予習	洗浄手順および衛生管理評価について確認をする。	1 時間
	2	復習	各記録簿をまとめる。	2 時間
14	講義内容	給食提供実習のまとめ(グループ実習)■		
	該当到達目標	予習	各実習で得られた知識や技術をまとめる。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	給食の経営管理業務についてまとめる。	2 時間
15	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間

合計時間(予習・復習)		42 時間
備考	予習・復習の時間数:各種帳票作成は、授業時間では不足するため、家庭学習で補完すること ■:実務経験に基づく内容を示す。	

科目名	総合演習Ⅰ（臨地実習前後教育）（専門科目）						科目 ナンバリング	HNA371		
英文名	Practical SeminarⅠ（Food Service）						講義形態	演習		
担当教員	高梨 美穂									
科目に関連した 実務経験	病院に勤務（経験）									
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする 資格	管理栄養士、栄養教諭									
学位授与方針 との対応	2	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	2	専門的知識				1	コミュニケーション能力			
	1	問題発見・解決力				2	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	2 3 4 9 12 13									
アクティブラーニング 実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○	○			○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 臨地実習は管理栄養士養成のための実践教育科目であり、様々な施設で実習を行うことで実践的能力を身に付けることを目的としている。本科目では、臨地実習に臨むに当たり、前後教育として、各施設における管理栄養士の役割・業務内容および業務を遂行するために必要な知識や技術について修得するとともに、実社会での実習に臨むに当たり、社会人としての知識やマナーについても習得することを目標とする。さらに、実際の現場で働く外部講師による具体的な講義により各施設についての理解を深め、臨地実習における自己課題を設定するとともに、実習に臨む意欲を高めることとする。 ② 教科書および配布資料を基に講義および演習を実施する。									
到達目標	1. 各施設の特徴や管理栄養士業務について説明することができる。■ 2. 関連科目で修得した知識や技術を活用することができる。 3. 各施設の給食経営管理について説明することができる。■ 4. 自己課題を設定し、適切な取り組み策を考えることができる。■ 5. 適切な実習態度やマナーについて説明することができる。									
使用教材	臨地実習マニュアル 松崎政三・名倉秀子 建帛社 2,415 円 管理栄養士・栄養士必携（データ・資料集）日本栄養士会編第一出版 2,500 円 臨地実習記録（学内作成）									
参考文献										
評価方法	課題 20%、授業への取り組み姿勢 80%として総合的に判断する。 評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。									
課題・評価に対する フィードバック方法	課題は確認後コメントを記載して返却する。									
オフィスアワー （研究室）	木曜日の 3 時限（6 号館 1 階） メールによる質問も受け付ける。				メールアドレス （#→@）	takanashi-m#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	臨地実習の意義と目的・目標■								
	1	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。						0.5 時間
		復習	教科書および配布資料による復習を行い、給食の運営、給食経営管理の臨地実習について理解する。						1 時間	

2	講義内容	給食の運営、給食経営管理の臨地実習について■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	教科書および配布資料による復習を行い、給食の運営、給食経営管理の臨地実習について理解する。	1 時間
3	講義内容	各施設の概要■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	教科書および配布資料による復習を行い、給食の運営、給食経営管理の臨地実習について理解する。	1 時間
4	講義内容	公衆栄養の臨地実習と保健所管理栄養士の職務について		
	該当到達目標	予習	関連科目の教科書をもとに保健所栄養士の職務を整理する。	1 時間
	1,3	復習	講義内容を整理し、保健所栄養士の職務について理解する。	1 時間
5	講義内容	学校給食の実際と管理栄養士の職務について		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1 時間
	1,3	復習	教科書および配布資料による復習を行い、学校での管理栄養士の職務について理解する。	1 時間
6	講義内容	福祉施設給食の実際と管理栄養士の職務について		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1 時間
	1,3	復習	教科書および配布資料による復習を行い、福祉施設での管理栄養士の職務について理解する。	1 時間
7	講義内容	事業所給食の実際と管理栄養士の職務について		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所を読んでおく。	1 時間
	1,3	復習	教科書および配布資料による復習を行い、事業所での管理栄養士の職務について理解する。	1 時間
8	講義内容	社会人としてのマナーについて		
	該当到達目標	予習		0 時間
	5	復習	社会人としてのマナーについて整理する。	0.5 時間
9	講義内容	実習生としてのマナーについて		
	該当到達目標	予習		0 時間
	5	復習	実習生としてのマナーについて整理する。	1 時間
10	講義内容	臨地実習自己課題の立案		
	該当到達目標	予習	各自の実習予定施設の特徴について確認する。	2 時間
	2, 4	復習	各自の実習自己課題を検討する。	1 時間
11	講義内容	臨地実習自己課題の検討		
	該当到達目標	予習	各自の実習自己課題を確認する。	1 時間
	2,4	復習	各自の実習自己課題を決定する。	1 時間
12	講義内容	臨地実習に臨む心構え～臨地実習記録の作成方法、事前挨拶調整		
	該当到達目標	予習	臨地実習の手引きを確認する。	1 時間
	1,2,4,5	復習	事前挨拶の連絡を取り、臨地実習記録の必要事項を記載する。	1 時間
13	講義内容	臨地実習に臨む心構え～お礼状の書き方、注意事項等		
	該当到達目標	予習	臨地実習の手引きを確認する。	1 時間
	1,2,4,5	復習	実習に向けた準備を行う。	1 時間

14	講義内容	臨地実習報告会準備		
	該当到達目標	予習	臨地実習のまとめを行う。	1 時間
	1,2,3,4,5	復習	臨地実習報告会用資料を作成する。	2 時間
15	講義内容	臨地実習報告会		
	該当到達目標	予習	臨地実習報告会の準備をする。	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	報告会を受けて考察を考える。	1 時間
合計時間(予習・復習)				29 時間
備考	予習・復習の時間数:不足分については、献立作成や調理に関する知識や技術の向上、衛生管理の理解を深めるなど、臨地実習を円滑に行えるよう、各自で補完すること。 講義内容の詳細は講義初回時にアナウンスする。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		総合演習Ⅱ（専門科目）						科目ナンバリング	HNA372		
英文名		Practical SeminarⅡ（Clinical Nutrition）						講義形態	演習		
担当教員		岡村 信一、竹内 真理									
科目に関連した実務経験		岡村：常勤医師として病院に勤務（経験）、非常勤医師として病院に勤務（現在） 竹内：管理栄養士として国立病院機構に勤務（経験）、高崎健康福祉大学附属クリニック管理栄養士兼務（現在）									
学年・開講期		3 年 後期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修を必須とする資格		管理栄養士、栄養教諭									
学位授与方針との対応			豊かな人間性と職業倫理					多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		4	専門的知識				2	コミュニケーション能力			
		4	問題発見・解決力					自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連		② ③									
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○			○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 専門分野を横断し、幅広い視野から栄養評価や栄養ケアマネジメントが行えるような総合的な知識と技能を養う。本演習で習得した思考方法・知識・技術を臨床現場で活用できるように、理解を深める。 ② 教科書・配布資料に基づき、パワーポイント映写を適宜利用しつつ授業を進める。									
到達目標		1. 各専門分野で修得してきた学修内容を集約して栄養評価をすることができる。■ 2. 各専門分野で修得してきた学修内容を集約して栄養ケアマネジメントを実施することができる。■									
使用教材		栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方・考え方・ケーススタディ第 3 版 奈良信雄著 医歯薬出版 2,700 円（税抜） ステップアップ臨床栄養管理実習〔第 2 版〕 桑原節子他編著 建帛社 2,000 円（税抜）、三訂 臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理 中村富予他編 建帛社 2,800 円（税抜）									
参考文献											
評価方法		筆記試験 100% 評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。									
課題・評価に対するフィードバック方法		各項目の確認と症例検討を繰り返すことで、栄養アセスメント、栄養診断、栄養ケアの一連の流れを修得する。総合演習で検討したケースは臨地実習Ⅲ（病院実習）で生かすことができる。									
オフィスアワー （研究室）		（岡村）金曜 5-6 時限 1 号館 403 研究室 （竹内）木曜 2-4 時限 1 号館 308 研究室				メールアドレス （#→@）		（岡村）okamura#takasaki-u.ac.jp （竹内）mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ライフステージに応じた栄養管理（小児、成人、妊産婦、中年期、老年期）■									
	該当到達目標 1,2	予習	教科書の該当するページを読む。							1.5 時間	
		復習	講義内容のまとめ							1.5 時間	
2	講義内容	福祉（高齢者、障がい者）における栄養管理■									
	該当到達目標 1,2	予習	教科書の該当するページを読む。							1.5 時間	
		復習	講義内容のまとめ							1.5 時間	

3	講義内容	傷病者に対する栄養管理(疾病と病態)■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当するページを読む。	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容のまとめ	1.5 時間
4	講義内容	集団に対する健康管理■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当するページを読む。	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容のまとめ	1.5 時間
5	講義内容	栄養ケアプロセス■		
	該当到達目標	予習	教科書の該当するページを読む。	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容のまとめ	1.5 時間
6	講義内容	症例検討 1■		
	該当到達目標	予習	課題症例について、検査数値の示す意味など予め把握しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容のまとめ	1.5 時間
7	講義内容	症例検討 2■		
	該当到達目標	予習	課題症例について、検査数値の示す意味など予め把握しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容のまとめ	1.5 時間
8	講義内容	症例検討 3■		
	該当到達目標	予習	課題症例について、検査数値の示す意味など予め把握しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容のまとめ	1.5 時間
9	講義内容	まとめ■		
	該当到達目標	予習	講義第 1 回～8 回までの学習内容を整理する。	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容のまとめ	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				27 時間
備考	予習・復習は試験前の学習で補完すること。 オンラインで実施する場合:状況に応じ、講義内容、評価方法、試験を変更することがある。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	総合演習Ⅲ(専門科目)						科目ナンバリング	HNA373		
英文名	Practical Seminar Ⅲ						講義形態	演習		
担当教員	阿部 雅子、五十嵐 美絵、内田 薫、岡村 信一、應本 真、河原田 律子、木村 典代、佐藤 清香、下川 哲昭、竹内 真理、高梨 美穂、田中 進、村松 芳多子									
科目に関連した実務経験	五十嵐:行政管理栄養士として群馬県保健所等に勤務(経験) 高梨:管理栄養士として病院に勤務・保健所受託栄養相談業務の実施(経験) 竹内:管理栄養士として国立病院機構に勤務(経験)、大学附属クリニックに所属(兼務・現在)									
学年・開講期	4 年 通年	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格	管理栄養士、栄養教諭									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理			3	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		専門的知識			3	コミュニケーション能力				
	3	問題発見・解決力			1	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	② ③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○					○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	「総合演習Ⅱ」で学んだ知識・技能を基に、専門分野を横断して幅広い視野から栄養評価や栄養ケアマネジメントが行えるような実践力や応用力、さらに栄養情報について科学的根拠を提示し説明できる力を養う。 授業は、各教員が作成した資料やパワーポイントを用いて進める。									
到達目標	1. 管理栄養士が社会で活動する多様な分野において、適切な栄養評価ができる。■ 2. 管理栄養士が社会で活動する多様な分野において、栄養ケアマネジメントを展開・応用することができる。■									
使用教材	授業時に配布するプリント、各科目で使用した教科書									
参考文献										
評価方法	筆記試験 100%で評価する。ただし、課題提出および出席条件を満たさなければならない。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業中の質疑応答等を通じて、フィードバックを行う。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業終了後に 応じる。				メールアドレス (#→@)	連絡手段(メールアドレス等)は各教員の 授業時に提示する。				
1	講義内容	食事摂取基準を調理・給食提供へ展開するための演習課題(個人への活用)1■								
	該当到達目標	予習	各教科書で授業に関連した事項を確認する。						0.5	時間
	1,2	復習	授業の内容を整理し、関連事項について調べる。						1	時間
2	講義内容	食事摂取基準を調理・給食提供へ展開するための演習課題(個人への活用)2								
	該当到達目標	予習	各教科書で授業に関連した事項を確認する。						0.5	時間
	1,2	復習	授業の内容を整理し、関連事項について調べる。						1	時間
3	講義内容	食事摂取基準を調理・給食提供へ展開するための演習課題(集団への活用)1■								
	該当到達目標	予習	各教科書で授業に関連した事項を確認する。						0.5	時間

	1,2	復習	授業の内容を整理し、関連事項について調べる。	1 時間
4	講義内容	食事摂取基準を調理・給食提供へ展開するための演習課題(集団への活用)2		
	該当到達目標	予習	各教科書で授業に関連した事項を確認する。	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を整理し、関連事項について調べる。	1 時間
5	講義内容	食事摂取基準を調理・給食提供へ展開するための演習課題(集団への活用)3		
	該当到達目標	予習	各教科書で授業に関連した事項を確認する。	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を整理し、関連事項について調べる。	1 時間
6	講義内容	各種疾病に応じた食事提供、栄養指導へ展開するための症例・事例研究 1■		
	該当到達目標	予習	各教科書で授業に関連した事項を確認する。	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を整理し、関連事項について調べる。	1 時間
7	講義内容	各種疾病に応じた食事提供、栄養指導へ展開するための症例・事例研究 2		
	該当到達目標	予習	各教科書で授業に関連した事項を確認する。	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を整理し、関連事項について調べる。	1 時間
8	講義内容	各種疾病に応じた食事提供、栄養指導へ展開するための症例・事例研究 3		
	該当到達目標	予習	各教科書で授業に関連した事項を確認する。	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を整理し、関連事項について調べる。	1 時間
9	講義内容	各種疾病に応じた食事提供、栄養指導へ展開するための症例・事例研究 4		
	該当到達目標	予習	各教科書で授業に関連した事項を確認する。	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を整理し、関連事項について調べる。	1 時間
10	講義内容	各種疾病に応じた食事提供、栄養指導へ展開するための症例・事例研究 5		
	該当到達目標	予習	各教科書で授業に関連した事項を確認する。	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を整理し、関連事項について調べる。	1 時間
11	講義内容	各種健康関連の指針や法律を理解し、地域健康政策や栄養指導へ展開するための症例・事例研究 1■		
	該当到達目標	予習	各教科書で授業に関連した事項を確認する。	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を整理し、関連事項について調べる。	1 時間
12	講義内容	各種健康関連の指針や法律を理解し、地域健康政策や栄養指導へ展開するための症例・事例研究 2		
	該当到達目標	予習	各教科書で授業に関連した事項を確認する。	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を整理し、関連事項について調べる。	1 時間
13	講義内容	各種健康関連の指針や法律を理解し、地域健康政策や栄養指導へ展開するための症例・事例研究 3		
	該当到達目標	予習	各教科書で授業に関連した事項を確認する。	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を整理し、関連事項について調べる。	1 時間
14	講義内容	各種健康関連の指針や法律を理解し、地域健康政策や栄養指導へ展開するための症例・事例研究 4		
	該当到達目標	予習	各教科書で授業に関連した事項を確認する。	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を整理し、関連事項について調べる。	1 時間
15	講義内容	各種健康関連の指針や法律を理解し、地域健康政策や栄養指導へ展開するための症例・事例研究 5		
	該当到達目標	予習	各教科書で授業に関連した事項を確認する。	0.5 時間
	1,2	復習	授業の内容を整理し、関連事項について調べる。	1 時間
合計時間(予習・復習)				22.5 時間
備考	■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	臨地実習Ⅰ（給食運営）（専門科目）						科目 ナンバリング	HNA381		
英文名	Practical TrainingⅠ（Food Service）						講義形態	実習		
担当教員	高梨 美穂									
科目に関連した 実務経験	病院に勤務（経験）									
学年・開講期	3 年 通年		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする 資格	栄養士、管理栄養士、栄養教諭									
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	2	専門的知識				2	コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	234121315									
アクティブラーニング実 施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○	○	○	○		○	
「その他」のアクティブ ラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	臨地実習は管理栄養士養成のための実践教育科目であり、実際の施設で実習を行うことで実践的能力を身につけることを目的としている。本実習では給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ、給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ、総合演習Ⅰおよび関連科目で学んだ基本的な知識や技術を基に、各施設において特定多数人を対象とした給食の計画から評価までの一連の実習を行い、実践活動の場での実体験を通して、給食の運営に関する専門的知識及び技術の統合を図ることを目標とする。 配属された施設において実習を行う。実習期間中は、予定されている実習内容について予習を行い、帰宅後は指導されたことや学んだことなどを書き出すなどの復習を行う。									
到達目標	1. 施設の特徴や管理栄養士業務について説明できる。■ 2. 栄養・食事・食材管理（献立作成）等について説明できる。■ 3. 安全で衛生的に食事を提供することができる。■ 4. 施設に応じた給食の生産工程について説明できる。■ 5. 提供サービスについて説明できる。■ 6. 給食実務に関する事務処理を行うことができる。■									
使用教材	臨地実習記録、臨地実習マニュアル、日本標準食品成分表 2020、日本人の食事摂取基準 2020 年版、管理栄養士・栄養士必携（データ・資料集）日本栄養士会編、大量調理施設衛生管理マニュアル（厚生労働省）、実習施設の指示するもの									
参考文献										
評価方法	実習先からの評価票（実習態度、実習内容等）70%、臨地実習記録 20%、実習報告会内容、巡回指導教員からの報告等 10%を総合的に評価する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	臨地実習記録は、担当者からのコメントを付して返却する。									
オフィスアワー （研究室）	木曜日の 3 時限（6 号館 1 階） メールによる質問も受け付ける。				メールアドレス （#→@）		takanashi-m#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	学内 事前学習■ 1) 給食運営について 2) 自己課題の確認 学外実習先（特定給食施設：事業所、学校、福祉施設等）に 1 週間（1 日 9 時間（1 時間を 45 分として換算）、週 5 日）通い、上記の到達目標達成に向けて実習する。 ※実習内容の詳細は配属される実習先によって異なるが、次に掲げる事項について指導を受ける									

	1) 特定給食施設の概要、施設の特性、給食の目標、目的 2) 特定給食施設における給食業務の法的根拠 3) 特定給食施設における管理栄養士の実務 4) 給食システム 5) 栄養・食事管理 6) 献立作成 7) 会計・原価管理 8) 食材の計画と管理 9) 生産(調理)管理 10) 提供管理 11) マニュアルに基づく安全・衛生管理 12) 栄養教育 13) 事務処理 14) 自己課題に基づいた調査研究 学内 事後学習■ 1) 実習のまとめ(実習目的の到達度、課題の確認、実習全体の自己評価・改善)		
	予習	実習先に関する予習、総合演習Ⅰの復習	期間中適宜
	復習	臨地実習記録整理(実習先で学んだことの再確認、現場で得た実体験のまとめなど)	期間中適宜
	合計時間(予習・復習)		期間中適宜
備考	受講資格:給食経営管理Ⅰ・Ⅱ、給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ、総合演習Ⅰの修得が必須 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）（専門科目）						科目 ナンバリング	HNA382		
英文名	Practical Training Ⅱ（Food Service）						講義形態	実習		
担当教員	高梨 美穂									
科目に関連した 実務経験	病院に勤務（経験）									
学年・開講期	3 年 通年		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする 資格	管理栄養士、栄養教諭 ※選択必須科目									
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	2	専門的知識				2	コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	2 3 4 8 9 12 13 14 15									
アクティブラーニング実 施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○	○	○	○		○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	「臨地実習Ⅰ」を踏まえ、給食運営や給食に関連する資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経済面全般のマネジメントを行う能力（給食経営管理能力）の基礎を習得することを目標とする。 また、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得することを目標とする。 配属された施設において実習を行う。実習期間中は、予定されている実習内容について予習を行い、帰宅後は指導されたことや学んだことなどを書き出すなどの復習を行うこと。全履修学生の実習が終了後に報告会を予定しているため、実習期間中から報告会資料の作成をすすめること。 報告会においてプレゼンテーション技術を活用した発表を行い、グループ討議を通して、実習成果を共有する。									
到達目標	1. 施設の特徴に応じた給食全般のマネジメントについて説明できる。■ 2. 実践活動の場での課題解決に取り組むことができる。■ 3. 多（他）職種との連携について説明できる。■ 4. 報告会資料を作成し、プレゼンテーション技術を活用した発表を行うことができる。									
使用教材	臨地実習記録、臨地実習マニュアル、日本標準食品成分表 2020、日本人の食事摂取基準 2020 年版、管理栄養士・栄養士必携（データ・資料集）日本栄養士会編、大量調理施設衛生管理マニュアル（厚生労働省）、実習施設の指示するもの									
参考文献										
評価方法	実習先からの評価票（実習態度、実習内容等）70%、臨地実習記録 20%、実習報告会内容、巡回指導教員からの報告等 10%を総合的に評価する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	臨地実習記録は、担当者からのコメントを付して返却する。									
オフィスアワー （研究室）	木曜日の 3 時限（6 号館 1 階） メールによる質問も受け付ける。				メールアドレス （#→@）		takanashi-m#takasaki-u.ac.jp			
講義内容	学内 事前学習■ 1) 給食経営管理について 2) 自己課題の確認 学外実習先（特定給食施設：事業所、学校、福祉施設等）に 1 週間（1 日 9 時間（1 時間を 45 分として換算）、週 5 日）通い、上記の到達目標達成に向けて実習する。									

	※実習内容の詳細は配属される実習先によって異なるが、次に掲げる事項について評価およびトータルマネジメントを含めた指導を受ける 1) 特定給食施設の給食経営管理 2) 栄養・食事管理 3) 給食の組織、人事管理と労務管理 4) 調理施設・設備設計 5) 機器・設備の保全管理 6) 食材の流通と購買管理 7) 安全・衛生管理 8) 給食の品質保証と標準化 9) 給食経営とマネジメント 10) 会計・原価管理と評価 11) 事故対策・災害対策 12) 多(他)職種との連携 13) 自己課題に基づいた調査研究 学内 事後学習■ 1) 実習のまとめ(実習目的の到達度、課題の確認、実習全体の自己評価・改善) 2) 実習報告会、グループ討議		
	予習	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認	期間中適宜
	復習	実習先で学んだことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、報告会用資料準備	期間中適宜
	合計時間(予習・復習)		期間中適宜
備考	受講資格:給食経営管理Ⅰ・Ⅱ、給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ、総合演習Ⅰの修得が必須 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	臨地実習Ⅲ(臨床栄養学)(専門科目)						科目ナンバリング	HNA383		
英文名	Practical Training Ⅲ (Clinical Nutrition)						講義形態	実習		
担当教員	竹内 真理、河原田 律子									
科目に関連した実務経験	竹内:管理栄養士として国立病院機構に勤務(経験)、高崎健康福祉大学附属クリニック管理栄養士兼務(現在)									
学年・開講期	4年 通年		選必・単位数	選択 2単位						
履修を必須とする資格	管理栄養士、栄養教諭									
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	2	専門的知識			2	コミュニケーション能力				
	2	問題発見・解決力			1	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGsとの関連	2 3 4 8 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○	○	○	○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 実践活動の場(病院)における課題発見や問題解決を通して、病態や栄養状態の評価・判定を行い、専門知識・技術の統合化を図って的確な栄養ケアマネジメントを行うために必要な知識や技能を修得する。臨地実習Ⅲを通して、知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的技術等を体得する。 国家資格に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を身につける。 ② 事前学習では、病院における管理栄養士業務の概要を説明し、それぞれが実習テーマを決定する。実習テーマに基づき、事前準備・学習を行ったうえで実習に臨む。実習終了後は、実習テーマをレポートにまとめ、実習ノートをまとめる。また報告会で発表をする。 報告会は、全履修学生の実習が終了して2週間後に予定しているため、実習期間中から報告会資料の作成に着手することを勧める。									
到達目標	1. 病態や栄養状態に基づいて栄養の評価や判定ができる。■ 2. チーム医療を経験し、管理栄養士として必要な知識や技能を身につけることができる。■ 3. 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を説明できる。■ 4. 実習を通して、課題の発見や問題を解決することができる。■									
使用教材	ステップアップ臨地・校外実習 長谷川輝美・永井徹編著 建帛社 2,200円(税別) 臨地実習記録(実習前に配布)									
参考文献	臨床栄養学に関連する教科書、食品交換表(糖尿病・糖尿病性腎症・腎臓病)、食品成分表等 実習に係る教科書や資料									
評価方法	実習先からの評価票(実習態度・取り組み等)60%、実習報告会 20%、課題レポート 10%、実習ノート 10%、巡回指導教員からの報告なども含め総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	実習ノートを提出期限内に提出した学生には、授業担当者からのコメントを付して返却する。実習報告会に向けて作成した資料は資料集として当日配布を予定している。									
オフィスアワー (研究室)	(竹内)木曜 2・4 時限 1号館 308 研究室				メールアドレス (#→@)		(竹内)mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp			

	(河原田)木曜 1-4 時限 1 号館 406 研究室 4 階 臨床栄養学研究室		(河原田)nasu#takasaki-u.ac.jp
講義内容 (該当到達目標 1,2,3,4)	実習先に2週間(1日9時間(1時間を45分として換算))通い、上記の到達目標達成に向けて実習を受講する。 学内(事前学習) 1)病院管理栄養士の役割と活動■ 2)実習課題の確認 学外(病院)において以下の内容について習得する。 1)栄養部門の業務概要・栄養管理業務の概要■ 2)施設利用者を対象とした栄養食事管理■ 3)栄養管理システム■ 4)栄養アセスメント■ 5)栄養ケアプラン■ 6)栄養補給法■ 7)クリニカルパス■ 8)チーム医療(栄養サポートチーム、褥瘡対策チーム等)■ 9)病棟カンファレンス症例研究■ 10)個別栄養指導・集団栄養指導■ 11)栄養指導報告書作成■ 12)実習課題の発表 学内(事後学習) 1)実習のまとめ(実習目的の到達度、課題の確認、実習全体の自己評価・改善) 2)課題レポートの作成 3)実習報告会 ※実習内容の詳細は配属される実習先によって異なるが、上記に掲げる事項について学生は実習指導者による指導を受ける。		
	予習	・実習先の特徴を調べ、病院の特性にあった実習課題について考える。 ・臨床栄養学に関する講義や実習で学んだことを復習する。 ・病院管理栄養士の役割と活動・実習課題の確認をする。 ・治療食の献立について、献立の立て方を確認する。	実習期間中適宜
	復習	・実習内容の復習、実習記録の作成・提出。 ・実習課題についてレポート提出。 ・実習報告会のレジメやパワーポイントの作成を行い、発表の準備を行う。	実習期間中適宜
合計時間(予習・復習)			時間
備考	受講資格:臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱの修得が必須。 オンラインの場合:状況に応じ、臨地実習の規模を縮小せざるを得ない場合、施設の管理栄養士によるオンライン実習、症例検討、栄養管理計画書作成、実習課題のまとめなどを取り入れる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	臨地実習Ⅳ(公衆栄養学)(専門科目)						科目 ナンバリング	HNA384		
英文名	Practical Training Ⅳ (Public Health)						講義形態	実習		
担当教員	五十嵐 美絵									
科目に関連した 実務経験	行政管理栄養士として本庁、保健所に勤務(経験)									
学年・開講期	4 年 通年		選必・単位数		選択 1 単位					
履修を必須とする 資格	管理栄養士、栄養教諭 ※選択必須科目									
学位授与方針 との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	2	専門的知識				2	コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	② ③									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○	○	○	○	○	○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ③ 講義の実施方法	① 実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。臨地実習Ⅳでは、実践活動の場で、「公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ」、「公衆栄養学実習」で修得した公衆栄養マネジメントの理論と方法がどのように行われているかを学ぶことでその統合を図り、身につけた専門的知識、技術を実践現場に活かす方法を探ることを目的とする。 ② 実習先は、保健所又は市町村保健センターとする。受講資格は、公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ、公衆栄養学実習の修得が必要。実習前に実習準備のため事前指導を行い、実習後に実習内容を確認する事後指導を行う。									
到達目標	1. 健康・栄養問題を取り巻く様々な情報を収集・分析し、総合的に評価・判定して行う、健康増進等計画策定・推進の方法が理解できる。(各事業の意味づけ)■ 2. 対象に応じた適切な健康関連サービスを提供するプログラムの作成、実施、評価の過程を通じて総合的な公衆栄養マネジメントに必要な事項が理解できる。(食生活相談、集団指導などの技法)■ 3. 上記を通して、実践活動の場での課題発見、解決を行い、今まで学んだ専門的知識及び技術の統合を図り、それを実践の場に活かす方法を考えることができる。■									
使用教材	臨地実習記録、実習に関係する教科書、資料、実習先から配布された資料、プリント									
参考文献	実習市町村のホームページ									
評価方法	実習最後に行われる実習のまとめでの実習態度及び実習先からの評価 60% 臨地実習記録の記載状況 30% 事前、事後導時の発言状況 10% 実習先からの評価表、実習自己評価、巡回指導状況、実習課題のプレゼンテーション、実習報告の内容など総合的に評価する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	実習終了後、実習課題を報告する事後指導時間を設ける。この時実習先からの評価を伝え、実習内容、課題の達成状況等についてディスカッションを行う。									
オフィスアワー (研究室)	月曜日 4 時限 (1 号館 3 階 305 研究室)				メールアドレス (#→@)		igarashi#takasaki-u.ac.jp			
講義内容 (該当到達目標 1.2.3)	【実習前】 事前指導■ ・設置根拠法令 ・実習先地域、施設の特徴 ・実習課題を決める 【実習後】 事後指導■ ・各自の実習課題の発表 ・実習の振り返りの発表 【実習内容】 (保健所・保健センター共通)■									

	・栄養関係法令(根拠法) ・管内の状況 ・組織及び機構 ・衛生行政の概要 ・管理栄養士業務の概要 (保健所)■ 1.保健所が行う事業(栄養改善、その他も含む) 2.保健所における栄養指導の意義 3.業務の種類 ①広域的・専門的な栄養指導 ②食環境の整備(特定給食施設指導、栄養関連企業などの指導 等) ③市町村に対する支援 ④人材育成 ⑤連携体制づくり ⑥健康危機管理 (市町村保健センター) 1.市町村保健センターが行う主な事業(健康相談、健康診査、保健指導、他) 2.市町村保健センターにおける栄養指導の意義 3.業務の種類 ①住民に対する健康教育、栄養相談 ②地区組織の育成と支援 ③啓発事業 ④人材の育成と活用 ⑤健康危機管理	
	予習 ・実習先地域、施設の特徴を調べるなどの事前学習 ・自分の実習課題の事前学習 ・実習先からの課題の予習 ・公衆栄養学の復習	5 時間
	復習 ・臨地実習記録の整理 ・自分の実習課題のまとめ ・実習報告会、実習事後指導への準備 ・実習の振り返り	5 時間
合計時間(予習・復習)		10 時間
備考	・記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修や課題の作成等で各自必要な学習時間を補完すること。 ・相談・質問がある場合は予めアポイントメントを取ること。 ・オンラインの場合:状況に応じ、講義内容、評価、試験方法は変更することがある。 ・講義内容、評価、試験の方法などは、授業開始時に文書で明示する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。	

科目名	管理栄養士論Ⅱ（応用専門科目）						科目ナンバリング	HNA391		
英文名	Professional development as a registered dietitianⅡ						講義形態	演習		
担当教員	木村 典代 他									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 通年		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				2	コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				2	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	② ③ ④ ⑧									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○			○	○	○	○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	① 栄養学の個別の知識・技術だけではなく、栄養学を総合的に実践するための資質・能力とはどのようなものかを包括的に学ぶ。									
①講義の目標	② 他学年・同学年との積極的な交流を取り入れ、豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につける。また、アクティブラーニング形式の授業を取り入れることで、問題発見・解決力、多様な社会・背景を理解し対応する能力、自律的に生涯にわたって学習する力を身につける。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. 管理栄養士として求められるチームワークを発揮できる 2. 管理栄養士として求められるリーダーシップを発揮できる 3. 管理栄養士として求められるコミュニケーションをとることができる 4. 適切な栄養管理を行うために食の多様性と他者の価値観を理解できる 5. 栄養の専門職として、自らのキャリアデザインを考え実行することの重要性を理解できる									
使用教材	資料、プリント									
参考文献	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 管理栄養士論 専門職として求められる 10 の基本的な資質・能力、NPO 法人日本栄養改善学会監修 医歯薬出版株式会社 ISBN 978-4-263-72028-8 2,700 円									
評価方法	授業参加度 50%、各担当教員が行う確認テスト・レポートなどの課題 50%									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業中に解説を行う									
オフィスアワー （研究室）	初回授業時に連絡する				メールアドレス （#→@）		初回授業時に連絡する			
1	講義内容	健康栄養学科の学位授与方針と到達度 DP 達成に向けた目標設定 自利利他活動の目標設定等								
	該当到達目標 1,3,4	予習	事前にシラバスを読み、DP の達成度を確認する						1.5 時間	
		復習	今期の自分自身の学位授与方針達成に向けたプランを作成する						1.5 時間	
2	講義内容	学年間交流 1 学科スポーツレクリエーション								
	該当到達目標 1,3	予習	交流のための企画 実施						1.5 時間	
		復習	実施後の評価 改善						1.5 時間	
3	講義内容	防災行動実習								

令和6年度 健康栄養学科シラバス

	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
4	講義内容	学年間交流 2 健康栄養学科のゼミ活動について 4年生との交流 1		
	該当到達目標 3,5	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
5	講義内容	学年間交流 3 健康栄養学科のゼミ活動について 4年生との交流 2		
	該当到達目標 3,5	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
6	講義内容	学年間交流 4 学科レクリエーション 1年生との交流		
	該当到達目標 1,2,3	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
7	講義内容	学年間交流 5 SDGsと管理栄養士活動 自己の活動の振り返り		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
8	講義内容	学年間交流 6 卒業研究発表会への参加		
	該当到達目標 4,5	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
9	講義内容	学年間交流 7 臨地実習Ⅰ・Ⅱ 報告会参加 1		
	該当到達目標 4,5	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
10	講義内容	学年間交流 8 臨地実習Ⅰ・Ⅱ 報告会参加 2		
	該当到達目標 4,5	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
11	講義内容	産学官連携授業 1		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
12	講義内容	産学官連携授業 2		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
13	講義内容	栄養学セミナー参加		
	該当到達目標 4,5	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
14	講義内容	自利利他学習 地域活動参加		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
15	講義内容	1年間の活動のまとめ 授業評価アンケート		
	該当到達目標 1,2,3,4,5	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインの場合:状況に応じ、講義内容、評価、試験方法は変更することがある。 講義内容、評価、試験の方法などは、授業開始時に文書で明示する。			

科目名		管理栄養士論Ⅲ(応用専門科目)						科目ナンバリング	HNA392			
英文名		Professional development as a registered dietitianⅢ						講義形態	演習			
担当教員		長井 祐子 他										
科目に関連した実務経験		学校栄養職員、栄養教諭として群馬県公立学校に勤務し、食教育に従事(経験)										
学年・開講期		3 年 通年		選必・単位数		必修 1 単位						
履修を必須とする資格												
学位授与方針との対応		2	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
			専門的知識				2	コミュニケーション能力				
		2	問題発見・解決力				2	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連		① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰										
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
		○			○	○	○	○		○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法												
実施概要		①栄養学の個別の知識・技術だけではなく、栄養学を総合的に実践するための資質・能力とはどのようなものかを包括的に学ぶ。										
①講義の目標		②他学年・同学年との積極的な交流を取り入れ、豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につける。										
②講義の実施方法		また、アクティブラーニング形式の授業を取り入れることで、問題発見・解決力、多様な社会・背景を理解し対応する能力、自律的に生涯にわたって学習する力を身につける。										
到達目標		1. 管理栄養士として求められるチームワークを発揮できる 2. 管理栄養士として求められるリーダーシップを発揮できる 3. 管理栄養士として求められるコミュニケーションをとることができる 4. 適切な栄養管理を行うために食の多様性と他者の価値観を理解できる■ 5. 栄養の専門職として、自らのキャリアデザインを考え実行することの重要性を理解できる■ 6. 管理栄養士養成の関連科目で修得した知識や技術を活用することができる■ 7. 自己課題を設定し、適切な取り組み策を考えることができる										
使用教材		担当教員作成の資料、プリント										
参考文献		管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 管理栄養士論 専門職として求められる 10 の基本的な資質・能力、NPO 法人日本栄養改善学会監修 医歯薬出版株式会社 ISBN 978-4-263-72028-8										
評価方法		授業への取り組み姿勢 50%、レポートなどの課題 50%										
課題・評価に対するフィードバック方法		提出物の返却時に解説を行う										
オフィスアワー(研究室)		月曜 4 限 (1 号館 3 階 316 研究室)				メールアドレス (#→@)		nagai-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	健康栄養学科の学位授与方針と到達度 DP 達成に向けた目標設定 管理栄養士に求められる自利利他の精神										
	該当到達目標	予習	事前にシラバスを読み、DP の達成度を確認する								1.5 時間	
	1,2,3,4,5,6,7	復習	今期の自分自身の学位授与方針達成に向けたプランを作成する								1.5 時間	
2	講義内容	学年間交流 1 学科スポーツレクリエーション										

	該当到達目標 1,2,3,4	予習	交流のための企画 実施	1.5 時間
		復習	実施後の評価 改善	1.5 時間
3	講義内容	学年間交流 2 臨地実習報告会1		
	該当到達目標 1,2,3,4	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
4	講義内容	学年間交流 3 臨地実習報告会2		
	該当到達目標 3,4,5	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
5	講義内容	学年間交流 4 臨地実習報告会3		
	該当到達目標 3,4,5	予習	実習内容をまとめてプレゼンテーションの準備する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
6	講義内容	学年間交流 5 臨地実習報告会4		
	該当到達目標 3,4,5	予習	実習内容をまとめてプレゼンテーションの準備をする	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
7	講義内容	学年間交流 6 栄養学教育セミナーの参加		
	該当到達目標 3,4,5	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
8	講義内容	学外交流 1 活躍する卒業生の講話 グループディスカッション		
	該当到達目標 3,4,5	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
9	講義内容	学外交流 2 栄養情報、食教育媒体の立案(グループ演習)■		
	該当到達目標 3,6,7	予習	効果的な情報提供の方法について調べる。	1.5 時間
		復習	各グループの課題を検討する。	1.5 時間
10	講義内容	学外交流 3 栄養情報、食教育媒体の検討1(グループ演習)■		
	該当到達目標 3,6,7	予習	各グループの課題を検討する。	1.5 時間
		復習	各グループの課題の関連事項について調べる。	1.5 時間
11	講義内容	学外交流 4 栄養情報、食教育媒体の検討2(グループ演習)■		
	該当到達目標 3,6,7	予習	各グループの課題を検討する。	1.5 時間
		復習	各グループの課題の関連事項について調べる。	1.5 時間
12	講義内容	学外交流 5 栄養情報、食教育媒体の作成1(グループ演習)■		
	該当到達目標 3,6,7	予習	各グループの課題を検討する。	1.5 時間
		復習	各グループの課題の関連事項について調べる。	1.5 時間
13	講義内容	学外交流 6 栄養情報、食教育媒体の作成2(グループ演習)■		
	該当到達目標 3,6,7	予習	各グループの課題を検討する。	1.5 時間
		復習	各グループの課題の関連事項について調べる。	1.5 時間
14	講義内容	学外交流 7 学年間交流 7 学祭での食教育の実施と卒業研究発表会への参加■		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6, 7	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
		復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
15	講義内容	健康栄養学科の学位授与方針と到達度 セルフ DP アセスメントチェックの実施		
	該当到達目標	予習	シラバス 履修ガイド 配布資料等に目を通す	1.5 時間

	1,2,3,4,5,6, 7	復習	実施した内容をまとめる	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修や課題の作成等で各自必要な学習時間を補完すること。 オンラインの場合：状況に応じ、講義内容、評価、試験方法は変更することがある。 講義内容、評価、試験の方法などは、授業開始時に文書で明示する。 ■：実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	管理栄養士論Ⅳ(応用専門科目)						科目ナンバリング	HNA393		
英文名	Professional development as a registered dietitianⅣ						講義形態	演習		
担当教員	竹内 真理 他									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 通年		選必・単位数	必修 1 単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	2	豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				2	コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				2	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	② ③ ④ ⑧									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○			○	○	○	○		○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 栄養学の個別の知識・技術だけではなく、栄養学を総合的に実践するための資質・能力とはどのようなものかを包括的に学ぶ。 ② 他学年・同学年との積極的な交流を取り入れ、豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につける。また、アクティブラーニング形式の授業を取り入れることで、問題発見・解決力、多様な社会・背景を理解し対応する能力、自律的に生涯にわたって学習する力を身につける。									
到達目標	1. 管理栄養士として求められるチームワークを発揮できる 2. 管理栄養士として求められるリーダーシップを発揮できる 3. 管理栄養士として求められるコミュニケーションをとることができる 4. 適切な栄養管理を行うために食の多様性と他者の価値観を理解できる 5. 栄養の専門職として、自らのキャリアデザインを考え実行することの重要性を理解できる									
使用教材	資料、プリント									
参考文献	管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 管理栄養士論 専門職として求められる 10 の基本的な資質・能力、NPO 法人日本栄養改善学会監修 医歯薬出版株式会社 ISBN 978-4-263-72028-8 2,700 円									
評価方法	授業参加度 50%、各担当教員が行う確認テスト・レポートなどの課題 50%									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出物の返却時に解説を行う									
オフィスアワー (研究室)	初回授業時に連絡する					メールアドレス (#→@)	初回授業時に連絡する			
1	講義内容	健康栄養学科の学位授与方針と到達度 DP 達成に向けた目標設定 管理栄養士に求められる自利利他の精神								
	該当到達目標	予習	事前にシラバスを読み、DP の達成度を確認する							1.5 時間
	1345	復習	今期の自分自身の学位授与方針達成に向けたプランを作成する							1.5 時間
2	講義内容	学年間交流 1 学科スポーツレクリエーション								
	該当到達目標	予習	交流のための企画 実施							1.5 時間
	1234	復習	実施後の評価 改善							1.5 時間

3	講義内容	学年間交流 2 ゼミのインターン1		
	該当到達目標	予習	ゼミ活動をまとめてプレゼンテーションの準備する	1.5 時間
	1234	復習	実施後の評価 改善	1.5 時間
4	講義内容	学年間交流 3 ゼミのインターン2		
	該当到達目標	予習	ゼミ活動をまとめてプレゼンテーションの準備する	1.5 時間
	12345	復習	実施後の評価 改善	1.5 時間
5	講義内容	学年間交流 4 1年生への栄養食事指導		
	該当到達目標	予習	栄養食事指導の準備	1.5 時間
	12345	復習	実施後の評価 改善	1.5 時間
6	講義内容	学年間交流 5 臨地実習Ⅲ報告会1		
	該当到達目標	予習	実習内容をまとめてプレゼンテーションの準備をする	1.5 時間
	12345	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
7	講義内容	学年間交流 6 臨地実習Ⅲ報告会2		
	該当到達目標	予習	実習内容をまとめてプレゼンテーションの準備をする	1.5 時間
	12345	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
8	講義内容	学年間交流 7 臨地実習Ⅰ・Ⅱ報告会1		
	該当到達目標	予習	実習内容をまとめてプレゼンテーションの準備をする	1.5 時間
	12345	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
9	講義内容	学年間交流 8 臨地実習Ⅰ・Ⅱ報告会2		
	該当到達目標	予習	実習内容をまとめてプレゼンテーションの準備をする	1.5 時間
	45	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
10	講義内容	栄養学教育セミナーの参加		
	該当到達目標	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
	12345	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
11	講義内容	学年間交流 9 SDGs と管理栄養士の活動		
	該当到達目標	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
	345	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
12	講義内容	学年間交流 10 卒業研究発表会への参加		
	該当到達目標	予習	資料に目を通し、質問事項を検討する	1.5 時間
	345	復習	得た知識をまとめる	1.5 時間
13	講義内容	健康栄養学科の学位授与方針と到達度 セルフ DP アセスメントチェックの実施		
	該当到達目標	予習	シラバス 履修ガイド 配布資料等に目を通す	1.5 時間
	1345	復習	実施した内容をまとめる	1.5 時間
14	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
15	講義内容			
	該当到達目標	予習		時間
		復習		時間
合計時間(予習・復習)				39 時間
備考	記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修や課題の作成等で各自必要な学習時間を補完すること。 オンラインの場合:状況に応じ、講義内容、評価、試験方法は変更することがある。			

	講義内容、評価、試験の方法などは、授業開始時に文書で明示する。

科目名	食物学特別講座Ⅰ（応用専門科目）							科目ナンバリング	HNA394	
英文名	Advanced Lecture on FoodⅠ							講義形態	講義	
担当教員	應本 真									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格	（専門）フードスペシャリスト									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	5	専門的知識					コミュニケーション能力			
	2	問題発見・解決力				1	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	2 3 4 9									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
									○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける									
実施概要	本講義では、食生活に関する見識を深め、フードスペシャリストとして要求される知識・技術および姿勢を修得することを目標とします。									
①講義の目標										
②講義の実施方法	講義では、主に教科書、資料の解説を行い、確認テストを実施します。									
到達目標	1. フードスペシャリストの仕事について説明できる 2. 人類の食物獲得の歴史を理解し、伝統的な食品加工・保存技術を説明できる 3. 世界の食作法や食事内容の多様性を理解する 4. 日本の食物史と食の地域差を理解する 5. 日本の食の状況や環境を理解し、「よりよい食生活の営み」の基本を説明できる 6. 食品産業の役割を説明できる 7. 食品の品質規格と表示を説明できる									
使用教材	「四訂フードスペシャリスト論第 5 版」(公社)日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 2019 ISBN 978-4-7679-0634-8									
参考文献	特に指定しませんが、関連の教科書や図書を調べてください。									
評価方法	授業課題(40%)、試験(60%)などで総合的に評価します。									
課題・評価に対するフィードバック方法	試験問題出題の意図について解説します。									
オフィスアワー (研究室)	随時 1 号館 4 階 402				メールアドレス (#→@)		oumoto#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス・フードスペシャリストとは								
	該当到達目標	予習	教科書第 1 章を読み予習を行う。シラバスの内容を確認する。						1 時間	
	1	復習	到達目標や成績評価方法、フードスペシャリストの責務を理解する。						2 時間	
2	講義内容	人類と食物								
	該当到達目標	予習	教科書第 2 章を読み予習を行う。						1 時間	
	2	復習	人類の歩みと食物との関わり、食品加工保存史を理解する。						2 時間	
3	講義内容	世界の食(食作法・食の禁忌と忌避)								
	該当到達目標	予習	教科書第 3 章を読み予習を行う。						1 時間	
	3	復習	世界の食作法や食事情を理解する。						2 時間	

4	講義内容	世界の食(世界各地の食事情)		
	該当到達目標 4	予習	教科書第 3 章を読み予習を行う。	1 時間
		復習	世界各地の食事情を理解する。	2 時間
5	講義内容	日本の食(食物史)		
	該当到達目標 4	予習	教科書第 4 章日本食物史を読み予習を行う。	1 時間
		復習	日本における食物史を理解する。	2 時間
6	講義内容	日本の食(食の地域差)		
	該当到達目標 5	予習	教科書第 4 章食の地域差を読み予習を行う。	1 時間
		復習	日本における食の地域差を理解する。	2 時間
7	講義内容	現代日本の食生活 1-2(戦後の食生活の変化、食生活の現状と消費生活)		
	該当到達目標 5,6	予習	教科書第 5 章 1-2 を読み予習を行う。	1 時間
		復習	現代の日本における食生活の現状を理解する。	2 時間
8	講義内容	現代日本の食生活 3-5(食生活の変化と食産業、食料の供給と食料自給率、環境と食)		
	該当到達目標 5,6	予習	教科書第 5 章 3-5 を読み予習を行う。	1 時間
		復習	食産業や食料供給、食と環境について理解する。	2 時間
9	講義内容	食品産業の役割		
	該当到達目標 5,6	予習	教科書第 6 章を読み予習を行う。	1 時間
		復習	フードシステムと食産業について理解する。	2 時間
10	講義内容	食品の品質規格		
	該当到達目標 7	予習	教科書第 7 章を読み予習を行う。	1 時間
		復習	食品の品質規格、関連の法律による表示を理解する。	2 時間
11	講義内容	食品の表示		
	該当到達目標 7	予習	教科書第 7 章を読み予習を行う。	1 時間
		復習	食品の品質表示、関連の法律による表示を理解する。	2 時間
12	講義内容	食情報と消費者保護		
	該当到達目標 5,7	予習	教科書第 8 章を読み予習を行う。	1 時間
		復習	食情報の利用、食品の安全、消費者保護について理解する。	2 時間
13	講義内容	認定試験対策講座 1		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6, 7	予習	認定試験の過去問に目を通す。	1 時間
		復習	出題傾向や要点を理解する。	2 時間
14	講義内容	認定試験対策講座 2		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6, 7	予習	認定試験の過去問に目を通す。	1 時間
		復習	出題傾向や要点を理解する。	2 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標 1,2,3,4,5,6, 7	予習	教科書及び配布プリントに目を通す。	1 時間
		復習	フードスペシャリスト論について理解する。	2 時間
合計時間(予習・復習) 45 時間				
備考	・ フードスペシャリストの認定試験受験資格を希望する学生は必ず本科目を受講してください。 ・ フードスペシャリストの資格は、フードスペシャリスト養成課程の必須科目を取得した後、(公社)フードスペシャリスト協会が実施する認定試験に合格し、本学科を卒業することで取得できます(別途、受験料と認定料が必要)。			

科目名	食物学特別講座Ⅱ（応用専門科目）						科目ナンバリング	HNA395		
英文名	Advanced Lecture on Food Ⅱ						講義形態	講義		
担当教員	阿部 雅子									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 後期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格	フードスペシャリスト									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	4	専門的知識				コミュニケーション能力				
	2	問題発見・解決力			2	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	2 3 4 8 9 10 12 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○	○				○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	課題に対して、コメントを付して返却する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 食に関する様々な場において、快適な食事を提供するために、料理・メニュー・食卓・食空間を含めた食のコーディネートができる知識と技術を修得することを目指す。 ② メニュープランニングと食事のマナー、食卓・食空間のコーディネートについてそれぞれ講義形式で学び、それらを踏まえて実践企画を行う。各講義は、教科書と教員が作成したプリントおよびパワーポイントを使用して、要点を説明していく。									
到達目標	1. フードコーディネートの基礎理念について説明できる。 2. 食事の文化について説明できる。 3. 食卓のコーディネートについて説明できる。 4. 食卓のマナー、サービスについて説明できる。 5. メニュープランニングについて説明できる。 6. 食空間のコーディネートについて説明できる。 7. フードサービスマネジメントについて説明できる。 8. 食企画のコーディネートができる。									
使用教材	日本フードスペシャリスト協会編『三訂フードコーディネート論』建帛社									
参考文献	和食文化国民会議監修『和食とは何か』思文閣出版									
評価方法	筆記試験 70% 課題 30%									
課題・評価に対するフィードバック方法	前年度までの過去問を中心に小テストを実施し、その後解答及び解説を行う。 課題(実践企画)に対するアドバイス、コメントを適宜行う。									
オフィスアワー (研究室)	授業開始前または授業終了後に応じる。 (1号館4階405研究室、調理学研究室)				メールアドレス (#→@)	abe-m#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	フードコーディネートの基本理念								
	該当到達目標	予習	テキスト第1章を読んでおく。						1 時間	
	1	復習	おいしさの本質やフードコーディネートの基本理念を理解する。						2 時間	
2	講義内容	食事の文化								
	該当到達目標	予習	テキスト第2章を読んでおく。						1 時間	

	2	復習	日本の食事の歴史や諸外国の食事の特徴を理解する。	2 時間
3	講義内容	食卓のコーディネート1 和食器の種類と取扱い		
	該当到達目標	予習	テキスト第3章 1, 2を読んでおく。	1 時間
	3	復習	和食器の種類や用途、扱い方、セッティングについて理解する。	2 時間
4	講義内容	食卓のコーディネート2 洋食器の種類と取扱い		
	該当到達目標	予習	テキスト第3章 3, 4を読んでおく。	1 時間
	3	復習	中国料理、西洋料理に適応した食器の種類や用途、扱い方、配置について理解する。	2 時間
5	講義内容	食卓のサービスとマナー1 日本料理のサービスとマナー		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章 1, 2を読んでおく。	1 時間
	4	復習	日本料理のサービス、マナーについて理解する。	2 時間
6	講義内容	食卓のサービスとマナー2 中国、西洋料理のサービスとマナー、パーティ		
	該当到達目標	予習	テキスト第4章 3, 4, 5を読んでおく。	1 時間
	4	復習	中国料理、西洋料理のサービスとマナーについて理解する。 パーティの種類とパーティープランニングの基本項目を理解する。	2 時間
7	講義内容	メニュープランニング		
	該当到達目標	予習	テキスト第5章を読んでおく。	1 時間
	5	復習	メニューの料理様式や型の基本を理解し、様々なニーズに応じたメニュープランニングについて理解する。	2 時間
8	講義内容	食空間のコーディネート1 食空間コーディネートの基礎		
	該当到達目標	予習	テキスト第6章 1, 2を読んでおく。	1 時間
	6	復習	食空間のレイアウトやインテリア、設備の基本について理解する。	2 時間
9	講義内容	食空間のコーディネート2 食事空間、キッチンのコーディネート		
	該当到達目標	予習	テキスト第6章 2, 3を読んでおく。	1 時間
	6	復習	食事空間、キッチンのレイアウトや設備の基本について理解する。	2 時間
10	講義内容	フードサービスマネジメント1 フードサービスビジネスの動向と特性、マネジメントの基本		
	該当到達目標	予習	テキスト第7章 1～3を読んでおく。	1 時間
	7	復習	フードサービスビジネスの動向と特性、マネジメントの基本について理解する。	2 時間
11	講義内容	フードサービスマネジメント2 フードサービスの起業、投資計画・収支計画		
	該当到達目標	予習	テキスト第7章 4～6を読んでおく。	1 時間
	7	復習	レストランの起業に向けた投資計画、収支計画について理解する。	2 時間
12	講義内容	食企画の実践コーディネート1 食企画の流れ		
	該当到達目標	予習	テキスト第8章 1を読んでおく。	1 時間
	8	復習	食企画の流れについて理解する。 依頼者の業種や業態、コーディネーターの役割について理解する。	2 時間
13	講義内容	フードスペシャリスト資格認定試験対策		
	該当到達目標	予習	第1章から第8章までの復習をしておく。	1 時間
	1,2,3,4,5,6,7,8	復習	前年度までの試験問題を解いてみた反省を踏まえて、苦手な部分を確認する。	2 時間
14	講義内容	食企画の実践コーディネート2 食企画に必要なスキル		
	該当到達目標	予習	テキスト第8章 2を読んでおく。	1 時間
	8	復習	食企画に必要なスキルについて理解する。	2 時間

15	講義内容	食企画の実践コーディネート 3 食企画の作成		
	該当到達目標 8	予習	テキスト第 8 章 3 を読み、食企画の立案をイメージしておく。	1 時間
		復習	実践的な食企画を立案し、期日までに提出する。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインまたはオンデマンドで実施の場合は、毎回出席確認を兼ねたアンケートまたは小テストを実施する。 【フードスペシャリストについて】 1. フードスペシャリスト養成課程の必須科目を取得した後、認定試験を受験し、合格することで取得することができる。 2. 認定試験に合格しても、卒業しなければ資格証は取得できない。 3. 認定試験の受験と認定証の発行(卒業時)には、別途、受験料と認定料が必要となる。			

科目名	NR・サプリメントアドバイザー（応用専門科目）						科目ナンバリング	HNA396		
英文名	Nutritional Representative・ Supplement Adviser						講義形態	講義		
担当教員	佐藤 清香									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格	NR・サプリメントアドバイザー									
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	4	専門的知識					コミュニケーション能力			
		問題発見・解決力				4	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
						○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	① 対象者・対象集団の栄養状態を評価し、保健機能食品およびサプリメントについて適切にアドバイスを行うための専門的知識を習得する。									
①講義の目標	② 各テーマの解説をきき、その上で、習得程度を小テスト、ドリルで確認する。									
②講義の実施方法										
到達目標	1. NR・サプリメントアドバイザーに必要な専門的知識を理解し、説明することができる。 2. NR・サプリメントアドバイザー認定試験を受験するために必要な規定単位を取得する。									
使用教材	定期試験で評価する。定期試験での得点率 6 割以上を合格とする。									
参考文献	教科書「NR・サプリメントアドバイザー必携」日本臨床栄養協会編（第一出版株式会社） 講義に関する資料を適宜プリントして配布する。									
評価方法	定期試験で評価する。定期試験での得点率 6 割以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	小テストを毎回返却し、必要に応じて解説する。									
オフィスアワー（研究室）	火曜 5 限				メールアドレス （#→@）		最初の授業日にお知らせします			
1	講義内容	『NR・サプリメントアドバイザー』の役割と倫理、認定試験の概要								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所をよく読み、理解する。						1.5 時間	
	1,2	復習	教科書の該当箇所をよく読み、復習する。演習用シートの課題、小テストの問題に取り組む。						1.5 時間	
2	講義内容	基礎の生理学①								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所をよく読み、理解する。						1.5 時間	
	1,2	復習	教科書の該当箇所をよく読み、復習する。演習用シートの課題、小テストの問題に取り組む。						1.5 時間	
3	講義内容	基礎の生理学②								
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所をよく読み、理解する。						1.5 時間	
	1,2	復習	教科書の該当箇所をよく読み、復習する。演習用シートの課題、小テストの問題に取り組む。						1.5 時間	
4	講義内容	基礎の生化学①								

	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所をよく読み、理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所をよく読み、復習する。演習用シートの課題、小テストの問題に取り組む。	1.5 時間
5	講義内容	基礎の生化学②		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所をよく読み、理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所をよく読み、復習する。演習用シートの課題、小テストの問題に取り組む。	1.5 時間
6	講義内容	人間栄養学①		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所をよく読み、理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所をよく読み、復習する。演習用シートの課題、小テストの問題に取り組む。	1.5 時間
7	講義内容	人間栄養学②		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所をよく読み、理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所をよく読み、復習する。演習用シートの課題、小テストの問題に取り組む。	1.5 時間
8	講義内容	生活習慣病概論①		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所をよく読み、理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所をよく読み、復習する。演習用シートの課題、小テストの問題に取り組む。	1.5 時間
9	講義内容	生活習慣病概論②		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所をよく読み、理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所をよく読み、復習する。演習用シートの課題、小テストの問題に取り組む。	1.5 時間
10	講義内容	臨床栄養		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所をよく読み、理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所をよく読み、復習する。演習用シートの課題、小テストの問題に取り組む。	1.5 時間
11	講義内容	臨床検査と身体活動と栄養①		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所をよく読み、理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所をよく読み、復習する。演習用シートの課題、小テストの問題に取り組む。	1.5 時間
12	講義内容	臨床検査と身体活動と栄養②		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所をよく読み、理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所をよく読み、復習する。演習用シートの課題、小テストの問題に取り組む。	1.5 時間
13	講義内容	食品安全衛生学①		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所をよく読み、理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所をよく読み、復習する。演習用シートの課題、小テストの問題に取り組む。	1.5 時間
14	講義内容	食品安全衛生学②		
	該当到達目標	予習	教科書の該当箇所をよく読み、理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教科書の該当箇所をよく読み、復習する。演習用シートの課題、小テストの問題に取り組む。	1.5 時間

15	講義内容	演習用問題集の総復習			
	該当到達目標 1,2	予習	教科書、演習シートを見直す。正答できるまで、演習問題に繰り返し、取り組む。	1.5 時間	
		復習	演習問題のうち誤った問題の関連事項を調べ、正答できるまで繰り返し問題を解く。	1.5 時間	
合計時間(予習・復習)					45 時間
備考	授業の実施方法の通知や課題提出等は、C-learning システムを用いて行う				

科目名	チーム医療アプローチ演習(応用専門科目)						科目ナンバリング	HNA397		
英文名	Interprofessional Practice						講義形態	演習		
担当教員	渡邊秀臣(理学)、小池洋子(看護)、篠原智行(理学)、大林恭子・高橋雄太(薬学)、木村憲洋(情報)、竹内真理(栄養)、加藤大輔(社会福祉)、内田祥子(子ども教育)									
科目に関連した実務経験	渡邊秀臣(理学): 非常勤医師(整形外科医)として病院に勤務 小池(看護): 看護師として一般病院に勤務(経験) 篠原(理学): 理学療法士として急性期、回復期病院に勤務(経験)。生活期病院に非常勤勤務。 大林(薬学): 薬剤師として大学病院に勤務(経験)大学病院に非常勤勤務。 高橋雄太(薬学): 薬剤師として大学病院に勤務(経験)、調剤薬局に非常勤勤務。 木村(情報): 病院経営企画及び診療情報管理にて病院に勤務(経験) 竹内(栄養): 管理栄養士として国立病院機構に勤務(経験)。健大附属クリニック管理栄養士兼務。 加藤(社会福祉): MSWとしてケアミックス病院に勤務(経験) 内田(子ども教育): 保育者養成校での学外実習の指導(経験)									
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	3	専門的知識			2	コミュニケーション能力				
	2	問題発見・解決力				自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	34816									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○			○	○	○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	チーム医療が必要な事例を用いて、福祉・医療系の各専門職の役割・活動および患者、家族に必要な福祉・医療活動について検討する。さらにチーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性、および専門職の連携の課題について学ぶ。									
到達目標	1. 多職種間での情報伝達・共有の必要性を理解し、効果的な情報伝達・共有方法について考えを述べる。■ 2. 各専門職の役割と活動について理解し、多職種が連携・協働することの意義を述べる。■ 3. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の連携・協働の必要性を説明できる。■ 4. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題を考察できる。									
使用教材	関連する資料を随時配布する。									
参考文献	指定なし。									
評価方法	1～4回の振り返りシートの記述内容、演習参加への積極性・授業態度 40%、5・6回の模擬症例検討内容等 20%、7・8回の演習参加への積極性・授業態度および発表内容・発表態度 20%、授業後レポート 20% (対面授業・オンライン授業共通)									
課題・評価に対するフィードバック方法	模擬症例検討を行う際には、グループごとに結果をまとめて発表させ、それに対して教員と他チームの学生による検討を行いフィードバックする。									
オフィスアワー (研究室)	渡邊(理学): 金曜 3 限、4 号館 2 階学部 長室 小池(看護): 月曜 4 限、5 号館 412 研 究室 篠原(理学): 水曜 3 限、3 号館 206 研 究室				メールアドレス (#→@)		渡邊(理学): watanabe-h#takasaki- u.ac.jp 小池(看護): koike-y#takasaki- u.ac.jp 篠原(理学): shinohara-t#takasaki- u.ac.jp			

		大林(薬学):月曜1限、7号館307研究室 高橋(薬学):水曜2限、7号館323研究室 木村(情報):月曜1限7号館610研究室 竹内(栄養):木曜2限、1号館308研究室 加藤(社会福祉):木曜2限、1号館513研究室 内田(子ども教育):月曜1限、8号館410研究室		大林(薬学):obayashi#takasaki-u.ac.jp 高橋(薬学):takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp 木村(情報):norihito#takasaki-u.ac.jp 竹内(栄養):mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp 加藤(社会福祉):kato-d#takasaki-u.ac.jp 内田(子ども教育):uchida-s#takasaki-u.ac.jp
1	講義内容	ガイダンス / チーム医療アプローチについて		
	該当到達目標	予習	チーム医療について調べておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	演習の目標や進め方、提出物を確認する。	1.5 時間
2	講義内容	効果的な情報伝達と共有■		
	該当到達目標	予習	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	情報伝達と共有方法の工夫を整理する。	1.5 時間
3	講義内容	多職種連携教育の国内外の動向■		
	該当到達目標	予習	多職種連携について調べておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	多職種連携教育の動向について整理する。	1.5 時間
4	講義内容	チームカンファレンスの目的と方法■		
	該当到達目標	予習	各専門職の役割について調べておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	チームカンファレンスの目的・方法を整理する。	1.5 時間
5	講義内容	模擬症例検討①(模擬症例に対する自職種の役割、アプローチについて)【各学科】		
	該当到達目標	予習	疾病と治療について学習し、自職種の関わり方をまとめる	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを整理する。	1.5 時間
6	講義内容	模擬症例検討②(模擬症例に対する自職種の役割、アプローチについて)【各学科】		
	該当到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを整理する。	1.5 時間
7	講義内容	模擬症例検討③(模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチについて)*グループワーク■【合同】		
	該当到達目標	予習	模擬症例への自職種の役割、アプローチを他職種に説明する方法について準備しておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 時間
8	講義内容	模擬症例検討④(模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチについて)*グループワーク発表■【合同】		
	該当到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	【履修条件】原則、チーム医療アプローチ論を履修していること。			
	【授業期間全体を通じた授業の進め方】			
	1 回目の講義は、テーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。			
	2～8 回目の講義は、グループワークの形式で進める。			
	オンライン授業になった際は、ZOOM を使い可能な限りグループワークを行うが、状況に応じてその都度指示する。			
	【副専攻対象科目】本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム「多職種連携コース」の対象科目である。			
	副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定(N)」となり、GPA の算出や卒業必要対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する、また、履修登録時に CAP のカウントには含めない。			
	【キーワード】専門職、チーム医療、多職種連携			

	■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	特別講座Ⅰ（卒業研究）						科目ナンバリング	HNT411		
英文名	Advanced LectureⅠ						講義形態	講義		
担当教員	学科全教員									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3年 前期		選必・単位数	必修 1単位						
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	2	専門的知識			1	コミュニケーション能力				
	2	問題発見・解決力			2	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGsとの関連	②③④⑥⑫⑮									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 研究室配属にむけ、各ゼミで行われている卒業研究に関して各自の興味や関心のあるテーマについて学びを深め、研究を行う上で必要な倫理観、法令等で定められている遺伝子組み換え実験、動物実験などの理解を深める。 ② 講義に関する資料や教科書などを解説しながら講義を進め、講義中に予習・復習の確認のテスト等を実施することがある。研究室紹介ではグループワークを行い、それに関する意見、質問を講義出席者に求めることがある。									
到達目標	1. 研究の魅力や社会的意義について説明できる。 2. 各ゼミで行われている研究内容の要点を説明できる。 3. 研究を行う上で必要な倫理観、遺伝子組み換え実験、動物実験の要点を説明できる。									
使用教材	適宜プリントを配布する。									
参考文献										
評価方法	講義への参加度 50%、レポート 50%									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートにはコメントを付けて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	各教員に各自で確認すること				メールアドレス (#→@)	各教員に各自で確認すること				
1	講義内容	オリエンテーション								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義目標や到達目標などを理解する。						1.5	時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを理解する。						1.5	時間
2	講義内容	卒業研究とは、なぜ研究をするのか								
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、概要を理解する。						1.5	時間
	1	復習	講義内容を整理し、課題を行う。						1.5	時間
3	講義内容	遺伝子組み換え実験								
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、概要を理解する。						1.5	時間
	3	復習	講義内容を整理し、課題を行う。						1.5	時間
4	講義内容	動物実験								
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、概要を理解する。						1.5	時間
	3	復習	講義内容を整理し、課題を行う。						1.5	時間

	講義内容	研究倫理			
5	該当到達目標 3	予習	配布資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
		復習	講義内容を整理し、課題を行う。	1.5	時間
6	該当到達目標 3	予習	配布資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
		復習	講義内容を整理し、課題を行う。	1.5	時間
7	該当到達目標 2	研究室ゼミ紹介 1			
		予習	配布資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
		復習	講義内容を整理し、課題を行う。	1.5	時間
		研究室ゼミ紹介 2			
8	該当到達目標 2	予習	配布資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
		復習	講義内容を整理し、課題を行う。	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				24	時間
備考					

科目名	特別講座Ⅱ（食品科学系）（卒業研究）						科目ナンバリング	HNT421		
英文名	Advanced Lecture Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員	村松 芳多子、應本 真、阿部 雅子、高梨 美穂、森下 雄太									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理			2	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	1	専門的知識			1	コミュニケーション能力				
	3	問題発見・解決力			2	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	2 3 4 6 9 12									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○	○	○	○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 食品科学の各分野に関する専門的な知識を横断的に学び、合同セミナー（研究紹介）を通じて各研究分野への理解を深め、疑問点や課題点を見つけ、解決する力を養う。 ② 前半はオムニバス形式で担当教員が講義を行い、必要に応じてパワーポイントで資料を図示する。後半の文献抄読は、ゼミごとに卒業研究に関連した文献について発表し、質疑応答する形式で進める。さらにオンライン講座（gacco 等）を利用し統計学の基礎等を学び、卒業研究論文の図表作成と結果の根拠等に役立てる（予習・復習に使用）。									
到達目標	1. 各分野の専門的な知識を横断的に吸収することができる 2. 研究に関するディスカッション能力を身につけることができる 3. 卒業研究に反映することができる									
使用教材	必要に応じて、各指導教員が準備した資料またはオンライン講座（gacco 等）を用いる。									
参考文献	オンライン講座：統計学等									
評価方法	議論への参加度 50%、研究紹介 50%、授業への参加度で 10%までの加点あり									
課題・評価に対するフィードバック方法	講義の中で説明する									
オフィスアワー（研究室）	指導教員に各自で確認すること				メールアドレス（#→@）	指導教員に各自で確認すること				
1	講義内容	オリエンテーション、文献検索（科学的根拠と情報の取扱い）、オンライン講座（gacco）利用方法と活用								
	該当到達目標	予習	卒業研究に関連した論文を講読する					1 時間		
	1,2,3	復習	関連する既習事項を確認する					1 時間		
2	講義内容	食品中に含まれる機能性成分の解析 1								
	該当到達目標	予習	卒業研究に関連した論文を講読する					1 時間		
	1,2,3	復習	関連する既習事項を確認する					1 時間		
3	講義内容	食品中に含まれる機能性成分の解析 2								
	該当到達目標	予習	卒業研究に関連した論文を講読する					1 時間		
	1,2,3	復習	関連する既習事項を確認する					1 時間		
4	講義内容	食品の嗜好性の主観的・客観的評価 1								
	該当到達目標	予習	卒業研究に関連した論文を講読する					1 時間		

	1,2,3	復習	関連する既習事項を確認する	1 時間
5	講義内容	食品の嗜好性の主観的・客観的評価 2		
	該当到達目標	予習	卒業研究に関連した論文を講読する	1 時間
	1,2,3	復習	関連する既習事項を確認する	1 時間
6	講義内容	微生物学の最近話題、食品への応用と衛生管理		
	該当到達目標	予習	卒業研究に関連した論文を講読する	1 時間
	1,2,3	復習	関連する既習事項を確認する	1 時間
7	講義内容	微生物の単離と同定 (DNA 解析を含む)		
	該当到達目標	予習	卒業研究に関連した論文を講読する	1 時間
	1,2,3	復習	関連する既習事項を確認する	1 時間
8	講義内容	商品開発と原価管理、食の情報発信と食育		
	該当到達目標	予習	卒業研究に関連した論文を講読する	1 時間
	1,2,3	復習	関連する既習事項を確認する	1 時間
9	講義内容	文献収集と、文献抄読(発表を含む) 1		
	該当到達目標	予習	卒業研究に関連した論文を講読する	1 時間
	1,2,3	復習	関連する既習事項を確認する	1 時間
10	講義内容	文献収集と、文献抄読(発表を含む) 2		
	該当到達目標	予習	卒業研究に関連した論文を講読する	1 時間
	1,2,3	復習	関連する既習事項を確認する	1 時間
11	講義内容	文献収集と、文献抄読(発表を含む) 3		
	該当到達目標	予習	卒業研究に関連した論文を講読する	1 時間
	1,2,3	復習	関連する既習事項を確認する	1 時間
12	講義内容	文献収集と、文献抄読(発表を含む) 4		
	該当到達目標	予習	卒業研究に関連した論文を講読する	1 時間
	1,2,3	復習	関連する既習事項を確認する	1 時間
13	講義内容	文献収集と、文献抄読(発表を含む) 5		
	該当到達目標	予習	卒業研究に関連した論文を講読する	1 時間
	1,2,3	復習	関連する既習事項を確認する	1 時間
14	講義内容	文献収集と、文献抄読(発表を含む) 6		
	該当到達目標	予習	卒業研究に関連した論文を講読する	1 時間
	1,2,3	復習	関連する既習事項を確認する	1 時間
15	講義内容	まとめ(情報収集とその公開、研究活動とその成果報告の意義)		
	該当到達目標	予習	卒業研究に関連した論文を講読する	1 時間
	1,2,3	復習	関連する既習事項を確認する	1 時間
合計時間(予習・復習)				30 時間
備考	◎オープンな教育リソースの活用(村松・阿部・森下) ◎相談・質問がある場合は予めアポイントメントを取る。 ※状況によりオンラインになった場合は別途メール等で連絡する。			

科目名	卒業研究(食品科学系)(卒業研究)						科目ナンバリング	HNT422		
英文名	Undergraduate Thesis						講義形態	演習		
担当教員	村松 芳多子、應本 真、阿部 雅子、高梨 美穂、森下 雄太									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 通年		選必・単位数		必修 4 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	1	専門的知識				1	コミュニケーション能力			
	3	問題発見・解決力				3	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	2346912									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○	○	○	○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①管理栄養士養成の教育課程の中で修得した基礎的・専門的知識を用いて、健康・栄養に関わる様々な課題に対して、自らその課題を解決するための計画を立て、実験・調査を行い、論理的思考および手法によって総合的に判断する力を習得することを目標とする。 また、多領域分野の関係者との対話を通して、管理栄養士に求められるコミュニケーション能力、表現力、社会への対応力等を向上させ、生涯にわたって自律的に学習しようという意欲の向上と、豊かな人間性を養うことを目標とする。 ②各教員の指導の下、特定のテーマの研究(調査・実験など)を行い、企画・データ収集・整理・討論・発表・卒業論文を作成する。 オンライン講座(gacco 等)を利用し統計学の基礎等を学び、卒業研究論文の図表作成と結果の根拠等に役立てる(予習・復習に使用)。									
到達目標	1. 研究計画を立てることができる 2. 自ら意欲的に実験・調査を実施することができる 3. 論理的思考や手法を用いて総合的に判断することができる 4. 多領域分野との対話を通して、課題解決に取り組むことができる 5. 得られた結果を適切な手法(口頭や論文による発表など)を用いて表現することができる 6. 生涯にわたって自律的に学習しようという意欲を獲得することができる									
使用教材	必要に応じて、各指導教員が準備した資料またはオンライン講座(gacco 等)を用いる。									
参考文献	オンライン講座:統計学等									
評価方法	研究貢献度、論文内容、研究発表、論文の提出、試問結果により、各指導教員が評価する									
課題・評価に対するフィードバック方法	ゼミによるディスカッション時のコメントおよび課題提出物はコメントとともに返却									
オフィスアワー (研究室)	指導教員に各自で確認すること				メールアドレス (#→@)		指導教員に各自で確認すること			

講義内容 (該当到達目標: 1, 2, 3, 4, 5, 6)	第1回 ゼミの全体計画 オリエンテーション(卒業研究をはじめるにあたり留意事項等) 第2回 卒業論文の構成 第3回 テーマの検索 文献の探し方 第4～5回 文献調査 文献調査の発表 テーマ検討 第6回 テーマの決定 第7～8回 研究計画の作成 第9～10回 研究準備 第11～22回 研究の実施 データの解釈 統計の方法 文献調査継続 第23～28回 論文の書き方 まとめ方 論文の作成 第29～30回 研究発表の準備および成果発表 まとめ ◎ 卒業研究論文作成にあたり、オンライン講座(gacco)を活用し統計学の基礎等を学ぶ ※各指導教員の研究テーマは以下のとおり (講義内容の進行は、各指導教員による) 1.食品(食べ物)と微生物に関する研究と、食事の総合評価に関する研究 2.食品と調理に関する研究、食育・食文化に関する調査研究 3.食品の味の受容・認識に関わる分子機構の解析 4.健康な食事に関する研究、大量調理に関する研究 5.食品加工と保蔵に伴う機能性成分量の解析および分析手法に関する研究		
	予習	研究分野関連の文献検索、データ収集、データ整理を行う	毎1 時間
	復習	研究分野関連の文献検索、データ収集、データ整理を行う	毎2 時間
	合計時間(予習・復習)		90 時間
備考	◎オープンな教育リソースの活用(村松・阿部・森下) オンラインで授業を実施する際の変更点:実施方法は、各指導教員より指示する		

科目名		特別講座Ⅱ（栄養科学系）（卒業研究）						科目ナンバリング	HNT431		
英文名		Advanced Lecture Ⅱ						講義形態	演習		
担当教員		下川 哲昭、岡村 信一、田中 進、河原田 律子、内田 薫、久保田 知里									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		3 年 後期		選必・単位数		必修 1 単位					
履修を必須とする資格											
学位授与方針との対応		2	豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		2	専門的知識				1	コミュニケーション能力			
		2	問題発見・解決力				2	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連		③ ④									
アクティブラーニング実施方法		PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
					○	○	○	○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 栄養科学の各分野に関する専門的な知識を横断的に学び、合同セミナー（研究紹介）を通して各研究分野の理解を深め、疑問点や課題点を見つけ、解決する力を養う。 ② 講義に関する資料や教科書などを解説しながら講義を進め、講義中に予習・復習の確認のテスト等を実施することがある。合同セミナーでは、グループワーク、プレゼンテーションを行い、それに関する意見、質問を講義出席者に求めることがある。									
到達目標		1. 各分野の専門的な知識を横断的に吸収することができる。 2. 各分野の研究内容に関して、活発にディスカッションする能力を養うことができる。 3. 本講義で学んだ内容を、卒業研究に反映することができる。									
使用教材		適宜プリントを配布する。									
参考文献											
評価方法		講義への参加度 50%、レポート 50%									
課題・評価に対するフィードバック方法		レポートにはコメントを付けて返却する。									
オフィスアワー （研究室）		下川：月 4 限（1 号館 3 階 311） 岡村：金 5 限（1 号館 4 階 403） 田中：火 4 限（1 号館 4 階 401） 河原田：金 4 限（1 号館 4 階 臨床栄養研究室） 内田：月 5 限・金 5 限（6 号館 1 階 分子栄養学研究室） 久保田：木 1 限（1 号館 3 階 316）				メールアドレス （#→@）		下川：shimokawa-n#takasaki-u.ac.jp 岡村：okamura#takasaki-u.ac.jp 田中：tanaka#takasaki-u.ac.jp 河原田：nasu#takasaki-u.ac.jp 内田：uchida-k#takasaki-u.ac.jp 久保田：kubota-c#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション、卒業研究とは									
	該当到達目標 1	予習	シラバスの内容を読んで、講義目標や到達目標などを理解する。							1.5 時間	
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを理解する。							1.5 時間	
2	講義内容	栄養生理学分野の研究紹介									
	該当到達目標 1,2,3	予習	配布資料を読み、概要を理解する。							1.5 時間	
		復習	講義内容を整理し、課題を行う。							1.5 時間	
3	講義内容	健康栄養学分野の研究紹介									

令和6年度 健康栄養学科シラバス

	該当到達目標 1,2,3	予習	配布資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	講義内容を整理し、課題を行う。	1.5 時間
4	講義内容	栄養生化学分野の研究紹介		
	該当到達目標 1,2,3	予習	配布資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	講義内容を整理し、課題を行う。	1.5 時間
5	講義内容	応用栄養学分野の研究紹介		
	該当到達目標 1,2,3	予習	配布資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	講義内容を整理し、課題を行う。	1.5 時間
6	講義内容	臨床栄養学分野の研究紹介		
	該当到達目標 1,2,3	予習	配布資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	講義内容を整理し、課題を行う。	1.5 時間
7	講義内容	栄養生命科学分野の研究紹介		
	該当到達目標 1,2,3	予習	配布資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	講義内容を整理し、課題を行う。	1.5 時間
8	講義内容	細胞生物学分野の研究紹介		
	該当到達目標 1,2,3	予習	配布資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
		復習	講義内容を整理し、課題を行う。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	相談・質問がある場合はあらかじめアポイントメントを取ること。			

科目名	卒業研究(栄養科学系)(卒業研究)						科目ナンバリング	HNT432		
英文名	Undergraduate Thesis						講義形態	演習		
担当教員	下川 哲昭、岡村 信一、田中 進、河原田 律子、内田 薫、久保田 知里									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 通年		選必・単位数		必修 4 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応	1	豊かな人間性と職業倫理				1	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	2	専門的知識				1	コミュニケーション能力			
	3	問題発見・解決力				2	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	③ ④									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 管理栄養士養成の教育課程の中で修得した基礎的・専門的知識を用いて、健康・栄養に関わる様々な課題に対して、自らその課題を解決するための計画を立て、実験・調査を行い、論理的思考および手法によって総合的に判断する力を習得することを目標とする。また、多領域分野の関係者との対話を通して、管理栄養士に求められるコミュニケーション能力、表現力、社会への対応力等を向上させ、生涯にわたって自律的に学習しようという意欲の向上と、豊かな人間性を養うことを目標とする。 ② 各教員の指導の下、特定のテーマの研究(調査・実験など)を行い、企画・データ収集・整理・討論・発表・卒業論文を作成する。									
到達目標	1. 研究計画を立てることができる。 2. 自ら意欲的に実験・調査を実施することができる。 3. 論理的思考や手法を用いて総合的に判断することができる。 4. 多領域分野との対話を通して、課題解決に取り組むことができる。 5. 得られた結果を適切な手法(口頭や論文による発表など)を用いて表現することができる。 6. 生涯にわたって自律的に学習しようという意欲を獲得することができる。									
使用教材	必要に応じて、各指導教員が準備した資料等を用いる									
参考文献										
評価方法	研究貢献度、論文内容、研究発表、論文の提出、試問結果により、各指導教員が評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	ゼミによるディスカッション時のコメントおよび課題提出物はコメントとともに返却									
オフィスアワー (研究室)	指導教員に各自で確認すること				メールアドレス (#→@)		指導教員に各自で確認すること			
講義内容 該当到達目標 1,2,3,4,5,6	第 1 回 ゼミの全体計画 オリエンテーション(卒業研究をはじめるにあたり留意事項等) 第 2 回 卒業論文の構成 第 3 回 テーマの検索 文献の探し方 第 4～5 回 文献調査 文献調査の発表 テーマ検討 第 6 回 テーマの決定 第 7～8 回 研究計画の作成 第 9～10 回 研究準備 第 11～22 回 研究の実施 データの解釈 統計の方法 文献調査継続 第 23～28 回 論文の書き方 まとめ方 論文の作成 第 29～30 回 研究発表の準備および成果発表 まとめ									

	※各指導教員の研究テーマは以下のとおり(講義内容の進行は、各指導教員による)。		
	1. 食物成分による疾病の予防・治療 2. 母性行動に対するドパミン・PRL 系の解析、脂肪蓄積抑制因子の機能解析 3. 細胞の高次機能に対する微量栄養素の影響解析 4. 糖尿病モデル動物や細胞を用いた分子栄養学的研究 5. 流産予防に向けた食品成分に関する研究 6. 鉄によって引き起こされる細胞死機構の解析、糖尿病自己抗原タンパク質の機能解析		
	予習	研究分野関連の文献検索、データ収集、データ整理を行う	毎 1 時間
	復習	研究分野関連の文献検索、データ収集、データ整理を行う	毎 2 時間
合計時間(予習・復習)			90 時間
備考	オンラインで授業を実施する際の変更点:実施方法は、各指導教員より指示する		

科目名	特別講座Ⅱ（人間栄養学系）（卒業研究）							科目ナンバリング	HNT441	
英文名	Advanced Lecture Ⅱ							講義形態	演習	
担当教員	木村 典代、五十嵐 美絵、深見 匡、大家 千枝子、竹内 真理、佐藤 清香、長井 祐子、井上 瞳									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	3 年 後期	選必・単位数	必修 1 単位							
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				2	コミュニケーション能力			
	3	問題発見・解決力				3	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑨ ⑪ ⑫ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL （課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○			○	○	○				
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要	① ヒトを対象とした栄養学の調査・研究に関する専門的な知識を修得し、合同セミナー（研究紹介）を通して各研究分野の理解を深める。									
①講義の目標										
②講義の実施方法	② 授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートの提出などを行う。									
到達目標	1. 人間栄養学研究の種類や研究の進め方を理解する。 2. 研究内容を活発にディスカッションできる能力を身につける。 3. 研究成果を論理的に説明できるプレゼンテーション能力を身につける。 4. 各分野の専門的な知識を理解し、要点をまとめることができる。									
使用教材	適宜プリントを配布する。									
参考文献										
評価方法	課題レポート 20%、グループディスカッション 30%、発表の取り組み（発表要旨のまとめ方、説明内容、発表態度等）50% 総合評価 60%以上を合格とする。									
課題・評価に対するフィードバック方法	提出したレポートにはコメントを付けて返却する。									
オフィスアワー（研究室）	指導教員に各自で確認すること					メールアドレス（#→@）	指導教員に各自で確認すること			
1	講義内容	研究の方法（1） 今後のスケジュール・評価方法の説明								
	該当到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する。						0.5	時間
	1	復習	卒業研究の基礎的事項について整理し、指示された課題に取り組む。						0.5	時間
2	講義内容	研究の方法（2） 学術論文を読む								
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、概要を理解する。						0.5	時間
	1	復習	講義内容を整理し、先行研究・文献・資料・調査などについて整理する。						0.5	時間
3	講義内容	レポートのまとめ								
	該当到達目標	予習	配布資料を読み、概要を理解する。						0.5	時間
	1	復習	授業内容を整理し、栄養疫学に関する理解を深める						0.5	時間
4	講義内容	レポートの発表（1）								
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションに必要な資料を作成し、説明内容をまとめる。						1.5	時間

令和6年度 健康栄養学科シラバス

	2,3	復習	指摘されたことを整理する	0.5 時間
5	講義内容	レポートの発表(2)		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションに必要な資料を作成し、説明内容をまとめる。	1.5 時間
	2,3	復習	指摘されたことを整理する	0.5 時間
6	講義内容	レポートの発表(3)		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションに必要な資料を作成し、説明内容をまとめる。	1.5 時間
	2,3	復習	指摘されたことを整理する	0.5 時間
7	講義内容	人間の健康をめぐる諸問題に関する実態調査と要因分析		
	該当到達目標	予習	公衆衛生学分野についての知識の整理	0.5 時間
	1,2,4	復習	学修内容のまとめ	0.5 時間
8	講義内容	スポーツ栄養・食育に関する研究、競技選手の栄養サポート		
	該当到達目標	予習	スポーツ栄養学分野についての知識の整理	0.5 時間
	1,2,4	復習	学修内容のまとめ	0.5 時間
9	講義内容	健康増進のための食事と運動を組み合わせた調査・介入研究		
	該当到達目標	予習	運動疫学分野についての知識の整理	0.5 時間
	1,2,4	復習	学修内容のまとめ	0.5 時間
10	講義内容	栄養政策、公衆栄養活動に関する研究		
	該当到達目標	予習	栄養政策、公衆栄養活動分野についての知識の整理	0.5 時間
	1,2,4	復習	学修内容のまとめ	0.5 時間
11	講義内容	食に関わる取り組みを通して人間の成長や発達、社会のあり方を考える研究		
	該当到達目標	予習	食育分野についての知識の整理	0.5 時間
	1,2,4	復習	学修内容のまとめ	0.5 時間
12	講義内容	食品の摂取と食後血糖上昇の影響についての研究、1型糖尿病罹患児における管理栄養士の役割についての研究、外国人児童のヘルスケアと多文化共生における栄養士の関わり		
	該当到達目標	予習	臨床栄養学分野についての知識の整理	0.5 時間
	1,2,4	復習	学修内容のまとめ	0.5 時間
13	講義内容	合同セミナー(研究紹介)(1)		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションに必要な資料を作成し、説明内容をまとめる。	1.5 時間
	2,3	復習	指摘されたことを整理する。	0.5 時間
14	講義内容	合同セミナー(研究紹介)(2)		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションに必要な資料を作成し、説明内容をまとめる。	1.5 時間
	2,3	復習	指摘されたことを整理する。	0.5 時間
15	講義内容	合同セミナー(研究紹介)(3)		
	該当到達目標	予習	プレゼンテーションに必要な資料を作成し、説明内容をまとめる。	1.5 時間
	2,3	復習	指摘されたことを整理する。	0.5 時間
合計時間(予習・復習)				21 時間
備考				

科目名	卒業研究(人間栄養学系)(卒業研究)						科目ナンバリング	HNT442		
英文名	Undergraduate Thesis						講義形態	演習		
担当教員	木村 典代、五十嵐 美絵、深見 匡、大家 千枝子、竹内 真理、佐藤 清香、長井 祐子、井上 瞳									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	4 年 通年		選必・単位数		必修 4 単位					
履修を必須とする資格										
学位授与方針との対応		豊かな人間性と職業倫理				2	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		専門的知識				2	コミュニケーション能力			
	3	問題発見・解決力				3	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	① ② ③ ④ ⑤ ⑨ ⑪ ⑫ ⑯ ⑰									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○			○	○	○	○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	①管理栄養士養成の教育課程の中で修得した基礎的・専門的知識を用いて、健康・栄養に関わる様々な課題に対して、自らその課題を解決するための計画を立て、実験・調査を行い、論理的思考および手法によって総合的に判断する力を習得することを目標とする。 また、多領域分野の関係者との対話を通して、管理栄養士に求められるコミュニケーション能力、表現力、社会への対応力等を向上させ、生涯にわたって自律的に学習しようという意欲の向上と、豊かな人間性を養うことを目標とする。 ②各教員の指導の下、特定のテーマの研究(調査・実験など)を行い、企画・データ収集・整理・討論・発表・卒業論文を作成する。									
到達目標	1. 研究計画を立てることができる。 2. 自ら意欲的に実験・調査を実施することができる。 3. 論理的思考や手法を用いて総合的に判断することができる。 4. 多領域分野との対話を通して、課題解決に取り組むことができる。 5. 得られた結果を適切な手法(口頭や論文による発表など)を用いて表現することができる。 6. 生涯にわたって自律的に学習しようという意欲を獲得することができる。									
使用教材	必要に応じて、各指導教員が準備した資料等を用いる									
参考文献										
評価方法	研究貢献度、論文内容、研究発表、論文の提出、試問結果により、各指導教員が評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	ゼミによるディスカッション時のコメントおよび課題提出物はコメントとともに返却									
オフィスアワー (研究室)	指導教員に各自で確認すること				メールアドレス (#→@)		指導教員に各自で確認すること			
講義内容	第 1 回 ゼミの全体計画 オリエンテーション(卒業研究をはじめるにあたり留意事項等) 第 2 回 卒業論文の構成 第 3 回 テーマの検索 文献の探し方 第 4～5 回 文献調査 文献調査の発表 テーマ検討 第 6 回 テーマの決定 第 7～8 回 研究計画の作成 第 9～10 回 研究準備 第 11～22 回 研究の実施 データの解釈 統計の方法 文献調査継続 第 23～28 回 論文の書き方 まとめ方 論文の作成 第 29～30 回 研究発表の準備および成果発表 まとめ									

	※各指導教員の研究テーマは以下のとおりだが、初回授業時に詳細を説明する(講義の進行は、各指導教員による)。		
	1.スポーツ栄養・食育に関する研究、競技選手の栄養サポート、健康増進のための食事と運動を組み合わせた調査・介入研究(木村・大家・井上)		
	2.栄養政策、公衆栄養活動に関する研究(五十嵐)		
	3.食に関わる取り組みを通して人間の成長や発達、社会のあり方を考える研究(深見)		
	4.食品の摂取と食後血糖上昇の影響についての研究、1 型糖尿病罹患児における管理栄養士の役割についての研究、外国人児童のヘルスケアと多文化共生における栄養士の関わり(竹内)		
	5.地域在住高齢者の地域活動や食行動、食環境整備の研究(佐藤)		
	6.食をめぐる諸問題に関する実態調査と要因分析(長井)		
	予習	研究分野関連の文献検索、データ収集、データ整理を行う	毎 1 時間
	復習	研究分野関連の文献検索、データ収集、データ整理を行う	毎 2 時間
合計時間(予習・復習)			90 時間
備考	オンラインで授業を実施する際の変更点:実施方法は、各指導教員より指示する		

科目名	栄養教諭論(教職科目)						科目 ナンバリング	HNE511		
英文名	Theory of Nutrition Teacher						講義形態	講義		
担当教員	松下 広美									
科目に関連した 実務経験	群馬県教育委員会食育推進担当指導主事として学校栄養職員・栄養教諭研修を担当 群馬県栄養教諭採用試験問題作成を担当(経験) 高崎市教育委員会健康教育課係長として、学校全体で取り組む健康教育の推進について、各学校を指導(経験) 高崎市立小学校長・幼稚園長として学校(園)全体で取り組む食に関する指導を実践推進(経験)									
学年・開講期	1 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする 資格	栄養教諭一種免許状									
学位授与方針 との対応	－	豊かな人間性と職業倫理			－	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	－	専門的知識			－	コミュニケーション能力				
	－	問題発見・解決力			－	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	2 3 4 6 7 12 13									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
			○	○		○		○		
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	社会環境の急速な変化に対応するために、食育の必要性が問われてきた。学校における食育は生涯を通して健康的な生き方や自己実現を図るための基礎基本として重要視されている。本講義では学校の食育推進の中核を担う栄養教諭として食育のねらいを理解し、授業へ参画できる能力を養うことを目的とする。 栄養教諭として実際に学校現場で必要とされる資質が身に付くよう、現場で働く栄養教諭の実践に基づいて演習を取り入れながら講義を進める。									
到達目標	栄養教諭の役割を把握すること。栄養教諭としての資質を高めること。 1. 法に基づく食育のとらえかた、食に関する指導の考え方を知る■ 2. 栄養教諭の職務内容、位置づけを説明できる 3. 学校における食育のシステム化を説明できる									
使用教材	学習指導要領(文部科学省)、食に関する指導の手引き－第 2 次改訂版－(文部科学省)									
参考文献	栄養教諭のための学校栄養教育論(補訂)(笠原賀子編著)									
評価方法	授業態度・意欲 60%、給食の時間における食に関する指導の模擬実践及びレポート 40%で評価する。									
課題・評価に対する フィードバック方法	食に関する指導の模擬実践は、その場でフィードバックを行う。最後に作成するレポートは添削し、コメント・アドバイスをつけて返却する。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	C-learning の相談機能を活用。 連絡手段は初回授業時に提示する。				
1	講義内容	学校教育と教育課程とは■								
	該当到達目標	予習	学習指導要領の前文及び総則に目を通しておく。						1.5 時間	
	1,2,3	復習	関係法令に示された学校教育の目的や教育課程編成について確認する。						1.5 時間	
2	講義内容	学習指導要領とは■								

	該当到達目標	予習	学習指導要領の内容構成について調べ、その前文を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習指導要領は学校全体の教則本ということを知る。	1.5 時間
3	講義内容	栄養教諭の役割 1■		
	該当到達目標	予習	栄養教諭制度誕生の経緯について調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	栄養教諭制度は法的な体制に支えられ、大切な役割を担うことを確認する。	1.5 時間
4	講義内容	栄養教諭の役割 2■		
	該当到達目標	予習	栄養教諭の職務内容について調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学校での食育推進の中核を担う職務や課題を確認する。	1.5 時間
5	講義内容	子供の健康・栄養に関わる現状と課題		
	該当到達目標	予習	学校保健統計からみた児童生徒の健康課題を調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	現代の子供が抱える食生活の課題とそれを解決するための方策をまとめる。	1.5 時間
6	講義内容	わが国の食生活の変遷と学校給食		
	該当到達目標	予習	インターネット等を使用し、学校給食の歴史を調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学校給食が食生活の変化を背景に、関係者の努力で発展したことを確認する。	1.5 時間
7	講義内容	学校給食の実践		
	該当到達目標	予習	「学校給食法」の内容を調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学校給食のねらいを押さえ、望ましい学校給食実施のポイントを確認する。	1.5 時間
8	講義内容	学校教育における食育の位置づけと学校給食の役割■		
	該当到達目標	予習	学校教育の中で学校給食がどのように位置づけされているか調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学校教育全体で食育を推進する意味と学校給食の役割を確認する。	1.5 時間
9	講義内容	栄養教諭の教育構想		
	該当到達目標	予習	栄養教諭の役割から、育てたい子供のイメージを持つ。	1.5 時間
	1,2,3	復習	育てたい子供の姿と日常の学校給食の関連を確認する。	1.5 時間
10	講義内容	食に関する指導の全体計画■		
	該当到達目標	予習	全体計画に掲げることが望まれる内容を調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学校における食育推進に各教職員との相互連携や協力が不可欠であることを確認する。	1.5 時間
11	講義内容	食に関する指導の年間指導計画■		
	該当到達目標	予習	年間指導計画指導に盛り込まれる内容を調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	組織的・計画的に食育を推進するための年間指導計画の必要性を確認する。	1.5 時間
12	講義内容	給食の時間における食に関する指導		
	該当到達目標	予習	年間指導計画においてどのような意図で給食時の指導がなされるか調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学校教育活動全体とリンクしながら指導を進めることを確認し、5 分間指導の教材を作成する。	1.5 時間
13	講義内容	教科などにおける食に関する指導 1■		
	該当到達目標	予習	各教科等における食に関する指導内容を、学習指導要領から調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	年間指導計画に位置づけた各教科等の指導を構想できるようにする。	1.5 時間
14	講義内容	特別活動における食に関する指導■		
	該当到達目標	予習	特別活動に示された食に関する指導の内容について確認しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学級活動における食に関する指導の進め方をイメージできるようにする。	1.5 時間
15	講義内容	学校における食に関する指導の進め方■		
	該当到達目標	予習	学校全体で食育を推進する際の栄養教諭の役割を確認しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学校給食を活用した食に関する指導が企画できるようにする。	1.5 時間

合計時間(予習・復習)		45 時間
備考	オンラインで実施する場合は C-Learning で行う。内容に変更のある場合は適宜 C-Learning の授業で指示する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。 本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定(N)」となり、GPA の算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時に CAP のカウントには含めない。なお、副専攻の講義内容等は主専攻と必ずしも一致していない(初回講義時に資料を配付する)。	

科目名	学校食指導各論(教職科目)						科目ナンバリング	HNE512		
英文名	Nutrition Education in School						講義形態	講義		
担当教員	松下 広美									
科目に関連した実務経験	群馬県教育委員会食育推進担当指導主事として学校栄養職員・栄養教諭研修を担当(経験) 高崎市教育委員会健康教育課係長として、学校全体で取り組む健康教育の推進について、各校を指導(経験) 高崎市立小学校長・幼稚園長として学校(園)全体で取り組む食に関する指導を実践推進(経験)									
学年・開講期	3 年 後期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格	栄養教諭一種免許状									
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と職業倫理			—	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	—	専門的知識			—	コミュニケーション能力				
	—	問題発見・解決力			—	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	2 3 4 12									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○		○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法	・									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	学校教育の本来のねらいをふまえ、全教育活動と連携連動する学校給食を目指す中で必要な教育の知識・技能を学ぶ。 学校給食を通した毎日の食に関する指導と各教科等での指導との関連を学習指導案の作成や模擬授業を通して学ぶ。 具体的な指導案や実践例を元に学び、実際に指導案を作成して模擬授業を行う。 模擬授業で使用する指導案は学生が各自指導案を読み込み、選定する。 2 班にわかれて指導案を検討修正し、資料作成をする。									
到達目標	学校現場で食に関する指導を実践するための指導案を作成できる。作成にあたっては、ねらい・内容・評価という一連の流れを大事にする。 1. 学校教育における食育の授業展開を説明できる■ 2. 全教育活動と連携・連動を図ることの大切さを学ぶ■ 3. 食に関する指導の学習指導案の立て方と授業展開を説明できる■									
使用教材	学習指導要領(文部科学省) 食に関する指導の手引きー第 2 次改訂版ー(文部科学省) 学習指導要領解説特別活動編・家庭編(東洋館出版社)									
参考文献	食生活学習教材(文部科学省)「食に関する指導の手引き～食を楽しみ健康になろう～」(群馬県)									
評価方法	授業態度・意欲 40%、模擬授業用に作成した指導案及び模擬授業の内容 60%で評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	模擬授業は、教職担当の教員、教職科目を履修している 1～4 年生に向けて行い、教員・4 年生の先輩方から授業に関するアドバイスをもらう									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。 C-Learning の相談機能を活用				
1	講義内容	学校教育における食育の位置づけと学校給食の役割■								
	該当到達目標	予習	食に関する指導を通して、育てたい子供の姿のイメージを持つ。						1.5 時間	

	1,2,3	復習	食に関する指導の進め方を確認し、本科目履修で学ぶべき内容をまとめる。	1.5 時間
2	講義内容	学校教育目標とリンクする授業展開■		
	該当到達目標	予習	「食に関する指導の構想」作成のために必要な事項を調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	食育が教育課程(全体計画)の中の一環であることを確認する。	1.5 時間
3	講義内容	学校教育活動全体として取り組む食に関する指導について①(食に関する指導の全体計画)■		
	該当到達目標	予習	食に関する指導の全体計画から各教科が相互に関連していることを調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学校全体で取り組むために年間計画に位置づける重要性を確認する。	1.5 時間
4	講義内容	学校教育活動全体として取り組む食に関する指導について②(学習指導要領)■		
	該当到達目標	予習	学習指導要領に記述された「食に関する指導」について確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	栄養教諭は全ての教科に関わって食育を推進する職務であることを確認する。	1.5 時間
5	講義内容	単元構想・計画と授業■		
	該当到達目標	予習	特別活動や道徳と教科の計画の違いを調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	各教科等の特性を理解し、特性に応じた食に関する指導があることを確認する。	1.5 時間
6	講義内容	一時間の授業の展開 1(特別活動)■		
	該当到達目標	予習	特別活動では、食育がどのように位置づけられ、栄養教諭がどのようにかわれるか調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	各学年の実態に即した系統的な指導のありかたや効果的な授業展開のための栄養教諭の役割を確認する。	1.5 時間
7	講義内容	一時間の授業の展開 2(教科)■		
	該当到達目標	予習	教科には教科の目標に基づく指導計画や単元構想があることを確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	一時間ごとの流れに沿って授業が展開することを知る。	1.5 時間
8	講義内容	学習指導案の作成 1■		
	該当到達目標	予習	望ましい食習慣の形成のために、どの学年で何をねらいとして指導するかをもとに、学級活動のテーマを考える。授業の学習指導案の形式を調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	進行状況を確認して、指導案作成を進める。	1.5 時間
9	講義内容	学習指導案の作成 2■		
	該当到達目標	予習	学級活動指導案は事前指導・本時・事後指導(家庭の連携を含む)で成り立つことを知る。	1.5 時間
	1,2,3	復習	進行状況を確認して、指導案作成を進める。	1.5 時間
10	講義内容	学習指導案の作成 3■		
	該当到達目標	予習	食育に関連が深い教科を調べ、教科を選択する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	進行状況を確認して、指導案作成を進める。	1.5 時間
11	講義内容	学習指導案の作成 4■		
	該当到達目標	予習	教科の指導案は教科の目標・単元の目標に基づくことを知る。	1.5 時間
	1,2,3	復習	進行状況を確認して、指導案作成を進める。	1.5 時間
12	講義内容	学習指導案の作成 5■		
	該当到達目標	予習	単元計画の中でどの授業を選択するか確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	進行状況を確認して、指導案作成を進める。	1.5 時間
13	講義内容	模擬授業事前準備■		
	該当到達目標	予習	授業のねらいに即した展開のポイントについて考える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	進行状況を確認して、指導案作成を進める。	1.5 時間
14	講義内容	模擬授業 1■		
	該当到達目標	予習	指導案を確認し、本時のねらいを明確にもち、展開の流れを押さえておく。必要	1.5 時間

			な教材教具を確認する。	
	1,2,3	復習	模擬授業について各班で振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	模擬授業 2■		
	該当到達目標	予習	指導案を確認し、本時のねらいを明確にもち、展開の流れを押さえておく。必要な教材教具を確認する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業について各班で振り返る。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施する場合は C-Learning で行う。内容に変更のある場合は適宜 C-Learning の授業で指示する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	教職論(教職科目)						科目ナンバリング	HNE521		
英文名	Theory of Teacher's Profession						講義形態	講義		
担当教員	深見 匡									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	1 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格	栄養教諭一種免許状									
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と職業倫理				—	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	—	専門的知識				—	コミュニケーション能力			
	—	問題発見・解決力				—	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	4 10 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 現代社会における教職の意義、教員の役割、資質・能力、職務内容の基礎について理解し、基礎的な実践ができるようになること。また、教職に対する自身の適性を理解し、適切な進路選択ができるようになること。 ② 授業の進め方はテキストを中心に講義形式で行い、必要に応じて映像資料やグループワークを用いる。授業の詳細は学生の状況や意見に応じて適宜必要な修正を行う。									
到達目標	1. 現代の学校教育や教職の社会的意義について説明できる。 2. 教員の役割や資質・能力について説明でき、基礎的な実践ができる。 3. 教員の職務内容や教員の服務上・身分上の義務について説明でき、基礎的な実践ができる。 4. 現代の学校が学校内外の専門家と連携する必要について説明できる。 総じて豊かな人間性、教職者に求められる資質・能力、適性の基礎を身に付ける。									
使用教材	毎回講義用のテキスト・資料を配布する。									
参考文献	必要なものは授業時に適宜指示する。									
評価方法	定期試験 70%、平常点 30%(レポート提出、授業態度など)で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。詳細は初回授業や授業時の試験解説で指示する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートは必要に応じてコメントを付して返却する。定期試験については試験後、関連講義において解説する。その他質疑には適宜対応する。									
オフィスアワー (研究室)	月曜 4 限、水曜 4 限 1 号館 307				メールアドレス (#→@)		fukami#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス、現代における学校教育や教員の社会的意義について								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標・講義内容・評価方法などを理解する。						1.5 時間	
	1	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。						1.5 時間	
2	講義内容	現代における学校教育や教員の社会的意義、教員の職業的特徴について								
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。						1.5 時間	
	1,2	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。						1.5 時間	
3	講義内容	教員の役割と資質・能力について(歴史)								
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。						1.5 時間	
	1,2	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。						1.5 時間	
4	講義内容	教員の役割と資質・能力について(現代)								

	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	1,2	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
5	講義内容	教育法と教員の職務や義務① 日本国憲法・教育基本法			
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	1,2,3	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
	6	講義内容	教育法と教員の職務や義務② 学校教育法		
該当到達目標		予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	1,2,3	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
	7	講義内容	教育法と教員の職務や義務③ 教育公務員特例法		
該当到達目標		予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	1,2,3	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
	8	講義内容	学校教育と教員の職務や義務④ 教育課程(学習指導要領等)		
該当到達目標		予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	1,2,3	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
	9	講義内容	学校教育と教員の職務や義務⑤ 教育課程(各教科・領域他)		
該当到達目標		予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	1,2,3	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
	10	講義内容	学校教育と教員の職務や義務⑥ 研修他		
該当到達目標		予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	1,2,3	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
	11	講義内容	学校教育と教員の職務や義務⑦ 学校運営(チームとしての学校)		
該当到達目標		予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
	12	講義内容	現代的教育課題と教員の職務や義務① 学力問題		
該当到達目標		予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	2,3,4	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
	13	講義内容	現代的教育課題と教員の職務や義務② 生徒指導		
該当到達目標		予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	2,3,4	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
	14	講義内容	現代的教育課題と教員の職務や義務③ 教育改革動向		
該当到達目標		予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	2,3,4	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
	15	講義内容	教員の資質・能力と自身の適性について考える		
該当到達目標		予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
	合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・状況によりオンラインで実施する場合は C-Learning で行う。 ・教員免許状取得のための必修科目。				

科目名		教育基礎論(教職科目)						科目ナンバリング	HNE522		
英文名		Principles of Education						講義形態	講義		
担当教員		深見 匡									
科目に関連した実務経験											
学年・開講期		2 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格		栄養教諭一種免許状									
学位授与方針との対応		—	豊かな人間性と職業倫理			—	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		—	専門的知識			—	コミュニケーション能力				
		—	問題発見・解決力			—	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連		4			10			16			
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 教育の基本的概念、教育の理念、教育に関する歴史及び思想に関わる基礎的知識について理解し説明ができ、また、教員に求められる基礎的な資質・能力について理解し説明ができる。 ② 授業の進め方はテキストを中心に講義形式で行い、必要に応じて映像資料やグループワークを用いる予定。授業の詳細は学生の状況や意見に応じて適宜必要な修正を行う。									
到達目標		1. 教育の基本的概念について理解し、説明できる。 2. 教育に関する歴史の基礎的知識について理解し、説明できる。 3. 教育に関する思想の基礎的知識について理解し、説明できる。 4. 現代的な教育課題について理解し、考察できる。 総じて豊かな人間性、教職者に求められる資質・能力、適性の基礎を身に付ける。									
使用教材		毎回講義用のテキスト・資料を配布する。									
参考文献		必要なものは授業時に適宜指示する。									
評価方法		定期試験 70%、平常点 30%(レポート提出、授業態度など)で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。詳細は初回授業や授業時の試験解説で指示する。									
課題・評価に対するフィードバック方法		レポートは必要に応じてコメントを付して返却する。定期試験については試験後、関連講義において解説する。その他質疑には適宜対応する。									
オフィスアワー (研究室)		月曜 4 限、水曜 5 限 1 号館 307				メールアドレス (#→@)		fukami#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス									
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標・講義内容・評価方法などを理解する。							1.5	時間
	1,2,3,4	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。							1.5	時間
2	講義内容	教育の基礎的概念を学ぶ(社会と教育)									
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。							1.5	時間
	1	復習	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。							1.5	時間
3	講義内容	教育の基礎的概念を学ぶ(発達と教育)									
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。							1.5	時間
	1	復習	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。							1.5	時間
4	講義内容	教育の基礎的概念を学ぶ(学校教育と教員)									
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。							1,5	時間

	1	復習	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
5	講義内容	教育の基礎的概念を学ぶ(教育基本法等の現代の教育理念)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1	復習	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
6	講義内容	教育の歴史について(近代以前)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教育の歴史の基礎的知識について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
7	講義内容	教育の歴史について(近代～戦前日本)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教育の歴史の基本的知識について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
8	講義内容	教育の歴史について(戦後日本)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教育の歴史の基本的知識について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
9	講義内容	教育の思想について(コメニウス、ロック、ルソー等)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	古典的な教育思想について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
10	講義内容	教育の思想について(ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルト等)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	古典的な教育思想について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
11	講義内容	教育の思想について(デューイ、デュルケム等)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,4	復習	古典的な教育思想について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
12	講義内容	現代的な教育課題について① 学力について考える		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,4	復習	近年の学力論の概要について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
13	講義内容	現代的な教育課題について② 子どもの様々な「問題行動」		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,4	復習	近年の子どもの「問題行動」とされる問題について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
14	講義内容	現代的な教育課題について③ 日本の教育政策動向		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,4	復習	近年の日本の教育政策動向について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
15	講義内容	現代的な教育課題について④ 諸外国の教育政策動向		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,4	復習	近年の諸外国の教育政策動向について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・状況によりオンラインで実施する場合は C-Learning で行う。 ・教員免許状取得のための必修科目。			

科目名	教育心理学(教職科目)						科目ナンバリング	HNE523		
英文名	Educational Psychology						講義形態	講義		
担当教員	宮内 洋									
科目に関連した実務経験	臨床発達心理士および公認心理師として教育現場への助言・支援活動(現在)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格	栄養教諭一種免許状									
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と職業倫理				—	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	—	専門的知識				—	コミュニケーション能力			
	—	問題発見・解決力				—	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	3451016									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○		○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 ・ 教育心理学に関する知識を生涯発達の各発達段階毎に理解し、人間の生涯発達を通じた視野を持ちながら理解できるようになる。 上記2つを講義目標とし、本科目は、初等中等教育段階の学校の教員を目指す上で理解しておくべき教育心理学に関する基本的な知識の理解・修得をめざす。 具体的には、教育心理学に関する知識を生涯発達の各発達段階毎に理解し、人間の生涯発達を通じた視野を持ちながら理解できるようにしていく。臨床発達心理士である講師としては、机上の空論や理想論ではなく、より現実的な内容に徹したい。 * 基本的には講師が直接講義をする形式です。講義内容を深めるため、実験等を映像やドキュメンタリーを講義内で見ることがあります。講師とのやりとりは、感想シートによっておこなわれます。									
到達目標	1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。 2. 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。■									
使用教材	教科書は指定しない。必要に応じて、資料を配付する。また、より知りたい・学びたい人のために、参考文献や映画やマンガ等の種々の作品を、講義の中で適宜紹介する。									
参考文献	・J.A.L.シング『野生児の記録 1 狼に育てられた子』福村出版 ・A.ゲゼル『狼にそだてられた子』家政教育社 ・A.M.スレーター & P.C.クイン編『発達心理学・再入門』新曜社									
評価方法	全講義終了後に実施される定期試験(90%)と、講義期間中に課せられる課題と講義に臨む態度・参加する姿勢(10%)によって、総合的に判断する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	講義終了時に可能な限り感想シートを配付し、そこで書かれた質問等には次回に回答するように努める。									
オフィスアワー (研究室)	質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。				メールアドレス (#→@)		連絡手段は初回授業時に提示する。			
1	講義内容	ガイダンス:発達とは何か■								
	該当到達目標	予習	なし						0 時間	

	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
2	講義内容	生涯発達と「優生思想」■		
	該当到達目標	予習	人間の生涯発達について客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
3	講義内容	新生児期・乳児期における学び(1):「無能な赤ちゃん」というイメージ		
	該当到達目標	予習	自らの乳児期の体験を可能な限り聞き、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
4	講義内容	新生児期・乳児期における学び(2):「有能な赤ちゃん」と脳科学		
	該当到達目標	予習	脳科学について客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
5	講義内容	幼児期における学び(1):学びの基礎■		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
6	講義内容	幼児期における学び(2):認知発達を中心に		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
7	講義内容	幼児期における学び(3):nature vs. nurture■		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
8	講義内容	児童期における学び(1):記憶研究を中心に		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
9	講義内容	児童期における学び(2):学習		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
10	講義内容	児童期における学び(3):動機付け		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
11	講義内容	思春期・青年期における学び		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
12	講義内容	成人期以降の学び(1):学びの効果的支援		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの学びに関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間

13	講義内容	成人期以降の学び(2):学んだ成果の評価		
	該当到達目標	予習	自らのこれまでの学びに関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
14	講義内容	老年期における学び		
	該当到達目標	予習	なし	0 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当到達目標	予習	これまでの講義内容の理解を深めておく。	4 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	講義を妨害する者の受講を基本的に認めません。 * 社会状況によって、対面授業が不可能となった場合には講義内容が若干変わる可能性がある。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	教育制度論(教職科目)							科目ナンバリング	HNE524	
英文名	Theory of Educational systems							講義形態	講義	
担当教員	深見 匡									
科目に関連した実務経験										
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数	選択 2 単位						
履修を必須とする資格	栄養教諭一種免許状									
学位授与方針との対応	－	豊かな人間性と職業倫理				－	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	－	専門的知識				－	コミュニケーション能力			
	－	問題発見・解決力				－	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	4 10 16									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
				○					○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 現代の学校教育に関する社会的・制度的・経営的事項の基礎的知識や学校と地域の連携、学校安全に関わる基礎的知識について理解し説明ができる。そしてこれらの知識を実際の学校運営に生かす意欲が持てる。 ② 授業はテキストを中心に講義形式で行い、必要に応じて映像資料やグループワークを用いる予定。授業の詳細は学生の意見や状況に応じて適宜必要な修正を行う。									
到達目標	1. 教育に関する社会的事項(社会状況や学校教育の変化等)について説明できる。 2. 教育に関する制度的事項(教育法・制度とその意義・役割)について説明できる。 3. 教育に関する経営的事項(学校経営について)について説明できる。 4. 学校と地域の連携・協働について説明できる。 5. 学校安全への対応について説明できる。 総じて豊かな人間性、教職者に求められる資質・能力、適性の基礎を身に付ける。									
使用教材	毎回講義用のテキスト・資料を配布する。									
参考文献	必要なものは授業時に適宜指示する。									
評価方法	定期試験 70%、平常点 30%(レポート提出、授業態度など)で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。詳細は初回授業や授業時の試験解説で指示する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポートは必要に応じてコメントを付して返却する。定期試験については試験後、関連講義において解説する。その他質疑には適宜対応する。									
オフィスアワー (研究室)	木曜 4 限、金曜 4 限 1 号館 307				メールアドレス (#→@)		fukami#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標・講義内容・評価方法など理解する。						1.5 時間	
	1,2,3,4,5	復習	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。						1.5 時間	
2	講義内容	近年の社会状況や子どもの変化と学校教育								
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。						1.5 時間	
	1	復習	社会状況や子どもの変化について整理し、指示された課題に取り組む。						1.5 時間	
3	講義内容	日本の教育政策動向								
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。						1.5 時間	
	1	復習	日本の近年の教育政策動向について整理し、指示された課題に取り組む。						1.5 時間	

4	講義内容	公教育に関わる法と制度① 公教育の理念		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	2	復習	現代の公教育の組織化について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
5	講義内容	公教育に関わる法と制度② 学校教育法(学校の組織や機能)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	2	復習	様々な学校について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
6	講義内容	公教育に関わる法と制度③ 学校教育法(教育内容)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	2	復習	教育課程や教育内容に関する事項を整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
7	講義内容	公教育に関わる法と制度④ 地方教育行政法等(学校と社会)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	2	復習	教育行政に関する事項について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
8	講義内容	公教育に関わる法と制度⑤ 教育公務員特例法等(教員の職務や義務)		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	2	復習	教員に関わる事項について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
9	講義内容	学校経営について① 学校の組織と経営		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	3	復習	学校の組織や運営・経営について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
10	講義内容	学校経営について② 学校評価		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	3	復習	学校評価について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
11	講義内容	学校経営について③ 学級経営		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	3	復習	学級経営について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
12	講義内容	学校と地域との連携・協働		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	4	復習	学校と地域の連携・協働について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
13	講義内容	学校安全について		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	5	復習	学校安全の目的・取り組みについて整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
14	講義内容	諸外国の教育政策動向① 英米圏		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1	復習	諸外国(英米圏)の教育政策について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
15	講義内容	諸外国の教育政策動向② その他		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1	復習	諸外国(その他)の教育政策について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・状況によりオンラインで実施する場合は C-Learning で行う。 ・教員免許状取得のための必修科目。			

科目名	教育課程論(教職科目)						科目ナンバリング	HNE525		
英文名	School Curriculum						講義形態	講義		
担当教員	栗原 幸正									
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修を必須とする資格	栄養教諭一種免許状									
学位授与方針との対応	－	豊かな人間性と職業倫理				－	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	－	専門的知識				－	コミュニケーション能力			
	－	問題発見・解決力				－	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	③ ④ ⑩ ⑪									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	他学科との協働作業を組織することで、業務に関してのチームの概念を体験的に学び修得する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	学校教育における教育課程の意義や編成の方法について、学習指導要領総則編の読解や教育課程(教育内容)の変遷を知ることを通して理解すると共に、養護教諭・栄養教諭が直面する現代的な教育的課題を知り、その克服に向けての具体的教育課程に係る取り組みを講義や協議・ワークショップ等を通して知る。 資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。授業感想の記述や小論文の作成を通して、教師となるためのさらなる資質向上が図れるよう進める。講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。									
到達目標	1. 教育課程とは何かについて具体的に理解し、設問等に解答し、記述することができる。 2. 教育課程が不易な教育的内容の定着を図るためにあるのと同時に、社会からのニーズによって編成されていることを知り、変遷の過程を説明する事ができる。 3. 養護教諭・栄養教諭が直面する現代的な教育的課題を知り、その克服に向けての具体的教育課程に係る取り組みを構築する事ができる。■ 4. カリキュラム・マネジメントについての認識を深め、説明することができる。■									
使用教材	小学校学習指導要領解説総則編(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)									
参考文献	講義に合わせて適宜配付する。									
評価方法	定期試験(60%) 授業後の小レポート(20%) 課題レポート(20%)									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業感想・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。									
オフィスアワー (研究室)	8 号館 1 階 学部長室 水曜日 2 限・金曜日 2 限				メールアドレス (#→@)	kurihara-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	講義の概要と幼小中学校学習指導要領概略とカリキュラム・マネジメント								
	該当到達目標	予習	学習指導要領解説総則編(小)及び幼稚園教育要領に目を通し、講義目標をつかむ。						1.5 時間	
	1,2	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。						1.5 時間	
2	講義内容	教育課程の意義とその変遷								
	該当到達目標	予習	学習指導要領の資料「学習指導要領の改訂の経過」に目を通す。						1 時間	
	1,2	復習	社会的ニーズと教育課程の関連について、自分の考えを説明できる。						2 時間	

3	講義内容	教育課程を支える関係法規		
	該当到達目標	予習	教育法規についてインターネット等を用いて調べておく。	1 時間
	3	復習	教育課程を規定する関係法規について理解する。	2 時間
4	講義内容	学校における教育課程 学校要覧Ⅰ(学校教育目標・学校経営案)■		
	該当到達目標	予習	配付資料「学校要覧」の上記関係箇所を目を通す。	1 時間
	3	復習	教育課程を具現化するために機能する学校体制を理解する。	2 時間
5	講義内容	学校における教育課程 学校要覧Ⅱ(日課表・教職員配置)■		
	該当到達目標	予習	配付資料「学校要覧」の上記関係箇所を目を通す。	1 時間
	3	復習	教育課程を具現化するために機能する学校組織を理解する。	2 時間
6	講義内容	学校における教育課程 学校要覧Ⅲ(校務分掌と年間指導計画)■		
	該当到達目標	予習	事前配資料に目を通しておく。	1 時間
	4	復習	教育課程を具現化するために機能する学校組織と年間指導計画を理解する。	2 時間
7	講義内容	学校実態に沿った現代的課題に向けての教育課程(養護・栄養の連携とアレルギー対応)		
	該当到達目標	予習	文部科学省ホームページのアレルギー等に係る項目に目を通す。	1.5 時間
	3,4	復習	現代的課題に対応する教育の意義について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	教育課程論のまとめと期末試験		
	該当到達目標	予習	教科書、配付資料、講義スライドに目を通し、学修内容をまとめておく。	1.5 時間
	1,4	復習	記述試験内容を振り返りノートにまとめ、教育課程についての理解を深める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	特別な教育的ニーズの理解とその支援(教職科目)							科目 ナンバリング	HNE526	
英文名	Understanding and supporting special educational needs							講義形態	講義	
担当教員	宮内 洋									
科目に関連した 実務経験	臨床発達心理士および公認心理師として教育現場への助言・支援活動(現在)									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		選択 1 単位					
履修を必須とする 資格	栄養教諭一種免許状									
学位授与方針 との対応	－	豊かな人間性と職業倫理				－	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	－	専門的知識				－	コミュニケーション能力			
	－	問題発見・解決力				－	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑩ ⑬ ⑭									
アクティブラーニング 実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○			○					○	
「その他」のアクティ ブラーニング実施方法										
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	1) 「インクルーシブ教育システム」を含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組み、視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な「障害」のある児童及び生徒の学習または生活上の困難について基礎的な知識、「発達障害」等をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を学ぶ。 2) その上で、「発達障害」等をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒に対して、特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築しながら支援する方法を学ぶ。 3) 「障害」のみならず、母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある児童及び生徒の学習または生活上の困難についての基礎的知識や組織的な支援の方法を学ぶ。 * 基本的には講師が直接講義をする形式です。講義内容を深めるために、ドキュメンタリー等の映像を講義内で見ることがあります。講師とのやりとりは、感想シートによっておこなわれます。									
到達目標	通常の学級にも在籍している「発達障害」等をはじめとする様々な「障害」等により特別の支援を必要とする児童及び生徒たちが、授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるように、児童及び生徒の学習または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。 1. 特別の支援を必要とする児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。■ 2. 特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。■ 3. 「障害」はないが、特別の教育的ニーズのある児童及び生徒の学習または生活上の困難とその対応を理解する。■									
使用教材	教科書は指定しない。必要に応じて、資料を配付する。また、より知りたい・学びたい人のために、参考文献や映画やマンガ等の種々の作品を、講義の中で適宜紹介する。									

参考文献		柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子編 2014『はじめての特別支援教育〔改訂版〕』有斐閣 柘植雅義『特別支援教育 多様なニーズへの挑戦』中央公論新社 好井裕明『他者を感じる社会学』筑摩書房		
評価方法		全講義終了後に実施される定期試験(90%)と、授業貢献度(10%)によって、総合的に判断する。		
課題・評価に対するフィードバック方法		講義終了時に可能な限り感想シートを配付し、そこで書かれた質問等には次回に回答するように努める。		
オフィスアワー (研究室)		質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。	メールアドレス (#→@)	連絡手段は初回授業時に提示する。
1	講義内容	ガイダンス■		
	該当到達目標	予習	なし。	0 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
2	講義内容	特別支援とは何か・特別支援の場とは何か		
	該当到達目標	予習	特別支援について調べておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
3	講義内容	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む種々の「障害」がある児童・生徒の理解とその支援		
	該当到達目標	予習	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む種々の「障害」がある児童・生徒について調べておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
4	講義内容	「発達障害」がある児童・生徒の理解■		
	該当到達目標	予習	「発達障害」について調べておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
5	講義内容	「発達障害」がある児童・生徒の支援■		
	該当到達目標	予習	「発達障害」について調べておくこと。	1.5 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
6	講義内容	異文化の子どもの理解とその支援■		
	該当到達目標	予習	異文化について調べておくこと。	1.5 時間
	3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
7	講義内容	「子どもの貧困」問題の理解とその支援■		
	該当到達目標	予習	「子どもの貧困」について調べておくこと。	1.5 時間
	3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
8	講義内容	特別な支援とアクティブラーニング		
	該当到達目標	予習	これまでの講義内容の理解を深めておく。	3 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	講義を妨害する者の受講を基本的に認めません。 * 社会状況によって、対面授業が不可能となった場合には講義内容が若干変わる可能性がある。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	道徳教育・特別活動論(教職科目)							科目ナンバリング	HNE527	
英文名	Moral Education and Special Activities							講義形態	講義	
担当教員	石川 勉									
科目に関連した実務経験	公立中学校に教諭・教頭・校長として勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格	栄養教諭一種免許状									
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と職業倫理				—	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	—	専門的知識				—	コミュニケーション能力			
	—	問題発見・解決力				—	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ 13 14 15									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○				○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法	毎回の課題、小テスト、レポートにアドバイスやコメントを付けて返却する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	道徳の本質を踏まえ、道徳教育の歴史や現代社会の課題について、学校での道徳教育を理解する。道徳教育の目標、道徳教育全体計画、内容について概略を把握し、その具現化にむけての技術や方法を理解する。特別活動では道徳教育との関り、意義や取り組み方法の実際、評価改善について、学習指導案に基づく内容理解を行う。 授業の予習復習からさらに理解を深めるために、小テスト前や返却後にしっかりと学習し把握すること。小テストは 2 回予定している。									
到達目標	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 1. 道徳の本質を説明できる。 2. 道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題(いじめ・情報モラル等)を理解している。■ 3. 子どもの心の成長と道徳性の発達について理解している。■ 4. 学習指導要領に示された道徳教育の主な内容を理解している。■ 特別活動の意義、目標、内容指導の在り方を理解する。 5. 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。■ 6. 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解している。■ 7. 学級活動・ホームルーム活動の特質を理解している。■ 8. 児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。■									
使用教材	小中学校学習指導要領、同解説道徳編、その他、講義用のテキストプリントを使用する。(毎回配布)									
参考文献										
評価方法	小テスト(30%)、レポート(30%)、定期試験(25%)、平常点(15%)、総合評価 60%以上を合格とする。詳細はガイダンス時に指示する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポート、小テストは必要に応じてコメントして返却する。定期試験の内容や質疑は個別に対応する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等は授業中が望ましいのですが、授業前後や非常勤講師室にて対応します。				メールアドレス (#→@)		教務課を通しメールや電話にて対応いたします。			
1	講義内容	道徳の本質(道徳とは何か)、学校の教育活動全体で行う道徳教育とその要となる道徳科■								
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、講義内容、評価方法を理解する。							1.5 時間

	1	復習	講義内容について整理し、理解する。	1.5 時間
2	講義内容	学習指導要領に示された道德教育、道德教育全体計画、道德科の目標や内容■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1	復習	道德教育、道德科の内容を整理し、理解する。	1.5 時間
3	講義内容	道德教育の歴史、現代社会の道德教育の課題■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	2	復習	道德教育の歴史、現代の課題を整理し、理解する。	1.5 時間
4	講義内容	道德性の発達の理論、特別支援を配慮した道德教育、子どもの心の成長■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	2,3	復習	道德性の発達理論、心の理論を整理し、理解する。	1.5 時間
5	講義内容	道德性、道德的価値内容の補充・深化・統合、授業のねらい■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	3,4	復習	道德性、道德的価値内容、授業指導法について整理し、理解する。	1.5 時間
6	講義内容	道德教育年間計画、指導の重点、学級の道德教育指導計画■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	4	復習	道德教育年間計画、指導の重点、学級の指導計画について整理し、理解する。	1.5 時間
7	講義内容	道德科指導案、資料分析の手法、授業のねらいや指導過程の明確化■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	4	復習	道德科指導案、指導方法について整理し、理解する。	1.5 時間
8	講義内容	模擬授業と授業改善、道德科の特性を踏まえた学習評価■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	4	復習	模擬授業、学習評価について整理し、理解する。	1.5 時間
9	講義内容	道德教育の多様な指導方法の理解■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	道德教育の多様な指導方法を整理し、理解する。	1.5 時間
10	講義内容	学校の教育活動全体を通じて行う道德教育と社会問題、非行問題の課題■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	学校教育活動における道德教育、課題について整理し、理解する。	1.5 時間
11	講義内容	学習指導要領における特別活動の目標と内容、特別活動の位置づけ■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	5,6	復習	学習指導要領における特別活動の内容について整理し、理解する。	1.5 時間
12	講義内容	教育課程における特別活動の位置づけ、教科等との関連■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	5,6	復習	教育課程における特別活動の位置づけについて整理し、理解する。	1.5 時間
13	講義内容	学級活動・ホームルーム活動の特質、児童生徒の話し合い活動、集団活動■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	7,8	復習	学級活動、話し合い活動などについて整理し、理解する。	1.5 時間
14	講義内容	児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質と家庭、地域住民、関係機関との連携■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	7,8	復習	児童会・生徒会活動、学校行事について整理し、理解する。	1.5 時間
15	講義内容	学校全体の教育活動で取り組む「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,4,5,6,7,8	復習	学校全体で取り組む特別活動の意義について整理し、理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	オンラインで実施する場合は C-learning で行う。内容に変更のある場合は適宜 C-learning の授業で指示する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	総合的な学習の時間論(教職科目)						科目ナンバリング	HNE528		
英文名	Theory of Period for Integrated Studies						講義形態	講義		
担当教員	石川 勉									
科目に関連した実務経験	公立中学校に教諭・教頭・校長として勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 後期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格	栄養教諭一種免許状									
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と職業倫理			—	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
	—	専門的知識			—	コミュニケーション能力				
	—	問題発見・解決力			—	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連	① ③ ④ ⑤ ⑬ ⑭ ⑮									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
	○		○	○				○		○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	毎回の課題、小テスト、レポートにアドバイスやコメントを付けて返却する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	小・中学校における総合的な学習の意義や目標を理解し、実践事例を通して、育成すべき資質・能力を考慮した指導計画・単元計画を作成する。さらに、効果的な総合的な学習の具現化には、カリキュラムマネジメントが不可欠であることを理解する。 授業の予習復習からさらに理解を深めるために、小テスト前や返却後にしっかりと学習し把握すること。小テストは 1 回予定している。また、レポートを 1 回実施する。									
到達目標	総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。 1. 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解している。■ 2. 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。■ 3. 各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解している。■ 4. 主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。■									
使用教材	小中学校学習指導要領、同解説 総合的な学習の時間編、その他、講義用のテキストプリントを使用する。									
参考文献										
評価方法	小テスト(30%)、レポート(30%)、定期試験(25%)、平常点(15%)、総合評価 60%以上を合格とする。詳細はガイダンス時に指示する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	レポート、小テストは必要に応じてコメントして返却する。定期試験の内容や質疑は個別に対応する。									
オフィスアワー (研究室)	質問等は授業中が望ましいのですが、授業前後や非常勤講師室にて対応します。				メールアドレス (#→@)	教務課を通しメールや電話にて対応いたします。				

1	講義内容	学習指導要領における総合的な学習の時間の目標、意義と教育課程上の位置づけ■		
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、講義内容、評価方法を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	講義内容について整理し、理解する。	1.5 時間
2	講義内容	中学校のキャリア教育「職業調べ」「職業体験」「上級学校調べ」事例研究、教科との関連■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	中学校のキャリア教育内容について整理し、内容を理解する。	1.5 時間
3	講義内容	生徒が主体的・対話的で深い学びにするための事例研究■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	3,4	復習	総合的な学習の時間の事例研究を整理し、理解する。	1.5 時間
4	講義内容	教育課程における年間計画と単元計画、学習指導計画、各教科との関連■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,3	復習	教育課程における年間計画、単元計画、学習計画などを整理し、理解する。	1.5 時間
5	講義内容	小学校の具体的な単元計画と学習実践、事例研究■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	小学校の具体的な実践について整理し、理解する。	1.5 時間
6	講義内容	単元構想、学習指導計画作成を通しての総合的な学習の授業づくり■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	実際に単元を構想し、学習指導計画を作成する授業づくりについて整理し、理解する。	1.5 時間
7	講義内容	学習指導案検討会、教科を越えた横断的な思考の育成■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	各学習指導案について検討されたことを整理し、理解する。	1.5 時間
8	講義内容	総合的な学習の時間の模擬授業、学習状況評価、自己の生き方指導■		
	該当到達目標	予習	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	実際の授業やその評価について整理し、理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	オンラインで実施する場合は C-learning で行う。内容に変更のある場合は適宜 C-learning の授業で指示する。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	教育方法論(教職科目)							科目ナンバリング	HNE529	
英文名	Educational Methods							講義形態	講義	
担当教員	栗原 幸正									
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)									
学年・開講期	2 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格	養護教諭一種免許 選択必修科目									
学位授与方針との対応	－	豊かな人間性と職業倫理				－	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	－	専門的知識				－	コミュニケーション能力			
	－	問題発見・解決力				－	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	4 5 10 11 16 17									
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				○	○
「その他」のアクティブラーニング実施方法	他学科との協働作業を組織することで、業務に関してのチームの概念を体験的に学び修得する。									
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	次世代を作る児童・生徒の資質・能力を育成するために必要な教育観・教育方法・教育技術についての基礎的な知識・技能を、講義や協議・ワークショップ等を通して習得する。 資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。授業感想の記述や小論文の作成を通して、教師となるためのさらなる資質向上が図れるよう進める。講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を充分に検討して作成すること。									
到達目標	1. 教育の質の向上に向けて、教育方法学的重要性を理解する事ができる。 2. 多様な教育観を理解し、資質・能力の育成に効果的な授業構成論を取得でする。 3. 学習指導要領の具現化に向けての教育技術を習得し、授業づくりをする方法論を理解する。■									
使用教材	教育の方法(佐藤学著 放送大学叢書 本体 1,524 円) 小学校学習指導要領解説 総則編									
参考文献	講義に沿って適宜資料を配付する。									
評価方法	定期試験(60%) 授業後の小レポート(20%)課題レポート(20%) を用いて総合的に判断する。									
課題・評価に対するフィードバック方法	授業感想・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。									
オフィスアワー (研究室)	8号館 1階 学部長室 水曜日 2 限・金曜日 2 限				メールアドレス (#→@)	kurihara-y#takasaki-u.ac.jp				
1	講義内容	学級崩壊と教育方法Ⅰ(学級崩壊とは)■								
	該当到達目標	予習	自分の小中学校時代の経験に即し、学級崩壊について想起する。							1 時間
		2 復習	学級崩壊の要因としての教員の教育方法について理解し、自分自身の教員的資質について考察する事ができる。							2 時間
2	講義内容	学級崩壊と教育方法Ⅱ(学級崩壊の事例研究)■								
	該当到達目標	予習	自分の小中学校時代の学級崩壊の内容を、ノートにまとめておく。							1.5 時間
		1 復習	学級崩壊の事実から、教育方法の重要性を理解する。							1.5 時間
3	講義内容	教育方法学の歴史 その1(文献調査)								
	該当到達目標	予習	教科書「教育方法学」の歴史の記述に目を通しておく。							1.5 時間
		3 復習	教育方法学の変遷の概略をノートにまとめる。							1.5 時間
4	講義内容	教育方法学の歴史 その2(ギリシャ哲学から、ヘルバルト、デューイ、ピゴツキーへ)								

	該当到達目標 3	予習	教科書「教育方法学」の歴史の記述をまとめておく。	1.5 時間
		復習	教育方法学の変遷を理解し、現代の教育における教育方法の多様性を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	教科書と教育方法学Ⅰ（検定制度・採択制度）■		
	該当到達目標	予習	小・中・高において、教科書をどう活用してきたかを想起しておく。	1.5 時間
	3	復習	日本の教科書検定と採択のシステムを海外諸国の実情と比較しながら整理し、ノートにまとめておく。	1.5 時間
6	講義内容	教科書と教育方法学Ⅱ（発行・給与システム）■		
	該当到達目標	予習	教科書検定と採択のシステムをノートにまとめ、理解しておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書の意義と活用方法について、課題作成を通して考えをまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	教育方法学と授業研究■		
	該当到達目標	予習	授業研究について、小学校学習指導要領解説総則編の関連ある箇所について目を通しておく。	1.5 時間
	2,3	復習	教育方法学にとって授業研究は不可欠である事を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	実習の際の授業づくりに向けて・期末試験		
	該当到達目標	予習	教科書、配付資料、講義スライドに目を通し、学修内容をまとめておく。	1.5 時間
	1,3	復習	記述試験内容を振り返りノートにまとめ、教育方法学についての理解を深める。	1.5 時間
合計時間（予習・復習）				24 時間
備考	オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出には C-learning を用いる。 ■：実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		生徒指導論(教職科目)						科目ナンバリング	HNE530		
英文名		Student Guidance						講義形態	講義		
担当教員		北村 陽									
科目に関連した実務経験		教諭として中学校・高等学校に勤務(経験)									
学年・開講期		2 年 前期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする資格		栄養教諭一種免許状									
学位授与方針との対応		－	豊かな人間性と職業倫理				－	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
		－	専門的知識				－	コミュニケーション能力			
		－	問題発見・解決力				－	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連		④									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○			○			○	
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 生徒指導は、学校教育において学習指導(教科指導)と並ぶ重要な領域として位置づけられる。本講義では教師による生徒指導について、理論と実践の両面から考察し、受講者一人一人が望ましい指導の在り方を見いだせるようになることを目標とする。 ② 各回のテーマについて担当教員の解説(説明)から学ぶだけではなく、学んだことに対する受講者自身の考えや意見を毎回リアクションペーパー上で活字化し、まとめあげることを通じて理解の深化を図っていく。									
到達目標		1. 生徒指導の理論について理解している。 2. 生徒指導について実践的に思考することができる。■ 3. 生徒指導に関わる事例や情報を、文献や資料、メディア等から幅広く収集し、課題に対して意欲的に取り組むことができる。									
使用教材		『生徒・進路指導の理論と方法』(工藤亘・藤平敦編著、玉川大学出版部、2019 年、2,400 円(税別))									
参考文献		『生徒指導提要(改訂版)』(令和 4 年 12 月 文部科学省)									
評価方法		レポート 50%、リアクションペーパー45%(3%×15 回)、科目に関係した作文 5%により、総合的に評価する。									
課題・評価に対するフィードバック方法		課題における受講者の解答(回答)に対し、様々な見解を紹介しながらコメントをする。									
オフィスアワー (研究室)		月曜 2 限、木曜 2 限 (9 号館 305 研究室)				メールアドレス (#→@)		kitamura#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	オリエンテーション、生徒指導とは何か？									
	該当到達目標	予習	シラバスを読み毎回の授業内容を確認し、生徒指導の必要性などを考えておく。							1.5 時間	
	1,3	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、生徒指導を学ぶ意味を理解する。							1.5 時間	
2	講義内容	校則・生徒心得について■									
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。							1.5 時間	
	1,2,3	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、校則・生徒心得について理解する。							1.5 時間	
3	講義内容	懲戒・体罰について■									
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。							1.5 時間	

	1,2,3	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、懲戒・体罰について理解する。	1.5 時間
4	講義内容	不登校・ひきこもりについて■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、不登校・ひきこもりについて理解する。	1.5 時間
5	講義内容	いじめについて■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、いじめについて理解する。	1.5 時間
6	講義内容	非行について■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して授業の概要を確認し、非行について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	生徒指導における情報教育■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、生徒指導における情報教育について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	生徒指導と学習指導■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、生徒指導と学習指導の関連性について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	生徒指導における家庭・地域・社会との連携■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、生徒指導を巡る連携のあり方について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	キャリア教育の意義と理論		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	資料を再読して概要を確認し、キャリア教育の意義と理論について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	キャリア教育の進め方■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、キャリア教育の進め方について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	小学校でのキャリア教育		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	資料を再読して概要を確認し、小学校でのキャリア教育について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	中学校でのキャリア教育■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、中学校でのキャリア教育について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	高等学校でのキャリア教育■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、高等学校でのキャリア教育について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	生徒指導と教育相談■		
	該当到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を再読して概要を確認し、生徒指導と教育相談の関連性について理解する。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	・ 予習および復習については、使用教材である『生徒・進路指導の理論と方法』等を活用し、補完してください。 ・ 状況によりオンラインで実施する場合は C-learning で行います。その際、内容に変更が生じる場合は適宜 C-learning で指示します。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	教育相談(教職科目)							科目 ナンバリング	HNE531	
英文名	Educational Counseling							講義形態	講義	
担当教員	宮内 洋									
科目に関連した 実務経験	臨床発達心理士および公認心理師として相談業務(現在)									
学年・開講期	3 年 後期		選必・単位数		選択 2 単位					
履修を必須とする 資格	栄養教諭一種免許状									
学位授与方針 との対応	—	豊かな人間性と職業倫理				—	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	—	専門的知識				—	コミュニケーション能力			
	—	問題発見・解決力				—	自律的に生涯にわたって学習する力			
SDGs との関連	③ ⑤ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛 㽜 㽝 㽞 㽟 㽠 㽡 㽢 㽣 㽤 㽥 㽦 㽧 㽨 㽩 㽪 㽫 㽬 㽭 㽮 㽯 㽰 㽱 㽲 㽳 㽴 㽵 㽶 㽷 㽸 㽹 㽺 㽻 㽼 㽽 㽾 㽿 㿀 㿁 㿂 㿃 㿄 㿅 㿆 㿇 㿈 㿉 㿊 㿋 㿌 㿍 㿎 㿏 㿐 㿑 㿒 㿓 㿔 㿕 㿖 㿗 㿘 㿙 㿚 㿛 㿜 㿝 㿞 㿟 㿠 㿡 㿢 㿣 㿤 㿥 㿦 㿧 㿨 㿩 㿪 㿫 㿬 㿭 㿮 㿯 㿰 㿱 㿲 㿳 㿴 㿵 㿶 㿷 㿸 㿹 㿺 㿻 㿼 㿽 㿾 㿿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊									

1	講義内容	オリエンテーション:受容と共感■		
	該当到達目標	予習	自らの中学・高校での教育相談に関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2 時間
	1,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
2	講義内容	「教育相談」とは何か■		
	該当到達目標	予習	教育相談とは何かについて考察できるように準備しておくこと。	1 時間
	1,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
3	講義内容	各自の枠組の相違の体験的理解		
	該当到達目標	予習	コミュニケーションの失敗に関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2 時間
	1,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
4	講義内容	生徒に対する誤解への注意と気づき■		
	該当到達目標	予習	自らの気づきに関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
5	講義内容	生徒の「性格」理解		
	該当到達目標	予習	自らの性格について理解を深めておくこと。	1 時間
	1,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
6	講義内容	学校教育における「カウンセリングマインド」■		
	該当到達目標	予習	カウンセリングマインドについて理解を深めておくこと。	1 時間
	1,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
7	講義内容	カウンセリングの基礎的理解と技法		
	該当到達目標	予習	カウンセリングについて調べておくこと。	1 時間
	1,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
8	講義内容	スクールカウンセリングの基礎と実際■		
	該当到達目標	予習	自らの中学・高校での体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2 時間
	1,2	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
9	講義内容	いじめに対する対応		
	該当到達目標	予習	自らの中学・高校での体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
10	講義内容	いじめとスクールカウンセリング:中学校におけるいじめの実態		
	該当到達目標	予習	自らの中学・高校での体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
11	講義内容	校内暴力に対する生徒指導と教育相談■		
	該当到達目標	予習	自らの中学・高校での体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
12	講義内容	臨床発達心理学的視点からの教育相談■		

	該当到達目標	予習	自らの中学・高校での体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
13	講義内容	教育相談のロール・プレイング(1):ロール・プレイングの実践■		
	該当到達目標	予習	ロール・プレイングについて調べておくこと。	1 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2 時間
14	講義内容	教育相談のロール・プレイング(2):ロール・プレイングの振り返り■		
	該当到達目標	予習	前回のロール・プレイングについて理解を深めておくこと。	2 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1 時間
15	講義内容	緊急時・災害時・事後における教育相談		
	該当到達目標	予習	緊急時の教育相談について客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5 時間
	1,2,3	復習	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				45 時間
備考	講義を妨害する者の受講を基本的に認めません。 * 社会状況によって、対面授業が不可能となった場合には講義内容が若干変わる可能性がある。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		事前・事後指導(教職科目)					科目ナンバリング	HNE513			
英文名		Pre/Post Guidance					講義形態	講義			
担当教員		深見 匡、松下 広美、長井 祐子									
科目に関連した実務経験		松下広美: 群馬県教育委員会食育推進担当指導主事として学校栄養職員・栄養教諭研修を担当(経験) 高崎市立小学校長として学校全体で取り組む食に関する指導を実践推進(経験) 長井 祐子: 群馬県学校栄養職員・栄養教諭として勤務(経験)									
学年・開講期		4 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位							
履修を必須とする資格		栄養教諭一種免許状									
学位授与方針との対応		－	豊かな人間性と職業倫理			－	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		－	専門的知識			－	コミュニケーション能力				
		－	問題発見・解決力			－	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連		410									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
					○		○		○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 「事前指導」の目標は以下の通り。 (1) 教育実習生に求められる資質・能力・態度を理解し、実践できる。 (2) 栄養教育実習に必要なとなる包括的な知識・技能を理解し、実践できる。 「事後指導」の目標は以下の通り。 (1) 栄養教育実習で修得した知識・技能、体験について総括できる。 (2) 「教育実習報告会」において自身の実践を総括し、他者に報告することができる。 ② 授業は講義形式を中心とするが、授業実践や演習なども含む。授業の詳細は学生の状況や意見に応じて適宜必要な修正を行う。									
到達目標		1. 教育実習生に求められる資質・能力・態度について説明し、実践することができる。■ 2. 栄養教育実習に必要なとなる知識・技能について説明し、基本的な実践を行うことができる。■ 3. 栄養教育実習での体験について自身で客観的に反省し総括することができる。 総じて教職者に求められる資質・能力、適性、課題解決力の基礎を身に付ける。									
使用教材		『食に関する指導の手引き ー第二次改訂版ー』文部科学省 2019 年 (ISBN-13: 978-4779704963)、『教育実習の手引き・ノート』本学配布テキスト、講義用テキストプリントを配布する。									
参考文献		授業時に適宜指示する。									
評価方法		平常点 50%(授業への貢献等)、報告内容・提出課題等(50%)で総合的に評価する。詳細は初回授業時に指示する。									
課題・評価に対するフィードバック方法		必要に応じて課題を課し、コメントなど付して評価を返す。									
オフィスアワー (研究室)		木曜 4 限、金曜 4 限 1 号館 307				メールアドレス (#→@)		fukami#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	栄養教育実習の意義・目的・心構え									
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。							1.5	時間
	1,2,3	復習	教育実習に必要なとなる資質・能力・態度、知識・技能について整理し、授業時の課題に取り組む。							1.5	時間
2	講義内容	栄養教育実習の実際①									
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。							1.5	時間
	1,2	復習	教育実習に必要なとなる資質・能力・態度、知識・技能について整理し、授業時の課題に取り組む。							1.5	時間

3	講義内容	栄養教育実習の実際②		
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	教育実習に必要となる資質・能力・態度、知識・技能について整理し、授業時の課題に取り組む	1.5 時間
4	講義内容	学習指導案の作成・検討① ■		
	該当到達目標	予習	学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2	復習	教育実習に必要となる資質・能力・態度、知識・技能について整理し、授業時の課題に取り組む。	1.5 時間
5	講義内容	学習指導案の作成・検討② ■		
	該当到達目標	予習	学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2	復習	教育実習に必要となる資質・能力・態度、知識・技能について整理し、授業時の課題に取り組む。	1.5 時間
6	講義内容	事後指導 実習の反省①		
	該当到達目標	予習	教育実習報告を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教育実習報告の集団的検討をふまえ、自身の実習の総括を深める。	1.5 時間
7	講義内容	事後指導 実習の反省②		
	該当到達目標	予習	教育実習報告を作成する	1.5 時間
	1,2,3	復習	教育実習報告の集団的検討をふまえ、自身の実習の総括を深める。	1.5 時間
8	講義内容	事後指導「教育実習報告会」 ■		
	該当到達目標	予習	「教育実習報告会」用の報告書を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	「教育実習報告会」での発表・検討会の結果をふまえ、自身の実習の総括を深める。	1.5 時間
合計時間(予習・復習)				24 時間
備考	・状況によりオンラインを活用する場合は C-Learning を使用する。 ・教員免許状取得のための必修科目。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	栄養教育実習(教職科目)					科目ナンバリング	HNE514				
英文名	Nutrition Teacher Teaching Practice					講義形態	実習				
担当教員	深見 匡										
科目に関連した実務経験											
学年・開講期	4 年 前期	選必・単位数	選択 1 単位								
履修を必須とする資格	栄養教諭一種免許状										
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と職業倫理			—	多様な社会・背景を理解し対応する能力					
	—	専門的知識			—	コミュニケーション能力					
	—	問題発見・解決力			—	自律的に生涯にわたって学習する力					
SDGs との関連	247101617										
アクティブラーニング実施方法	PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験 実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクションペーパー	その他	
				○	○	○		○			
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法	① 栄養教育実習では小学校(中学校)において 5 日間の実習を行い、以下を目標とする。 (1)栄養教育実習について体験的・総合的に理解する。 (2)大学で修得した知識・技能を生かし、学校現場で児童生徒の発達に即した指導を行う。 (3)教育実践上の問題解決や創意工夫に必要な研究的態度や能力を養う。 (4)教育者としての愛情と使命感を深め、自覚を得る。 ② 栄養教育実習は実習校で、実習校指導者の指示のもと行われる。										
到達目標	1. 食の指導の専門家に必要な専門的知識・技能について説明でき、基本的な実践ができる。 2. 教員に必要な専門的知識・技能について説明でき、基本的な実践ができる。 3. 教育実践に必要な問題解決的・研究的な実践ができる。 4. 教育実習体験について、自身で客観的に反省し総括をすることができる。 総じて豊かな人間性、教職者に求められる資質・能力、適性、課題解決力の基礎を身に付ける。										
使用教材	本学配布テキスト『教育実習の手引き・ノート』										
参考文献	実習時に適宜指示する。										
評価方法	実習校からの評価(70%)、「実習ノート」の内容(30%)などを参考に総合的に評価する。										
課題・評価に対するフィードバック方法	必要な場合は実習校とは別に課題を課し、その評価についてコメントを付して返す。										
オフィスアワー (研究室)	木曜 4 限、金曜 4 限 1 号館 307				メールアドレス (#→@)	fukami#takasaki-u.ac.jp					
講義内容	実習校での実習内容について ① 校長・指導教員等からの講義や指導 ② 児童生徒への個別的な相談・指導の実習 ③ 児童生徒への教科・特別活動等における食に関する指導の実習 ④ 学校給食等における食に関する指導の実習 ⑤ 学校の教育活動の参観・補助 ⑥ 他の教職員との連携・調整の実習 ⑦ 保護者や地域との連携の実習 等										
	予習	実習校指導者の指示に従う。								期間中適宜	
	復習	実習校指導者の指示に従う。								期間中適宜	
合計時間(予習・復習)											
備考	・教員の免許状取得のための必修科目										

	・栄養教育実習についての相談は深見まで(1 号館 307 室)。

科目名		教職実践演習(栄養教諭)(教職科目)					科目ナンバリング	HNE515			
英文名		Seminar on Teaching Practice (Nutrition Teacher)					講義形態	演習			
担当教員		深見 匡、松下 広美、長井 祐子									
科目に関連した実務経験		松下広美: 群馬県教育委員会食育推進担当指導主事として学校栄養職員・栄養教諭研修を担当(経験) 高崎市立小学校長として学校全体で取り組む食に関する指導を実践推進(経験) 長井 祐子: 群馬県学校栄養職員・栄養教諭として勤務(経験)									
学年・開講期		4 年 後期	選必・単位数	選択 2 単位							
履修を必須とする資格		栄養教諭一種免許状									
学位授与方針との対応		—	豊かな人間性と職業倫理			—	多様な社会・背景を理解し対応する能力				
		—	専門的知識			—	コミュニケーション能力				
		—	問題発見・解決力			—	自律的に生涯にわたって学習する力				
SDGs との関連		41016									
アクティブラーニング実施方法		PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、 ディベート	グループ ワーク	プレゼンテ ーション	演習、実験 実習、実技	フィールド ワーク	指導案作成、 模擬授業	リアクション ペーパー	その他
					○		○		○		
「その他」のアクティブラーニング実施方法											
実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法		① 栄養教諭に求められる資質・能力(食に関する指導の専門家としての資質・能力、教員としての資質・能力)を説明し、自身の修得状況を確認できる。 (2)自身の(1)の修得状況を踏まえ、必要な補足やいっそうの充実を図ることができる。 ② 授業はテキストや課題を中心に演習形式で行い、必要に応じて実習や授業実践の課題も取り入れる。授業の詳細については学生の状況や意見によって適宜必要な修正を行う。									
到達目標		1. 食に関する指導の専門家に求められる資質・能力についての説明と基本的な実践ができる。■ 2. 教員に求められる資質・能力についての説明と基本的な実践ができる。■ 3. これらの資質・能力を生かした基本的な教育実践ができる。■ 総じて豊かな人間性、教職者に求められる資質・能力、適性、課題解決力の基礎を身に付ける。									
使用教材		『食の指導に関する手引きー第二次改訂版ー』文部科学省 2019 年 (ISBN-13: 978-4779704963)。毎回講義用のテキストプリントを配布する。									
参考文献		授業時に適宜指示する。									
評価方法		平常点 50%(授業への貢献度等)、提出課題等 50%(報告書、発表内容等)。総合評価 60%以上を合格とする。詳細は初回授業等で説明する。									
課題・評価に対するフィードバック方法		報告書やレポートは必要に応じてコメントを付して返却する。期末試験を実施した場合は、試験後、必要に応じて解説を行う。その他質疑には適宜対応する。									
オフィスアワー (研究室)		月曜 4 限、水曜 5 限 1 号館 307				メールアドレス (#→@)		fukami#takasaki-u.ac.jp			
1	講義内容	ガイダンス									
	該当到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標・講義内容・評価方法などを理解する。							1.5	時間
	1,2,3	復習	栄養教育実習等これまでの学習を振り返り、指示された課題に取り組む。							1.5	時間
2	講義内容	教職の意義・教員の職務内容と責任についての演習									
	該当到達目標	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。							1.5	時間
	1,2,3	復習	教員の職務内容・責務について整理し、指示された課題に取り組む。							1.5	時間
3	講義内容	食に関する指導と食の全体計画についての演習① ■									

	該当到達目標 1,2	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
		復習	食の全体計画の作成、討議の成果を整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
4	講義内容	食に関する指導と食の全体計画についての演習② ■			
	該当到達目標 1,2	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
		復習	食の全体計画の作成、討議の成果を整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
5	講義内容	給食時間の指導についての演習 ■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
		復習	給食時間の指導について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
6	講義内容	特別活動における食に関する指導についての演習 ■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
		復習	特別活動における指導について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
7	講義内容	教科における食に関する指導についての演習 ■			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
		復習	教科における指導について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
8	講義内容	「食生活学習教材」の活用(演習)			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
		復習	食生活教材の活用について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
9	講義内容	学校現場の見学・調査等①			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
		復習	参観・補助等した学校現場での実習について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
10	講義内容	学校現場の見学・調査等②			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
		復習	参観・補助等した学校現場での実習について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
11	講義内容	カウンセリングや集団指導についての演習			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
		復習	教育相談や指導の実践について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
12	講義内容	他の教職員との連携・協力についての演習			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
		復習	「チームとしての学校」の意義について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
13	講義内容	児童・生徒の発達を踏まえた指導についての演習			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
		復習	子どもの発達と教育方法について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
14	講義内容	模擬授業の実践・相互評価・討論 ①			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
		復習	模擬授業実践について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5	時間
15	講義内容	模擬授業の実践・相互評価・討論 ②			
	該当到達目標 1,2,3	予習	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5	時間
		復習	模擬授業実践について整理し、指示された課題に取り組む	1.5	時間
合計時間(予習・復習)				45	時間

備考	・学校現場の見学・調査を行う場合は事前に説明を行う。 ・状況によりオンラインで実施する場合は C-Learning で行う。 ■：実務経験に基づく内容を示す。